松山市文化財調査報告書87

樽味四反地遺跡

－５次調査－

２００２

松山市教育委員会

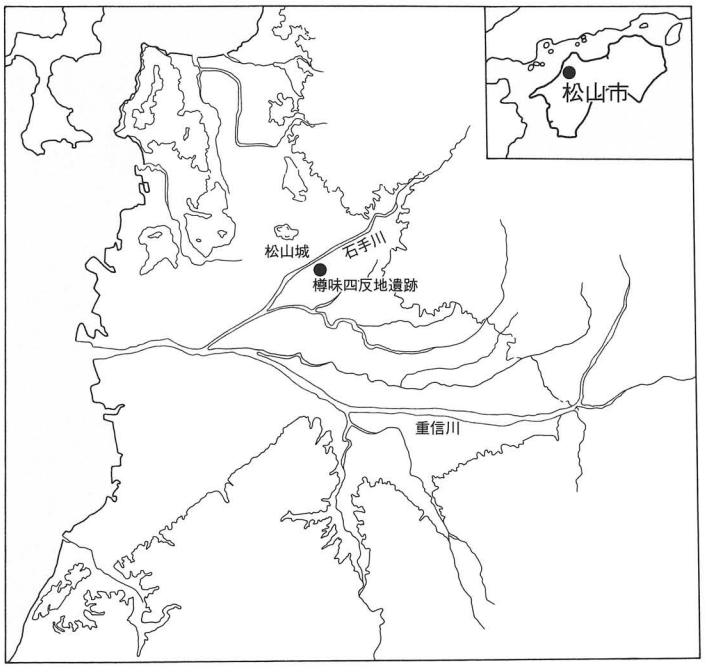
財団法人松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

タル　ミ　シ　タン　ジ

樽味四反地遺跡

ー５次調査ー



２００２

松山市教育委員会

財団法人松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

序

松山平野の中央部を西流する石手川の南岸に位置する樽味・桑原地区では、松山東部環状線の建設以来急激に宅地開発が進み、数多くの貴重な遺跡が発見されています。これまでの埋蔵文化財発掘調査によって、弥生時代から古代における集落様相が次第に明らかになってきました。

今回報告します樽味四反地遺跡5次調査では、弥生時代と古墳時代の竪穴式住居跡、古代から中世の集落関連遺構、二万三千年前の火山灰の堆積層を確認しました。

また、古代の自然流路からは硯、線刻のある紡錘車等が出土し、数多くの遺構や遺物を記録に留めることができ、後世に伝える新たな資料を作成することができました。

こうした成果をあげることができましたのも、市民の皆様の埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力の賜であり、厚く感謝申し上げます。

本書が、埋蔵文化財の調査研究の一助となり、ひいては文化財保護、生涯教育の向上に寄与できることを願っております。

平成１４年3月２９日

財団法人　松山市生涯学習振興財団
理事長 中村　時広

例　言

1．本書は、松山市埋蔵文化財センターが平成9年4月～平成9年7月に、松山市樽味４丁目213番地外で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．遺構は、呼称を略号で記述した。竪穴式住居址：ＳＢ、溝：ＳＤ、土坑：ＳＫ、柱穴：ＳＰ、自然流路：ＳＲ、性格不明遺構：ＳＸ、掘立柱建物址：掘立である。

3．遺物の実測・製図、遺構の作図・製図は、髙尾和長の指示のもと田﨑真理、中村紫、宮内真弓、金子育代、髙尾久子が行った。

4．写真図版は髙尾と大西朋子が協議し、作成は大西朋子が行った。

5．遺構図と遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に作成した。

6．本書に使用した方位はすべて真北である。

7．本書にかかわる遺物や記録物は、松山市埋蔵文化財センターで保管している。

8．自然化学分析は古環境研究所に分析を依頼し、動物遺存体は奈良文化財研究所松井章氏にご教示を賜った。記して感謝申し上げます。

9．本書の執筆と編集は髙尾和長が行った。作成に際しては梅木謙一・宮内慎一の協力を得た。浄書は中村紫が行った。

10．製版　カラー写真、写真図版－175線
印刷　オフセット印刷
用紙　マットコート
製本　アジロ綴り

本 文 目 次

1．調査に至る経過……1
(1) 調査に至る経緯
(2) 刊行組織

2．調査の経緯……2

3．層位……2

4．遺構と遺物
(1) 古代……8
(2) 弥生時代……43
(3) 古墳時代……61
(4) 中世……84
(5) Ⅳ層出土遺物……101
(6) Ⅴ層出土遺物……102
(7) その他・層位不明出土遺物……102

5．まとめ……109

6．自然化学分析……161

挿 図 目 次

第 1 図　調査地位置図（1）……3
第 2 図　調査地位置図（2）……4
第 3 図　遺構配置図（縮尺1/200）……5
第 4 図　西壁土層図（縮尺1/40）……6
第 5 図　東壁土層図（縮尺1/40）……7
第 6 図　ＳＲ1土層測量図（縮尺1/40）……8
第 7 図　ＳＲ1①層出土遺物実測図（1）（縮尺1/3、1/4）……11
第 8 図　ＳＲ1①層出土遺物実測図（2）（縮尺1/1、1/2）……12
第 9 図　ＳＲ1②層出土遺物実測図（1）（縮尺1/3）……13
第10図　ＳＲ1②層出土遺物実測図（2）（縮尺1/3）……14
第11図　ＳＲ1②層出土遺物実測図（3）（縮尺1/3）……15
第12図　ＳＲ1②層出土遺物実測図（4）（縮尺1/3）……16
第13図　ＳＲ1②層出土遺物実測図（5）（縮尺1/3）……17
第14図　ＳＲ1②層出土遺物実測図（6）（縮尺1/4）……18
第15図　ＳＲ1②層出土遺物実測図（7）（縮尺1/2）……19
第16図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（1）（縮尺1/3）……22
第17図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（2）（縮尺1/3）……23
第18図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（3）（縮尺1/3）……24
第19図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（4）（縮尺1/3）……25
第20図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（5）（縮尺1/3）……26
第21図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（6）（縮尺1/3）……27
第22図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（7）（縮尺1/3）……28
第23図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（8）（縮尺1/3）……29
第24図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（9）（縮尺1/3）……30
第25図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（10）（縮尺1/3）……31
第26図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（11）（縮尺1/3）……32
第27図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（12）（縮尺1/3）……33
第28図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（13）（縮尺1/3）……34
第29図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（14）（縮尺1/3、1/4）……35
第30図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（15）（縮尺1/2、1/4）……36
第31図　ＳＲ1③層出土遺物実測図（16）（縮尺1/1、1/2）……37
第32図　ＳＲ1②～③層出土遺物実測図（縮尺1/3）……38
第33図　ＳＲ1出土遺物実測図（1）（縮尺1/3）……38
第34図　ＳＲ1出土遺物実測図（2）（縮尺1/3）……39
第35図　ＳＲ1出土遺物実測図（3）（縮尺1/3、1/4）……40
第36図　ＳＲ1出土遺物実測図（4）（縮尺1/2、1/3、1/4）……41

第37図　掘立1測量図（縮尺1/40）……42
第38図　ＳＢ3測量図（縮尺1/60）……43
第39図　ＳＢ3出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）……44
第40図　ＳＢ7測量図（縮尺1/40）……45
第41図　ＳＢ7出土遺物実測図（縮尺1/4）……46
第42図　ＳＢ8測量図（縮尺1/80）……47
第43図　ＳＢ8出土遺物実測図（1）（縮尺1/4）……48
第44図　ＳＢ8出土遺物実測図（2）（縮尺1/4）……49
第45図　ＳＢ8出土遺物実測図（3）（縮尺1/2、1/3）……50
第46図　ＳＢ9測量図（縮尺1/40）……51
第47図　ＳＢ9出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）……52
第48図　ＳＫ15測量図（縮尺1/20）……53
第49図　ＳＫ15出土遺物実測図（1）（縮尺1/4）……54
第50図　ＳＫ15出土遺物実測図（2）（縮尺1/4）……55
第51図　ＳＫ16測量図（縮尺1/20）……56
第52図　ＳＫ16出土遺物実測図（1）（縮尺1/4）……57
第53図　ＳＫ16出土遺物実測図（2）（縮尺1/4）……58
第54図　ＳＫ18測量図（縮尺1/40）……59
第55図　ＳＫ20測量図（縮尺1/20）……59
第56図　ＳＫ28測量図・出土遺物実測図（縮尺1/4、1/40）……60
第57図　ＳＢ1測量図（縮尺1/60）……62
第58図　ＳＢ1カマド測量図（縮尺1/20）……63
第59図　ＳＢ1出土遺物実測図（1）（縮尺1/3）……64
第60図　ＳＢ1出土遺物実測図（2）（縮尺1/1、1/3、1/4）……65
第61図　ＳＢ2測量図（縮尺1/60）……66
第62図　ＳＢ2出土遺物実測図（1）（縮尺1/3）……67
第63図　ＳＢ2出土遺物実測図（2）（縮尺1/3、1/4）……68
第64図　ＳＢ2貼床出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）……69
第65図　ＳＢ4測量図（縮尺1/80）……70
第66図　ＳＢ4出土遺物実測図（1）（縮尺1/3、1/4）……71
第67図　ＳＢ4出土遺物実測図（2）（縮尺1/2、1/3、1/4）……72
第68図　ＳＢ5測量図（縮尺1/40）……74
第69図　ＳＢ5出土遺物実測図（1）（縮尺1/3、1/4）……75
第70図　ＳＢ5出土遺物実測図（2）（縮尺1/3）……76
第71図　ＳＢ6測量図（縮尺1/60）……77
第72図　ＳＢ6出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）……78
第73図　ＳＢ10測量図（縮尺1/80）……79
第74図　ＳＢ10出土遺物実測図（縮尺1/3）……80

第75図　ＳＫ17測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4、1/20）……81
第76図　ＳＫ21測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4、1/40）……82
第77図　ＳＫ22測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4、1/40）……82
第78図　ＳＫ24測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/40）……83
第79図　ＳＫ1測量図（縮尺1/20）……84
第80図　ＳＫ1出土遺物実測図（縮尺1/2、1/3）……85
第81図　ＳＫ2測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/40）……85
第82図　ＳＫ3測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/40）……87
第83図　ＳＫ4測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/40）……87
第84図　ＳＫ5測量図（縮尺1/40）……88
第85図　ＳＫ6測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/40）……88
第86図　ＳＫ7測量図・出土遺物実測図（縮尺1/2、1/3、1/4、1/40）……89
第87図　ＳＫ8測量図・出土遺物実測図（縮尺1/2、1/3、1/40）……91
第88図　ＳＫ9測量図（縮尺1/40）……92
第89図　ＳＫ10測量図（縮尺1/40）……92
第90図　ＳＫ10出土遺物実測図（縮尺1/2、1/3）……93
第91図　ＳＫ11測量図（縮尺1/20）……94
第92図　ＳＫ11出土遺物実測図（縮尺1/3）……95
第93図　ＳＫ12測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/40）……96
第94図　ＳＫ13測量図（縮尺1/40）……96
第95図　ＳＫ14測量図（縮尺1/40）……97
第96図　ＳＫ19測量図（縮尺1/40）……97
第97図　ＳＫ23測量図（縮尺1/40）……97
第98図　ＳＫ25･26測量図（縮尺1/40）……97
第99図　ＳＫ27測量図（縮尺1/40）……98
第100図　ＳＫ29測量図（縮尺1/40）……98
第101図　ＳＸ1出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）……100
第102図　ＳＸ2測量図・出土遺物実測図（縮尺1/3、1/40）……101
第103図　ＳＸ3測量図・出土遺物実測図（縮尺1/2、1/40）……102
第104図　ＳＰ126測量図・出土遺物実測図（縮尺1/2、1/3、1/8）……103
第105図　ＳＰ146測量図・出土遺物実測図（縮尺1/2、1/8）……103
第106図　ＳＰ出土遺物実測図（1）（縮尺1/3、1/4）……104
第107図　ＳＰ出土遺物実測図（2）（縮尺1/2）……105
第108図　第Ⅳ層出土遺物実測図（縮尺1/3、1/4）……106
第109図　第Ⅴ層出土遺物実測図（1）（縮尺1/4）……106
第110図　第Ⅴ層出土遺物実測図（2）（縮尺1/3）……107
第111図　第Ⅴ層出土遺物実測図（3）（縮尺1/2、1/3）……108
第112図　その他層位不明出土遺物実測図（1）（縮尺1/2）……108

第113図　その他層位不明出土遺物実測図（2）（縮尺1/2）……109
第114図　樽味四反地遺跡5次調査出土炭化材の顕微鏡写真……163
第115図　樽味四反地遺跡5次調査出土動物遺存体写真……164

表　目　次

表１　竪穴式住居址一覧……111
表２　竪穴式住居址の炉・カマド一覧……111
表３　掘立柱建物址一覧……111
表４　土坑一覧……111
表５　溝一覧……112
表６　ＳＲ1①層出土遺物観察表　土製品……113
表７　ＳＲ1①層出土遺物観察表　石製品……113
表８　ＳＲ1①層出土遺物観察表　装身具……114
表９　ＳＲ1②層出土遺物観察表　土製品……114
表10　ＳＲ1②層出土遺物観察表　石製品……119
表11　ＳＲ1③層出土遺物観察表　土製品……119
表12　ＳＲ1③層出土遺物観察表　石製品……131
表13　ＳＲ1③層出土遺物観察表　装身具……132
表14　ＳＲ1②～③層出土遺物観察表　土製品……132
表15　ＳＲ1出土遺物観察表　土製品……132
表16　ＳＲ1出土遺物観察表　石製品……135
表17　ＳＢ3出土遺物観察表　土製品……135
表18　ＳＢ7出土遺物観察表　土製品……136
表19　ＳＢ8出土遺物観察表　土製品……136
表20　ＳＢ8出土遺物観察表　石製品……138
表21　ＳＢ9出土遺物観察表　土製品……138
表22　ＳＫ15出土遺物観察表　土製品……139
表23　ＳＫ16出土遺物観察表　土製品……141
表24　ＳＫ28出土遺物観察表　土製品……142
表25　ＳＢ1出土遺物観察表　土製品……142
表26　ＳＢ1出土遺物観察表　装身具……144
表27　ＳＢ2出土遺物観察表　土製品……144
表28　ＳＢ2出土遺物観察表　石製品……145
表29　ＳＢ2貼床出土遺物観察表　土製品……145
表30　ＳＢ4出土遺物観察表　土製品……147
表31　ＳＢ4出土遺物観察表　石製品……148
表32　ＳＢ5出土遺物観察表　土製品……149

表33　ＳＢ5出土遺物観察表　石製品 ……149
表34　ＳＢ6出土遺物観察表　土製品 ……150
表35　ＳＢ10出土遺物観察表　土製品 ……150
表36　ＳＫ17出土遺物観察表　土製品 ……151
表37　ＳＫ21出土遺物観察表　土製品 ……151
表38　ＳＫ22出土遺物観察表　土製品 ……151
表39　ＳＫ24出土遺物観察表　土製品 ……151
表40　ＳＫ1出土遺物観察表　土製品 ……152
表41　ＳＫ1出土遺物観察表　石製品 ……152
表42　ＳＫ2出土遺物観察表　土製品 ……152
表43　ＳＫ3出土遺物観察表　土製品 ……152
表44　ＳＫ4出土遺物観察表　土製品 ……152
表45　ＳＫ6出土遺物観察表　土製品 ……153
表46　ＳＫ7出土遺物観察表　土製品 ……153
表47　ＳＫ7出土遺物観察表　石製品 ……153
表48　ＳＫ7出土遺物観察表　金属製品 ……153
表49　ＳＫ8出土遺物観察表　土製品 ……153
表50　ＳＫ8出土遺物観察表　石製品 ……154
表51　ＳＫ10出土遺物観察表　土製品 ……154
表52　ＳＫ10出土遺物観察表　石製品 ……154
表53　ＳＫ11出土遺物観察表　土製品 ……154
表54　ＳＫ12出土遺物観察表　土製品 ……154
表55　ＳＸ1出土遺物観察表　土製品 ……155
表56　ＳＸ2出土遺物観察表　土製品 ……156
表57　ＳＸ3出土遺物観察表　銭貨 ……156
表58　ＳＰ126出土遺物観察表　土製品 ……156
表59　ＳＰ126出土遺物観察表　銭貨 ……156
表60　ＳＰ146出土遺物観察表　銭貨 ……157
表61　ＳＰ出土遺物観察表　土製品 ……157
表62　ＳＰ出土遺物観察表　石製品 ……158
表63　Ⅳ層出土遺物観察表　土製品 ……158
表64　Ⅴ層出土遺物観察表　土製品 ……158
表65　Ⅴ層出土遺物観察表　石製品 ……160
表66　その他層位不明出土遺物観察表　石製品 ……160
表67　樽味四反地遺跡5次調査から出土した炭化材の樹種同定結果 ……161
表68　樽味四反地遺跡5次調査から出土した動物遺存体一覧表 ……164

1．調査に至る経過

(1) 調査に至る経緯

本調査は、松山市指定埋蔵文化財包蔵地『No81樽味遺物包含地』内における宅地開発事業に伴う事前調査である。1996（平成8）年4月11日、株式会社松平不動産、松平定理氏より、松山市樽味4丁目213～214番地内における宅地開発にあたって、当該地の埋蔵文化財の確認願いが松山市教育委員会文化教育課（以下、文化教育課）に提出された。

調査地は石手川中流域南岸の洪積扇状地上の標高39～40ｍに位置する。調査地周辺では、樽味四反地遺跡1～4次調査、樽味立添遺跡、樽味高木遺跡などの調査が実施され、弥生時代～古代にかけての竪穴式住居址・土坑・溝などの集落遺構が検出され、当該地を含めた包含地内における集落の存在と規模が明確になり始めている地域である。

1996（平成8）年6月4日に文化教育課は遺跡の範囲や性格の確認のため試掘調査を行った。調査の結果、竪穴式住居址、土坑・溝・柱穴の検出と弥生土器・須恵器・土師器の遺物が出土した。この結果を受け、（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターは、当包含地内における弥生時代～古墳時代の集落の解明を主目的として、1997（平成9）年4月1日～同年7月31日に本格調査を実施した。

調査面積は2,146㎡である。

(2) 刊行組織（平成14年3月29日現在）

調 査 地　　松山市樽味４丁目213番地外

対象面積　　2,146㎡

調査期間　　平成9年4月1日～平成9年7月31日

松山市教育委員会	教育長	中矢陽三	
事務局	局長	大西正氣	
	次長	川口岸雄	
	企画官	一色巧	
文化財課	課長	馬場洋	
（財）松山市生涯学習振興財団	理事長	中村時広	
	事務局長	二宮正昌	
	事務局次長	江戸孝	
	事務局次長	森和朋	
埋蔵文化財センター	所長	中川隆	
	専門監	野本力	
	調査係長	西尾幸則	
	主任	栗田正芳	（文化財課職員）
	担当	髙尾和長	
		大森一成	（平成10年退職）
		大西朋子	

2．調査の経緯

1997（平成9）年4月1日より調査区南西コーナー部より、地表下40～70cmまで重機にて表土の剥ぎ取りを開始する。4月16日 Ⅵ層上面で遺構検出を行い、竪穴式住居址・掘立柱建物址・土坑・溝・柱穴・自然流路を検出した。4月17日 遺構の掘り下げと出土遺物の測量、取り上げを開始した。5月6日 ＳＲ1第③層より円面硯の破片数点を検出した。5月12日 ＳＲ1第③層遺物出土状況の写真撮影を行う。6月30日 ＳＢ8から多数の炭化物を検出した。7月1日 住居の出土遺物と遺構測量を行い遺物を取り上げる。7月16日 遺構完掘状況の写真撮影を行う。7月19日 一般市民を対象に現地説明会を実施した。7月22日 ＡＴ火山灰の堆積状況確認を目的としたトレンチを調査区に2ヶ所設定し、掘削を開始。7月28日 土層図の作成と写真撮影を行う。7月31日 屋外調査の全日程を終了する。

3．層位（第4･5図）

調査区は北東部から南西部にかけ、緩い斜面となっている。調査前は東西に長い2面の水田である。調査地中央部には畦が設けられ、これより北側と南側の水田では約20cmの段差があった。

基本層位は、第Ⅰ層水田耕作土、第Ⅱ層灰褐色土、第Ⅲ層黄灰褐色土、第Ⅳ層暗灰褐色土、第Ⅴ層黒褐色土、第Ⅵ層黄色土及び橙色土、第Ⅶ層明黄色土（ＡＴ火山灰）、第Ⅷ層黄橙色の砂層、第Ⅸ黄橙色及び灰白色の礫層、第Ⅹ層灰白色の砂層、第Ⅺ層砂礫層である。

第Ⅰ層：現代の水田耕作土である。調査区全域で、厚さ10～20cmを測る。第Ⅰ①層が耕作土、第Ⅰ②層が水田床土、第Ⅰ③層は調査区北～東部の一部で見られる。

第Ⅱ層：ほぼ調査区全域に見られる。厚さ7～20cmを測る。

第Ⅲ層：調査区南半部で厚さ6～18cmを測る。

第Ⅳ層：調査区北部～西部で厚さ5～15cmを測る。須恵器、土師器を包含する。古代～中世にかけて堆積したものと思われる。

第Ⅴ層：調査区北西～西部と東部で厚さ5～20cmを測る。弥生土器と須恵器を包含する。弥生時代～古墳時代にかけての堆積と思われる。

第Ⅵ層：無遺物層である。遺構検出はⅥ層上面で行った。

Ⅶ層以下は調査区東西2ヶ所に設けたトレンチ調査の結果によるものである。

第Ⅶ層：東西のトレンチで厚さ10～20cmを測る。ＡＴ火山灰の堆積層である。

第Ⅷ層：東西のトレンチで厚さ20～50cmを測る。

第Ⅸ層：東西のトレンチで厚さ40～80cmを測る。

第Ⅹ層：東西のトレンチで検出した。灰白色の細かい砂と1～2cmの礫で構成されている。

第Ⅺ層：西トレンチの中央から北側の第Ⅵ層下で検出した。第Ⅺ層は大小の砂礫層が10～20cmの厚さで120～140cm堆積している。

なお、調査区は4ｍ四方のグリットを設定し調査を行った。

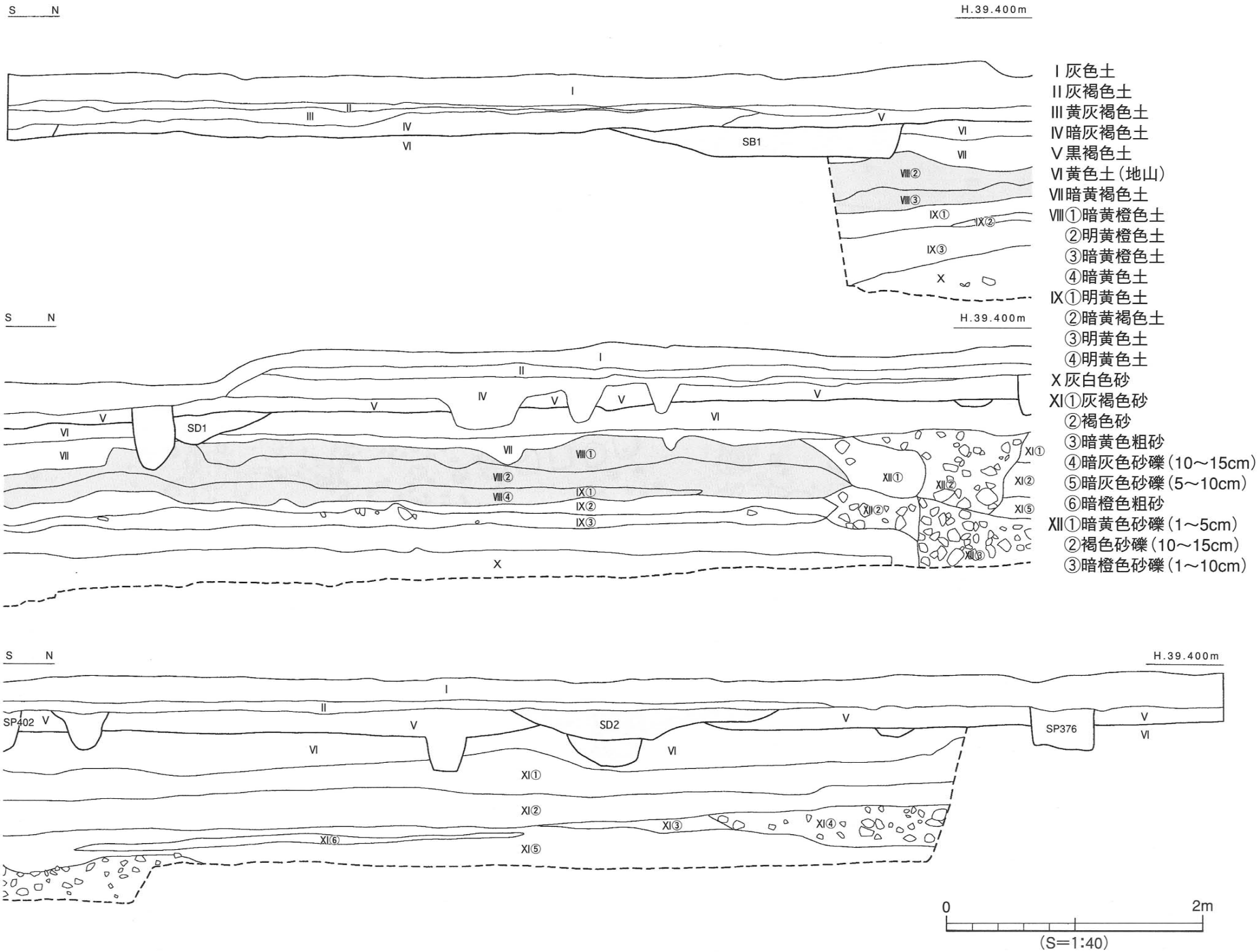
石手川
樽味立添
樽味高木4次
樽味高木3次
樽味高木2次
愛媛大学農学部
樽味四反地2・3・4次
樽味四反地1次
本調査地
桑原西稲葉1次
桑原西稲葉2次

第１図　調査地位置図（１）

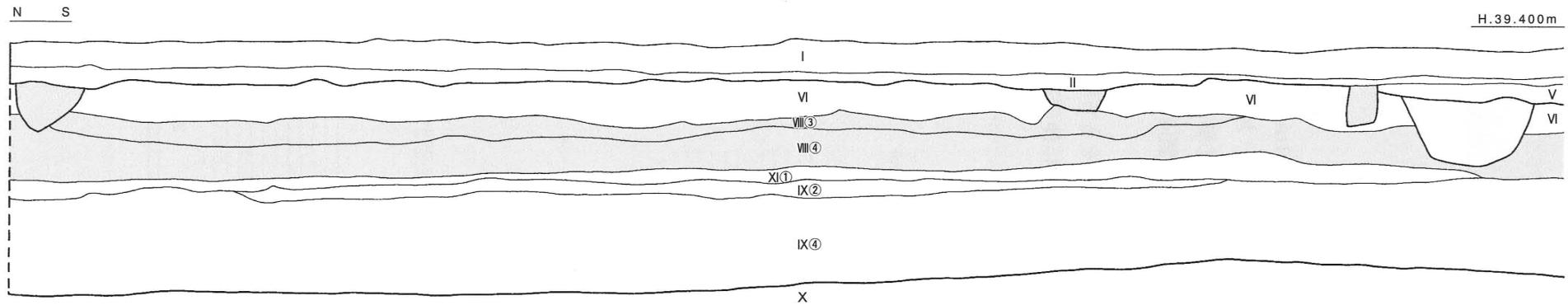
第２図　調査地位置図（２）

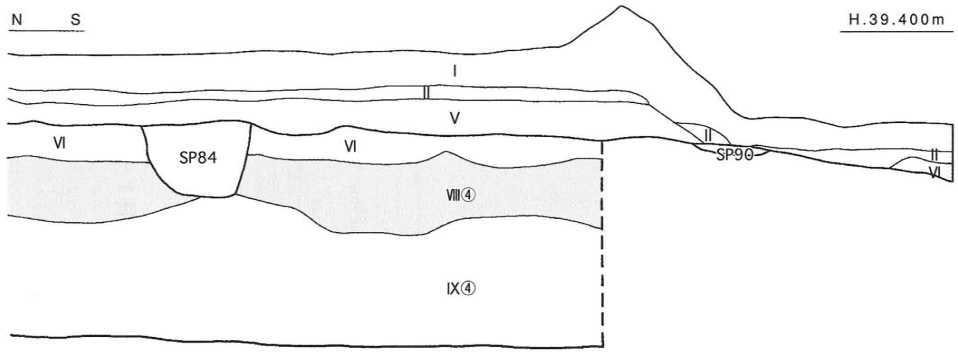
X=92,792,000
X=92,816,000
Y=65,505,000
Y=65,537,000
A
B
C
D
E
F
G
H
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
SK23
SR1
カクラン
SB7
SB8
SB9
SK17
SK8
SX2
SK19
SK7
SB4
SK15
SK9
SK10
SX3
SK26
SK25
SK22
SK14
SB10
SP126
SB6
SK27
SK28
掘立1
SB5
SK6
SP146
SK13
SR1
SB3
SK12
SK18
SB2
SX1
SK5
SK24
SK4
SK11
SK1
SD2
SD1
SK20
カマド
SK3
SK21
SK29
SK2
SK16
SB1
SD3
0
10m
(S=1:200)

第３図　遺構配置図

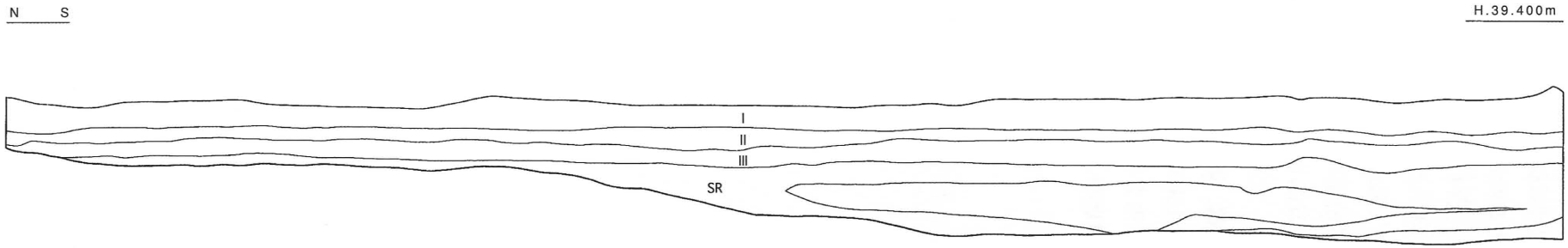

S N
H.39.400m
SB1
SD1
SD2
SP402
SP376
Ⅰ灰色土
Ⅱ灰褐色土
Ⅲ黄灰褐色土
Ⅳ暗灰褐色土
Ⅴ黒褐色土
Ⅵ黄色土（地山）
Ⅶ暗黄褐色土
Ⅷ①暗黄橙色土
②明黄橙色土
③暗黄橙色土
④暗黄色土
Ⅸ①明黄色土
②暗黄褐色土
③明黄色土
④明黄色土
Ⅹ灰白色砂
Ⅺ①灰褐色砂
②褐色砂
③暗黄色粗砂
④暗灰色砂礫（10～15cm）
⑤暗灰色砂礫（5～10cm）
⑥暗橙色粗砂
Ⅻ①暗黄色砂礫（1～5cm）
②褐色砂礫（10～15cm）
③暗橙色砂礫（1～10cm）
0
2m
(S=1:40)

第4図　西壁土層図





Ⅰ灰色土
Ⅱ灰褐色土
Ⅲ黄灰褐色土
Ⅳ暗灰褐色土
Ⅴ黒褐色土
Ⅵ黄色土（地山）
Ⅶ暗黄褐色土
Ⅷ①暗黄橙色土
②明黄橙色土
③暗黄橙色土
④暗黄色土
Ⅸ①明黄色土
②暗黄褐色土
③明黄色土
④明黄色土
Ⅹ灰白色砂
Ⅺ①灰褐色砂
②褐色砂
③暗黄色粗砂
④暗灰色砂礫（10～15cm）
⑤暗灰色砂礫（5～10cm）
⑥暗橙色粗砂
Ⅻ①暗黄色砂礫（1～5cm）
②褐色砂礫（10～15cm）
③暗橙色砂礫（1～10cm）



0 2m
（S=1:40）

第５図　東壁土層図

4．遺構と遺物

本調査では弥生時代、古墳時代、古代、中世の竪穴式住居址10棟、土坑29基、溝3条、自然流路1条、性格不明遺構3基、柱穴462基を検出した。

（1）古代

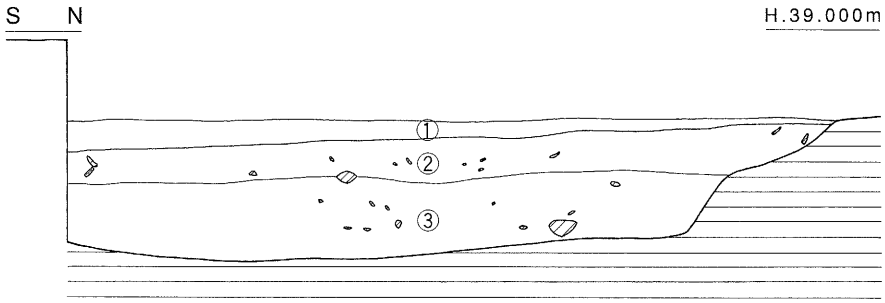
1）自然流路（ＳＲ）

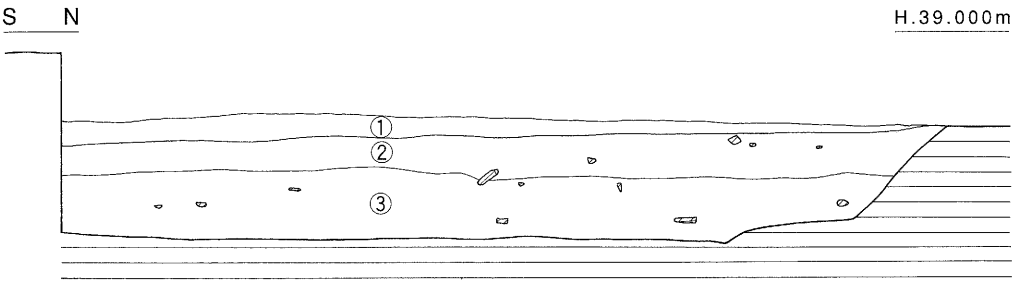
ＳＲ1（第3·6図、図版1）

調査区南壁のＦ1～Ｇ11区に位置する。規模は検出長41.2ｍ、検出幅5～6.7ｍ、深さ61㎝を測る。南側の岸は調査区外である。溝底は東から西に傾斜し部分的に窪む所と細かい溝がある。埋土は3層に分かれ、①層は暗灰褐色土、②層は暗褐色土、③層は暗褐色砂質土である。遺物は②層・③層から弥生土器、須恵器、土師器、鉄製品、獣骨が多量に出土した。その中には、須恵器の硯4個体がある。

①層出土遺物（第7·8図）

1は弥生土器の支脚、角部が残存している。2は土師器の高坏、脚部は端部手前で段をもち開く。3～6は須恵器。3は坏蓋、水平な天井部に屈曲して接地する口端部。4は坏身、外上方に伸びる受部

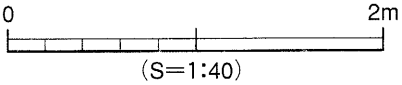




①暗灰褐色土

②暗褐色土

③暗褐色砂質土



第６図　SR１土層測量図

に内傾する立ち上がり。5は皿、わずかに外反する口縁部の端部は凹む。6は坏、水平な底部。7は土師器の坏、水平な底部にわずかに内湾する口縁部。8は茶釜、丸味をもつ底部。9·10は土釜。9は口縁部外面に丸味をもつ断面三角形状の凸帯を貼り付ける。10は脚部。11～13は緑釉陶器の椀。14は軟質土器の胴部片。15は紡錘車の完形品。

16～18は石製品である。16は鏃の完形品、材質はサヌカイトである。17は敲石で、材質は結晶片岩である。18は砥石で、材質は石英粗面岩か？。19はガラス小玉の完形品である。

②層出土遺物（第9～15図）

須恵器（20～75）

20～36は坏蓋。20は口縁端部に刻目を施す。21は扁平な天井部に宝珠状のつまみが付く。22～28は笠状の天井部に内傾する短いかえりをもつ。29·30は扁平な天井部に直立気味のかえりが付く。31は口縁端部が屈曲して接地する。32～36はつまみ部。32·33は水平な天井部に扁平なつまみが付く。34は中央部は凹むつまみ。35は中央部が凸形のつまみ。36は扁平なつまみ。

37～43は坏身。37は直立気味の立ち上がり。38～42は内傾する立ち上がり。43は内傾し直立気味な立ち上がり。

44·45は坏。44は平坦な底部に直線的に立ち上がる口縁部。45は口縁部の小片。端部は尖り気味で丸い。

46は椀形土器。体部に2本の沈線文を施す。

47は坏身。外傾する口縁部、底部は焼歪む。

48は脚付椀。「ハ」の字状に開く脚部の端部は凹む。

49～54は高台坏。49は短く「ハ」の字状に開く高台。50は直立気味に接地する高台。51は高台端面に1条の凹線。52·53は短い高台。54は「ハ」の字状に開く高台。

55は皿。わずかに丸味をもつ底部。

56は高盤。「ハ」の字状に開く脚部に1条の凹線が巡る。

57は高坏形土器の椀形の坏部。

58～65は甕形土器。58は外反する口縁部の端部は拡張される。外面に波状文と凸帯を施す。59は外反する口縁部の外面に1条の凸帯を施す。60は外反する口縁部。61は口縁端部は上方に拡張する。62は外反する口縁部の外面に凸帯と波状文を施す。63は外反する口縁部の端部がわずかに凹む。64の口縁端部は「コ」の字状に丸い。65の口端部は丸味をもつ。

66～71は壺形土器。66は底部外端に水平な短い高台が付き、胴部は肩が張り、口縁部は外反する。67は底部外端に高台が付く。68は外反する口縁部の端部は丸い。69は外傾する口縁部は尖り気味で、外面に波状文と凸帯を施す。70は高台部。「ハ」の字状に開く。71は「ハ」の字状に開く高台部。

72は平瓶、頸部から胴部にかけての小片。73は提瓶。カギ状の把手をもつ。74·75は器台。74の脚端部は「コ」の字状に丸い。75は小片。外面に2条の凸帯と波状文を施す。

土師器（76～95）

76～80は坏。76は丸味をもつ底部。77は平坦な底部にわずかに外反する口縁部。78は平坦な底部。79·80は口縁部の小片。81·82は皿。81は外傾する口縁部。82は短く外反する口縁部。83·84は坏。83は底部端に高台が付く。84はわずかに丸味をもつ底部。85·86·88は高坏。85·86は坏部。85は平坦な

底部より折曲して立ち上がる口縁部の端部は尖り気味に丸い。86は段をもち立ち上がる口縁部。88はラッパ状に開く脚部。87は壺。外反する口縁部の端部は肥厚され、外方向に拡張される。89は甑の把手部。90は甕。外反する口縁部。91·92は土釜の口縁部。94·95は土釜の脚部。93は皿。短く外傾する口縁部。96は平瓦の小片。

陶器（97～102）

97は小壺。奈良三彩（8世紀）。緑釉98～102は椀。98·99は9世紀後半。100は10世紀前半。101·102は円盤高台。

弥生土器（103～118）

103～107は甕形土器。103は口縁部小片。端部に1条の凹線文、頸部に刻目凸帯文を施す。104は口縁部小片。端部に1条の凹線文を施す。105·106は口縁部を上方にわずかに拡張する。107は平底の小さな底部。

108～116は壺形土器。108は口縁端面に3条の凹線文。109は口縁端面に竹管文と刻目文を施す。110は口縁部端面に3条の凹線文を施す。111は口縁端面に凹線文、頸部に凸帯を施す。112は口縁端部に刻目を施す。113·114は複合口縁壺の拡張部。115は直口口縁壺。口縁外面に細い沈線文と斜線による山形文を施す。116は平底。

117·118は鉢形土器。口縁部の小片。

石製品（119～121）

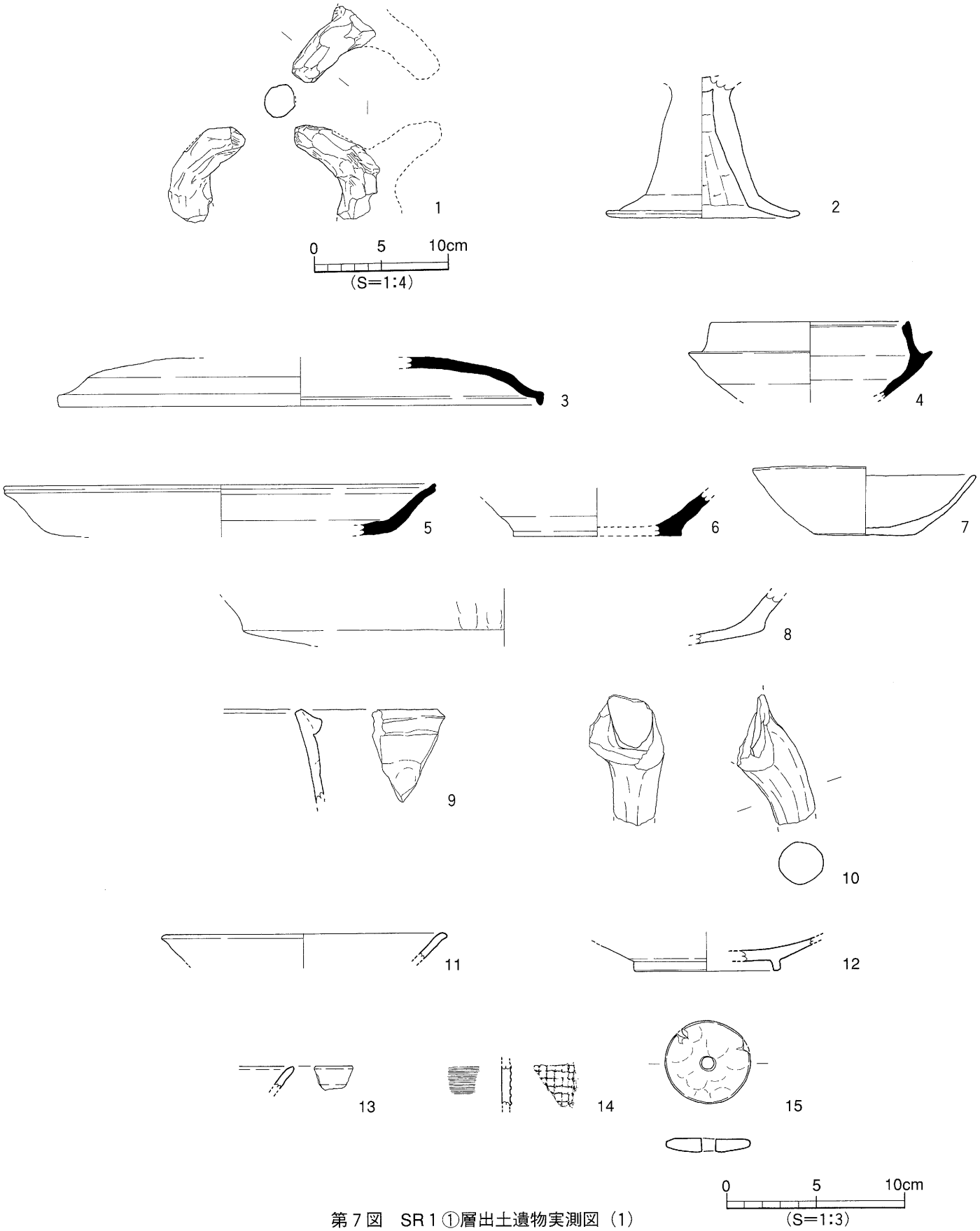
119はスクレイパー、材質はサヌカイトである。120は砥石。121は石器素材と思われる。

③層出土遺物（第16～31図、図版2）

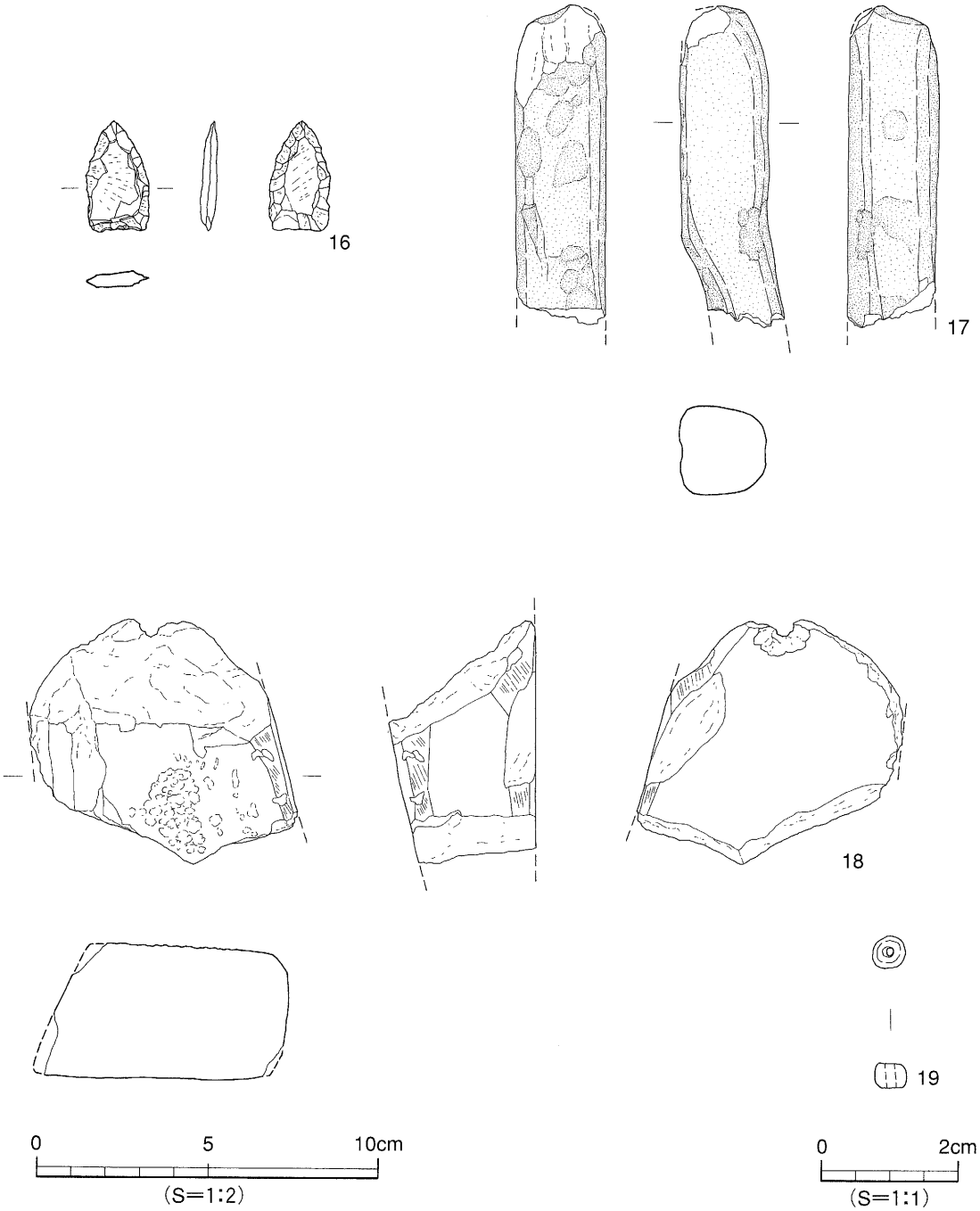
須恵器（122～263）

122～151は坏蓋。122～124は口縁部と天井部を分ける稜は明瞭で、口縁部は直立気味に接地する。125·126の天井部は丸味をもち、口縁部を分ける稜は不明瞭である。127は口縁部端部を面取りし、刻目を施す。128は天井部にわずかな平坦面をもち、口縁部は尖り気味に丸い。129は口縁部の小片。130は天井部の小片。外面に短い沈線（ヘラ記号か）を施す。131は丸味をもつ天井部。132の口縁部は内湾し、端部は丸い。133は蓋。丸い天井部に中央が凹むつまみが付く。134·135は笠状の天井部に、134は乳頭状、135は中央部が突出するつまみが付く。136～138は短く内傾するかえりをもつ。139は丸味のある天井部に中央部が突出するつまみが付く。140は扁平な天井部のつまみ部が欠損する。141～143は直立気味の短いかえりをもつ。144は中央部が突出するつまみをもつ。145～147は口端部が折れ曲がる。148は扁平で中央部が凹むつまみ。149は扁平で、中央部がわずかに突出する。150·151は水平な天井部に外反し、口縁部手前で内湾する。

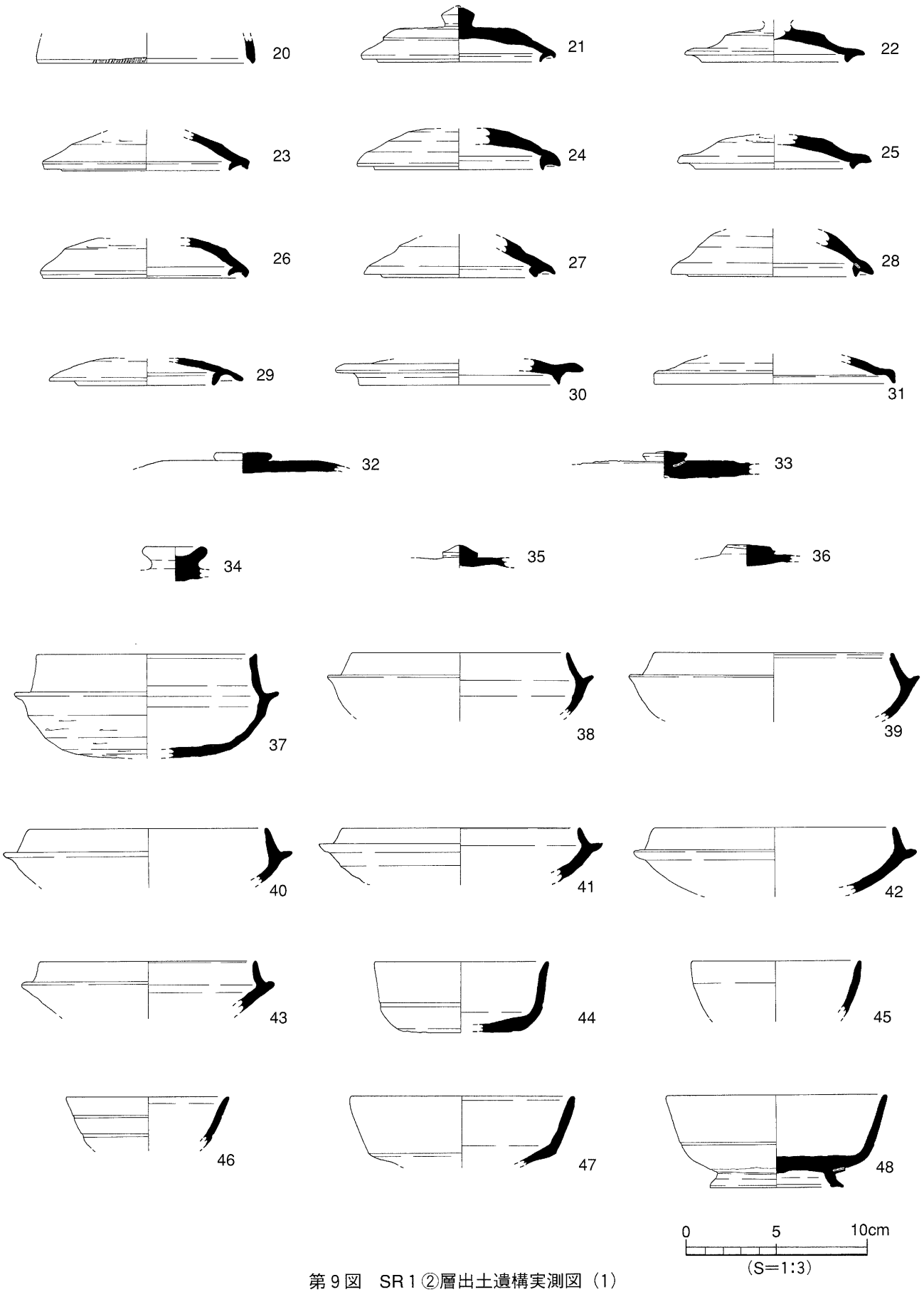
152～168は坏身。152·153は直立気味に長い立ち上がりをもつ。154～156は短い受部に内傾する立ち上がりをもつ。157～159は立ち上がりは内傾し、尖り気味である。160～163は短く水平気味に伸びる受部に内傾する立ち上がりをもつ。164は短い受部に直立気味に伸びる立ち上がり。165は短く水平に伸びる受部。166は焼歪む。167·168は短く内傾する立ち上がり。169～182坏。169～174は丸味のある底部に尖り気味の口縁部。173の底部にヘラ記号。175～177は平坦な底部。175の口縁部は外反気味である。176·177の口縁部は直線的に立ち上がる。



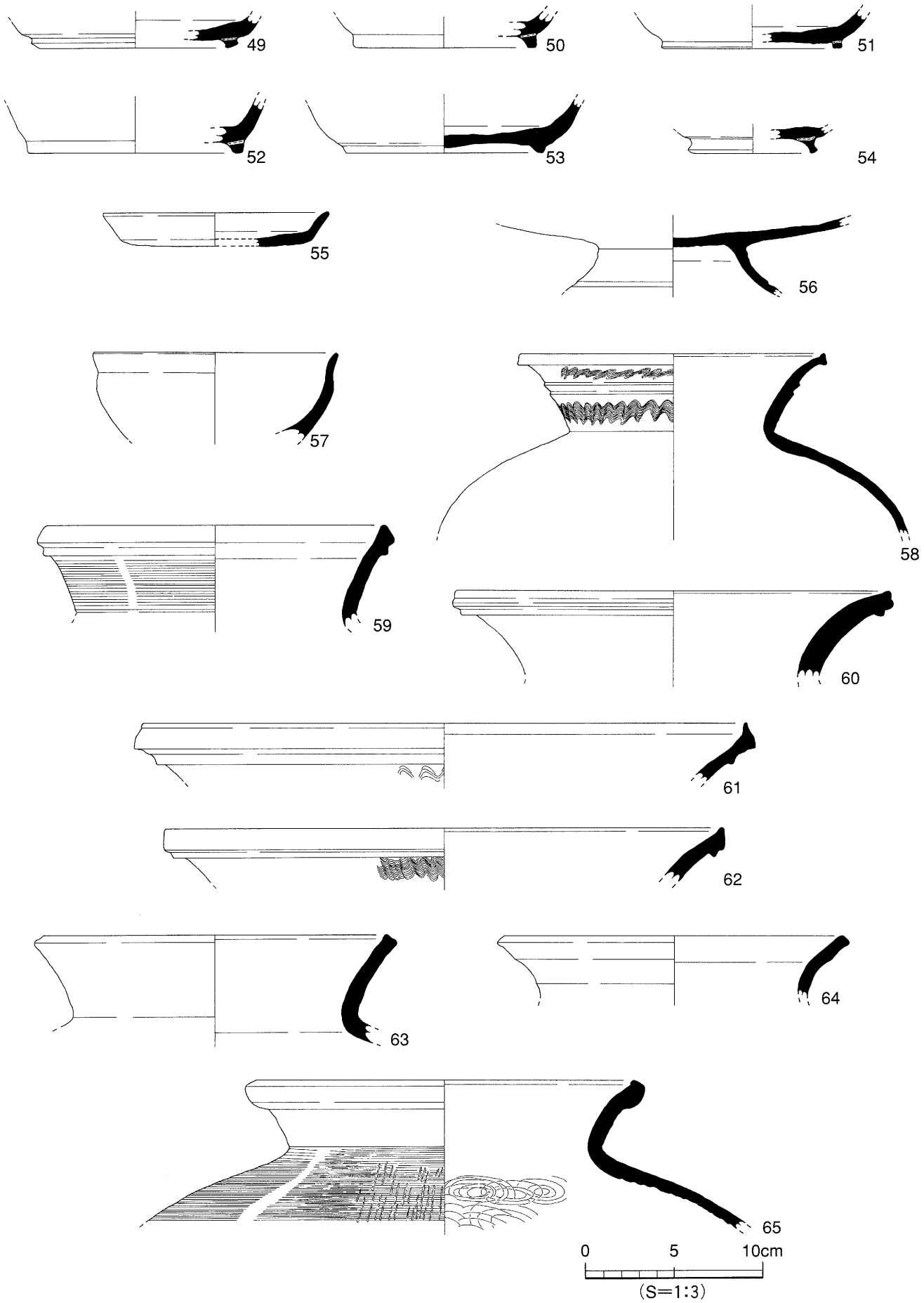
第７図　SR１①層出土遺物実測図（1）



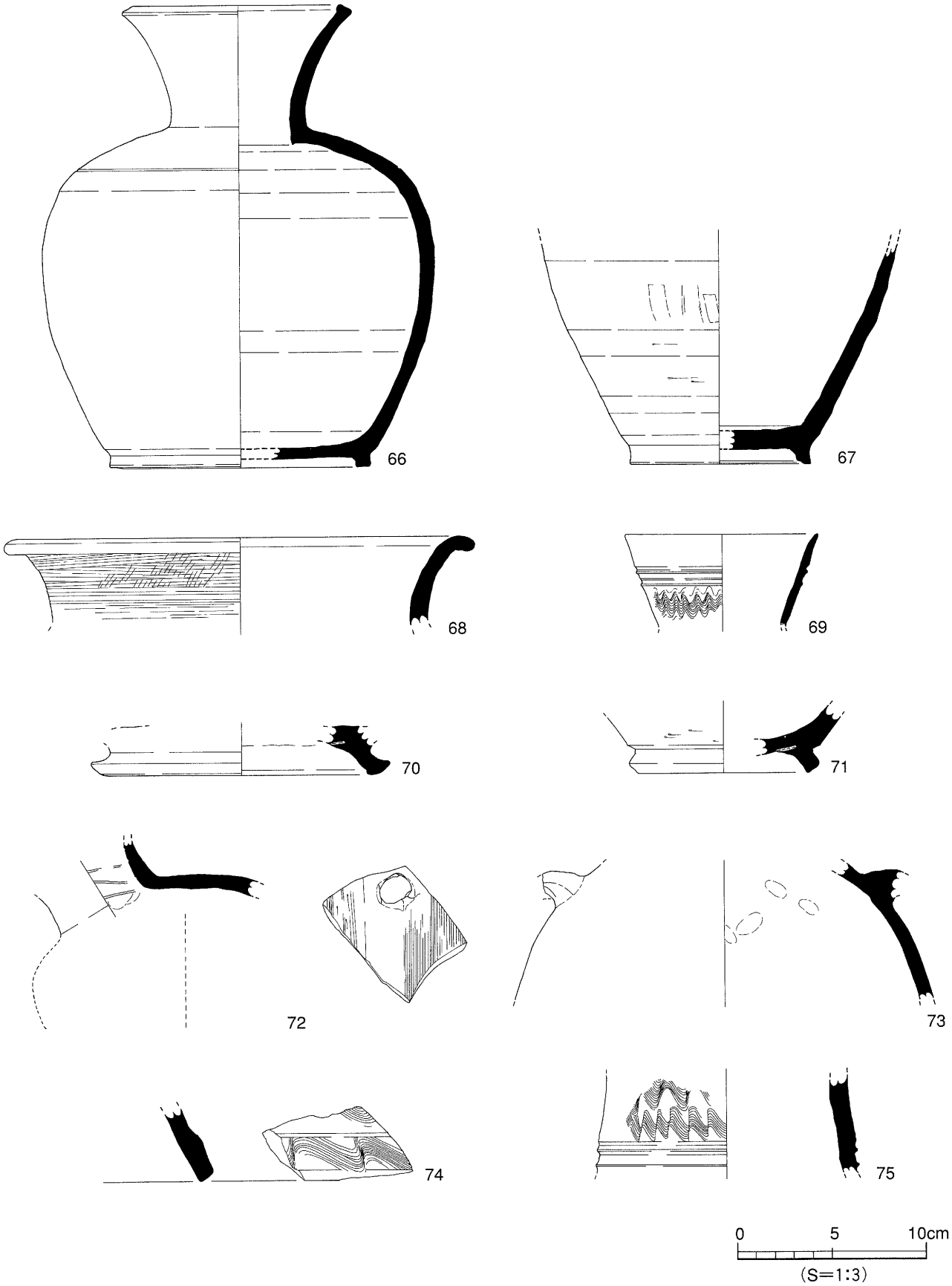
第8図　SR1①層出土遺物実測図（2）



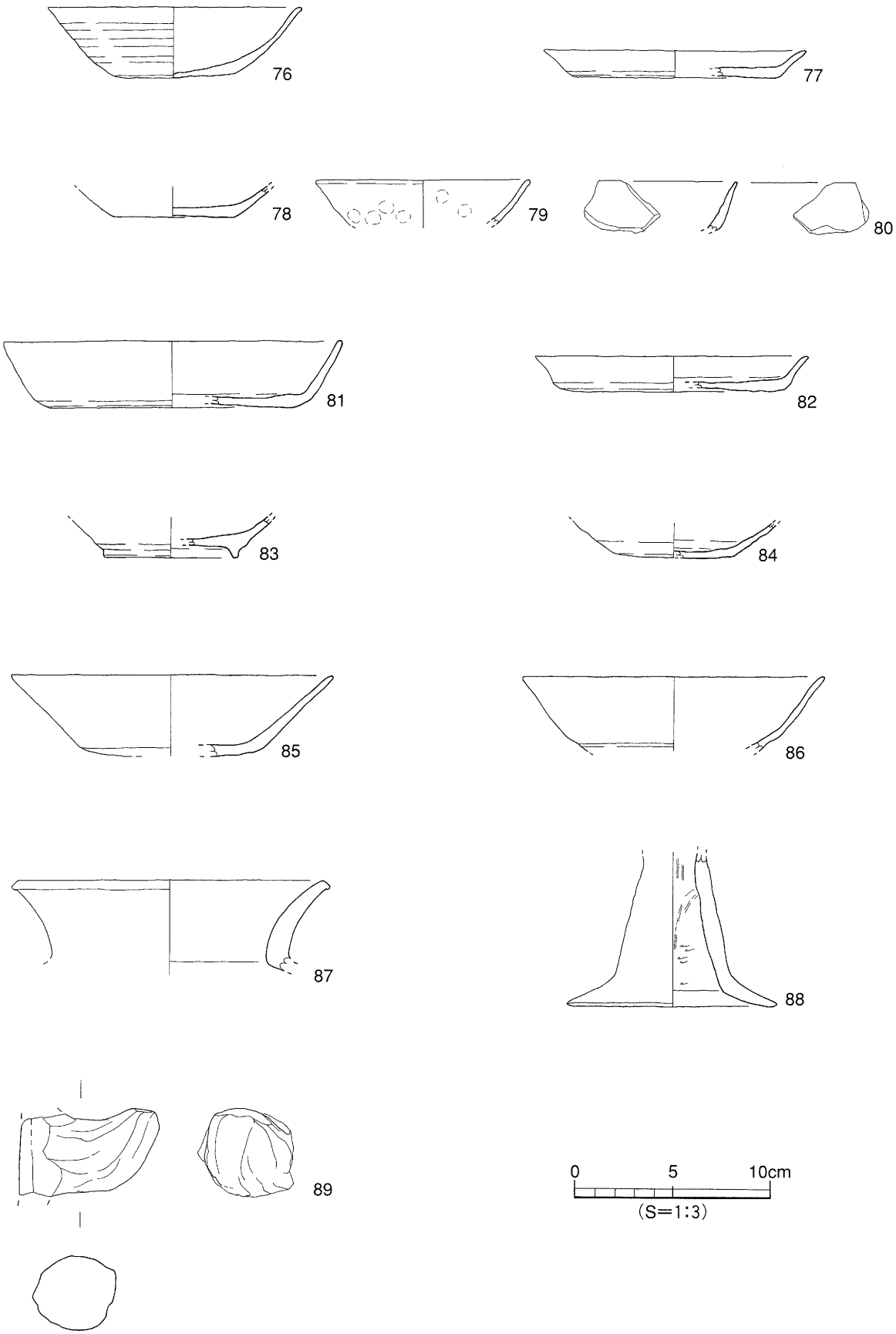
第９図　SR１②層出土遺構実測図（1）



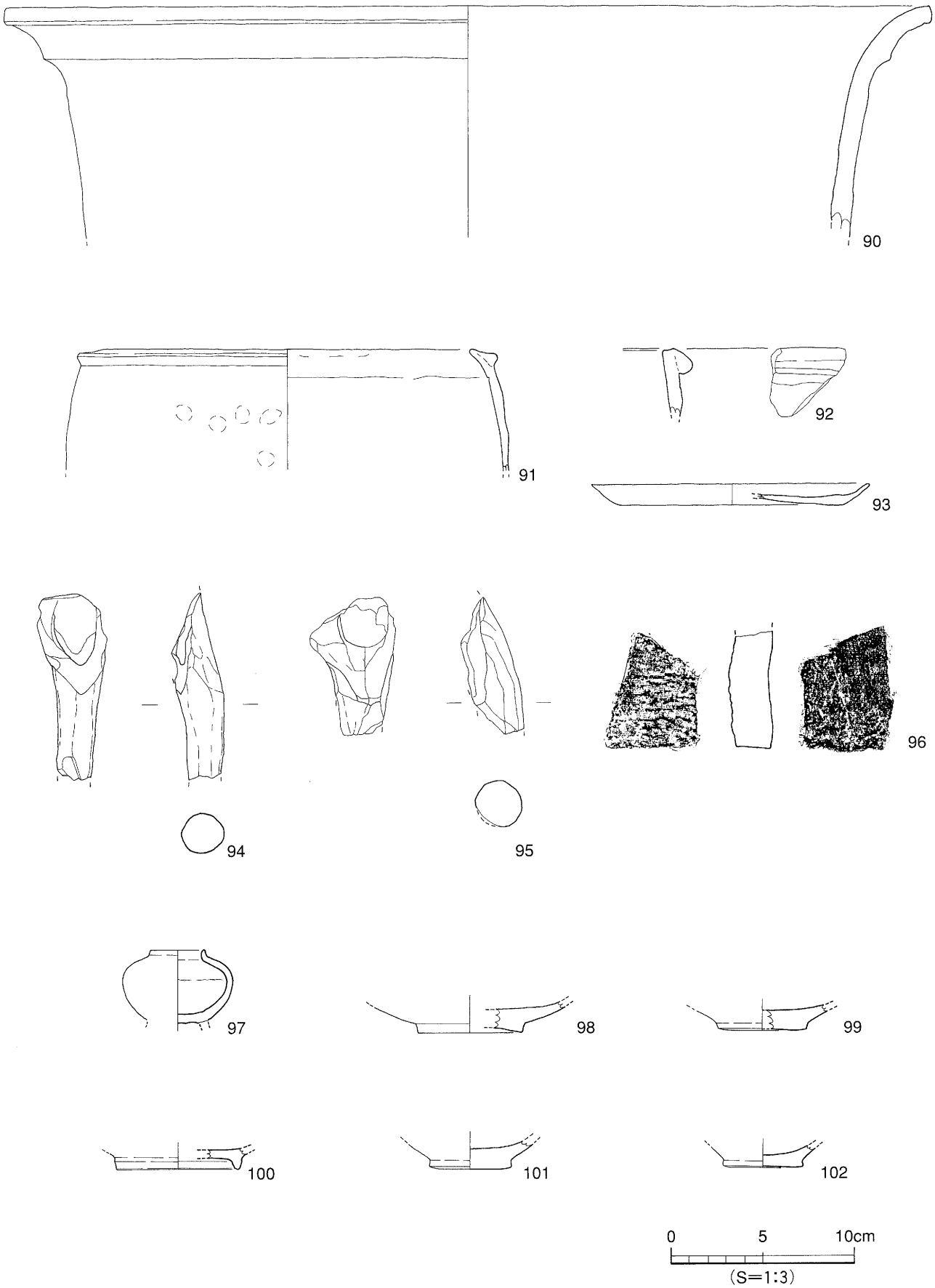
第10図　SR１②層出土遺物実測図（2）



第11図　SR１②層出土遺物実測図（3）



第12図　SR１②層出土遺物実測図（4）



第13図　SR１②層出土遺物実測図（5）

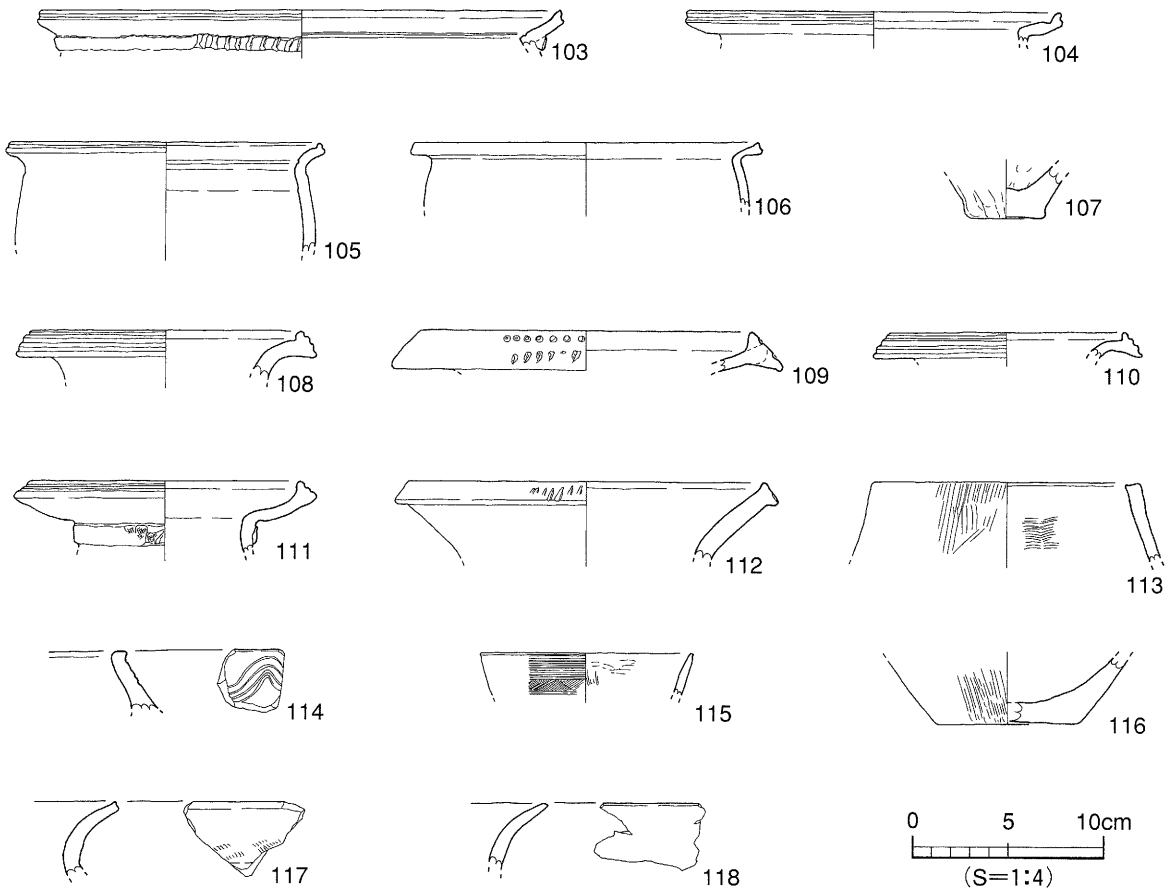
183～195は高台坏。183～185は内湾気味に立ち上がる口縁部。189·190は直線的に立ち上がる口縁部。195の底部外面に工具痕が残る。

196～209は高坏。196は坏部の外面に波状文を施す。197は脚部。端部は内傾し、尖り気味である。198は坏部が歪んでいる脚部に凹線を施す。199は脚部に円形の透かしを施す。200は脚裾部に凸帯を施す。201～205は外反する脚部の端部は折り曲げ接地する。206～209は柱部。206·207の外面に凹線を施す。

210～212は皿。210·211は短く外傾する口縁部。212の口縁部は内湾気味である。

213～218は甕形土器。213は外反する口縁部。端部を上下に拡張する。214は外反する口縁部。215は口縁端部を上下に肥厚する。216·217は外反する口縁部の端部は丸い。218は口縁外面に波状文を施す。

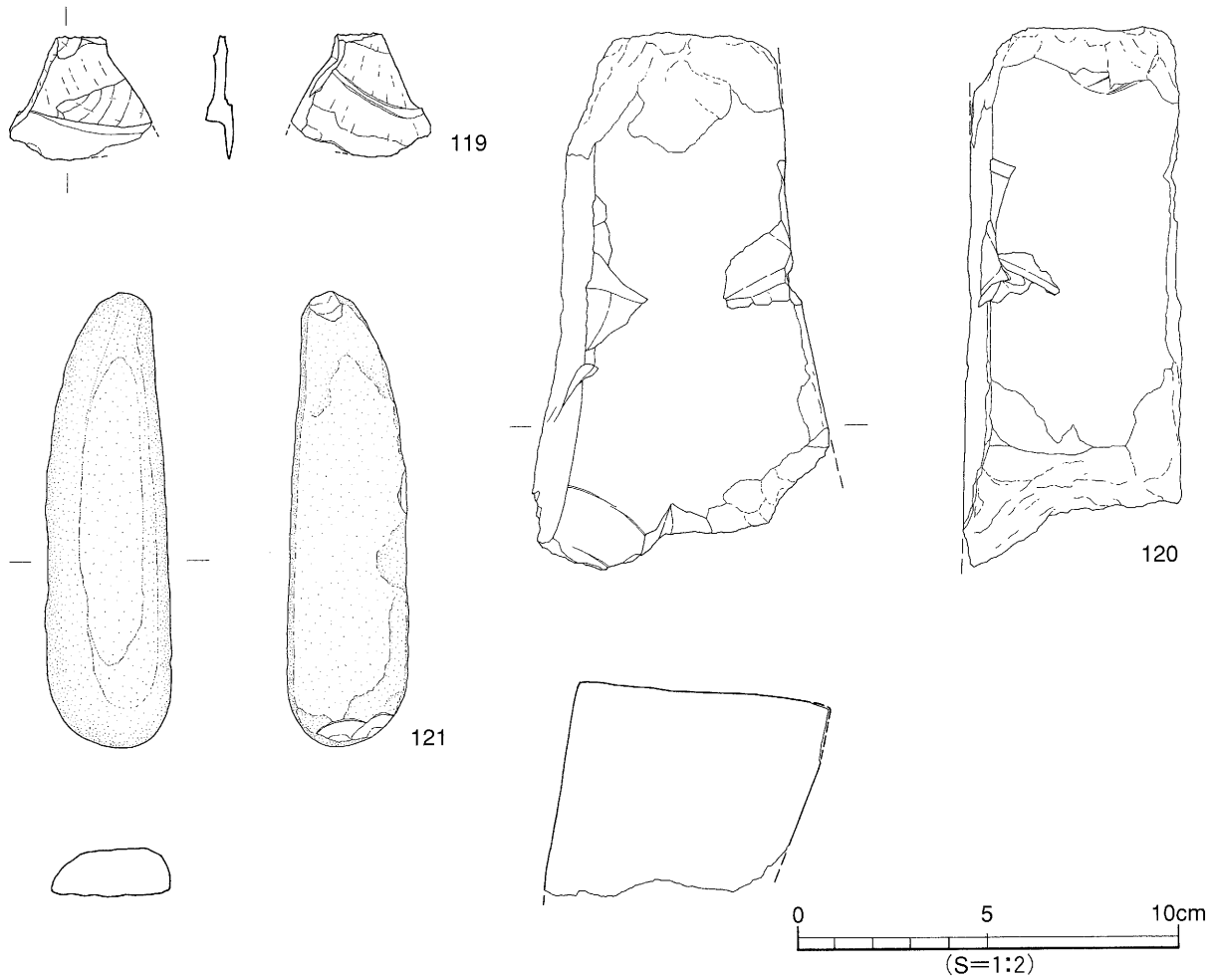
219～244は壺形土器。219は外反する口縁部の端部は「コ」の字状で外面に波状文を施す。220は直立気味にわずかに外反する口縁部の端部は尖り気味で口縁部外面に凹線と波状文、肩部に刺突列点文を施す。221はわずかに外反する口縁部の端部は尖り気味で外面に波状文を施す。222の口縁部は直立気味に立ち上がり、端部手前で外反する。223は大きく外反する口縁部。224は短く外反する口縁部。225は直立気味に開く長頸壺の口頸部。226は短く外反する口縁部。227は外反する口縁部。



第14図　SR１②層出土遺物実測図（6）

228～230は短く直立気味に伸びる口縁部。231は直立気味にわずかに外傾する口縁部の外面に1条の凹線が巡る。232は外面に細い波状文を施す。233は肩部に凹線2条と櫛歯状工具による刺突列点文を施す。234は頸部に1条の凸帯が巡る。235は頸部下位に波状文を施す。236は肩の張る胴部。肩部に1条の凹線と上位に櫛歯状工具による刺突列点文を施す。237は胴部片。238は肩の張る胴部。外面に他の遺物が付着する。239～244は高台付の底部片。239の底部中央に二次的穿孔。244は長頸壺の底部。

245は脚付埦の完形品。直立する口縁部の端部は丸く中位に凹線文1条を施す。246は埦。わずかに内傾する口縁部。中位に凹線を1条施す。247は高台埦。「ハ」の字状に開く高台。248は平瓶。直線的に伸びる口縁部。249は瓶の完形品。段をもち大きく開く口縁部。底部は扁平である。穿孔はカギ穴状である。250は壺の口縁部小片。外面に2条の凸帯と波状文を施す。251は提瓶。カギ状の把手。252～256は器台。252·253の外面に凸帯と波状文を施す。254は長方形と思われる透かし。255は外面に刺突文、波状文、凹線を施す。256は外面に山形の波状文を施す。257は坏の小片。底部に4本のヘラ記号。258～261は円面硯。258は直立する内堤をもつ端面は内傾し凹む。硯部と脚部は別々に作成する。259は硯面部にナデによるわずかな内堤を作り出す。脚部は外反し、裾部がわずかに内湾し端部が凹む。硯部と脚部は同時に作成する。260は脚部は外反し、裾部はわずかに内湾し端部は凹む。



第15図　SR１②層出土遺物実測図（7）

硯部と脚部は同時に作成する。261は脚部。外反し裾部が内湾し端部は凹む。262は壺。口縁部は直立し端面は内傾し凹む。頸部下に4方向のカギ状の把手が付く。263は甕の大型品。球形の胴部に底部は突出する。口縁部は外傾し端部手前でわずかに内湾する。端部は丸い。

土師器（264～318）

264は高台埦。短い高台（底部側端）が付く。265は高台皿か？。先細りの高台が付く。266·267は高台埦。266は丸味をもつ高台。267は外傾して伸びる口縁部の端部は尖り気味である。268は器種不明。高台が付き、内側にラセン状の暗文。269～271·273は坏。272は埦。274～277は皿。274·275はわずかに外反する口縁部。276は外傾する口縁部の端部は尖り気味に丸い。277は短く外反する口縁部の端部は丸い。278は坏の小片。ラセン状の暗文がわずかに残る。279は器種不明。ラセン状の暗文が残る。280は坏。底部に格子状の沈線あり。281·282は器種不明。外面に線刻あり。ヘラ記号か？。283～287は埦。283～286は内湾する口縁部をもつ。287は口縁端部が外反し端部は尖り気味である。288～292は高坏。288·289は坏部。段をもち外上方に内湾しながら伸び、端部手前で外反する。端部は丸い。290～292は柱部。291·292は裾部は屈曲する。

293～301は甕形土器。293は球形の胴部に外上方に短く伸びる口縁部が付き、端部は「コ」の字状に丸い。294は肩の張らない胴部に短く外反する口縁部が付き端部は丸い。295は外傾する口縁部の端部は水平な面をもつ。296は外傾する口縁部の端面はナデにより凹む。297は外傾する口縁部の端部は厚みをもち、「コ」の字状に丸い。298は短く外反する口縁部の端部は丸い。299は外傾する口縁部の端部は尖り気味に丸い。300は外傾する口縁部の端部は水平な面をもち凹む。301は長胴で下半部が膨れる。口縁部は外傾し端部は内側に肥厚される。

302～304は壺形土器。302は外傾する口縁部の端部は尖り気味である。303は球形の胴部に外傾する口縁部の端部は丸い。304はやや肩の張る胴部。305～310は鉢。305は丸い底部に内湾する胴部。口縁部は短く直立し端部は丸く注口をもつ。306は球形の胴部。口縁部は外傾し端部は尖り気味に丸い。307は扁平な底部。口縁部は外反し端部は丸い。口縁部は歪んでいる。308は外傾する口縁部。309は短く外反する口縁部。310は大きく外方向に伸びる口縁部。

311～315は甑。311は底部片。312～315は把手。316は甑の底部か。317·318はカマド。319～324はフイゴの小片。325は緑釉陶器。

弥生土器（326～351）

326～330は甕形土器。326·327は外反する口縁部の端部は「コ」の字状である。327は頸部に凸帯が巡る。328～330は平底の底部片。331～340·342～348は壺形土器。331～333は口縁端部を拡張し、凹線文を施す。334は口縁部の小片。外面に波状文を施す。335は口縁部を下方に大きく拡張し、外面に波状文を施す。336は大きく開く口縁部。337は複合口縁の拡張部。直立する拡張部は厚みをもつ。338は複合口縁の拡張部。拡張部はわずかに外反し、外面に斜線充填による三角文と竹管文を施す。339は複合口縁。接合部は「コ」の字状で下方に伸びる。340は頸部付近の小片。押圧されたひし形文様が巡る。341は甕形土器。上げ底の大きな底部。342～348は底部。342·343は平底。344·345は小さく突出する平底。346·347は丸味のある平底。349は鉢形土器。外反する口縁部。350·351は支脚形土器。350は受部がわずかに凹む。351は受部は傾斜をもつ。

石製品（352～361）

352·353は石庖丁。材質は結晶片岩である。354は石鏃の完形品。355は有孔円盤。ほぼ完形品である。

356·357はスクレイパー。材質はサヌカイトである。358は剥片。359·361は砥石。359は4面ともによく使い込まれている。360は扁平片刃石斧か。

装身具（362）

362は滑石製の小玉である。

②～③層出土遺物（363～367）（第32図）

363～366は須恵器。363は高台坏である。高台は水平に接地し中央部が凹む。364は高坏形土器の柱部である。365は甕形土器である。外傾する口縁部。366は把手付椀。断面円形の把手部である。367は土師器の皿である。短く外傾する口縁部である。

層位不明出土遺物（368～418）（第33～36図）

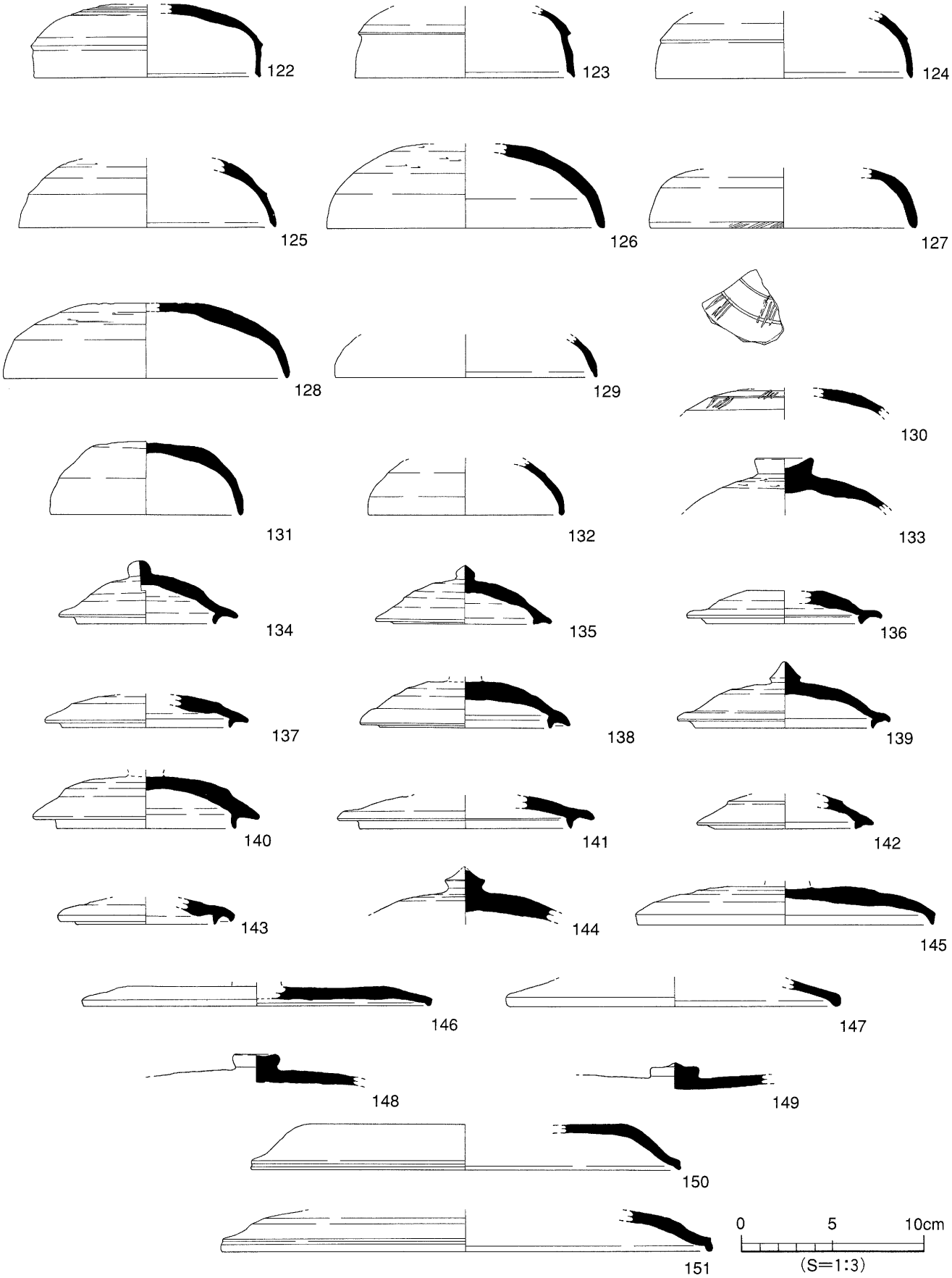
368～377は須恵器である。368は坏蓋である。丸味のある天井部。端部は丸い。369は台付椀である。「ハ」の字状に開く高台部は水平に接地し中央部が凹む。370～372は高坏である。脚部は外反し端部手前で屈曲する。坏部は内湾して立ち上がり端部は丸い。371は坏部の小片である。坏中位に段をもつ。372は脚部である。373は壺形土器である。外傾する口縁部の外面に2条の凸帯と波状文を施す。374～376は甕形土器である。底部から頸部までの残存である。374は外面に2条の凹線と刻目文、頸部付近に波状文を施す。375は小さな平底をもつ。376は底部にヘラ記号を施す。377は平瓶の把手部である。断面は四角形状である。

378～404は土師器である。378～381は甕形土器である。378は外傾する口縁部で肩が張らない。379は外傾する口縁部の端部は丸い。380·381は外傾する口縁部である。382～387は壺形土器である。382·383は外傾する口縁部である。384は内湾しわずかに外傾する口縁部である。385はわずかに内湾して直立気味に立ち上がる口縁部である。386は外傾し端部がわずかに外反する口縁部である。387は内湾して直立する口縁部である。388は器種不明土器である。端部は「コ」の字状で内面に線刻がある。389～391は甑形土器の把手である。392～404は高坏形土器である。392～397は坏部である。392·393は端部が外反する。394～396は坏部に段をもつ。397は内湾気味に立ち上がる。398～404は脚部である。398～401は裾部が屈曲する。402は裾部が外反する。403は坏底部から柱部である。404は柱部である。

405～416は弥生土器である。405～407は甕形土器である。405は「L」字状の口縁部である。406は「く」の字状の口縁部である。407は平底の小片である。408～412は壺形土器である。408～411は口縁部である。408は外反する口縁部の端部は拡張され、5条の凹線文と円形浮文を施す。409は複合口縁である。拡張部は直立気味に立ち上がり端部は丸い。410は口縁部を拡張され、3条の凹線文を施す。411は複合口縁。拡張部は直立し端部は外反する。412は平底である。413·414は高坏形土器である。413はわずかに段をもつ坏部である。414は「ハ」の字状に開く裾部である。415·416は支脚形土器である。415は受部に傾斜をもつ。416は角状の突起をもつ。

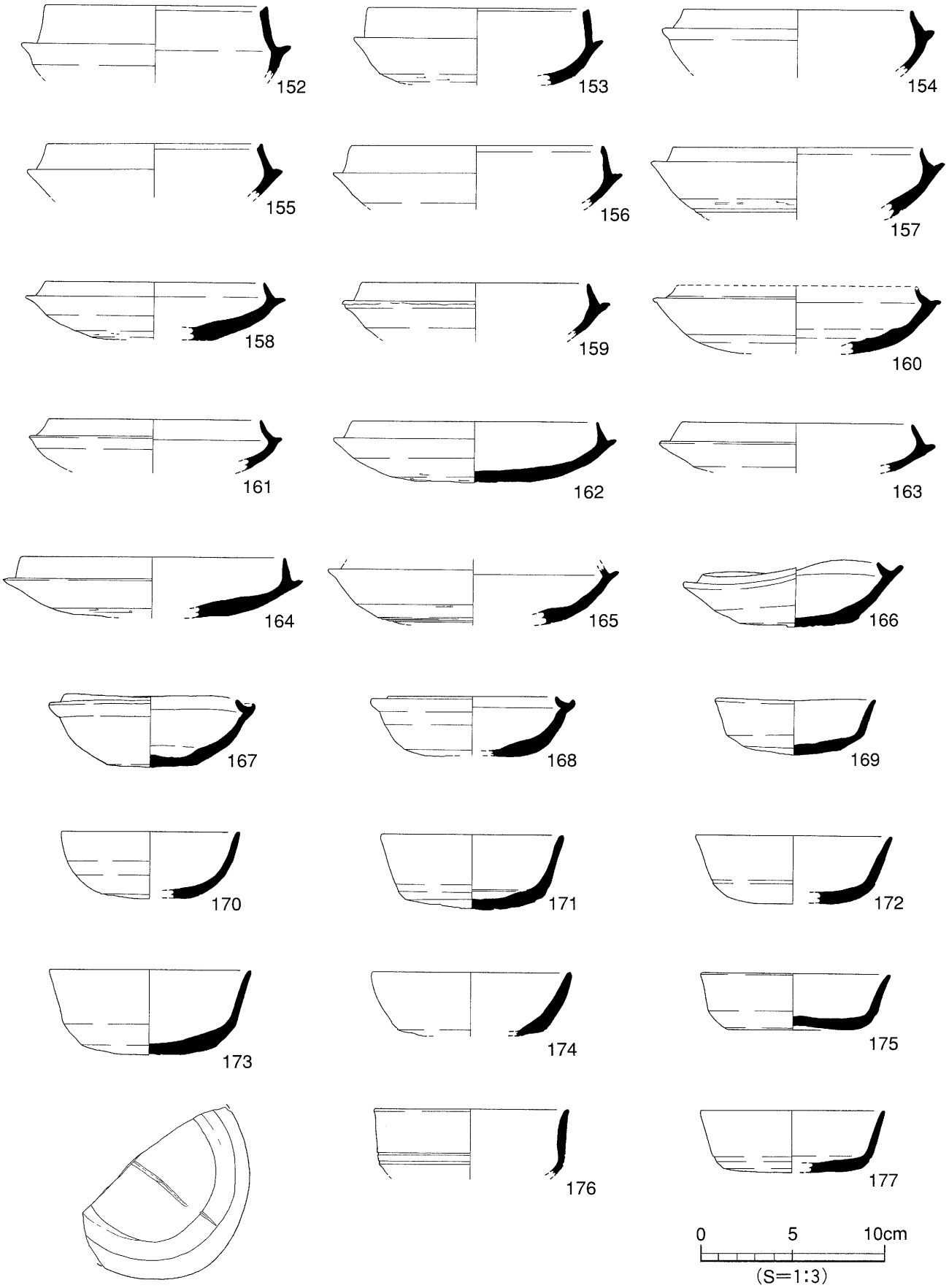
417は平瓦の小片である。

418は石庖丁で材質は結晶片岩である。

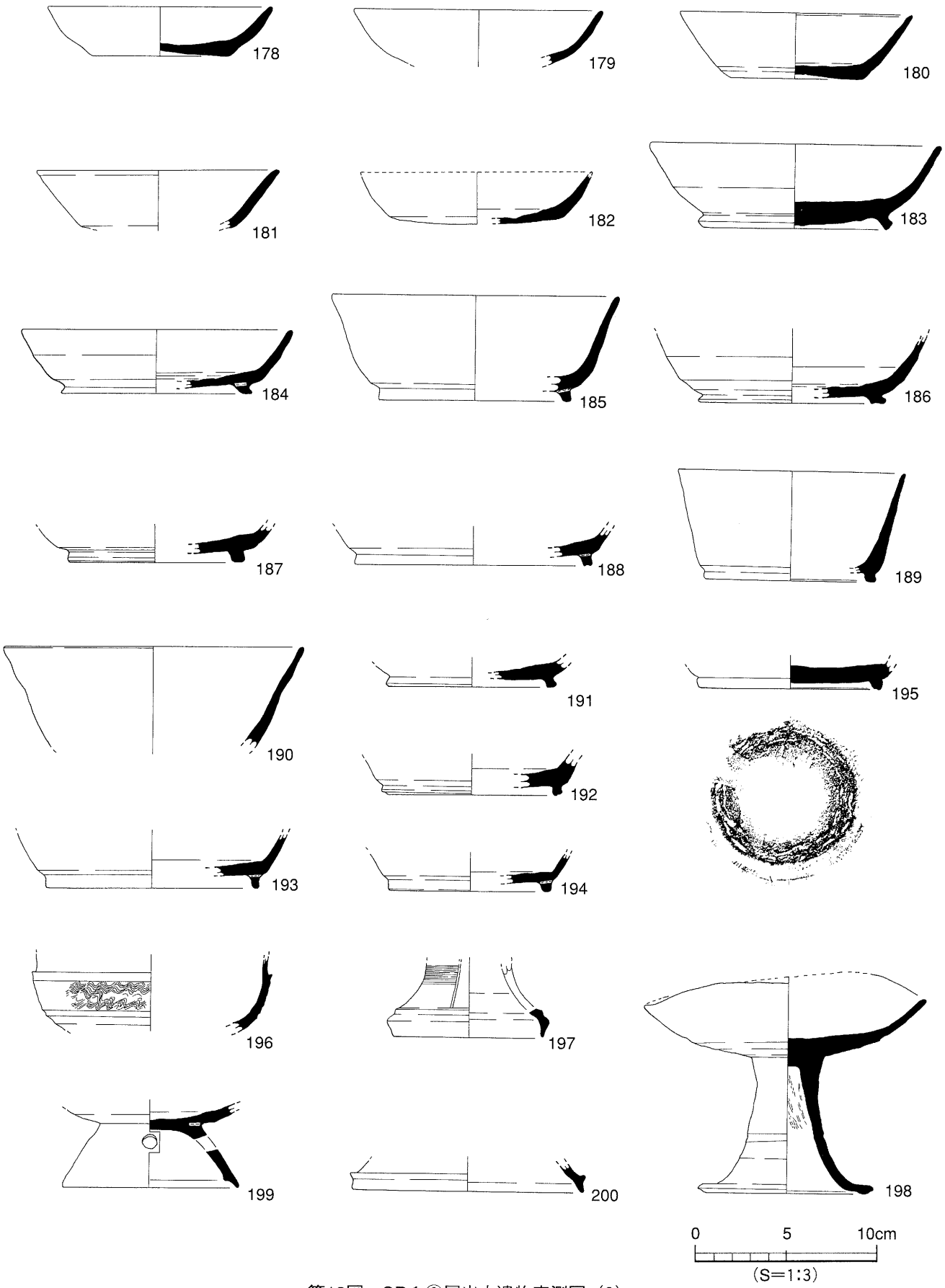


第16図　SR１③層出土遺物実測図（1）

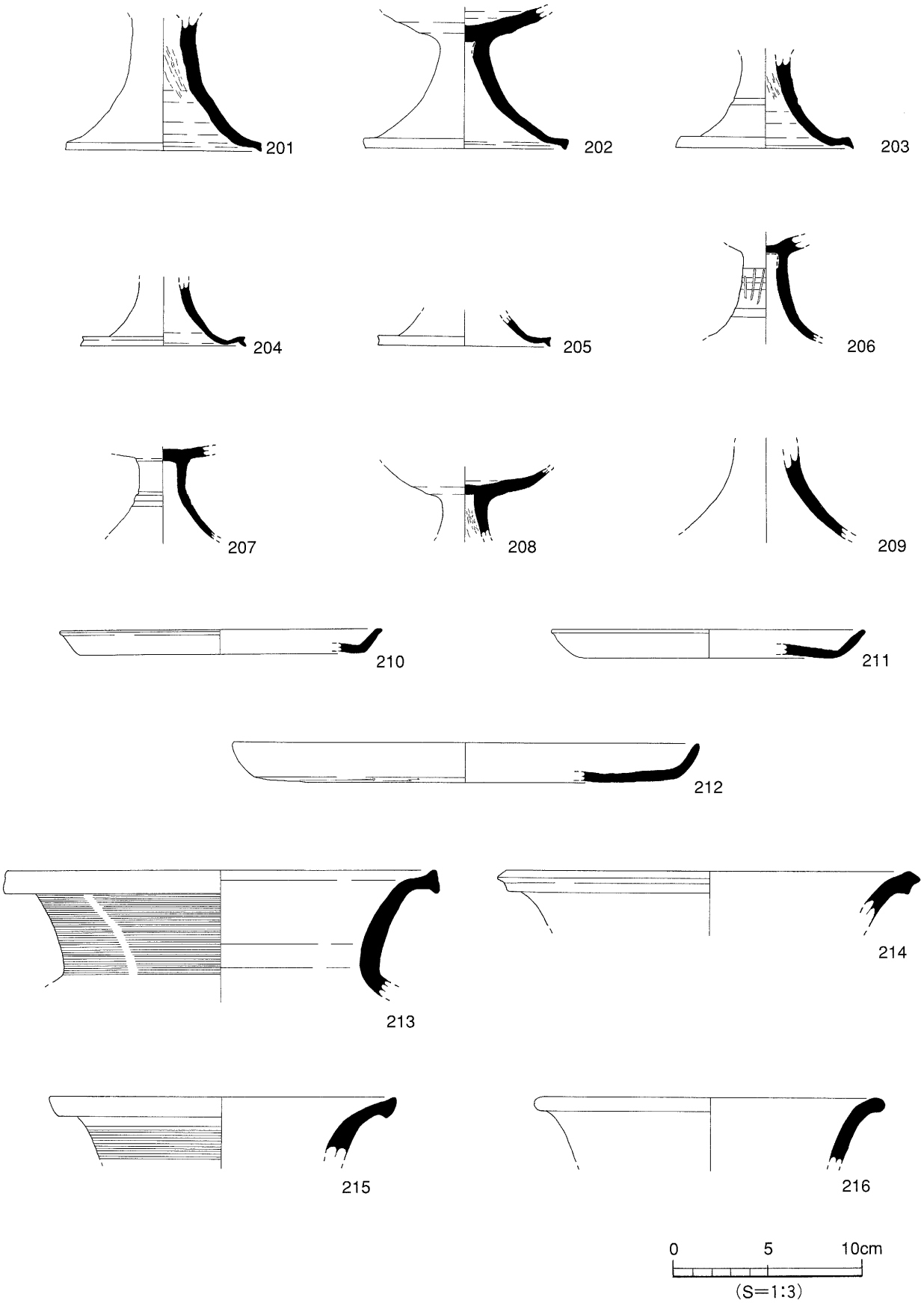
古　代



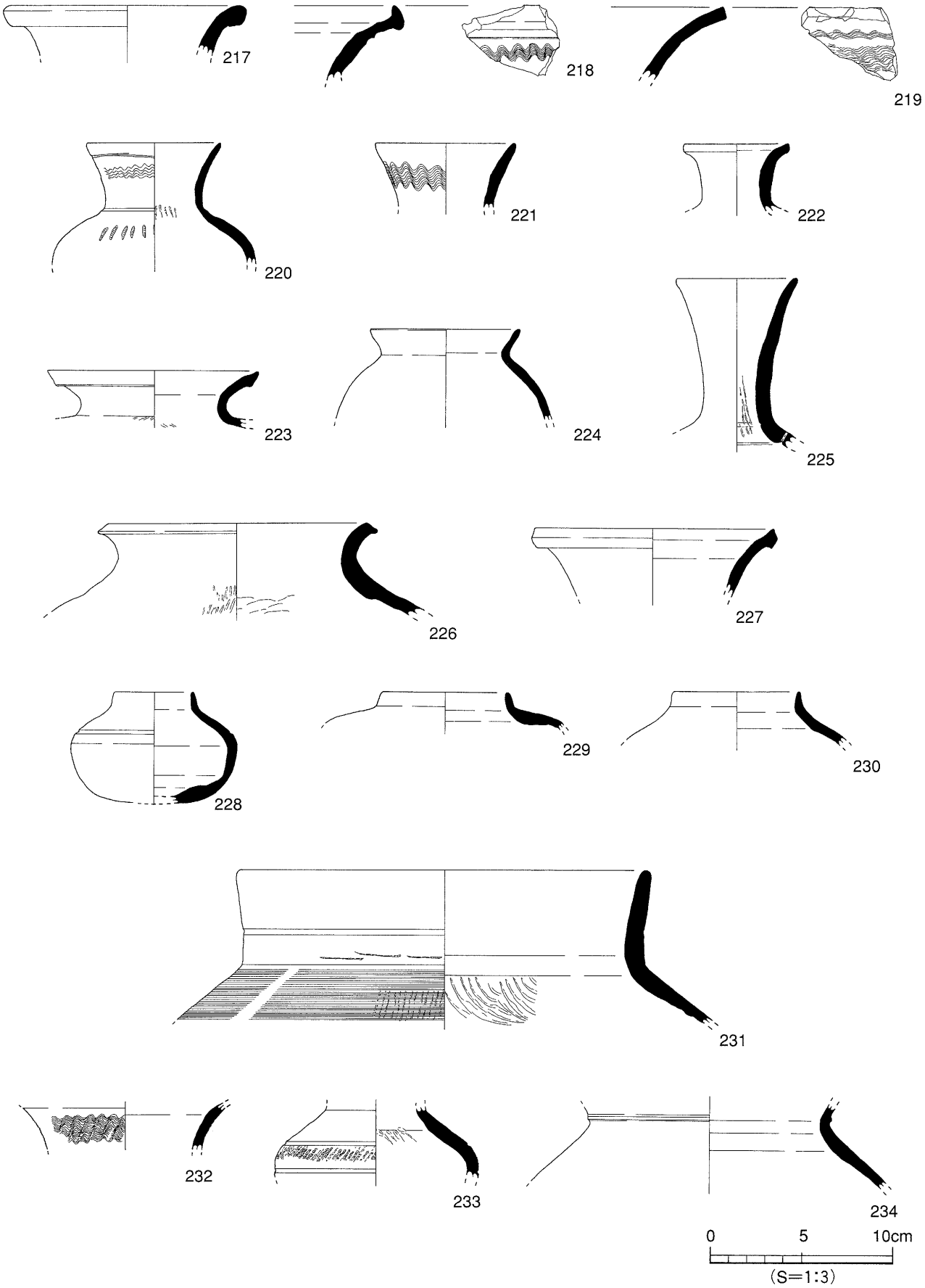
第17図　SR１③層出土遺物実測図（2）



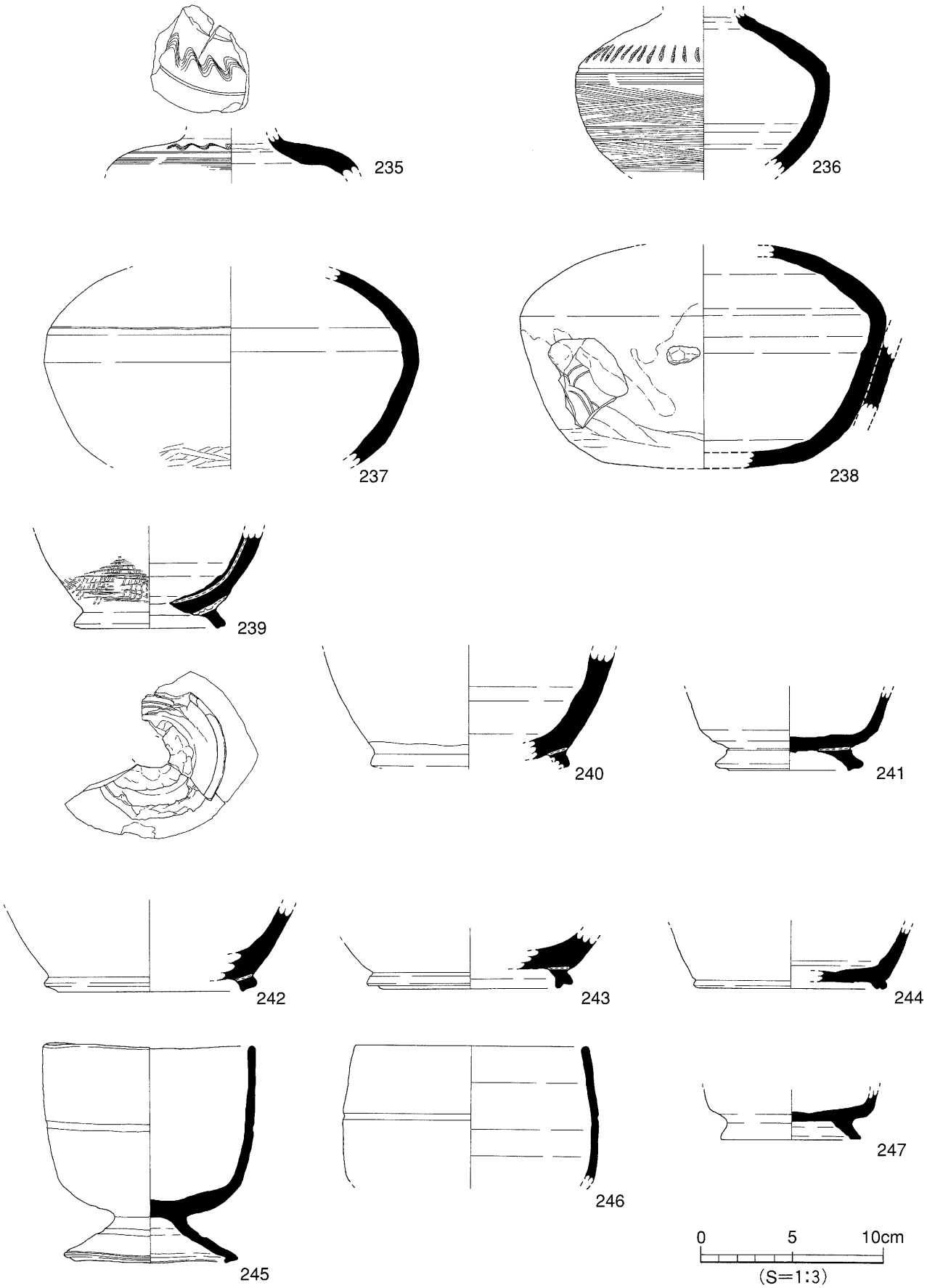
第18図　SR１③層出土遺物実測図（3）



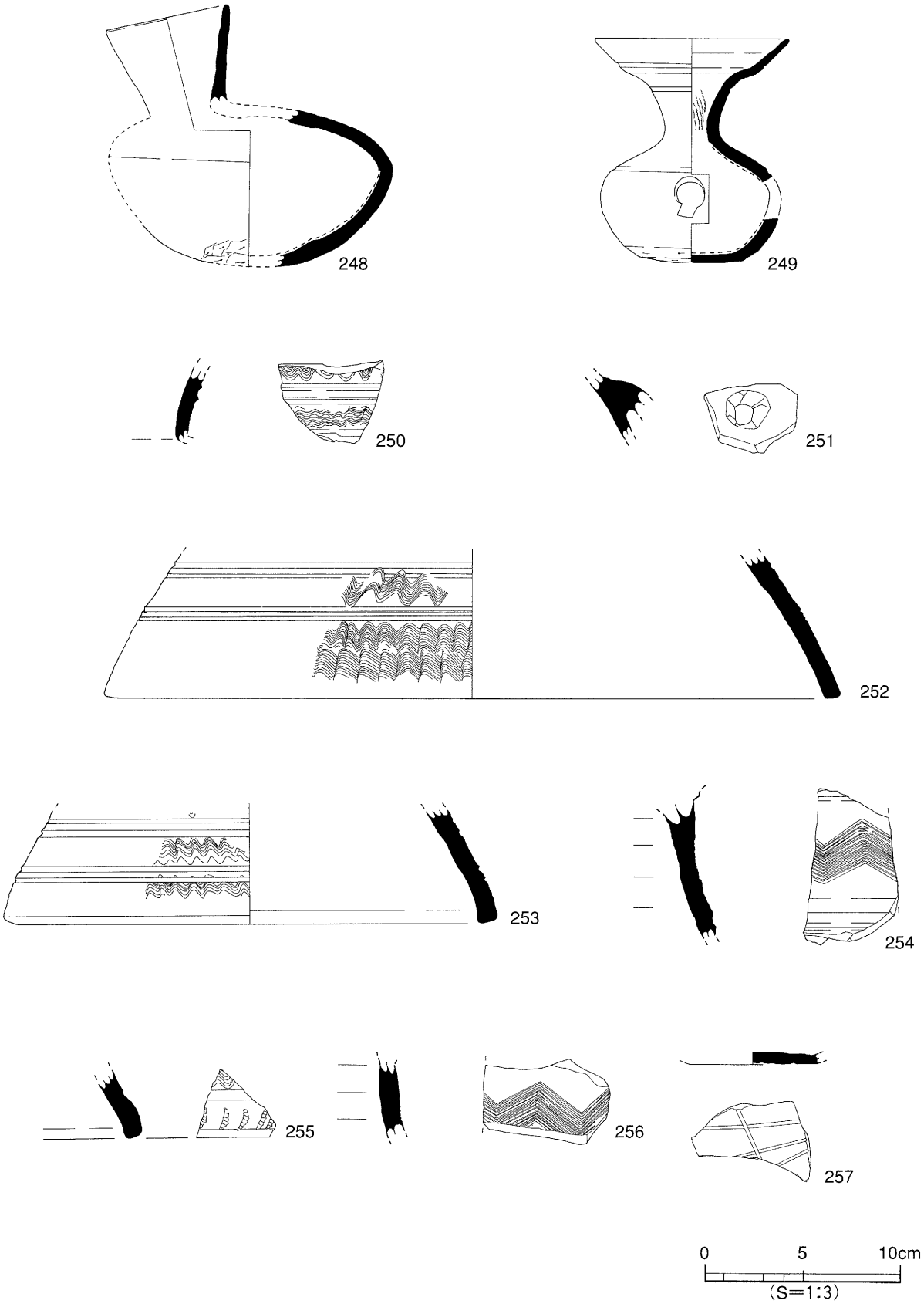
第19図　SR１③層出土遺物実測図（4）



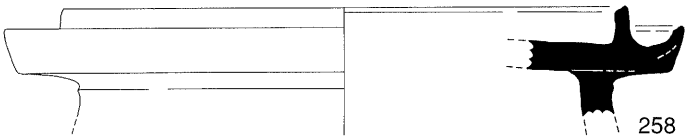
第20図　SR１③層出土遺物実測図（5）

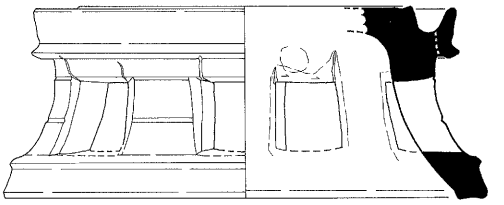


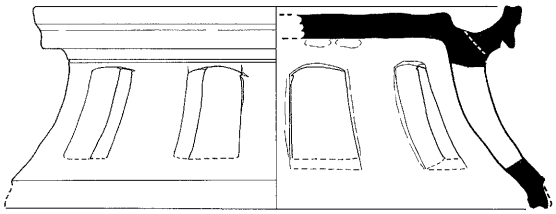
第21図　SR１③層出土遺物実測図（6）

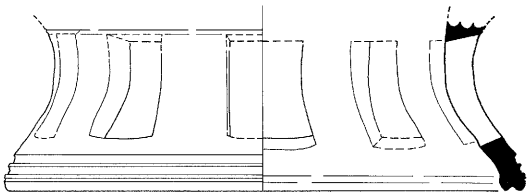


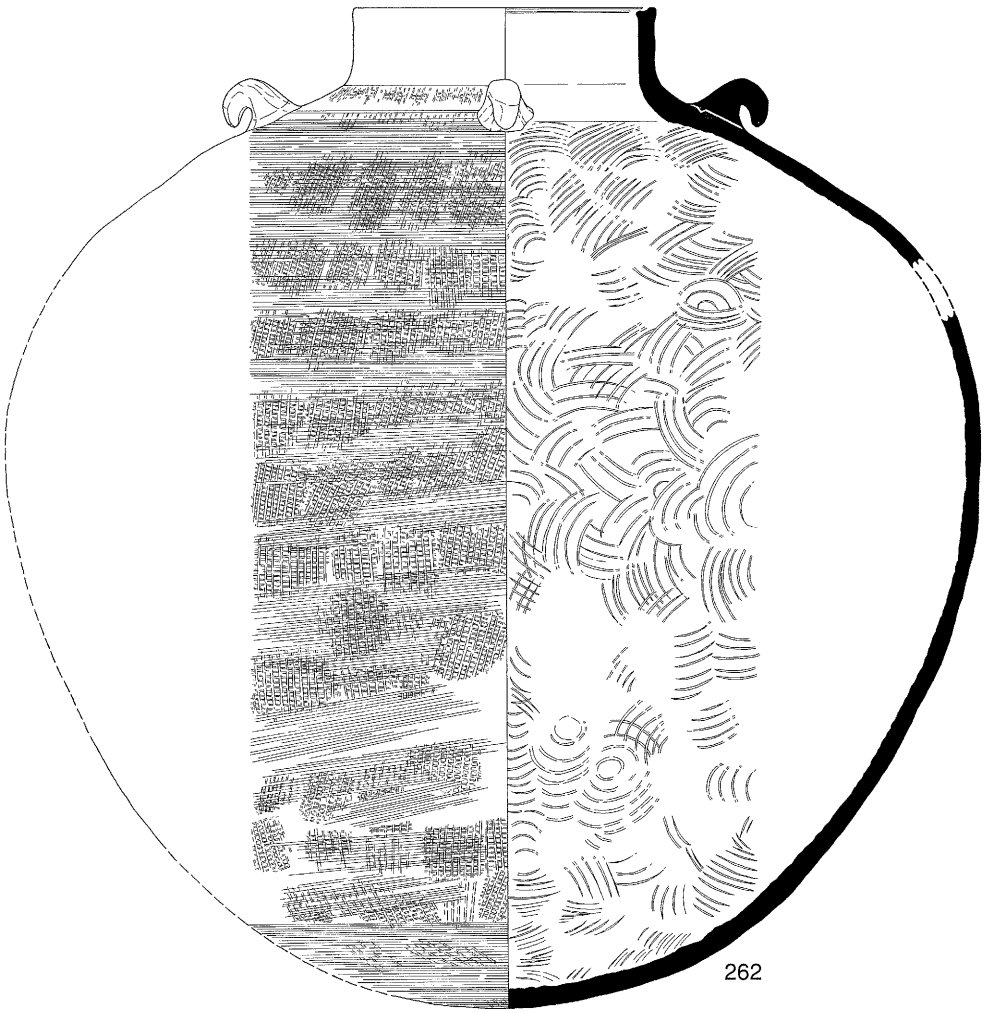
第22図　SR１③層出土遺物実測図（7）





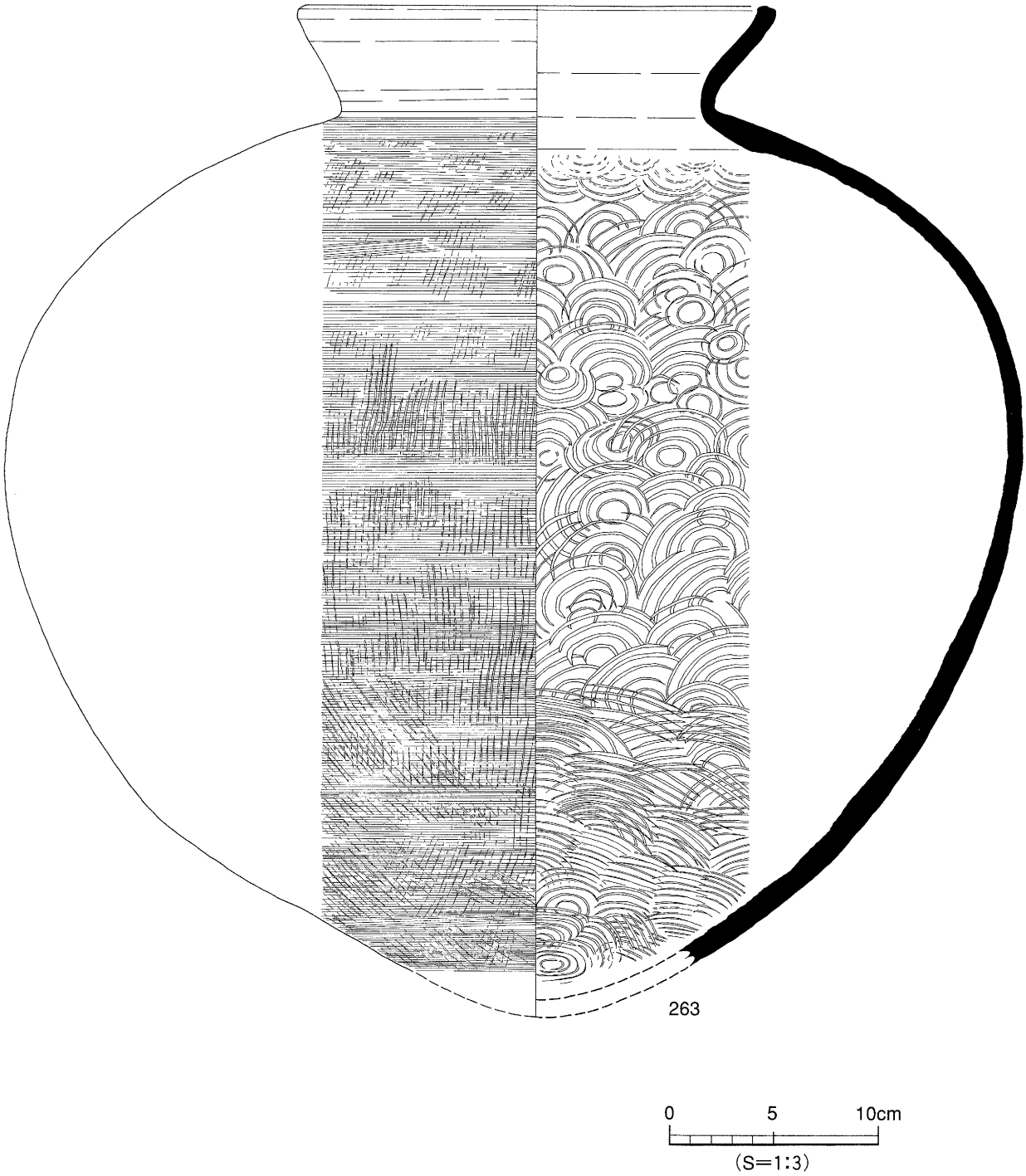




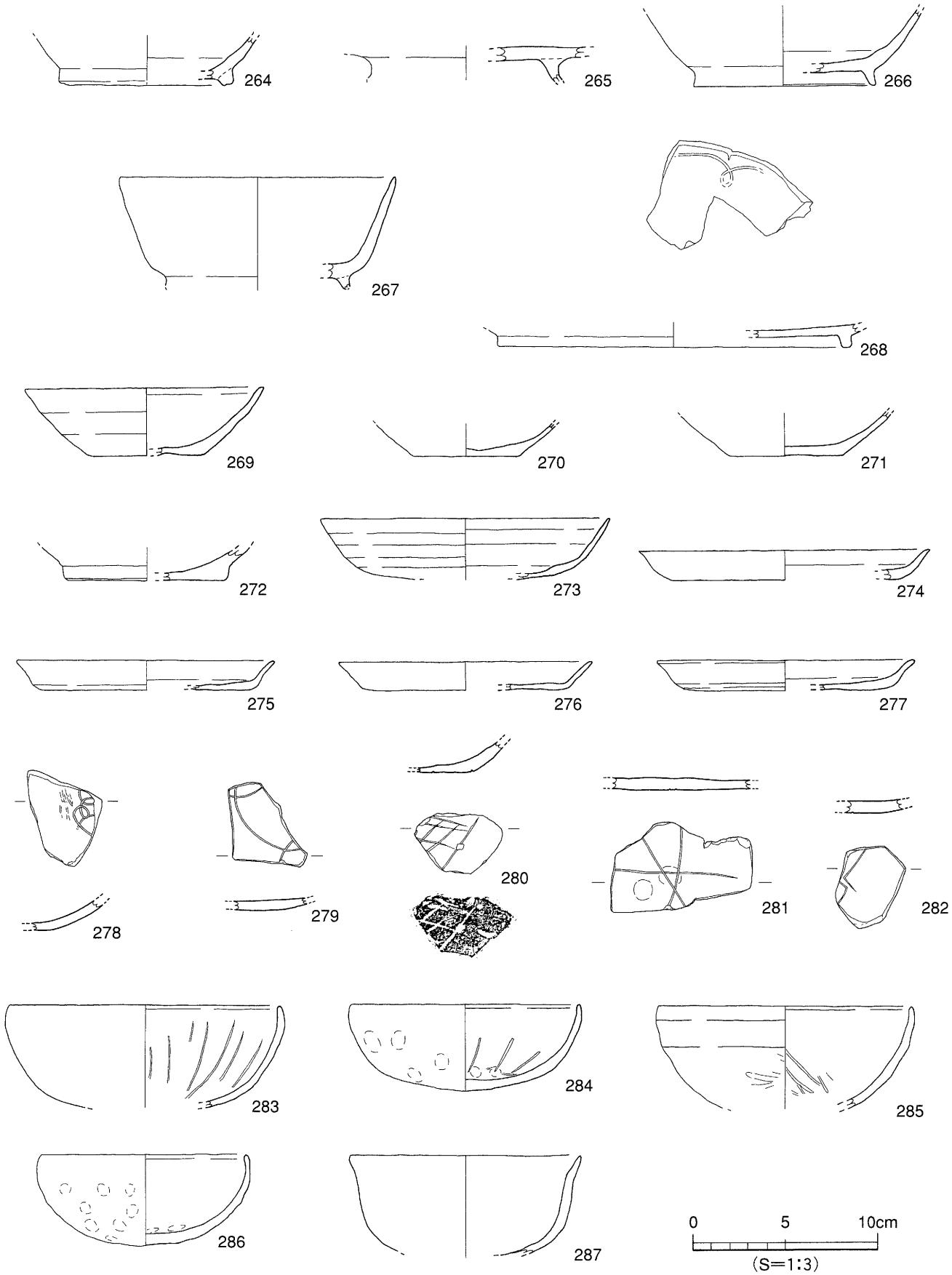


0　5　10cm
(S=1:3)

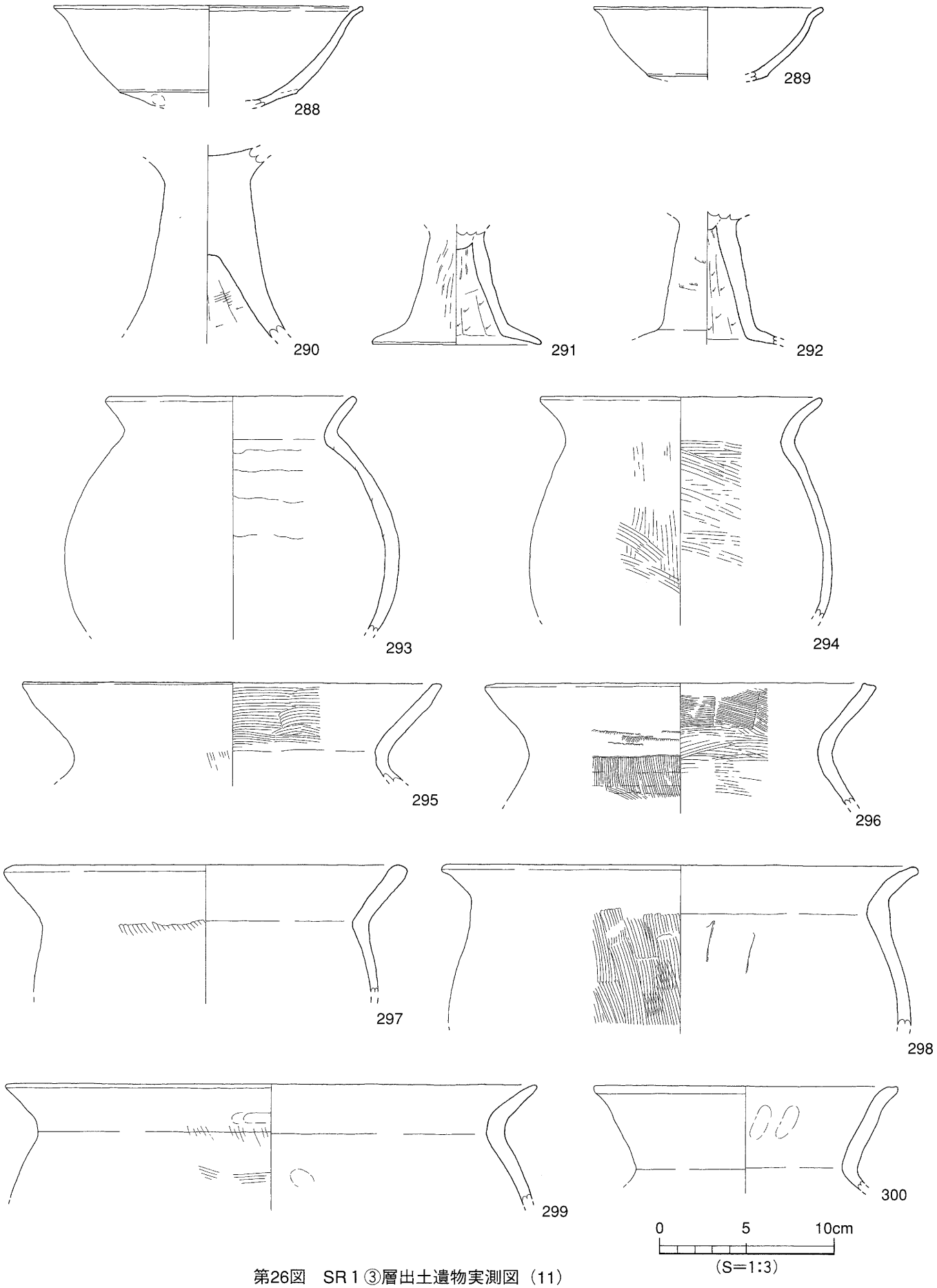
第23図　SR１③層出土遺物実測図（8）



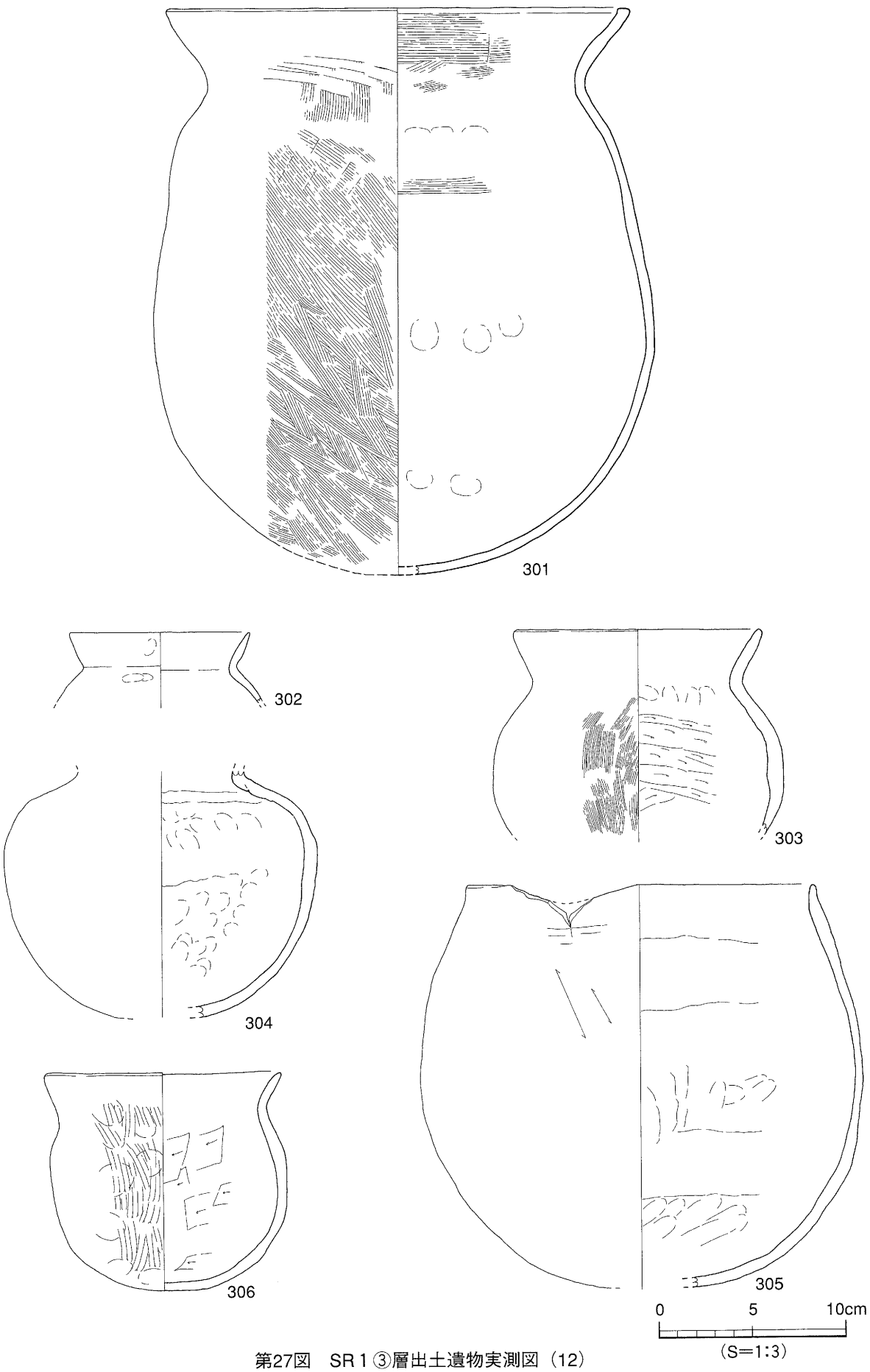
第24図　SR１③層出土遺物実測図（9）



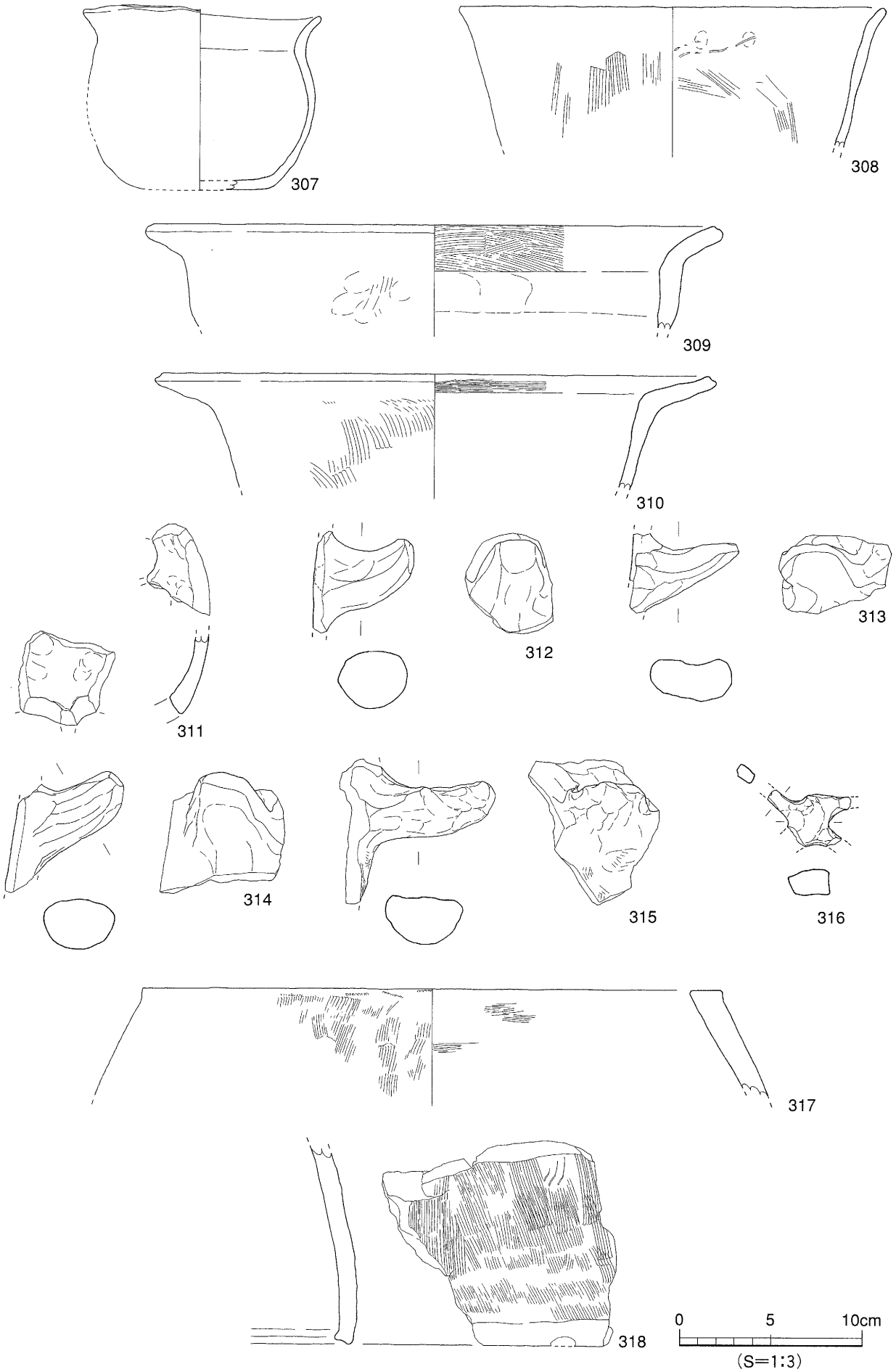
第25図　SR１③層出土遺物実測図（10）



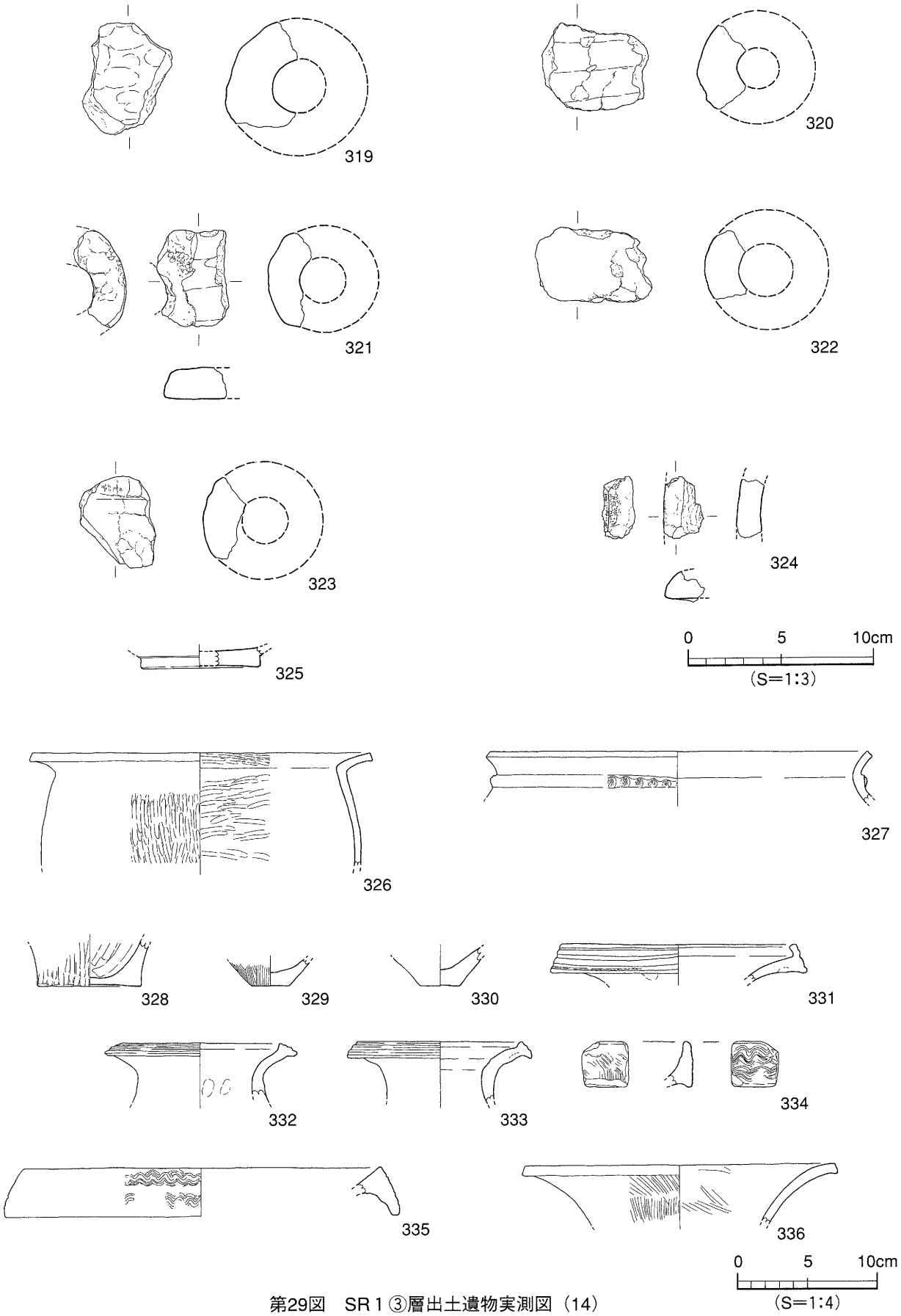
第26図　SR１③層出土遺物実測図（11）



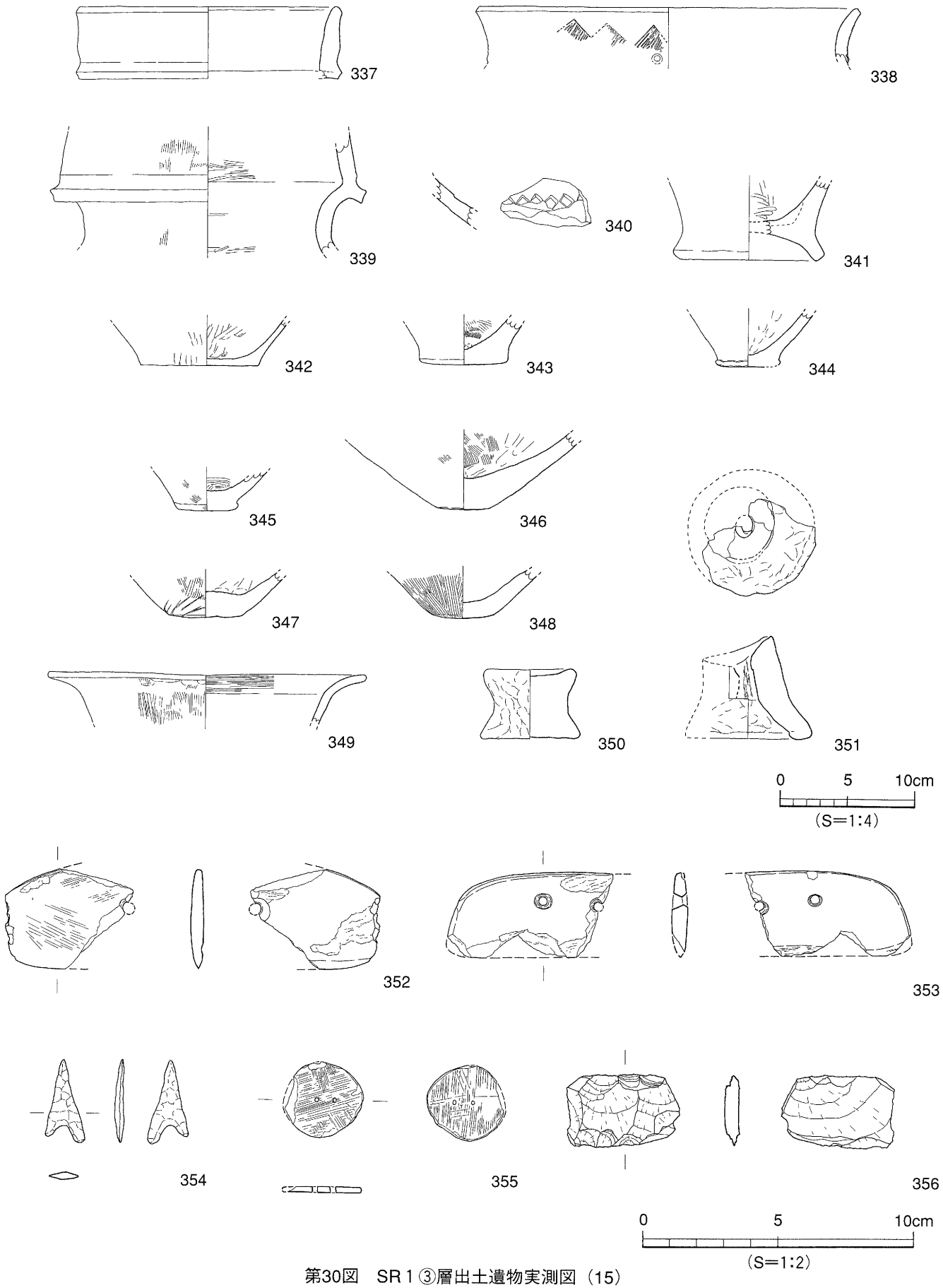
第27図　SR１③層出土遺物実測図（12）



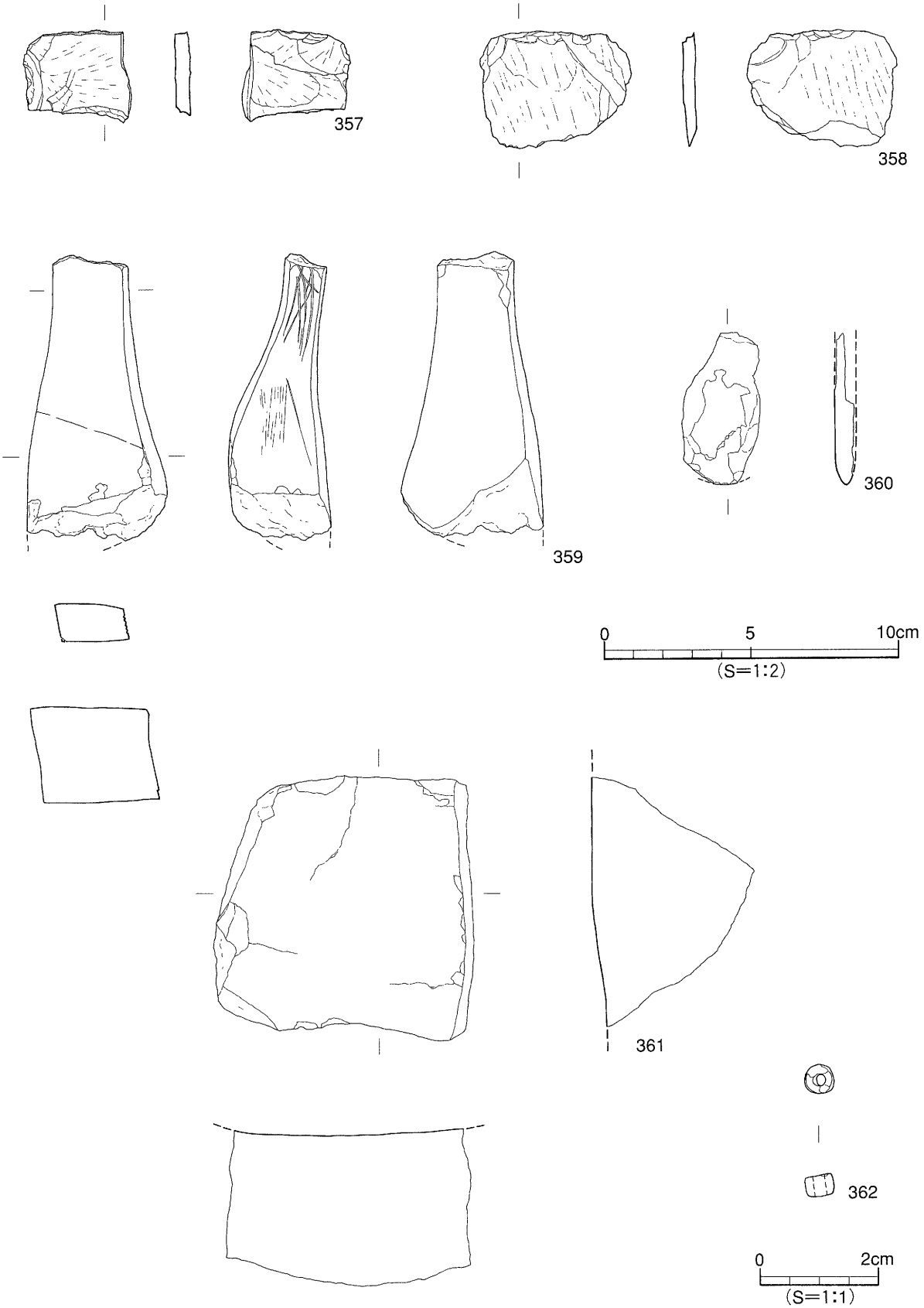
第28図　SR１③層出土遺物実測図（13）



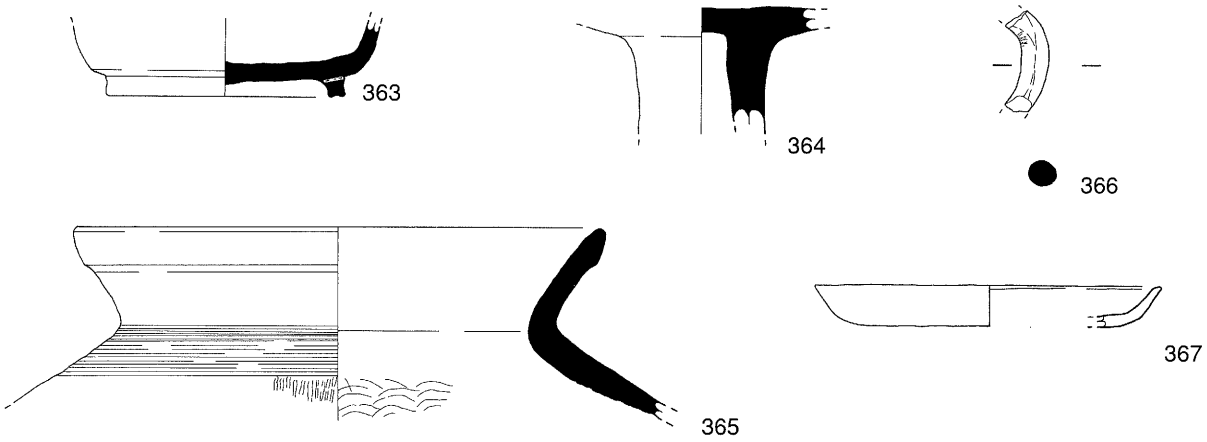
第29図　SR１③層出土遺物実測図（14）



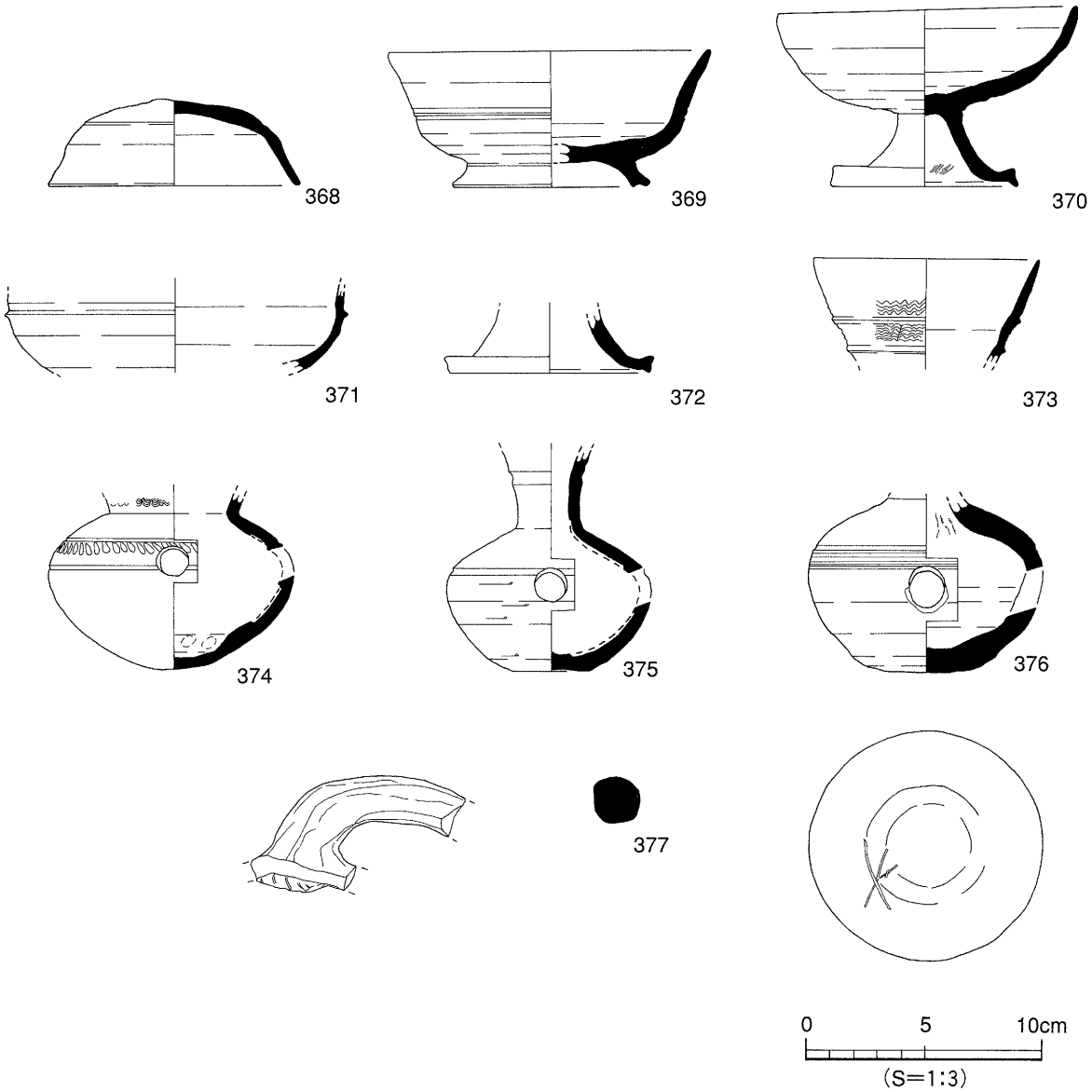
第30図　SR１③層出土遺物実測図（15）



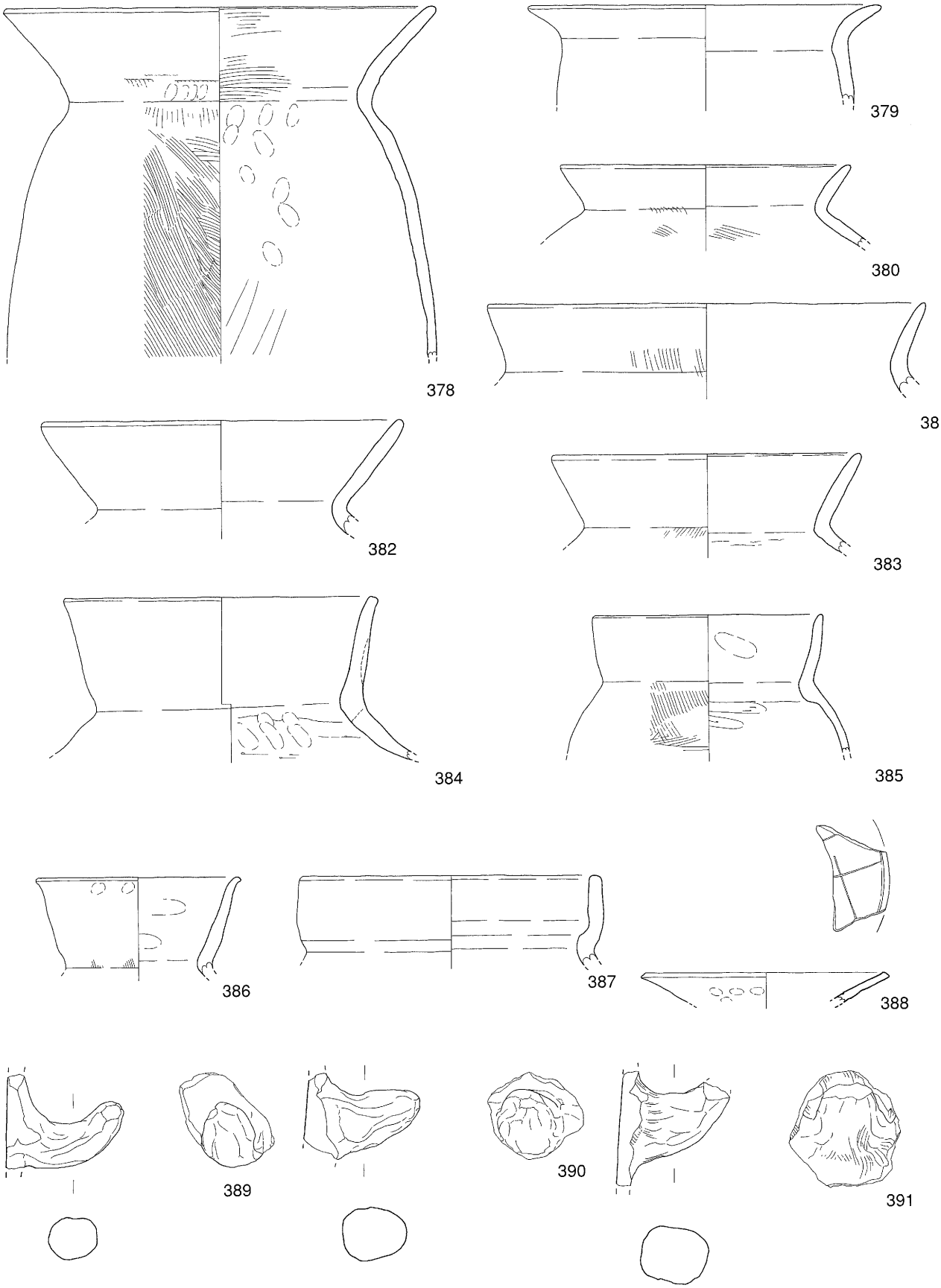
第31図　SR１③層出土遺物実測図（16）



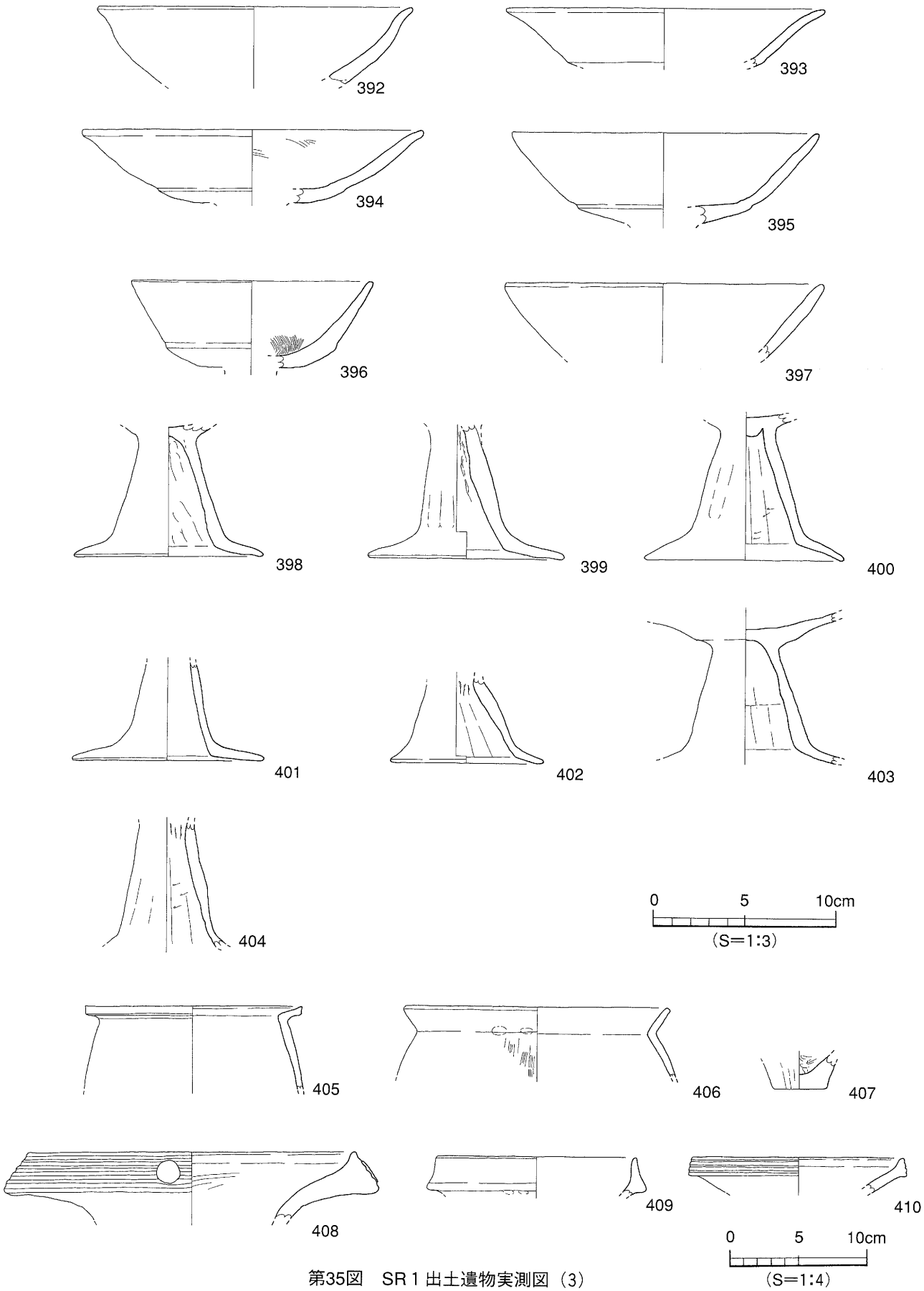
第32図　SR１　②～③層出土遺物実測図



第33図　SR１出土遺物実測図（1）



第34図　SR１出土遺物実測図（2）



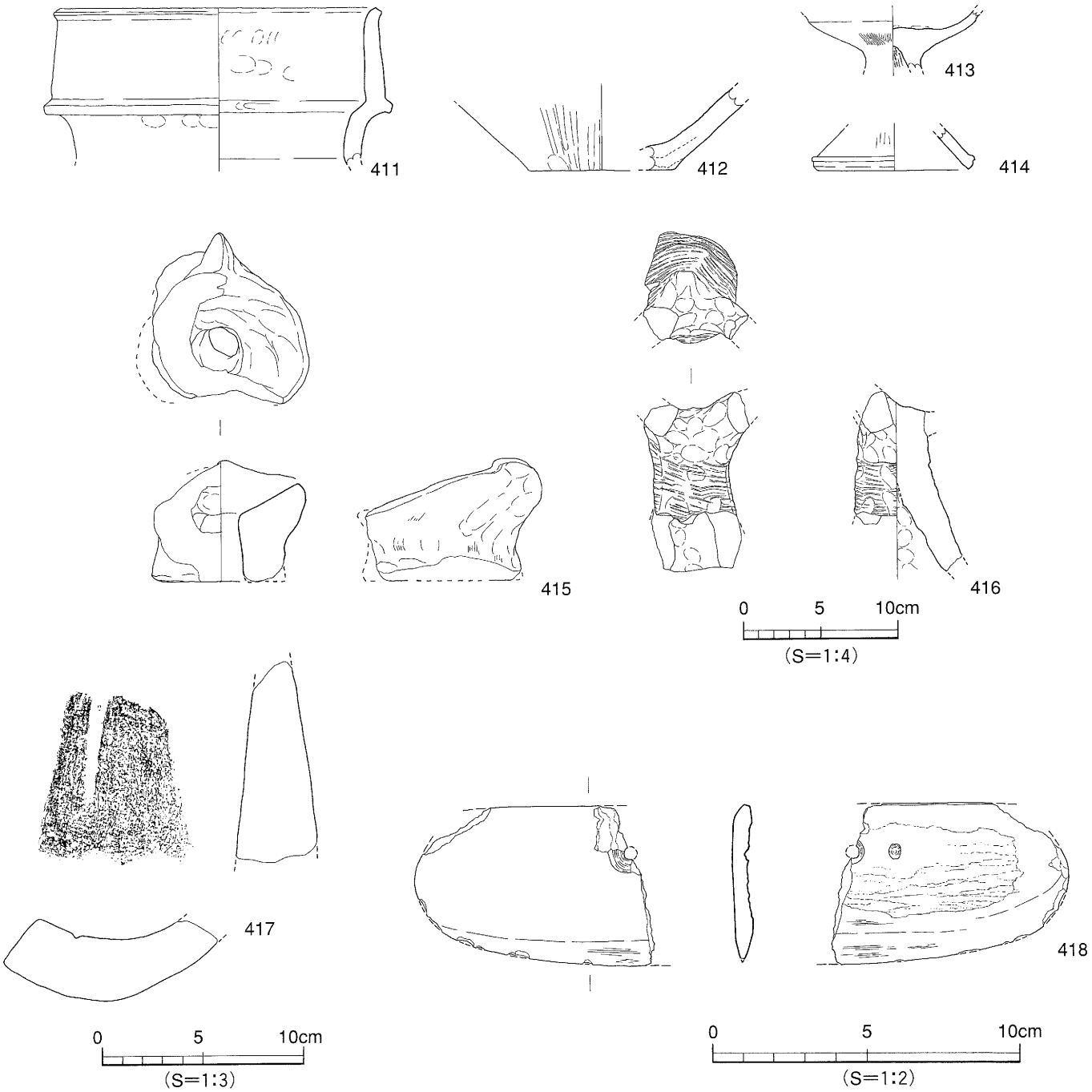
第35図　SR１出土遺物実測図（3）

2）掘立柱建物址（掘立）

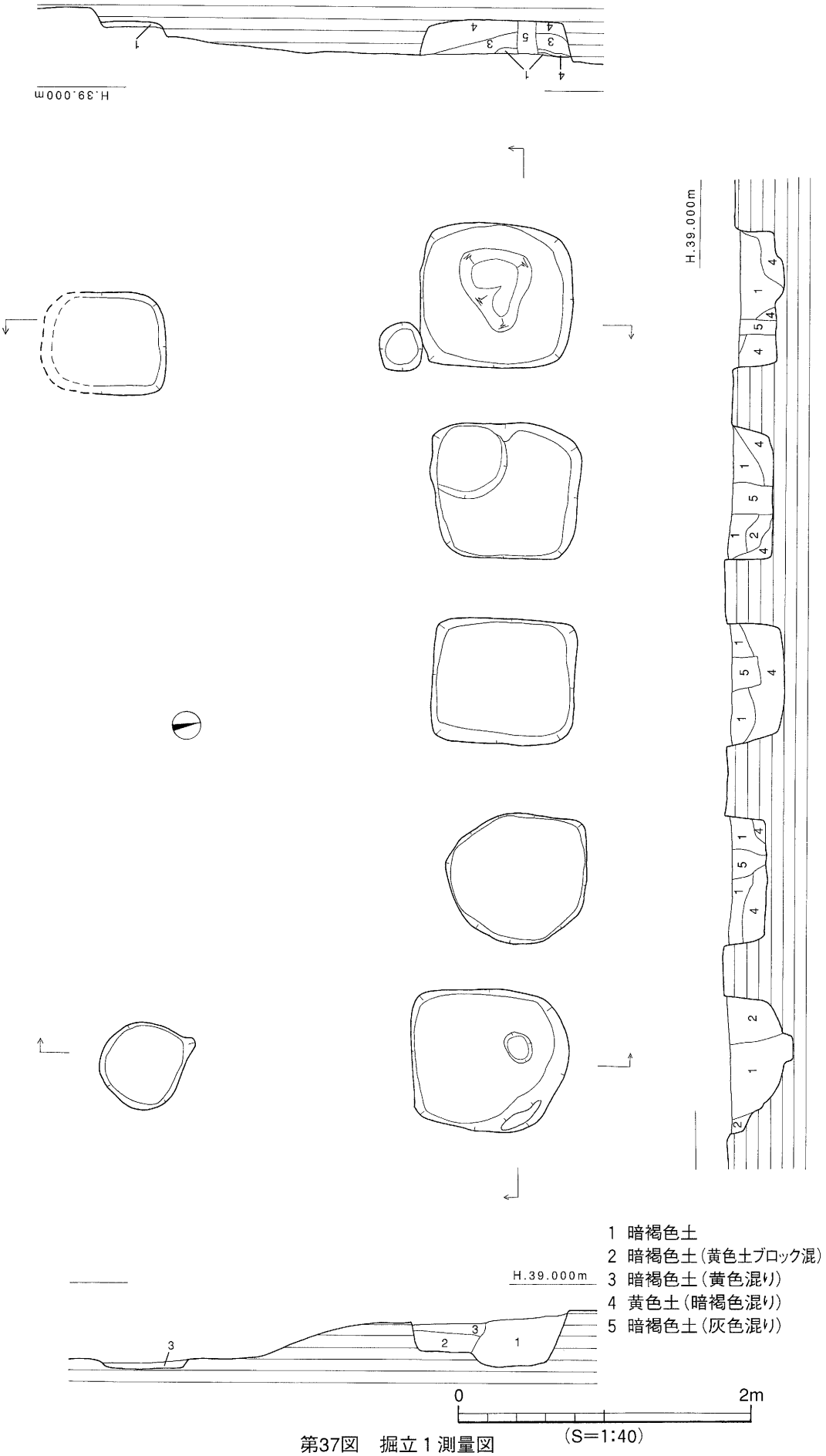
掘立1（第37図）

調査区中央のＥ6～Ｆ8区に位置する。規模は東西4間×南北1間分を検出した。南側は近世の削平により消失したと考えられる。柱穴の平面形態は隅丸方形で規模は長さ0.6～1.05ｍ、幅0.6～0.9ｍ、深さ15～34㎝を測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物には弥生土器と須恵器がある。

時期：出土遺物と埋土より古代以後とする。



第36図　SR１出土遺物実測図（4）


H.39.000m
1 暗褐色土
2 暗褐色土(黄色土ブロック混)
3 暗褐色土(黄色混り)
4 黄色土(暗褐色混り)
5 暗褐色土(灰色混り)
0
2m
(S=1:40)

第37図　掘立1測量図

（2） 弥生時代

竪穴式住居址4棟、土坑5基、溝1条を検出した。

1）竪穴式住居址（ＳＢ）

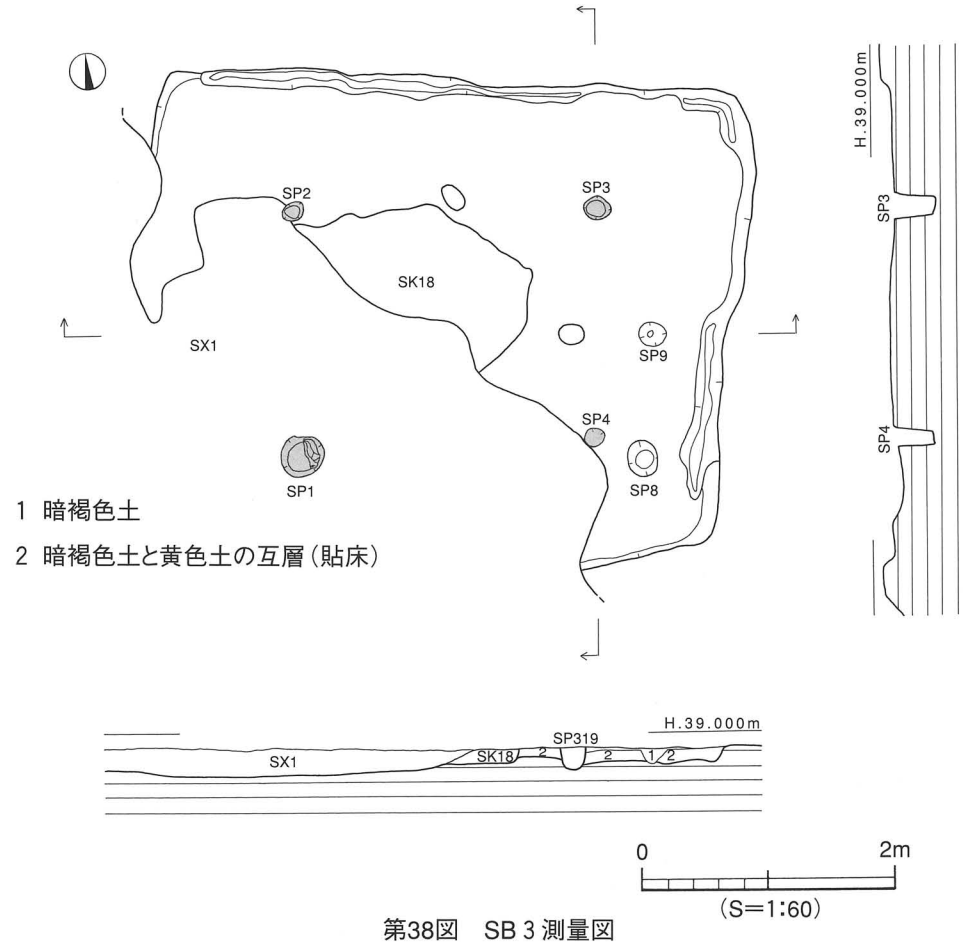
ＳＢ3（第38図、図版3）

調査区北部Ｃ9・10区に位置し、南半部をＳＸ1に中央部をＳＫ18に切られる。平面形態は３ヶ所のコーナー部を検出しており長方形と考えられる。規模は検出長東西4.7ｍ、南北4.0ｍ、壁高8㎝を測る。内部施設は主柱穴と周壁溝を検出した。主柱穴は4基を検出した。平面形態は円形を呈し、規模は径15～35㎝、深さ14～32㎝を測る。柱穴埋土は黒褐色土である。周壁溝は北側～東側で検出した。規模は幅9～31㎝、深さ4㎝を測る。断面形態は「Ｕ」字状である。埋土は暗褐色土である。出土遺物には弥生土器と須恵器があるが、須恵器は流入品と考えられる。

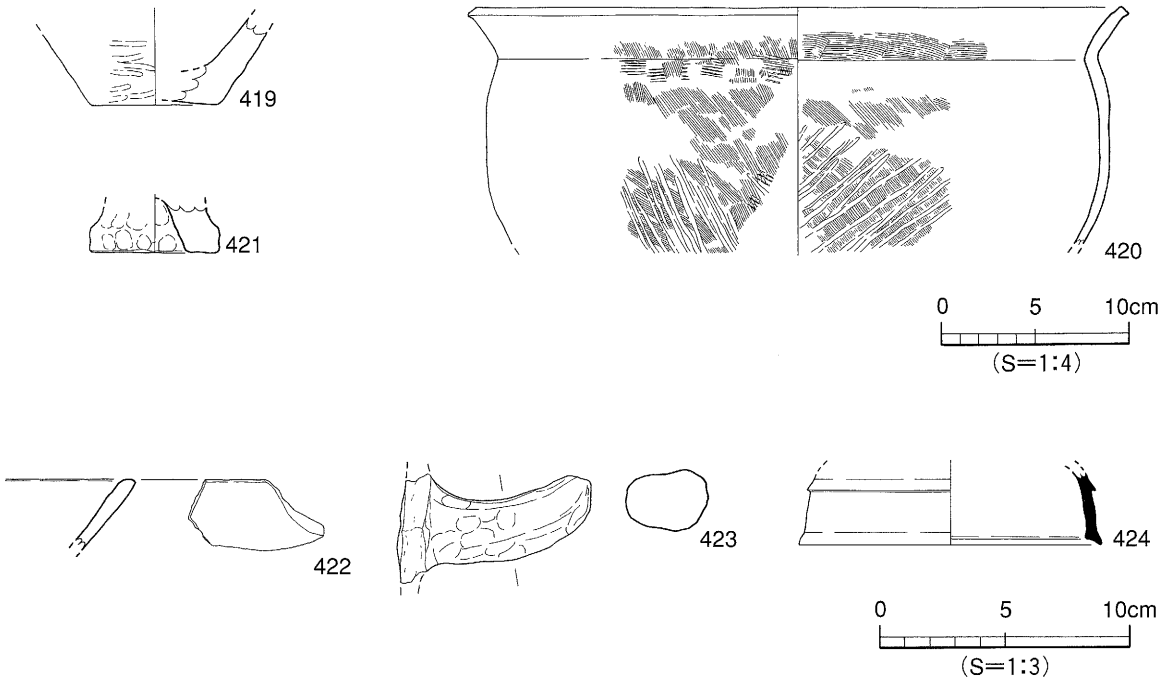
出土遺物（419～424）（第39図）

419～421は弥生土器である。419は壺形土器の底部片である。420は鉢形土器である。短く外反する口縁部の端部は「コ」の字状である。421は支脚形土器の底部片である。422･423は土師器である。422は甕形土器の口縁部片である。423は甑形土器の把手部である。424は須恵器の坏蓋の小片である。

時期：弥生時代後期末のＳＫ18に切られているため弥生時代後期後葉に時期比定する。



第38図　SB３測量図



第39図　SB３出土遺物実測図

ＳＢ7（第40図、図版3·4）

調査区北東部Ｂ3～Ｃ4区に位置する。平面形態はやや不整形ながら長方形を呈する。規模は東西2.45ｍ、南北3.00ｍ、壁高10㎝を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設は主柱穴と貼り床を検出した。主柱穴は4基を検出した。平面形態は円形を呈し規模は径18～36㎝、深さ4～17㎝を測る。貼床は床面全域で厚さ10㎝を検出した。土色は橙色粘土である。埋土は暗褐色土である。出土遺物は弥生土器がある。

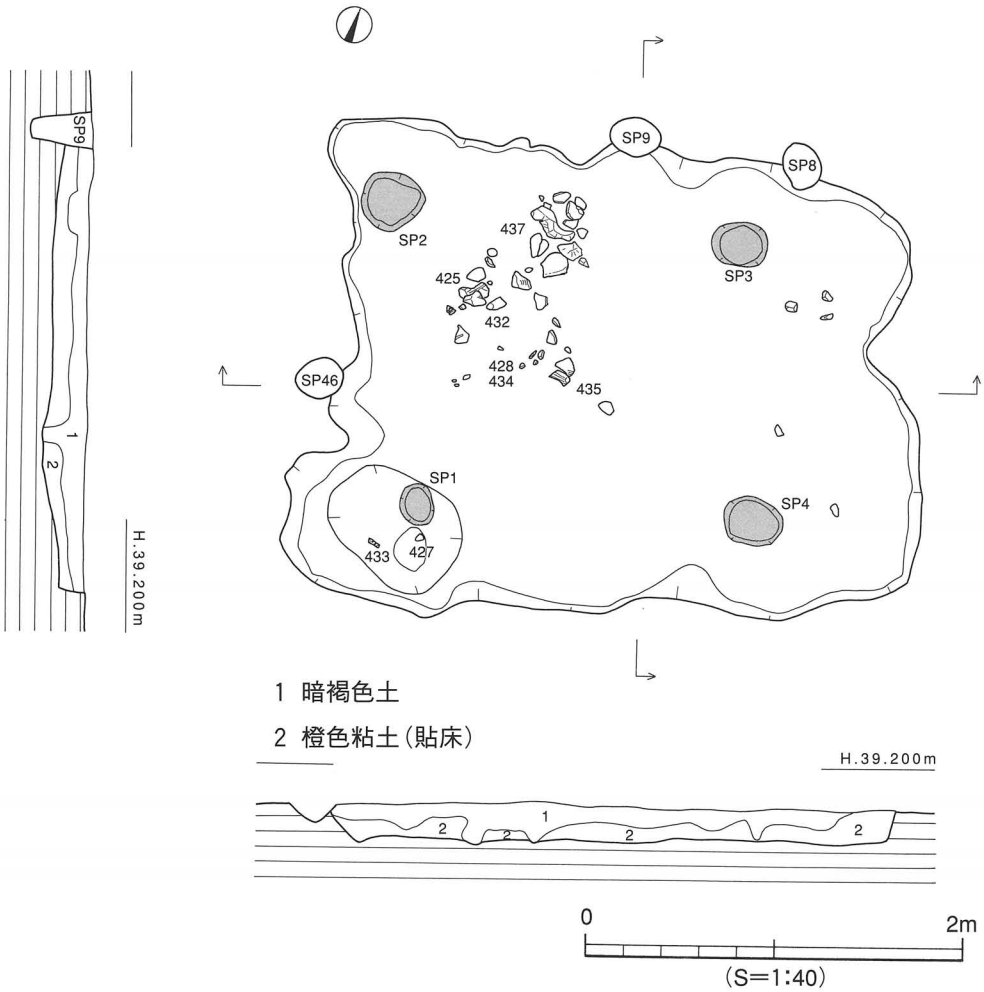
出土遺物（425～437）（第41図）

弥生土器（425～437）　425～430は甕形土器である。425は短く折り曲げ、端部は上方に拡張され凹線文を施す。426は口縁部の小片で外面に凹線文を施す。427は頸部から胴部までの残存である。428～430は底部片である。431～436は壺形土器である。431·432は口縁端部に凹線文を施す。433～435は頸部片である。433は布目圧痕のある貼付凸帯文を巡らす。434·435はハケ目工具による「ノ」の字状の刺突列点文を施す。436は平底である。437は鉢形土器の完形品である。平底の底部に胴部は中位が張り、口縁部は短く外反し端部は「コ」の字状である。

時期：出土した遺物の形態から弥生時代中期末～後期初頭に時期比定される。

ＳＢ8（第42図、図版5）

調査区東部Ｄ3～Ｅ6区に位置し、ＳＢ9・ＳＫ7・ＳＫ19・ＳＫ25・ＳＫ26・カクランに切られ、住居址の南半部を後世の掘削で消失している。平面形態は北半部の遺存状況から円形と考えられる。規模は検出長で東西9.2ｍ、南北3.6ｍ、深さ30㎝を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設は主柱穴と貼り床を検出した。主柱穴は5基を検出した。平面形態は円形を呈し、規模は径16～52㎝、深さ24～59㎝を測る。貼り床は厚さ12㎝を測る。出土遺物は弥生土器と炭化材、焼土、作業台と思われる石が出土した。



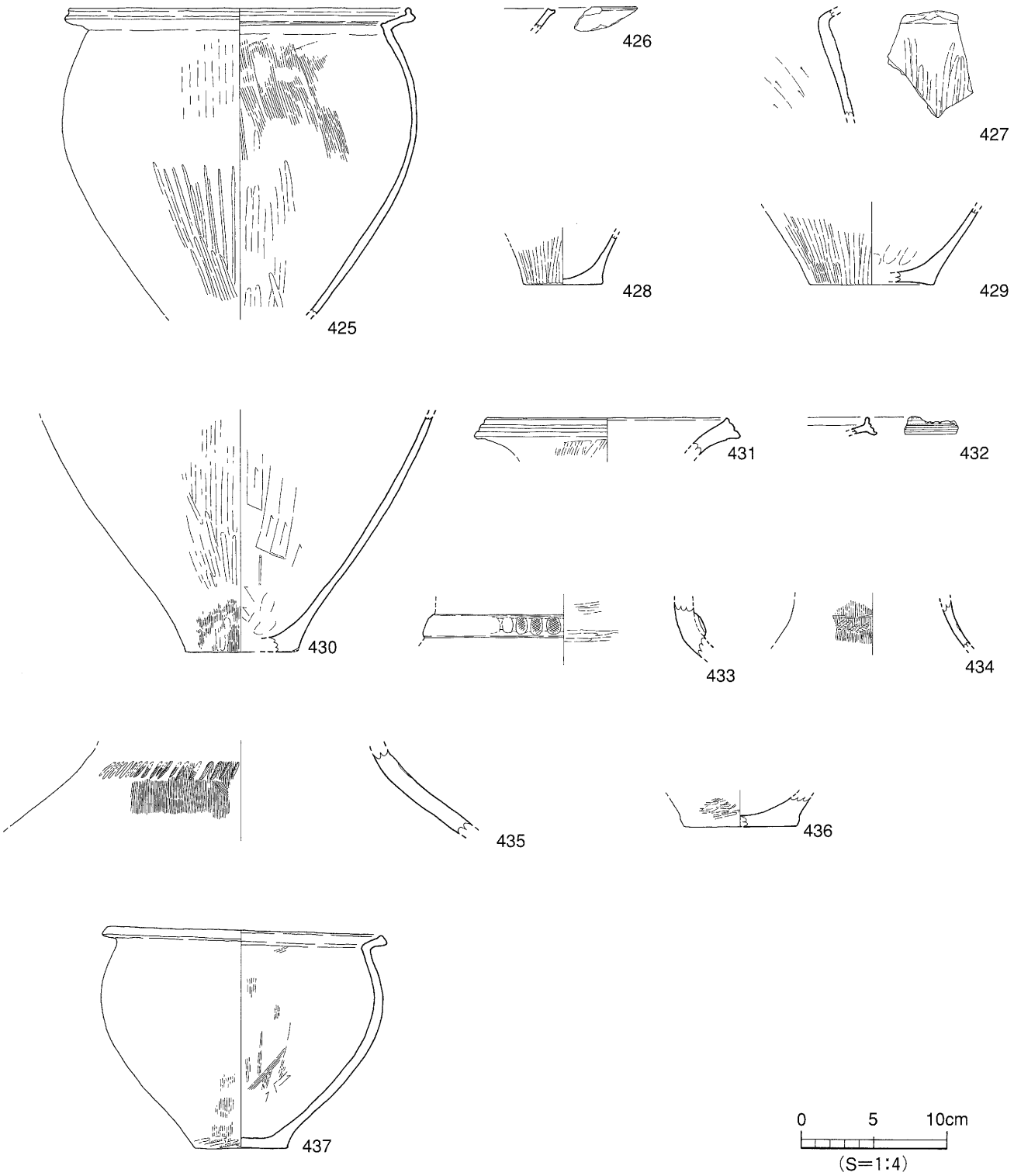
第40図　SB７測量図

出土遺物（438～477）（第43～45図）

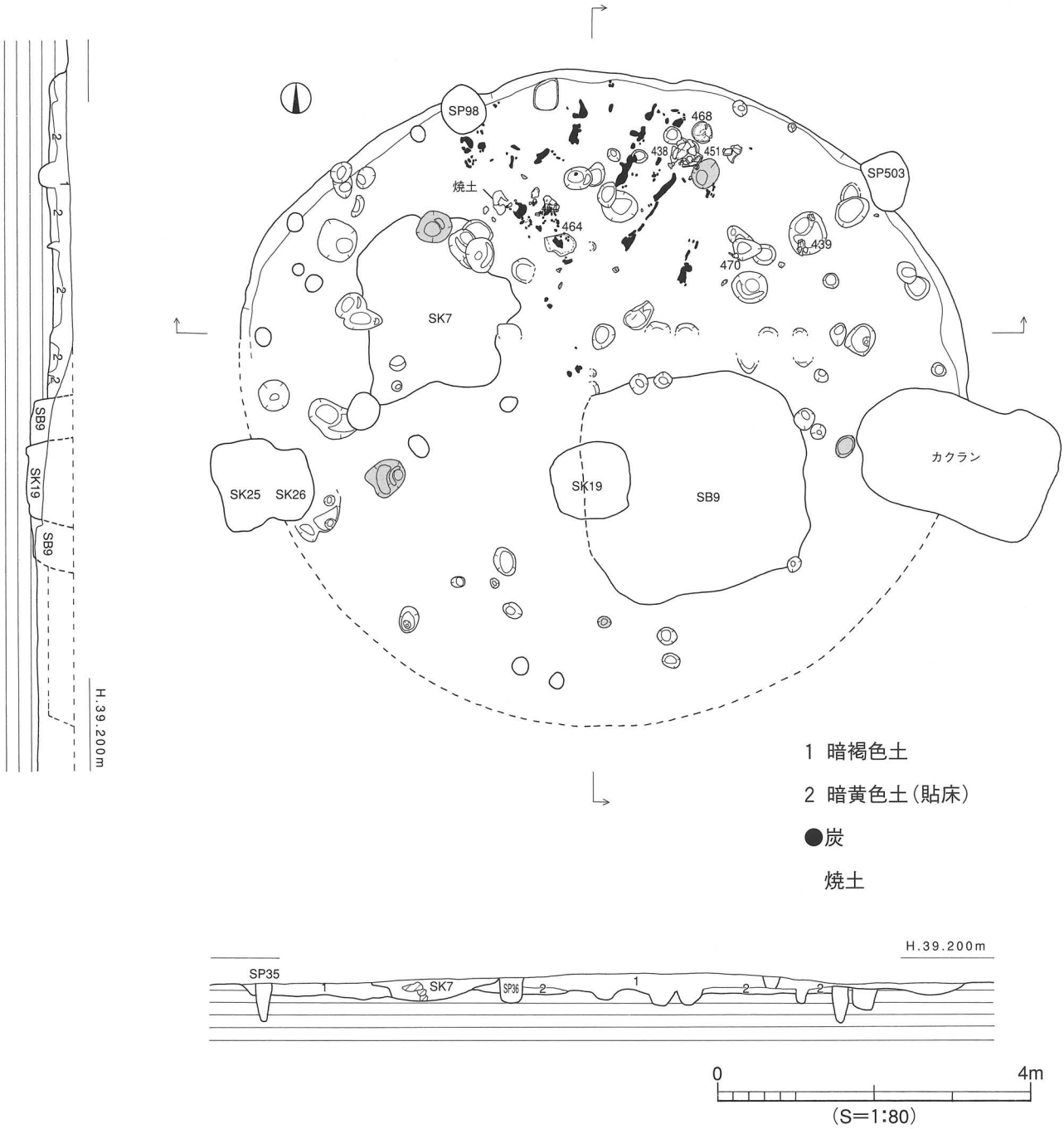
弥生土器（438～474）　438～457は甕形土器である。438･439はほぼ完形品である。438はわずかにくびれる平底、口縁部は折り曲げ端部は拡張され、2条の凹線文と胴部に「ノ」の字状の刺突文を施す。439はくびれの上げ底で胴部は長く、口縁部は折り曲げ端部に凹線文を1条施す。440～454は口縁部である。440～443･445～449は口縁端部に凹線文を施す。444は口縁端部を上方につまみ上げる。450は小片である。451は口縁端部に2条の凹線文と頸部に刻目凸帯文を施す。452は頸部に刻目凸帯文を施す。453･454は口縁端部に凹線文を施す。455～457は底部片である。458～466は壺形土器である。458～462は口縁部、端部は拡張され凹線文を施す。463は頸部から肩部までの残存である。肩部にハケ工具による「ノ」の字状の刺突列点文を施す。464は頸部から胴部までの残存である。465･466は平底の底部片である。467は鉢形土器の小型品である。短い口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。468～474は高坏形土器である。468･469は坏部である。468は口縁部外面に4条の凹線文と柱部上位に6条の沈線文を施す。469は坏部外面に5条の凹線文を施す。470は脚部である。上位に11条の沈線文、中位に矢羽根透かし、裾部に3条の凹線文を施す。471･472は柱部上位に沈線文を施す。473･474は裾部である。

石製品（475～477）　475は石鏃の未成品である。476は石材で材質は結晶片岩である。477は台石である。表面が焼けている。作業台として使用したものか？。

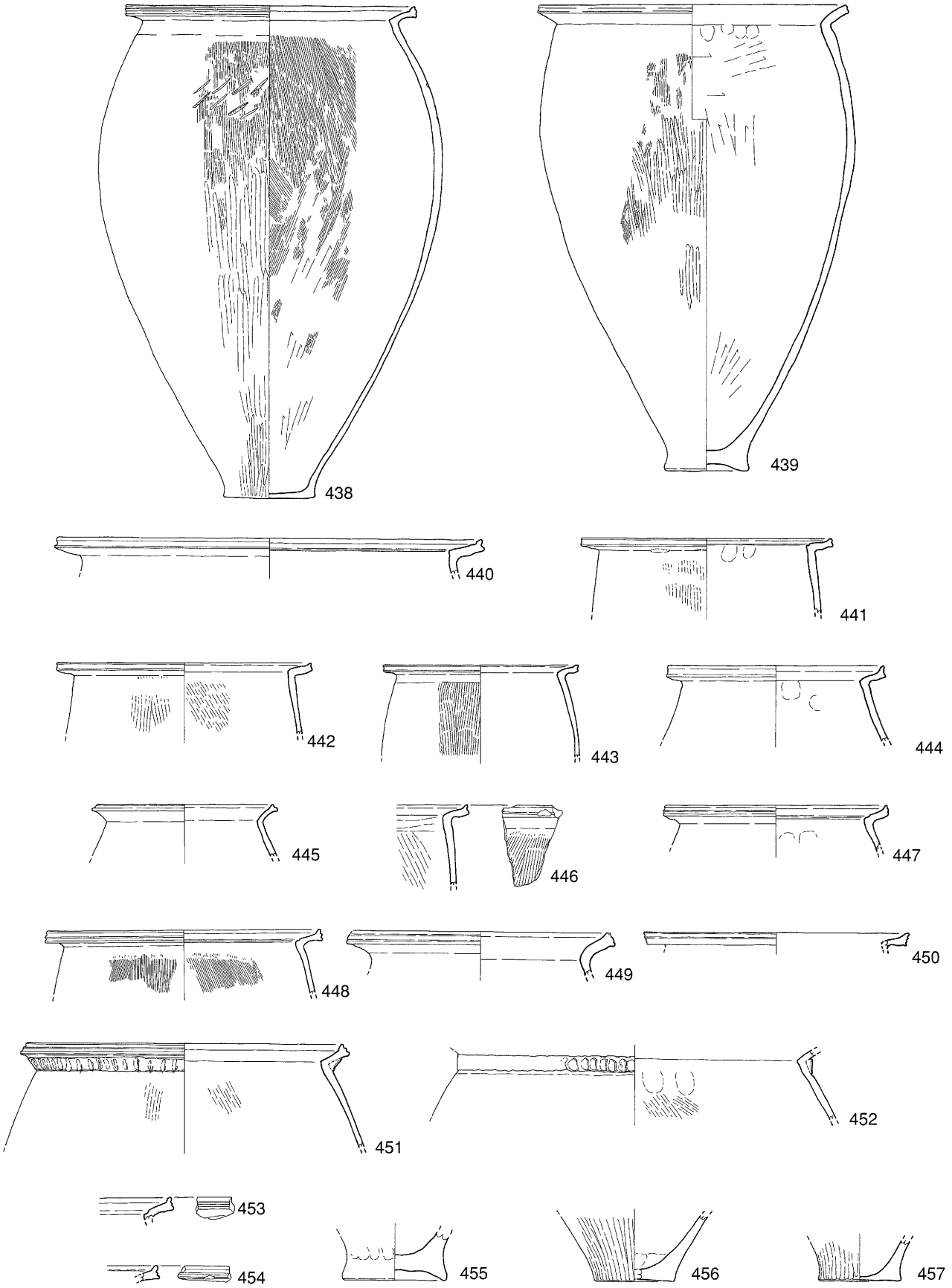
時期：出土した遺物の形態から弥生時代中期末～後期初頭に時期比定される。



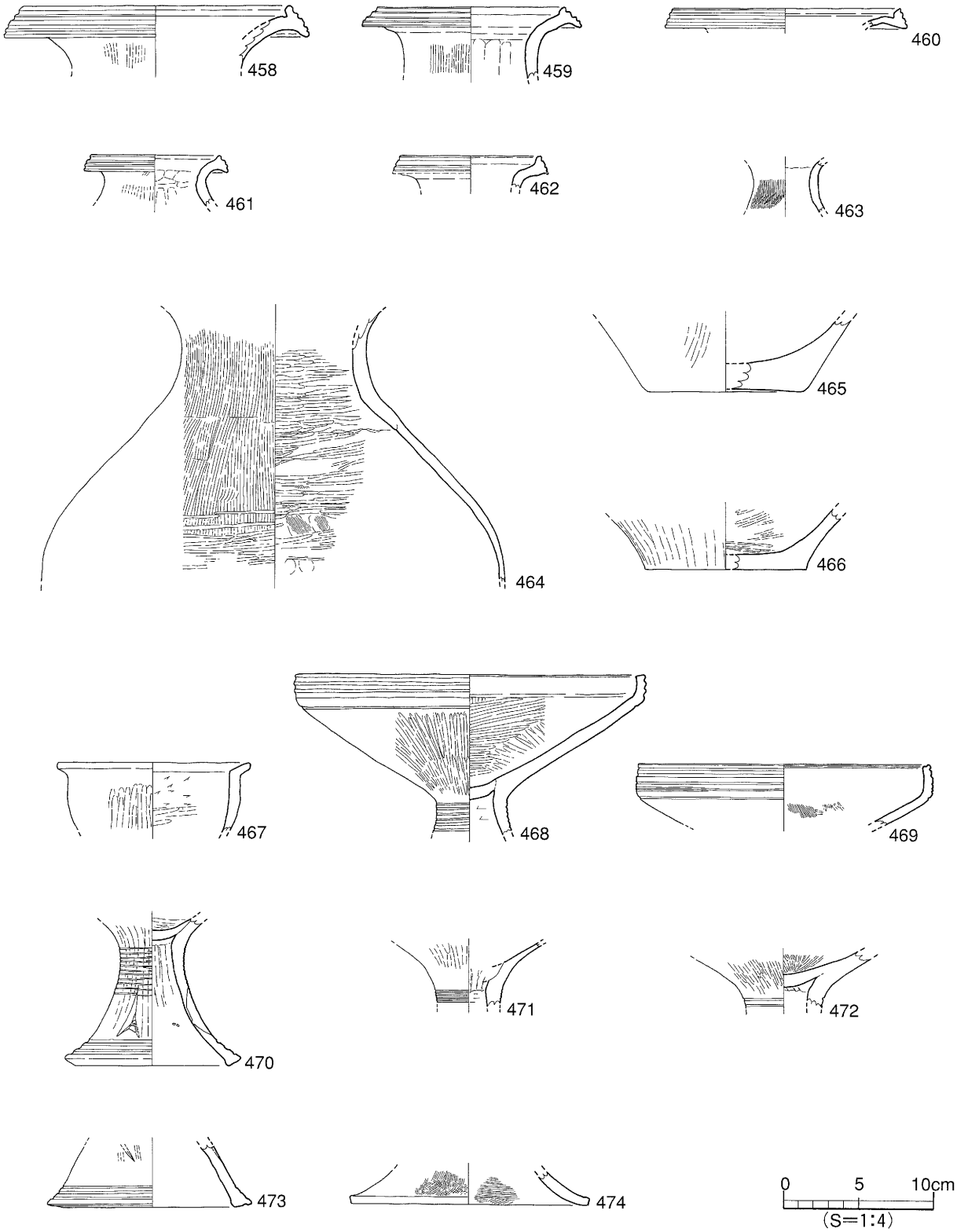
第41図　SB７出土遺物実測図


SP98
468
438
451
SP503
焼土
464
439
470
SK7
SB9
SK19
SB9
SK25
SK26
SK19
SB9
カクラン
H.39.200m
1 暗褐色土
2 暗黄色土(貼床)
●炭
焼土
H.39.200m
SP35
SK7
SP36
0
4m
(S=1:80)

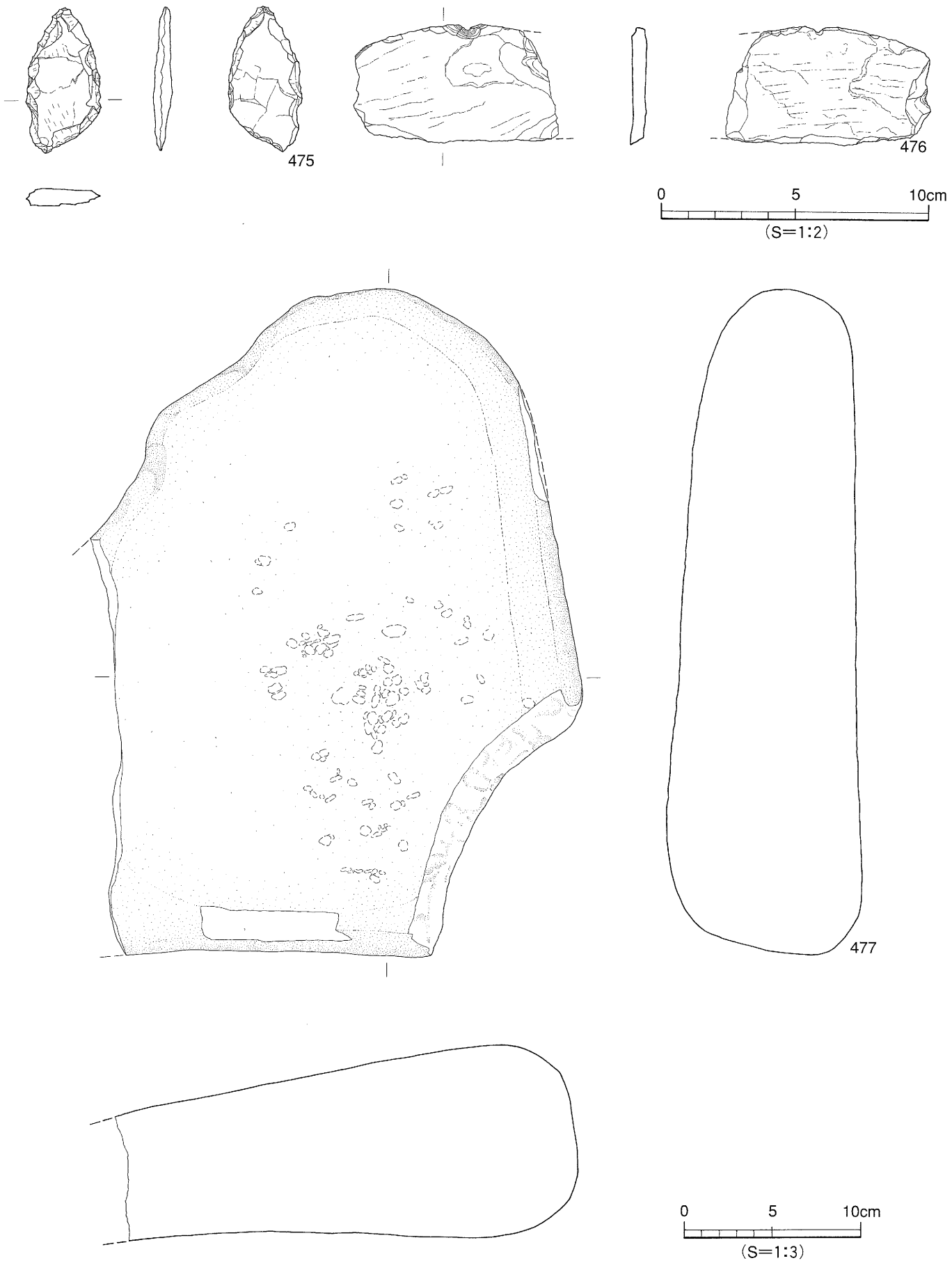
第42図　SB 8 測量図



第43図　SB 8 出土遺物実測図（1）



第44図　SB 8 出土遺物実測図（2）



第45図　SB 8 出土遺物実測図（3）

ＳＢ9（第46図、図版6）

調査区東部のＥ4区に位置し、ＳＢ8を切りＳＫ19に切られ、南西部は後世の掘削により消失している。平面形態は方形である。規模は東西2.9ｍ、南北2.8ｍ、壁高12㎝を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設は主柱穴と貼り床を検出している。主柱穴は4基を検出した。平面形態は円形を呈し規模は径30～40㎝、深さ13～28㎝を測る。貼り床は住居北側で厚さ10㎝を検出した。出土遺物には弥生土器と土師器がある。

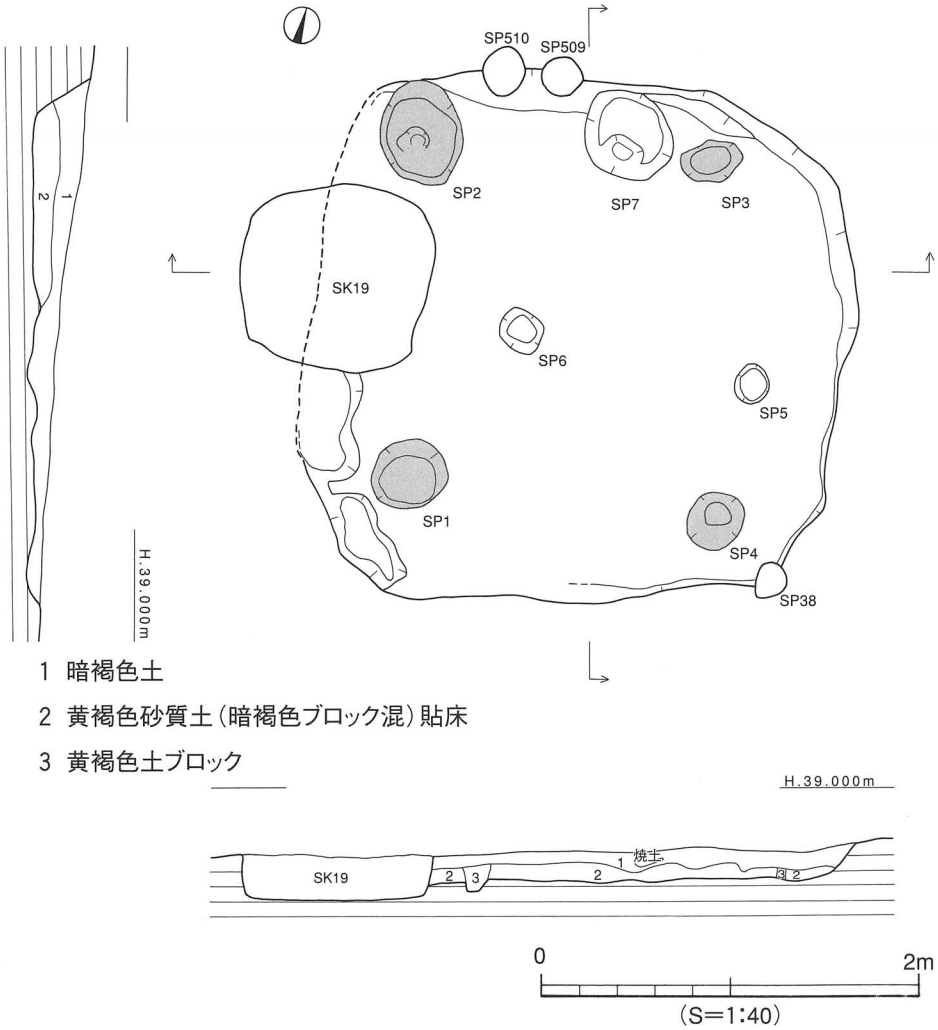
出土遺物（478～492）（第47図）

弥生土器（478～488）　478～483は甕形土器の小片である。478～481は口縁部の小片。端部に凹線文を施す。482･483は底部の小片である。484～487は壺形土器である。484･485は口縁部の端部に凹線文を施す。486･487は底部の小片である。488は高坏形土器の裾部に沈線文と矢羽根透かしを施す。

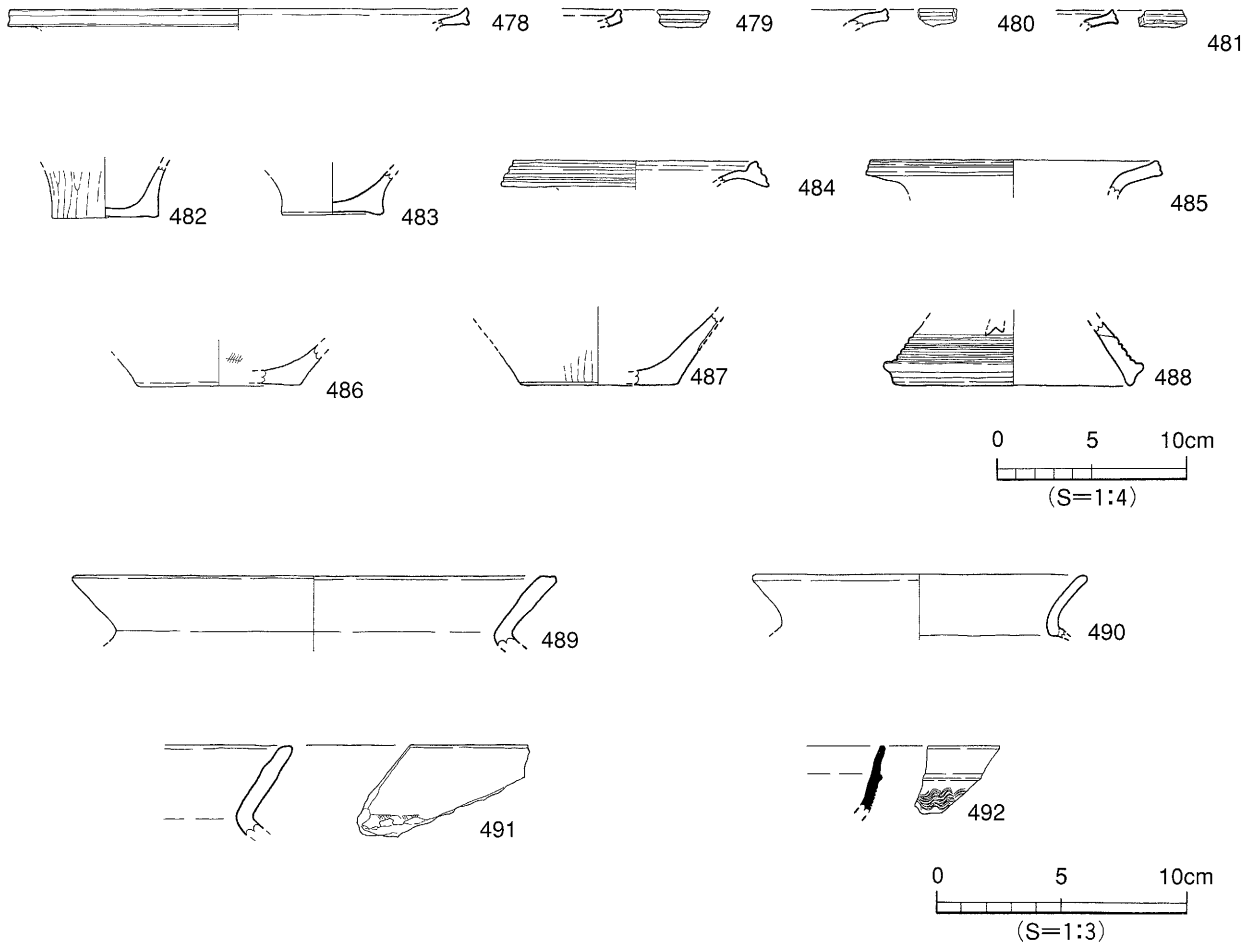
土師器（489～491）　甕形土器の口縁部である。

須恵器（492）　高坏形土器の口縁部の小片である。口縁下位に段をもち沈線文を施す。

時期：出土した遺物の形態と弥生時代中期末～後期初頭のＳＢ8を切っていることから弥生時代後期後葉に時期比定する。



第46図　SB９測量図



第47図　SB９出土遺物実測図

２）土坑（ＳＫ）

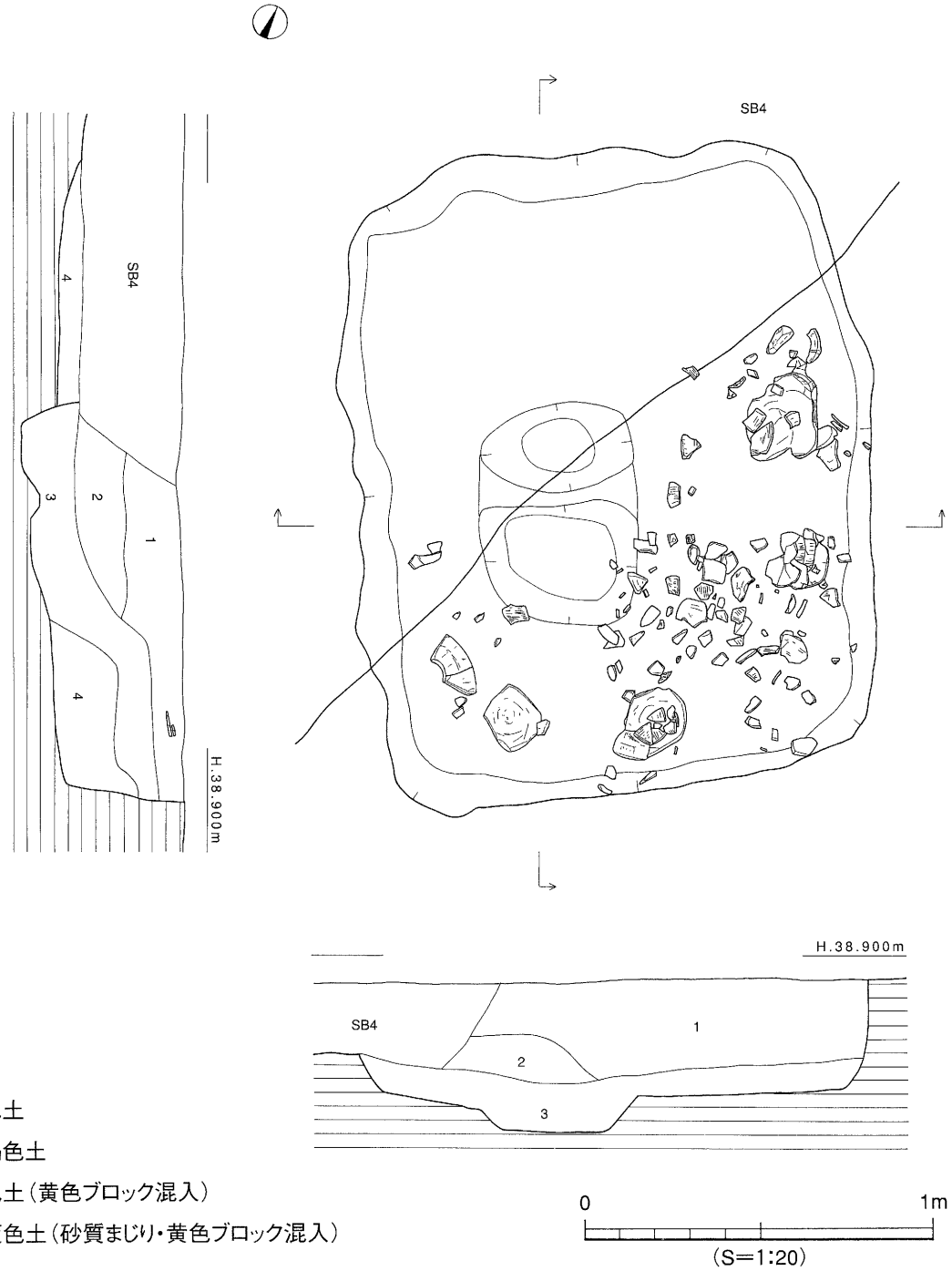
ＳＫ15（第48図、図版6）

調査区北東部のＤ5区に位置し、ＳＢ4に切られる。平面形態は方形である。規模は長軸1.87ｍ、短軸1.46ｍ、深さ43㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は褐色土である。遺物は弥生土器が多量に出土した。

出土遺物（493～517）（第49･50図）

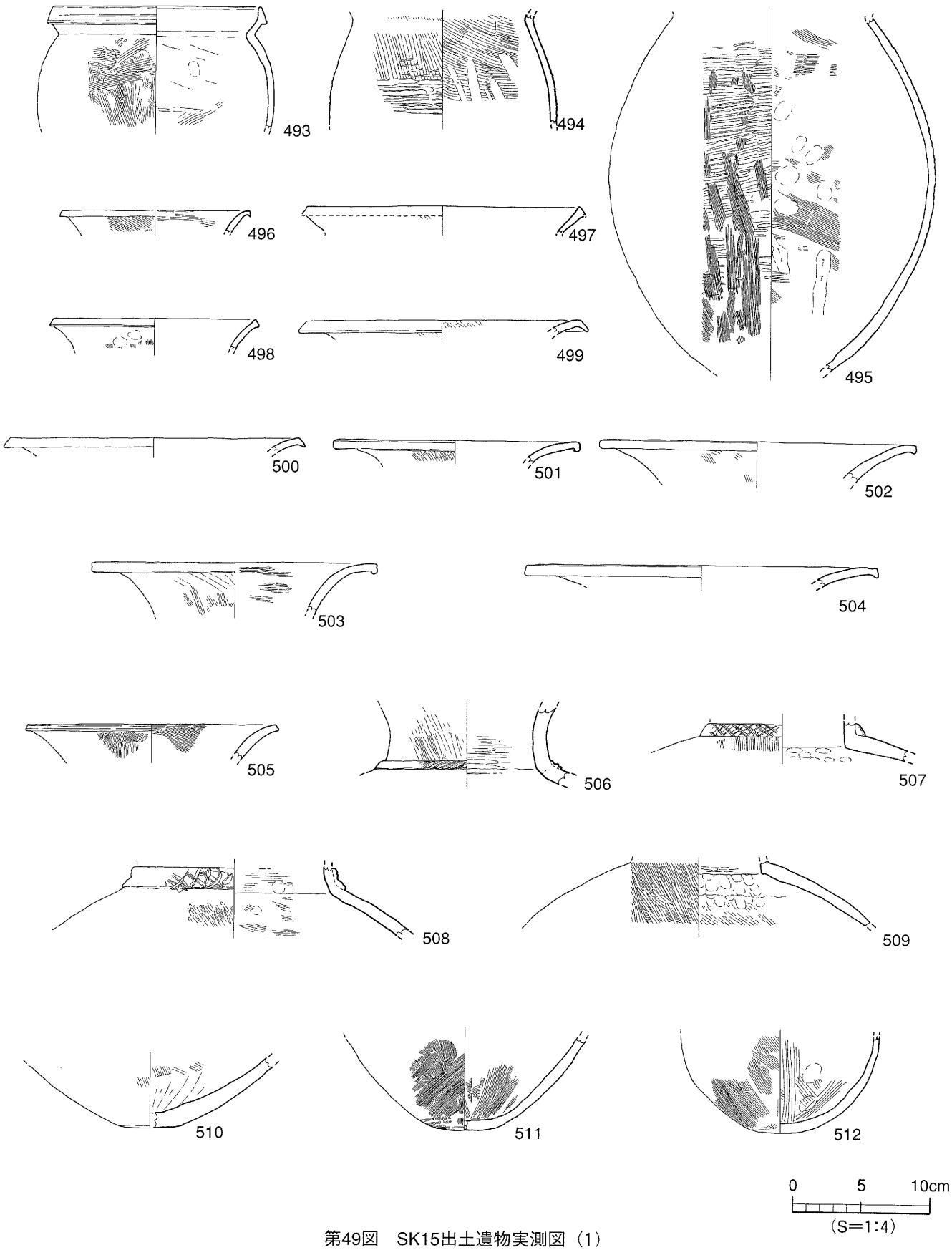
493～498は甕形土器である。493は口縁部は短く内湾し直立気味に立ち上がる。494･495は肩の張らない胴部片である。496～498は外反する口縁部である。499～514は壺形土器である。499～505は口縁部である。499～501は外反する口縁部の端部は下方に垂れる。502～505は外反する口縁部である。506は頸部から口縁部の残存である。頸部に刻目凸帯文を1条施す。507･508は頸部に斜格子の刻目凸帯文を施す。510・511は丸味のある底部である。512は丸底である。513･514は丸味のある底部にヘラ描きの木葉文を施す。515･516は高坏形土器である。515は坏部の端部に3条の凹線文を施す。516は柱部に2条の沈線文と透かしを施す。517は土師器の壺形土器の口縁部片である。

時期：出土した遺物の形態から弥生時代後期末に時期比定する。

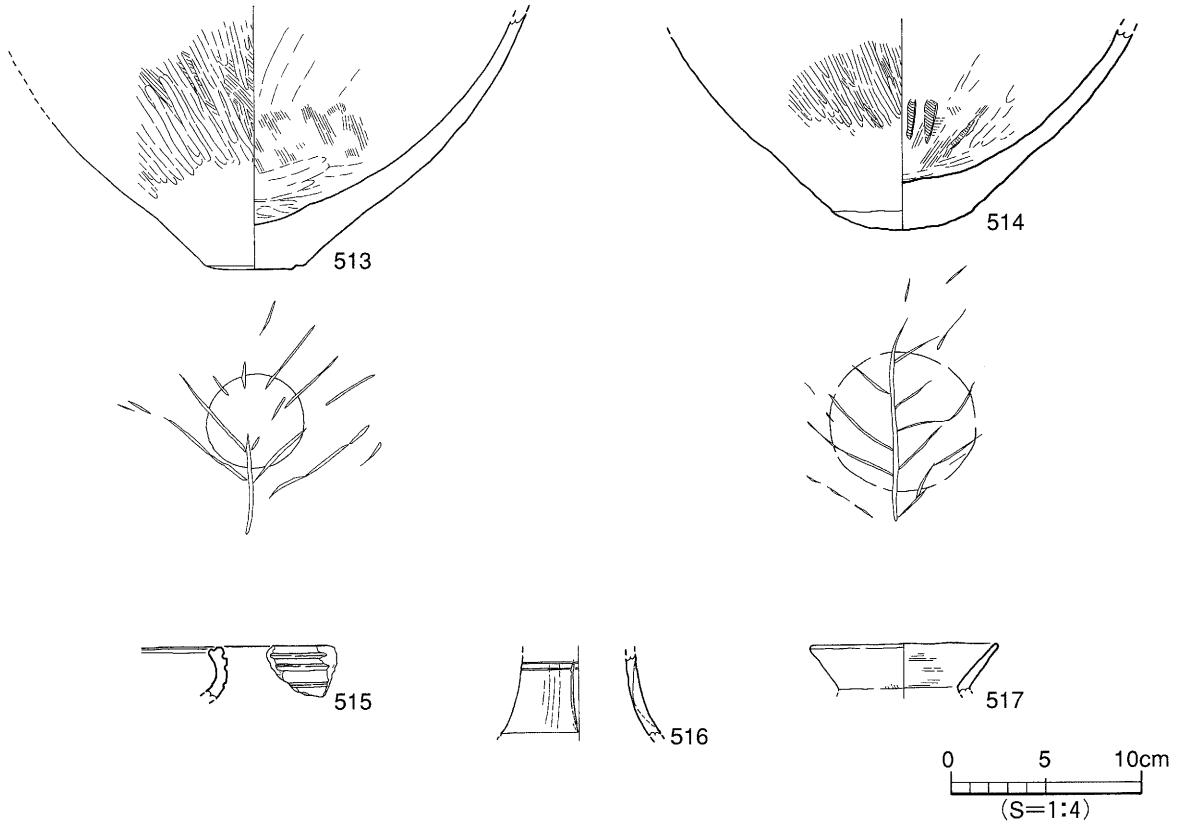


1 褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土（黄色ブロック混入）
4 褐灰色土（砂質まじり・黄色ブロック混入）

第48図　SK15測量図



第49図　SK15出土遺物実測図（1）



第50図　SK15出土遺物実測図（2）

ＳＫ16（第51図、図版7）

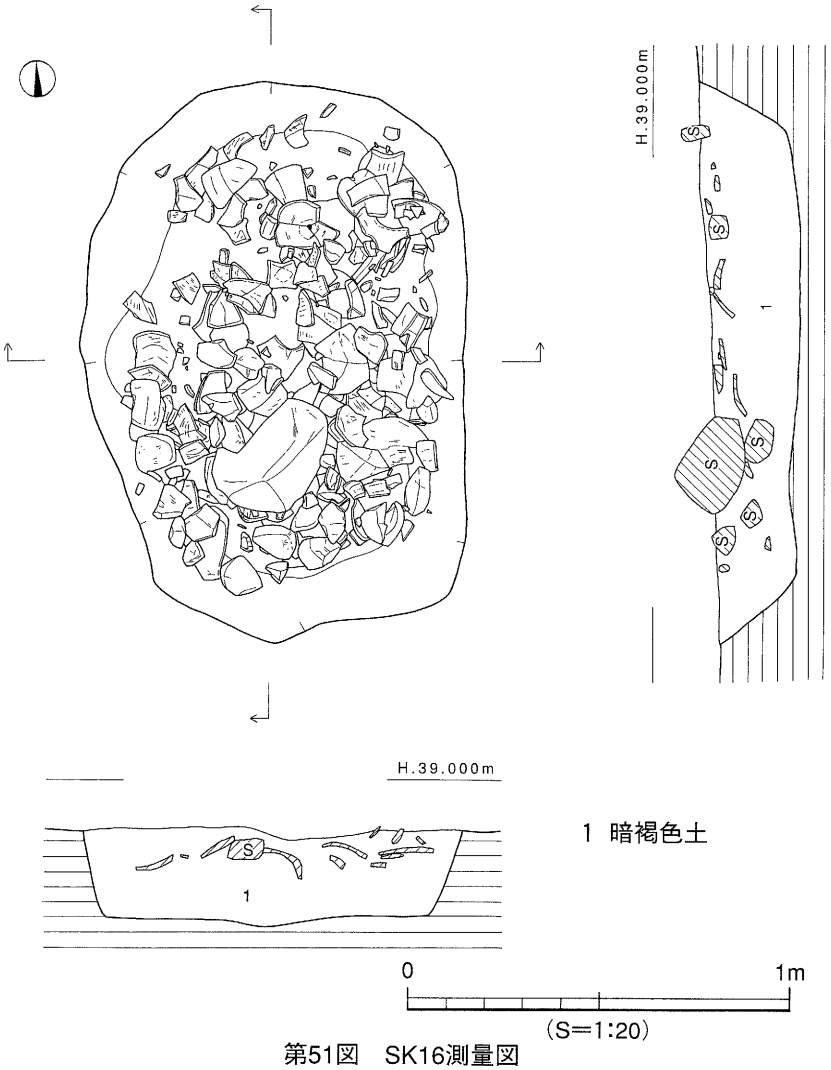
調査区北西部のＣ12区に位置し、ＳＤ2に切られる。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.48ｍ、短軸1.00ｍ、深さ25㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は暗褐色土である。出土遺物には弥生土器と石が多量に出土した。

出土遺物（518～538）（第52·53図）

甕形土器（518～523）　518は完形品である。小さな丸味をもつ底部と口縁部は外反し端部は「コ」の字状に丸い。519は肩の張らない胴部に口縁部は外傾し端部は「コ」の字状に丸い。520はケズリにより突出する底部に口縁部は短く外反し端部は丸い。521·522は底部から胴部までの残存である。丸味のある小さな底部から内湾しながら立ち上がる胴部である。523は平底の底部片である。

壺形土器（524～531）　524は丸味のある小さな底部から球形の胴部につづく。口縁部は外反し端部はわずかに下方に垂れる。525は大きく外反する口縁部の端部は凹む。頸部にハケ状工具による刻目凸帯文を施す。526は大きく外反する口縁部の端部は丸く、頸部に刻目凸帯文を施す。527は直立する口縁部である。528は頸部から肩部までの残存である。529は肩部から胴部までの残存である。中位が大きく張る。530·531は口縁部から胴部までの残存である。530は口縁部が外傾して段をもち直立気味に立ち上がる。胴部はナデ肩である。531は口縁部が直立して内湾する。端部は丸い。

鉢形土器（532～535）　532は丸味をもつ底部に内湾気味に立ち上がる口縁部である。533は不安定な底部に内湾気味に立ち上がる口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。534·535は口縁部の小片である。



第51図　SK16測量図

甑形土器（536）　尖り気味の底部に焼成前の穿孔を施す。

支脚形土器（537·538）　537は中空で角状突起を2本欠く。538は上面と底部が凹む。

時期：出土した遺物の形態から弥生時代後期末に時期比定する。

ＳＫ18（第54図）

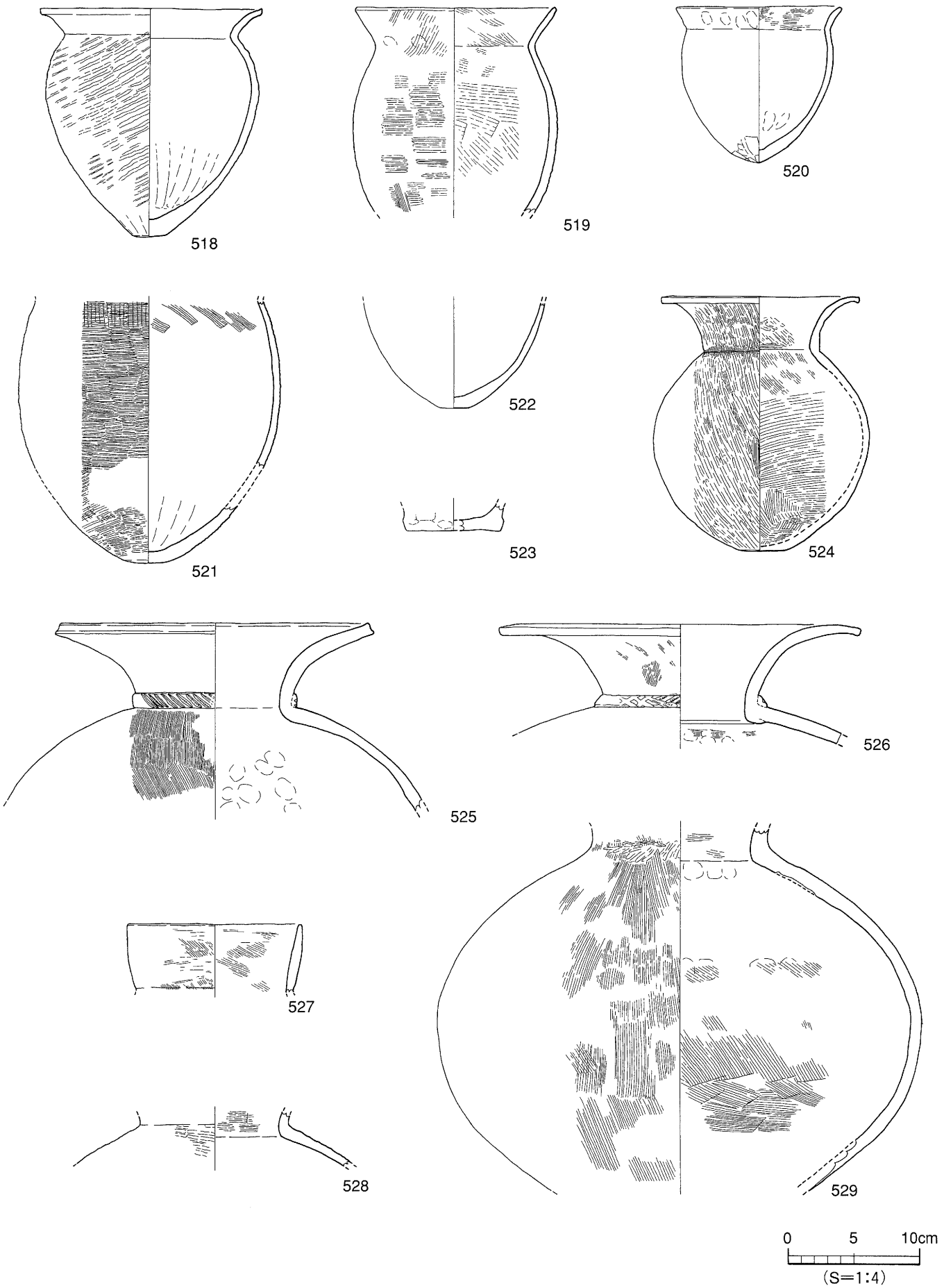
調査区北西部のＣ9・10区に位置し、ＳＢ3を切りＳＸ1に切られる。平面形態は不定形である。規模は検出長1.86ｍ、幅1.35ｍ、深さ14㎝を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土である。遺物には弥生土器がある。

時期：出土した遺物と埋土から弥生時代後期末に時期比定する。

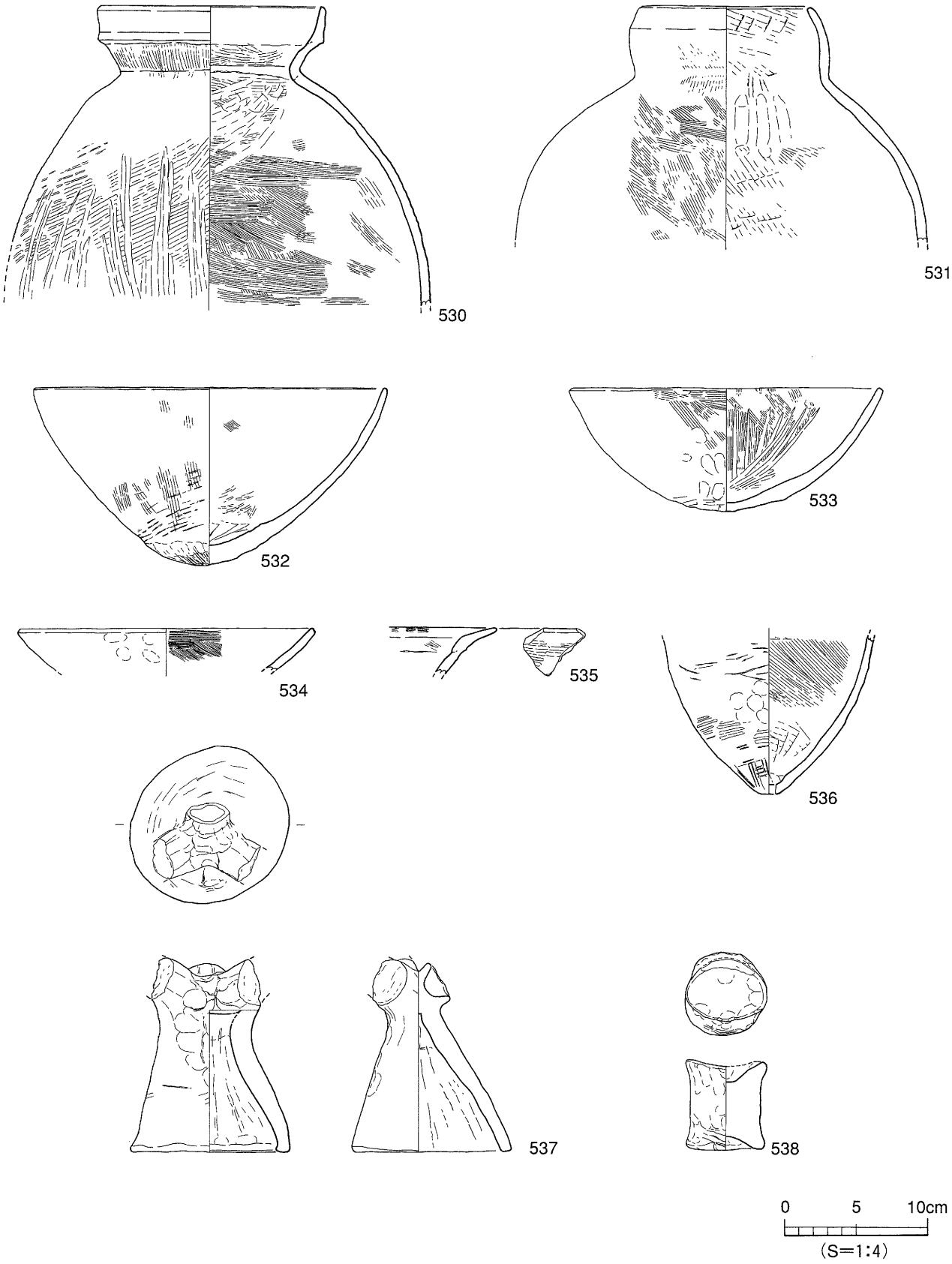
ＳＫ20（第55図）

調査区西部のＤ11・12区に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長軸0.77ｍ、短軸0.65ｍ、深さ7㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。出土遺物には弥生土器、河原石と炭化材がある。

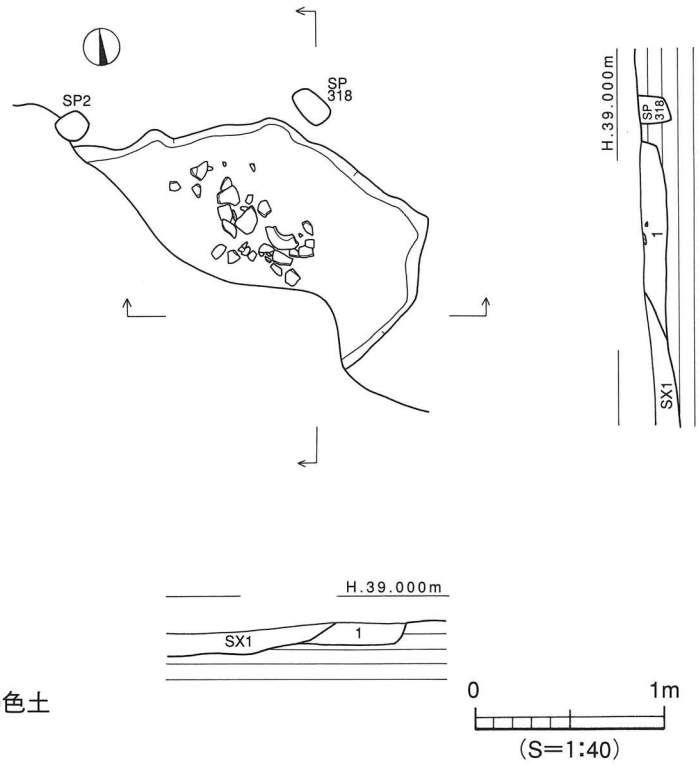
時期：出土遺物と埋土から弥生時代後期に時期比定する。



第52図　SK16出土遺物実測図（1）

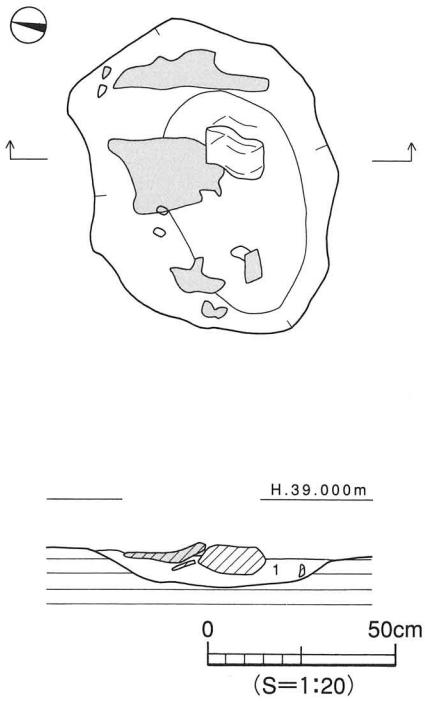


第53図　SK16出土遺物実測図（2）



1 黒褐色土

第54図　SK18測量図



1 黒褐色土
炭化材

第55図　SK20測量図

ＳＫ28（第56図）

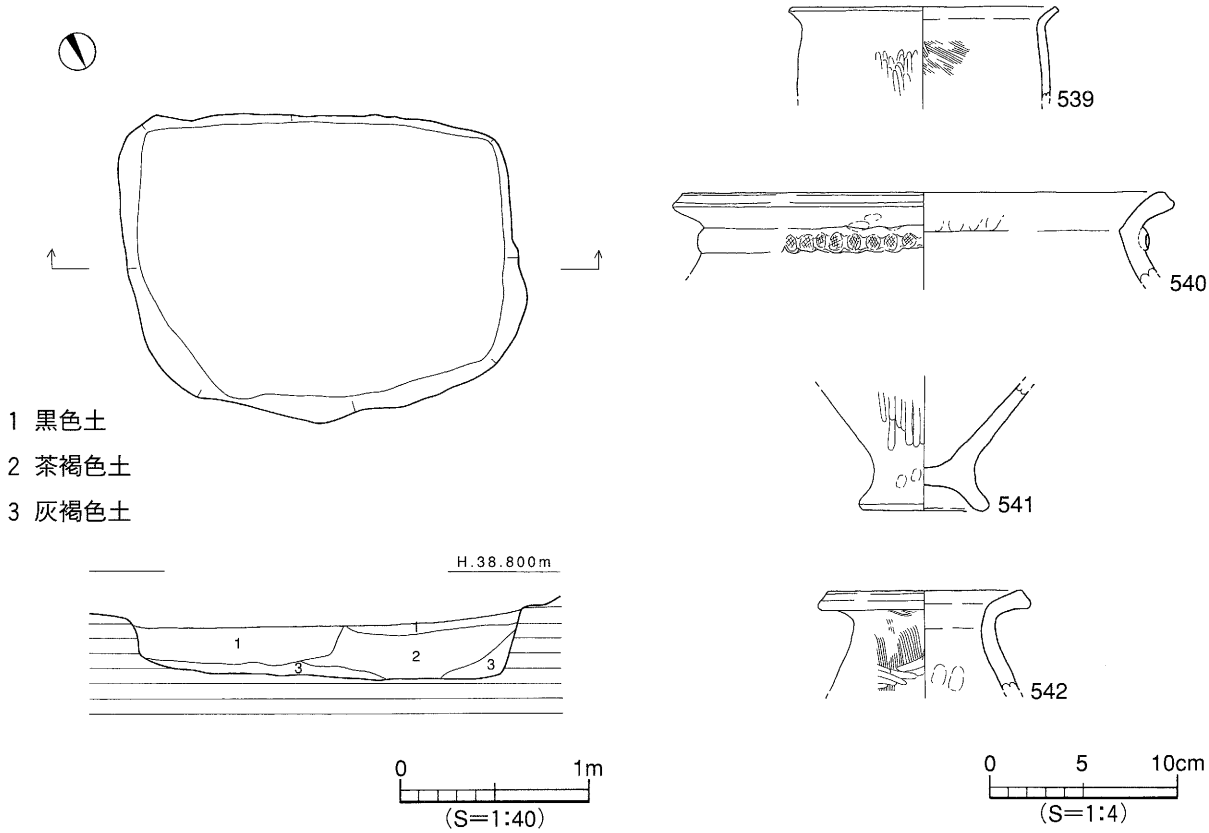
調査区中央部のＣ・Ｄ6区に位置し、ＳＢ4・10に切られる。平面形態は方形である。規模は長さ2.13ｍ、幅1.63ｍ、深さ56㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は黒色土である。出土遺物には弥生土器がある。

出土遺物（539～542）（第56図）

甕形土器（539～541）　539は短く外傾する口縁部である。540は口縁端部がナデにより凹む。頸部に布目押圧の凸帯文を施す。541はくびれの上げ底である。

壺形土器（542）　短く外反する口縁部の端部は凹む。

時期：出土遺物と古墳時代のＳＢ4・10に切られることからＳＫ28は弥生時代後期末に時期比定する。



第56図　SK28測量図・出土遺物実測図

3）溝（ＳＤ）

ＳＤ1（第3図）

調査区西部のＦ7～12区に位置し、ＳＢ2・ＳＫ13・ＳＤ2・3に切られる東西方向の溝である。規模は検出長20.2ｍ、幅0.7ｍ、深さ10㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は黒褐色土である。出土遺物には弥生土器がある。

時期：出土遺物と古墳時代のＳＢ2に切られることから弥生時代に時期比定する。

（3）古墳時代

竪穴式住居址を6棟と土坑4基を検出した。

1）竪穴式住居址（ＳＢ）

ＳＢ1（第57･58図、図版7･8）

調査区南西部Ｆ11～Ｈ12区に位置し、ＳＫ2・3・29・ＳＤ3に切られる。平面形態は方形を呈し、規模は東西5.3ｍ、南北4.5ｍ、壁高8㎝を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設には主柱穴・周壁溝・カマド・貼り床がある。主柱穴は4基を検出した。平面形態は円形を呈し、規模は径18～44㎝、深さ22～37㎝を測る。柱穴埋土は黒褐色土である。周壁溝は幅が広く全周する。規模は幅23～60㎝、深さ8～22㎝を測る。断面形態は「Ｕ」字状である。埋土は黒褐色土である。貼り床は床面全域で厚さ10㎝を測る。土色は黄色土と暗褐色土で硬く締まっている。カマドは北壁の中央東に付設される。平面形態は馬蹄形を呈し、煙道部は未検出である。規模は南北長120㎝、東西幅58㎝、高さ24㎝を測る。出土遺物は周壁溝内と床面より須恵器と玉が出土した。カマド周辺には粒状の焼土が広がる。

出土遺物（543～570）（第59･60図）

土師器（543～548）

甕形土器（543～546）　543～546は外傾する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。

高台坏土器（547･548）　水平な坏底部に「ハ」の字状に開く高台部である。

須恵器（549～565）

坏身（549～555）　549･550は立ち上がりが直立気味に伸び端部は凹む。551～554は短く水平気味に伸びる受部に内傾する立ち上がりをもつ。555は外上方に伸びる受部は尖り気味である。

高坏形土器（556）　わずかに段をもつ柱部は2方向に透かしを施す。

甑形土器（557･558）　557は内湾する口縁部の小片である。558は段をもち開く口縁部の端部は内傾する面をもつ。下部に波状文を施す。

壺形土器（559～562）　559は大きく開く口縁部の外面は2条の凸帯により3区画され波状文を施す。560･561は口縁部の小片である。562は高台部小片である。

563は高坏形土器の脚部の小片である。564は脚部片である。内面に段をもつ。565は器種不明土器である。受部と立ち上がりをもつ。

566は土師器の円筒埴輪の小片である。突出度の低い台形状のタガと透かしの一部が残る。

弥生土器（567～569）

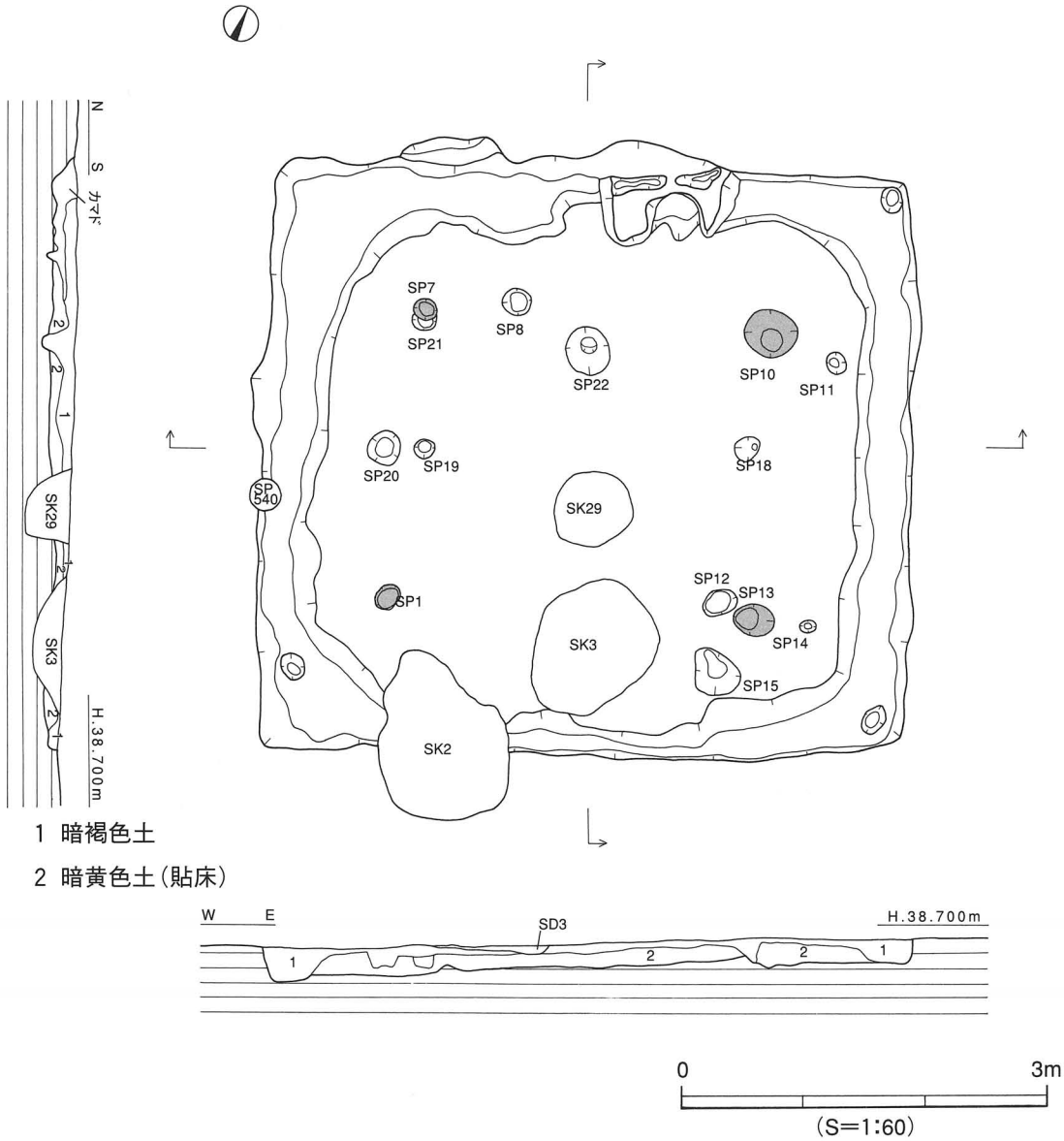
567･568は甕形土器である。569は壺形土器である。

570は滑石製の小玉である。

時期：カマドの検出と出土遺物の形態から古墳時代中期に時期比定する。

ＳＢ2（第61図、図版9･10）

調査区中央部西のＥ9～Ｆ10区に位置し、ＳＤ1を切り、ＳＸ1・ＳＫ4に切られる。平面形態は方形を呈し、規模は東西4.94ｍ、南北4.3ｍ、壁高22㎝を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設には主柱穴・周壁溝・貼り床の他に炉の痕跡と見られるものがある。主柱穴は4基を検出した。平面形態は円形を呈し、規模は径18～28㎝、深さ12～29㎝を測る。柱穴埋土は黒褐色土である。周壁溝は幅25～50㎝、深さ5～11㎝を測る。断面形態は「Ｕ」字状である。埋土は黒褐色土である。貼り床は床



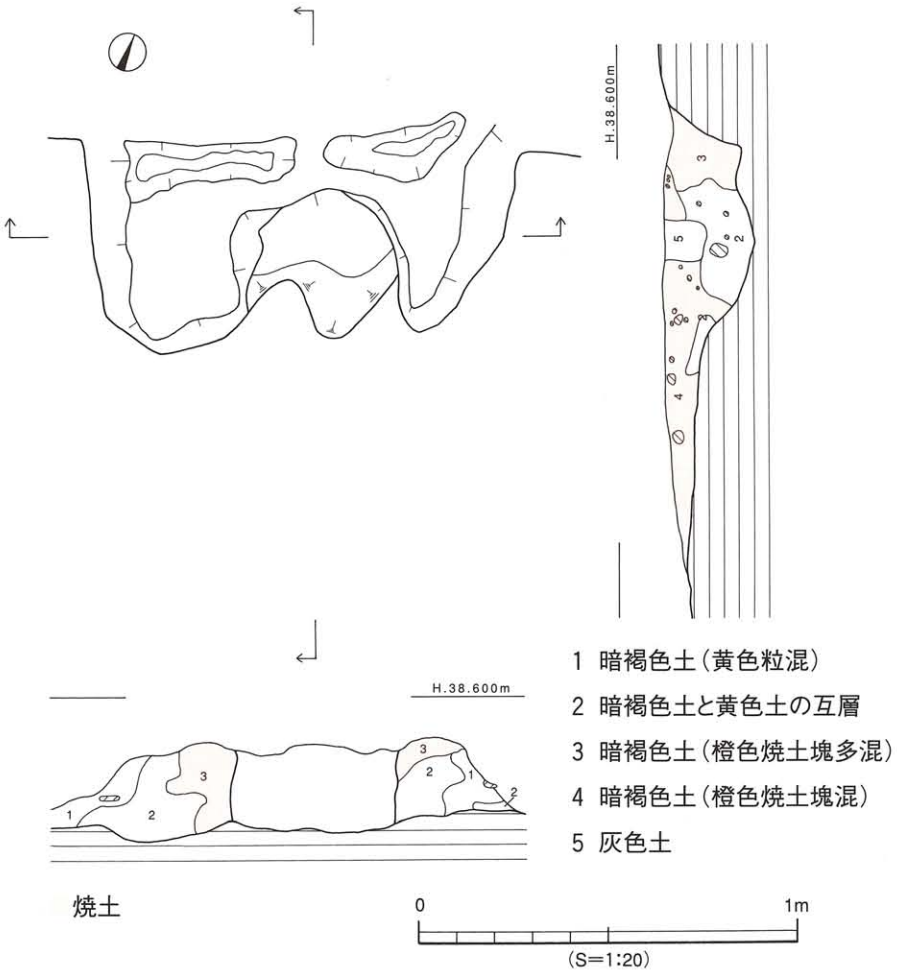
第57図　SB１測量図

面全域で厚さ10cmを測る。土色は黄色土と暗褐色土である。炉は明確なプランの検出には至っていないが、住居中央部に4～5cmの窪みと、そのプランの直上埋土中に焼土が長さ184cm、幅113cm、厚さ4cmの範囲で検出したことより炉址と考える。出土遺物は床面、周壁溝、柱穴内より土師器と須恵器が出土した他、多量の炭化物を検出している。

出土遺物（571～597）（第62･63図）

土師器（571～584）

甕形土器（571）　球形の胴部に外傾する口縁部の端部は丸い。



第58図　SB１カマド測量図

壺形土器（572·573）　572は小型丸底壺である。球形の底部にわずかに外傾する口縁部をもつ。573は丸底の底部小片である。

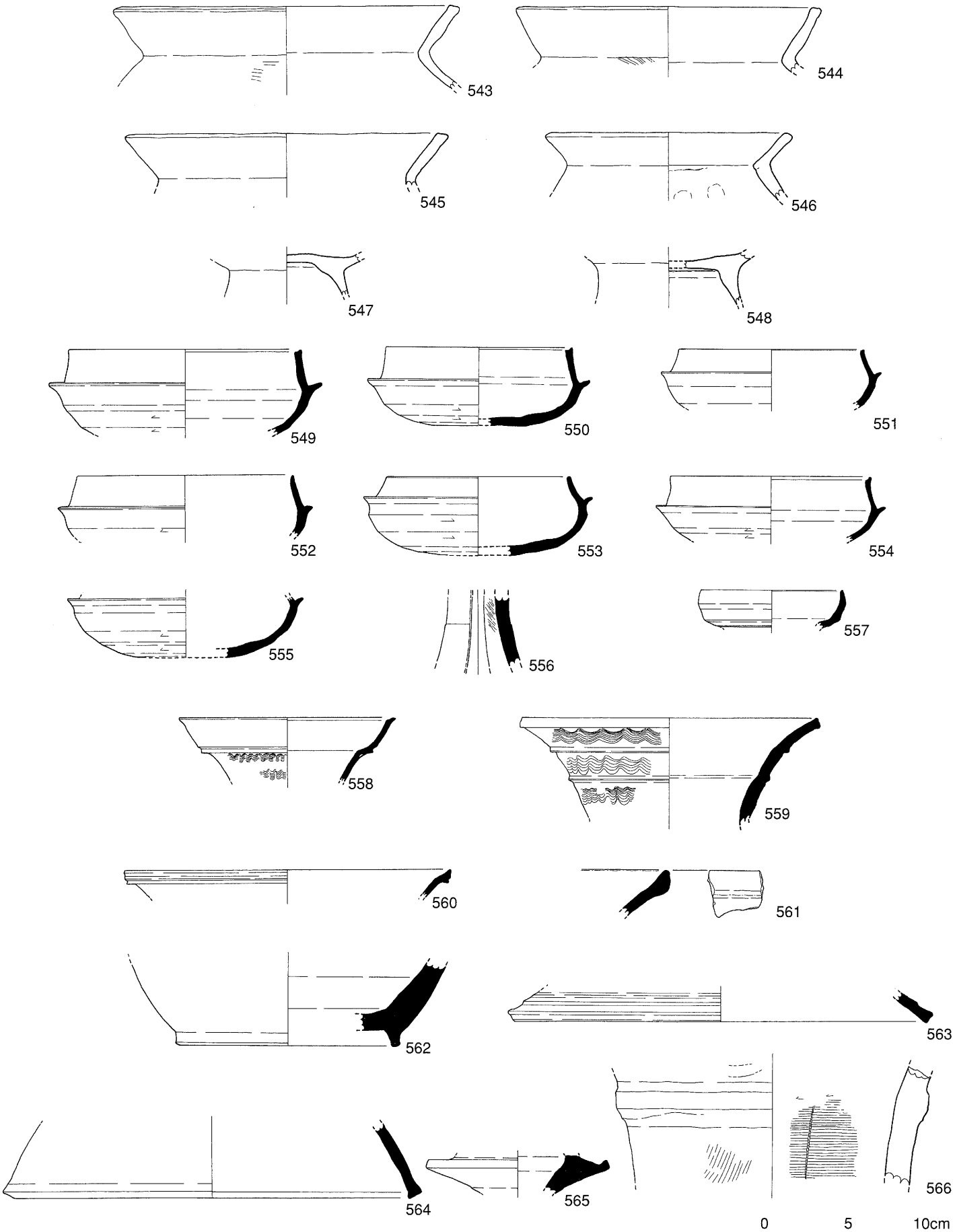
高坏形土器（574～583）　574は段をもって内湾気味に外傾する坏部、口端部は「コ」の字状に丸い。575·576は段をもって外反する坏部である。577～579は外傾する坏部である。580はわずかに外反する坏口縁部である。581は段をもつ坏部である。582·583は脚部である。

甑形土器（584）　把手部の小片である。

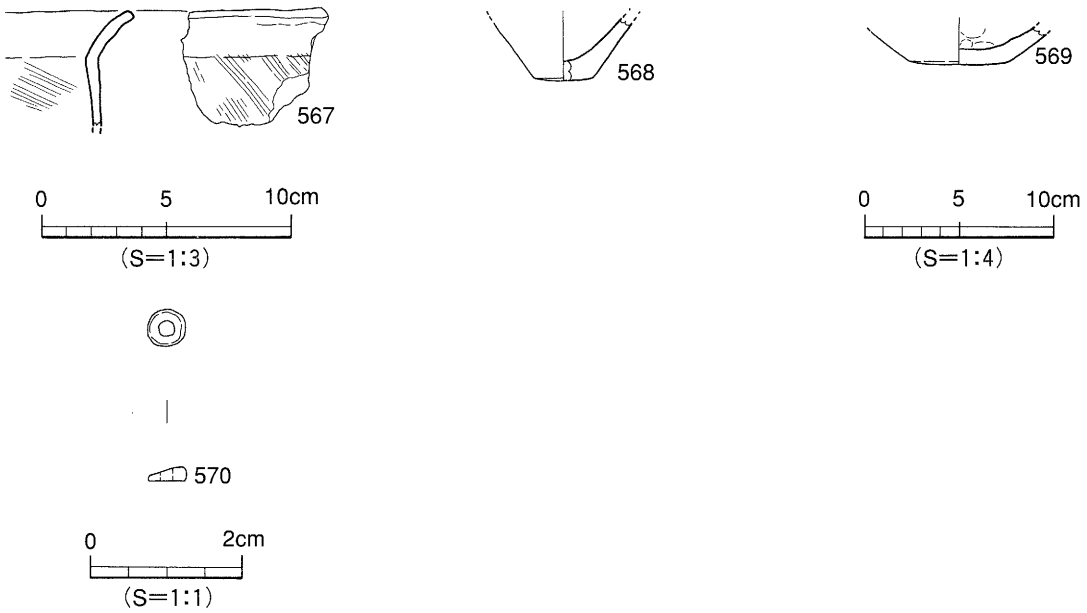
弥生土器（585～596）

甕形土器（585·586）　585は肩の張らない胴部に外傾する口縁部をもつ。586は頸部に凸帯文を施す。

壺形土器（587～595）　587は外反する口縁部の小片である。端部に凹線文を1条施す。588は大きく外反する口縁部の端面に山形文を施す。589·590·592は口縁部の小片である。端部に凹線文を2条施す。591は口端部に凹線文を5条施す。593は頸部に斜格子の凸帯文を1条施す。594は胴部の小片である。595は底部片である。



第59図　SB 1 出土遺物実測図（1）



第60図　SB１出土遺物実測図（2）

鉢形土器（596）　外傾する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。

砥石（597）　両面に敲打された凹みがみられる。

貼床出土遺物（598～623）（第64図）

弥生土器（598～614）

甕形土器（598～605）　598～600は口縁部の小片である。601～605は底部の小片である。

壺形土器（606･607）　606は外反する口縁部の端部は「コ」の字状である。607は丸味をもつ厚い底部である。

不明土器（608）　大きく開く脚部の小片である。

高坏形土器（609～611）　609は外反する坏部である。610は柱部である。貫通しない矢羽根透かしと沈線文を6条施す。611は脚部である。裾部と端面に凹線を施す。

支脚形土器（612～614）　612は円形の小さな受部の中央部はわずかに凹む。613は角部を欠損している。614は器高が低く受部は凹む。

土師器（615～623）

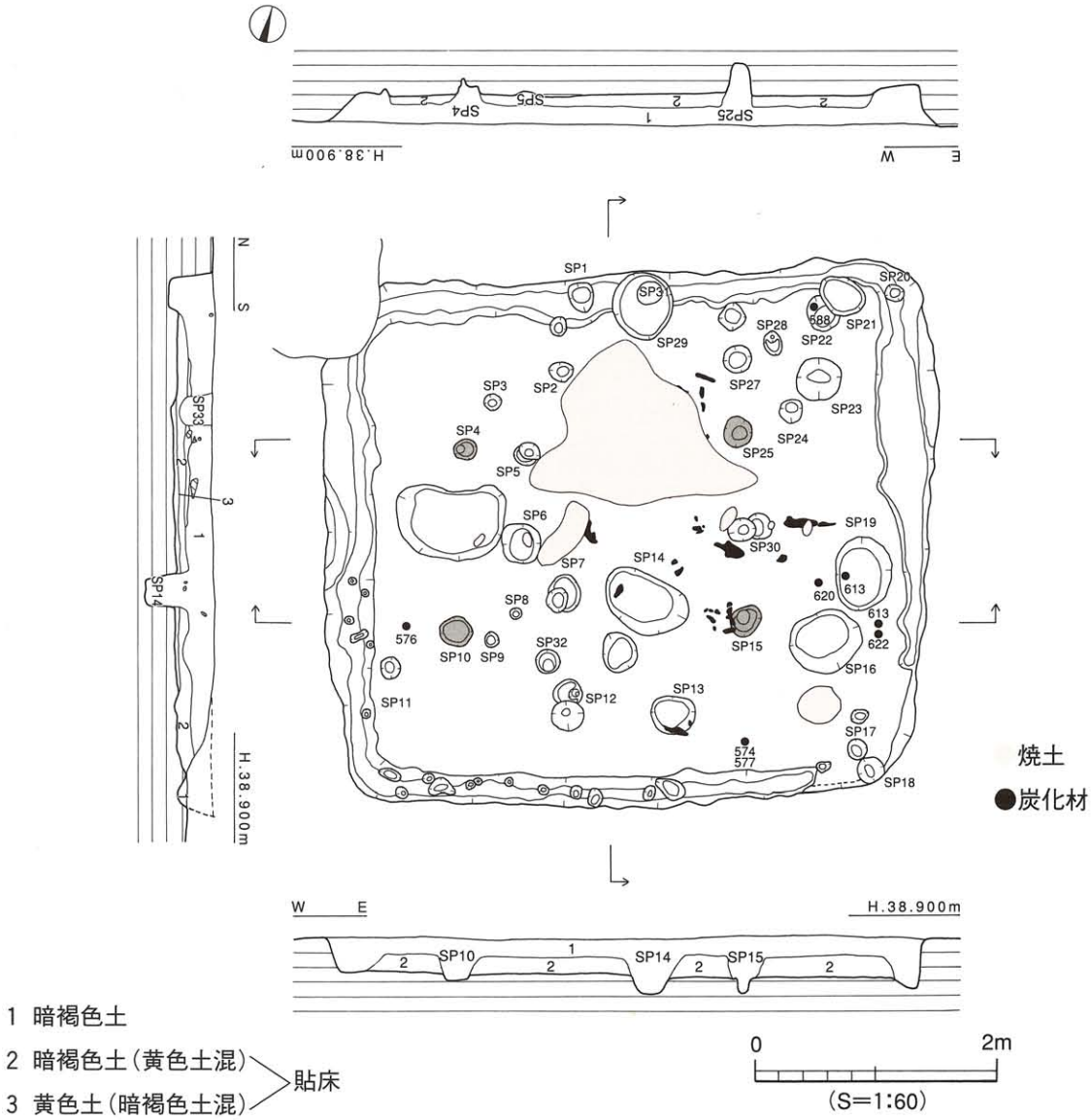
甕形土器（615）　外傾する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。

高坏形土器（616～623）　616は坏部と柱部である。坏部は段をもち内湾気味に立ち上がり、端部はわずかに外反する。617～619は坏端部がわずかに外反する。620～623は脚部である。620はラッパ状に開き端部は尖り気味に丸い。621は大きく折曲して開く脚部である。622･623は直線的に開く柱部である。

時期：出土した遺物の形態から古墳時代中期に時期比定する。

ＳＢ4（第65図、図版10）

調査区北部東寄りＢ5～Ｄ7区に位置し、ＳＫ15とＳＫ28を切り、ＳＢ10に切られる。検出は東側と南側のわずかな部分である。平面形態は方形を呈し、規模は東西7.3ｍ、南北7.6ｍ、壁高25㎝を測る。



第61図　SB２測量図

埋土は暗褐色土である。内部施設には主柱穴がある。主柱穴は4基を検出した。平面形態は円形を呈し、規模は径40～60㎝、深さ27～30㎝を測る。柱穴埋土は黒褐色土である。出土遺物は床面より、土師器と須恵器が出土した。

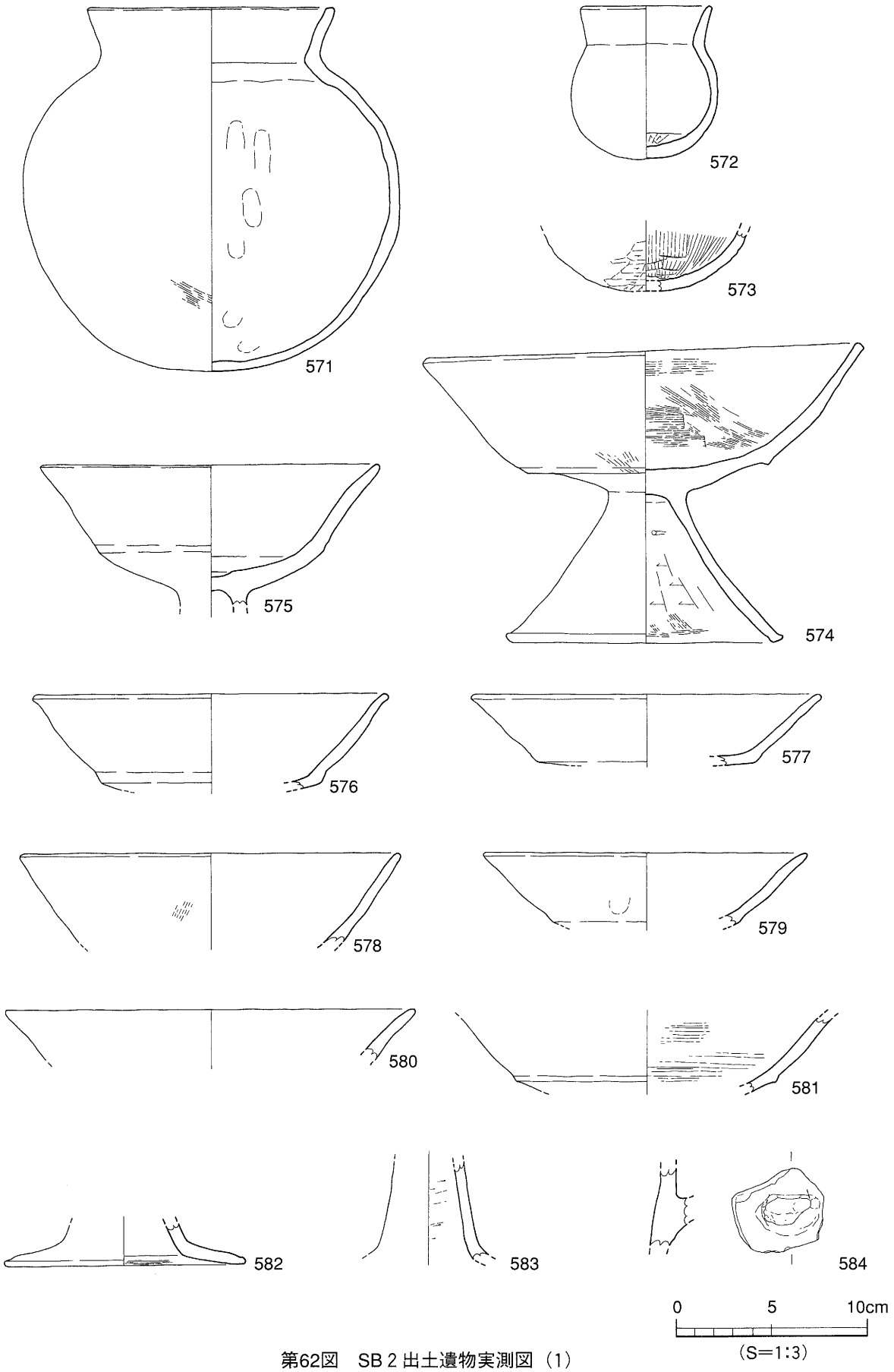
出土遺物（624～661）（第66･67図）

土師器（624～628）

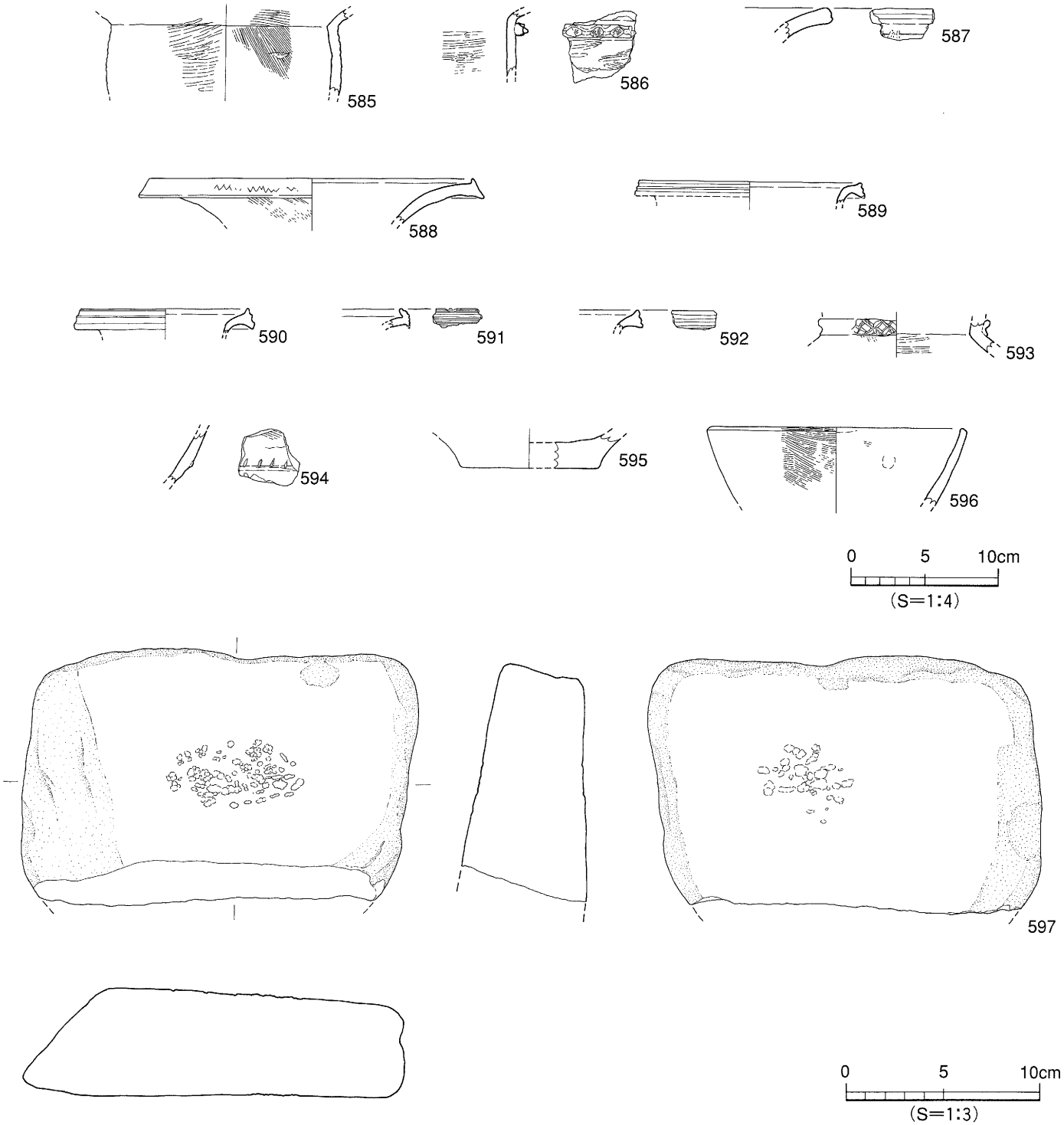
壺形土器（624）　外傾し、折曲する口縁部の端部は丸い。

甕形土器（625）　外傾して内湾気味に立ち上がる。端部は「コ」の字状に丸い。

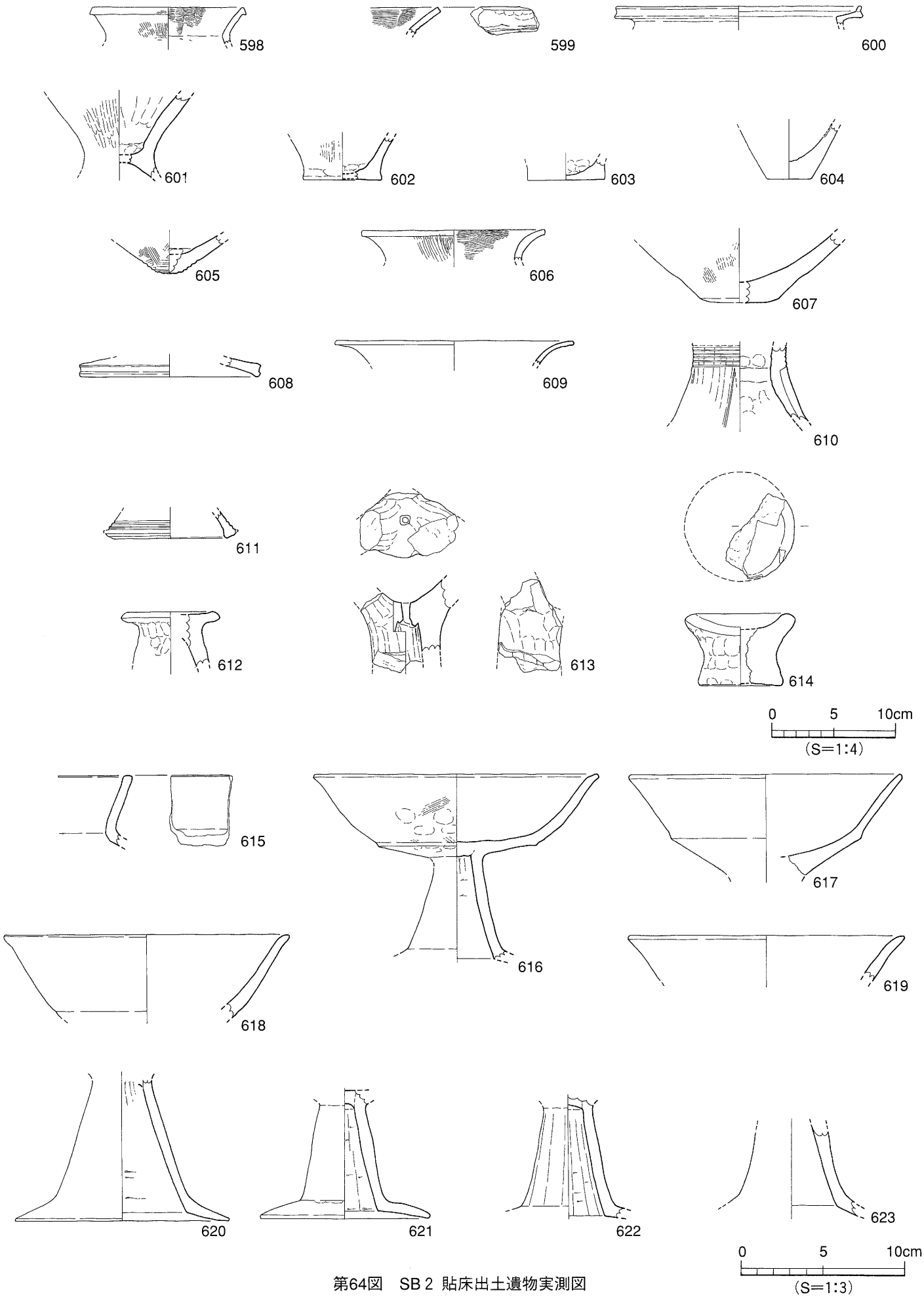
高坏形土器（626･627）　626は坏部から柱部までの残存である。627は柱部の残存である。



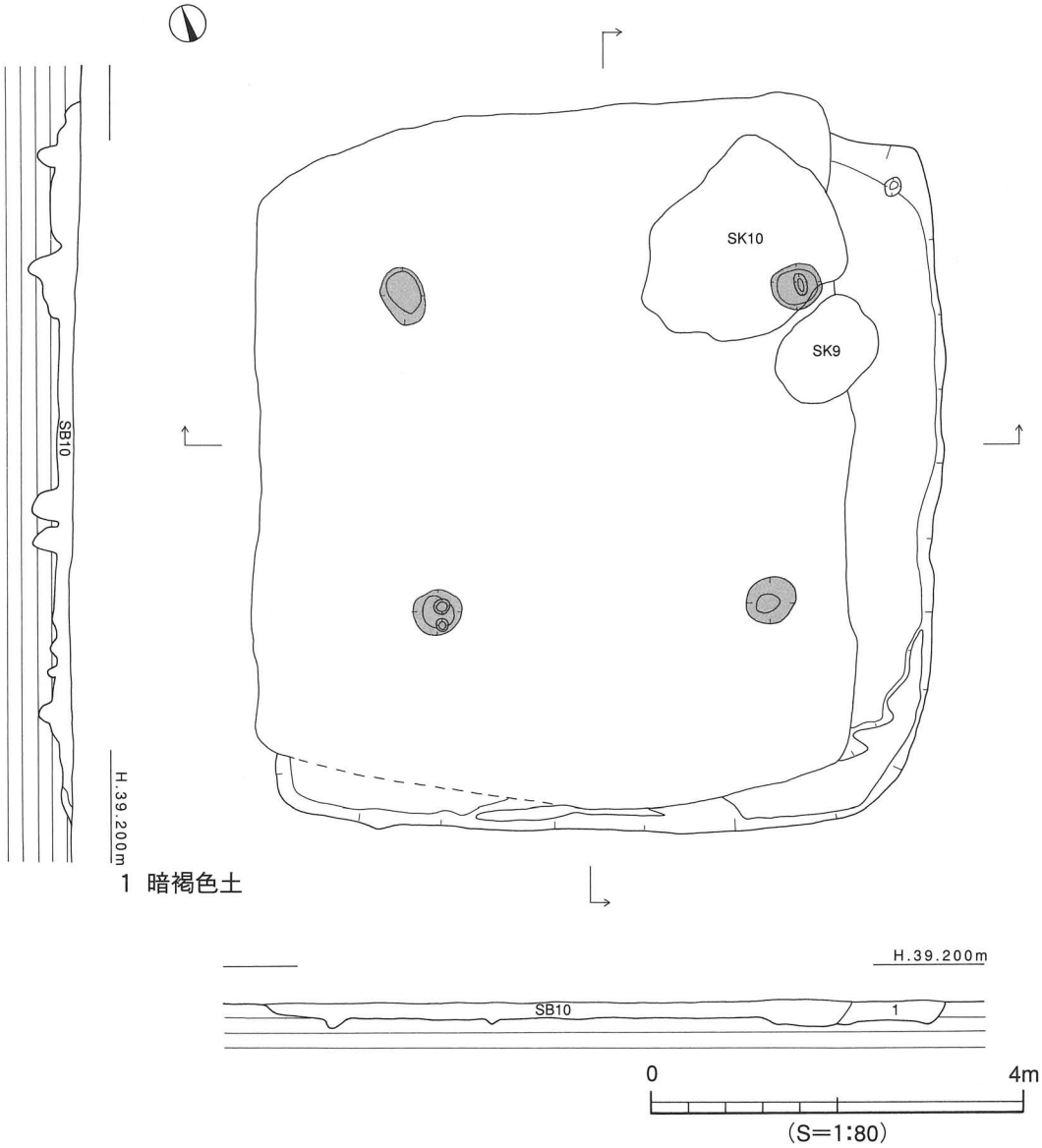
第62図　SB 2 出土遺物実測図（1）



第63図　SB 2 出土遺物実測図（2）



第64図　SB 2 貼床出土遺物実測図



第65図　SB 4 測量図

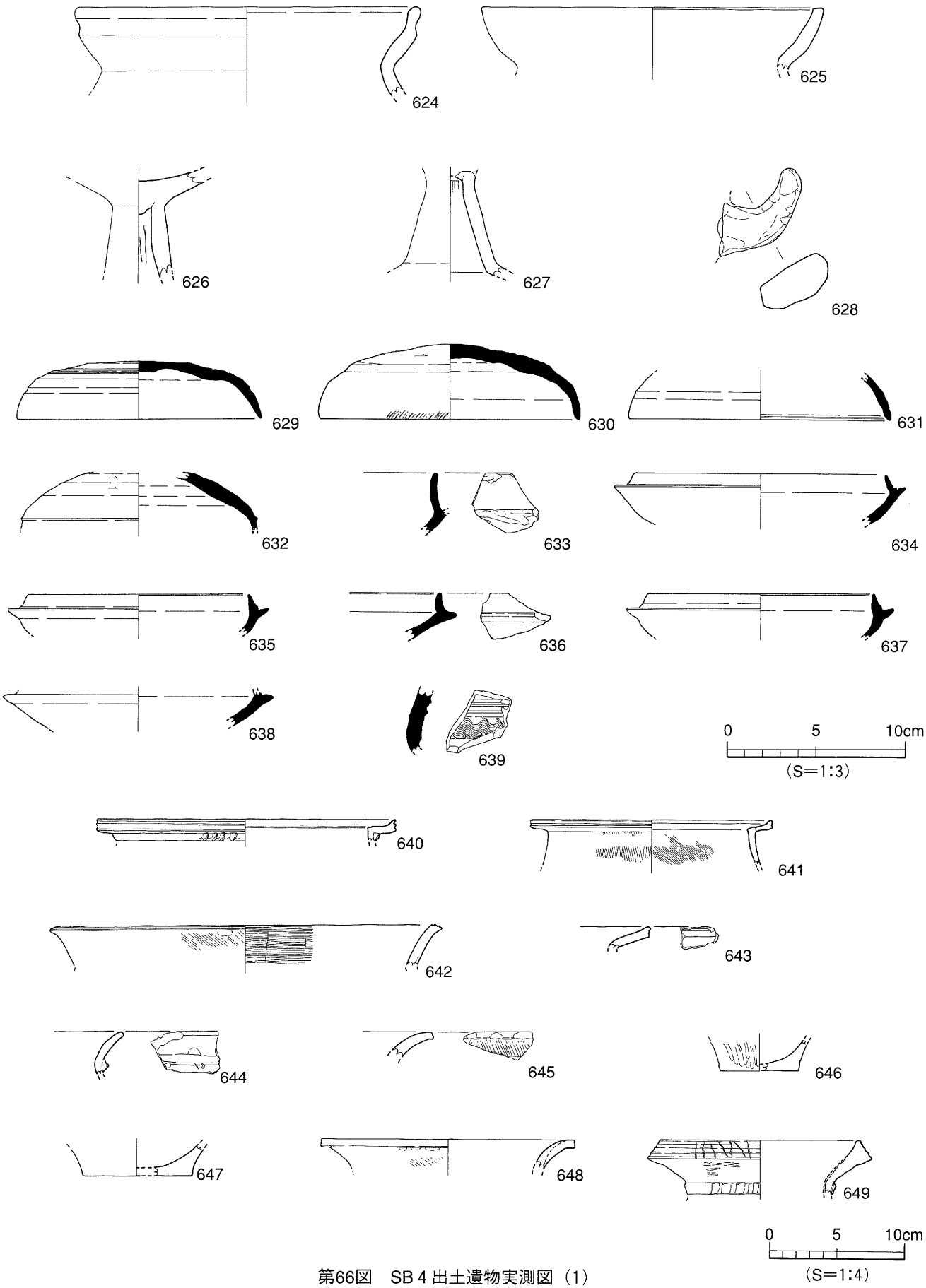
甑形土器（628）　把手部である。断面は楕円形で接合部に臍をもつ。

須恵器（629～639）

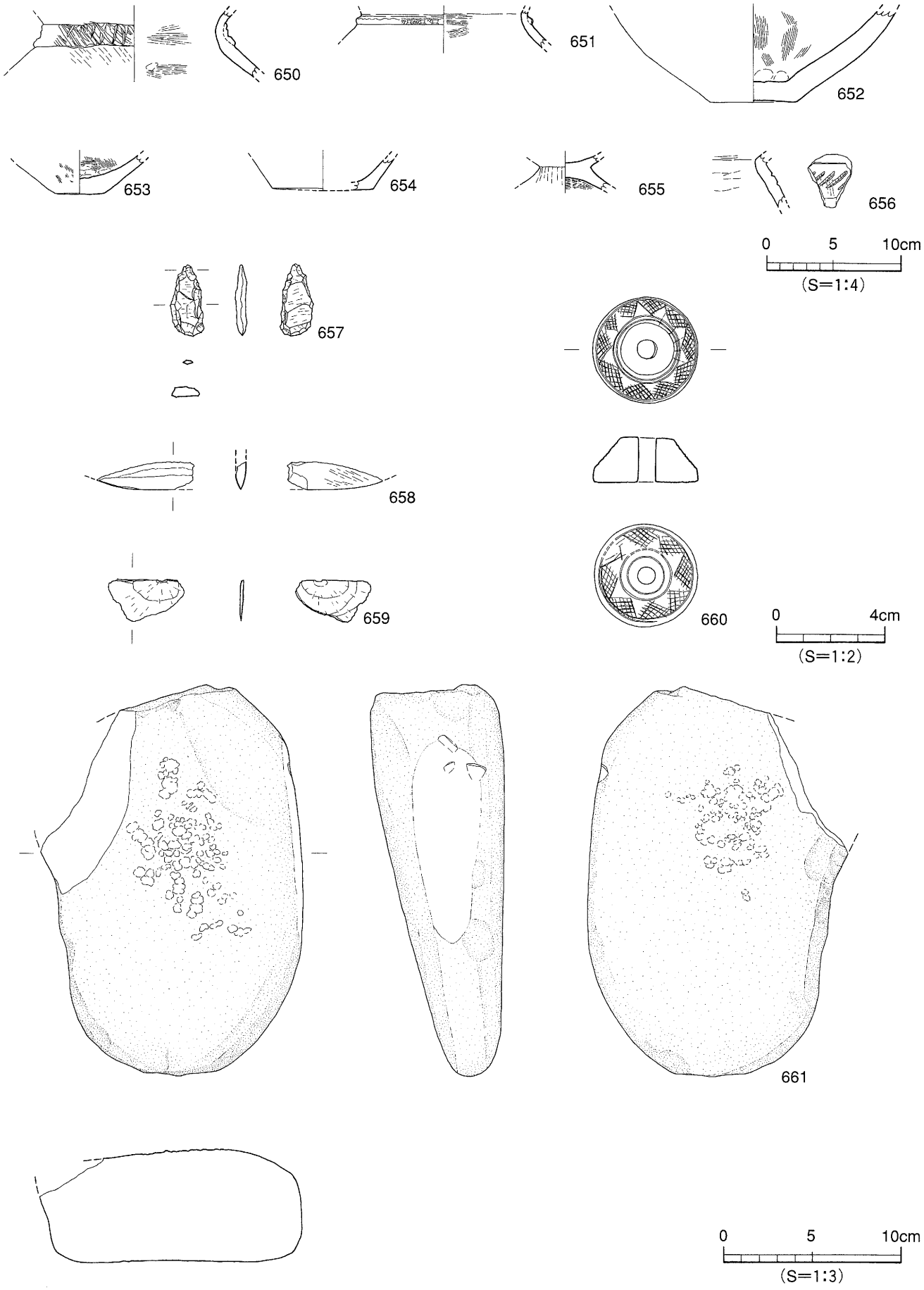
坏蓋（629～632）　629は水平な天井部に口縁端部は尖り気味に細い。630は丸味をもつ天井部に口縁端部は尖り気味で外面にヘラ状工具による線刻を施す。631の口縁部は尖り気味である。632は丸味のある天井部に段をもち口縁部につづく。

坏身（633～638）　633は外反気味に直立する立ち上がりである。634は水平に短く伸びる受部に立ち上がりは内傾する。635は水平気味の受部に直立する立ち上がりである。636は短く水平に伸び

古 墳 時 代



第66図　SB 4 出土遺物実測図（1）



第67図　SB 4 出土遺物実測図（2）

る受部に立ち上がりは外反気味に直立する。637は水平気味の受部に直立する立ち上がりをもつ。638は短く水平に伸びる受部である。

甕形土器（639）　頸部片である。2条の凸帯と波状文を施す。

弥生土器（640～656）

甕形土器（640～647）　640～645は口縁部の小片である。640·641は「L」字状口縁である。端部を上方に拡張し凹線文を施す。642は外反する口縁部の端面に3条の凹線文を施す。643は口端面が凹む。644は頸部に凸帯を施す。645は口端部が「コ」の字状に丸い。646·647は平底の底部の小片である。

壺形土器（648～654）　648·649は口縁部である。648は外反する口縁部である。649は口端部を拡張し浅い凹線文を4条施し、その後、線刻を施す。450·451は頸部片である。頸部に凸帯を巡らす。652～654は平底の底部片である。

655は脚台付鉢の脚部と思われる。656は甕の胴部片である。ハケ目工具による「ノ」の字状の刻目文を施す。

石製品（657～661）

657は石錐の完形品である。658は石庖丁の小片である。材質は結晶片岩である。659は剥片である。660は紡錘車である。斜面と底面に斜格子の三角形の文様を施す。材質は滑石である。661は台石（砥石）である。

時期：出土した遺物の形態から古墳時代後期に時期比定する。

ＳＢ5（第68図、図版10）

調査区北部Ｂ7～Ｃ8区に位置しＳＢ6を切り、南東コーナー部をＳＢ10に、南西コーナー部をＳＫ6に切られる。平面形態は長方形を呈し、規模は東西3.63ｍ、南北3.12ｍ、壁高23㎝を測る。埋土は黒褐色土である。内部施設は周壁溝を検出した。周壁溝は幅5～30㎝、深さ6～10㎝を測る。断面形態は「U」字状である。埋土は黒灰褐色土である。出土遺物は床面より土師器の高坏と中央部に作業台と思われる石が出土した。

出土遺物（662～678）（第69·70図）

土師器（662～676）

甕形土器（662～664）　662は丸底の底部に球形の胴部。口縁部は外傾する。663·664は外傾する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。

壺形土器（665）　肩の張らない胴部に外傾する口縁部である。

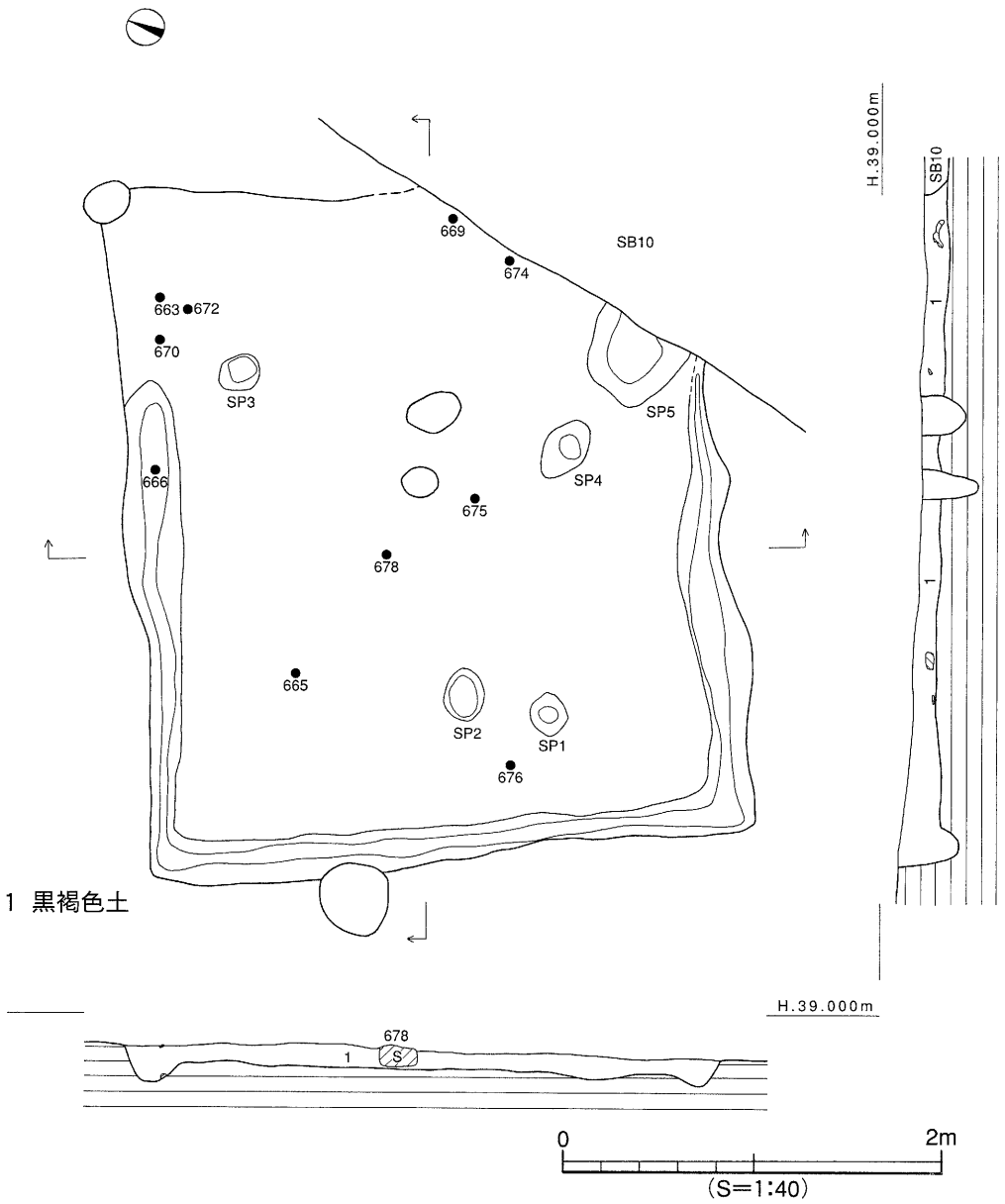
高坏形土器（666～675）　666～670は坏部である。666·667は段をもって外傾する坏部である。668はわずかに外反する坏端部である。669は段をもってわずかに外反する。670は段をもつ坏部である。671～675は脚部である。672·673は裾部が内湾気味に接地する。

676は皿である。677は弥生土器。壺形土器の底部の小片である。678はほぼ完形の台石である。

時期：出土した高坏形土器の形態から古墳時代中期に時期比定する。

ＳＢ6（第71図、図版10）

調査区北部Ａ6～Ｂ8区に位置する。住居址の北壁中央～北東コーナー部は調査区外に続き、東側をＳＸ3、西側をＳＢ5に、住居址の南半部はＳＢ10に切られる。平面形態は北西コーナー部の検出



第68図　SB 5 測量図

と東壁の遺存状況から方形と考えられる。規模は検出長で東西7.0ｍ、南北6.0ｍ、壁高は調査区北壁で22㎝を測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物には土師器、須恵器、弥生土器がある。

出土遺物（679～685）（第72図）

土師器（679～684）

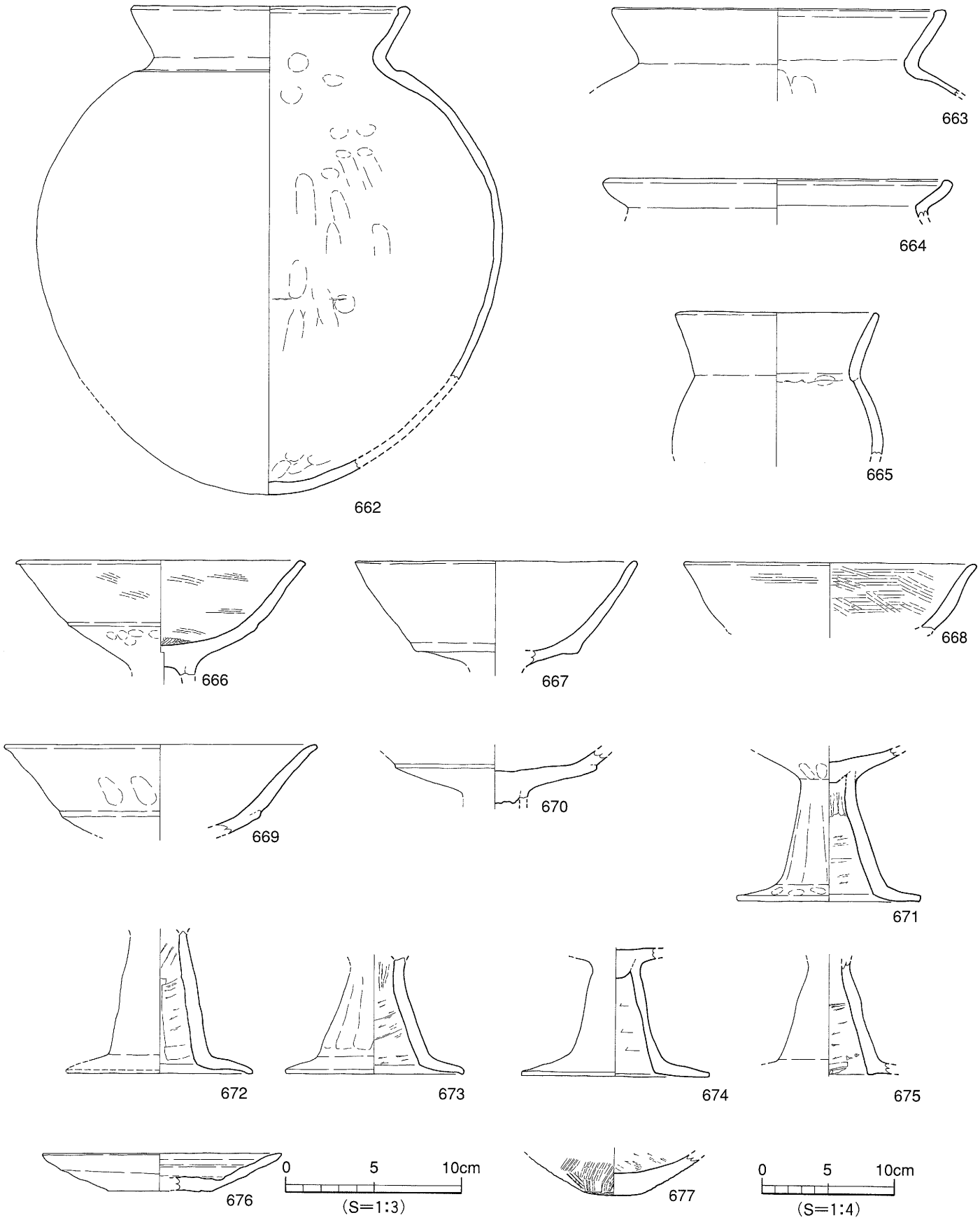
甕形土器（679）　わずかに内湾気味に外傾する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。

壺形土器（680･681）　頸部から肩部にかけての残存である。

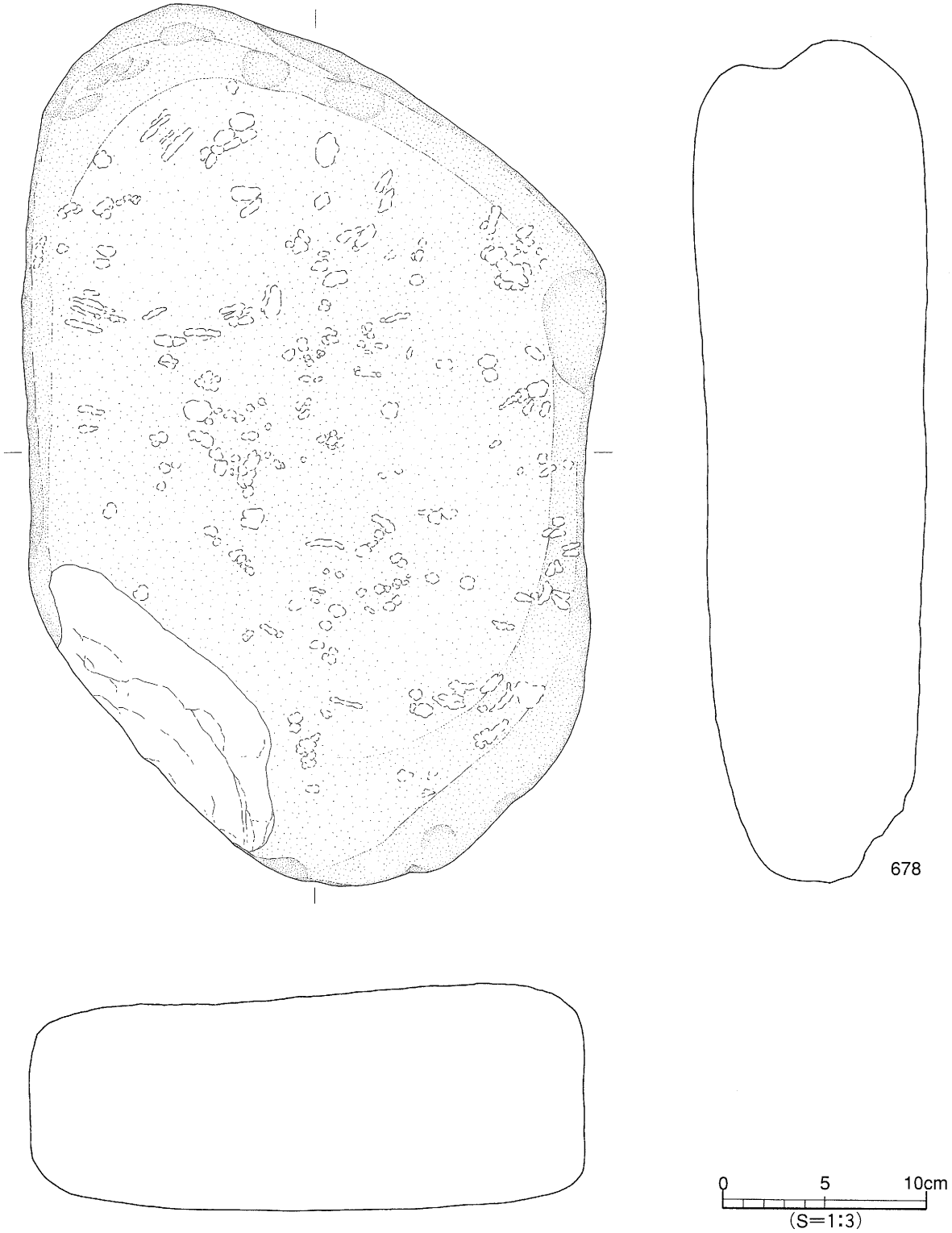
高坏形土器（682～684）　682は段をもち大きく開く坏部である。端部付近は外反し端部は「コ」の字状である。683は段をもつ坏部である。684は大きく開く脚部である。裾部はわずかに外反し端部は丸い。

685は弥生土器。短く折り曲げる口縁部である。

時期：出土した遺物の形態から古墳時代前期に時期比定する。



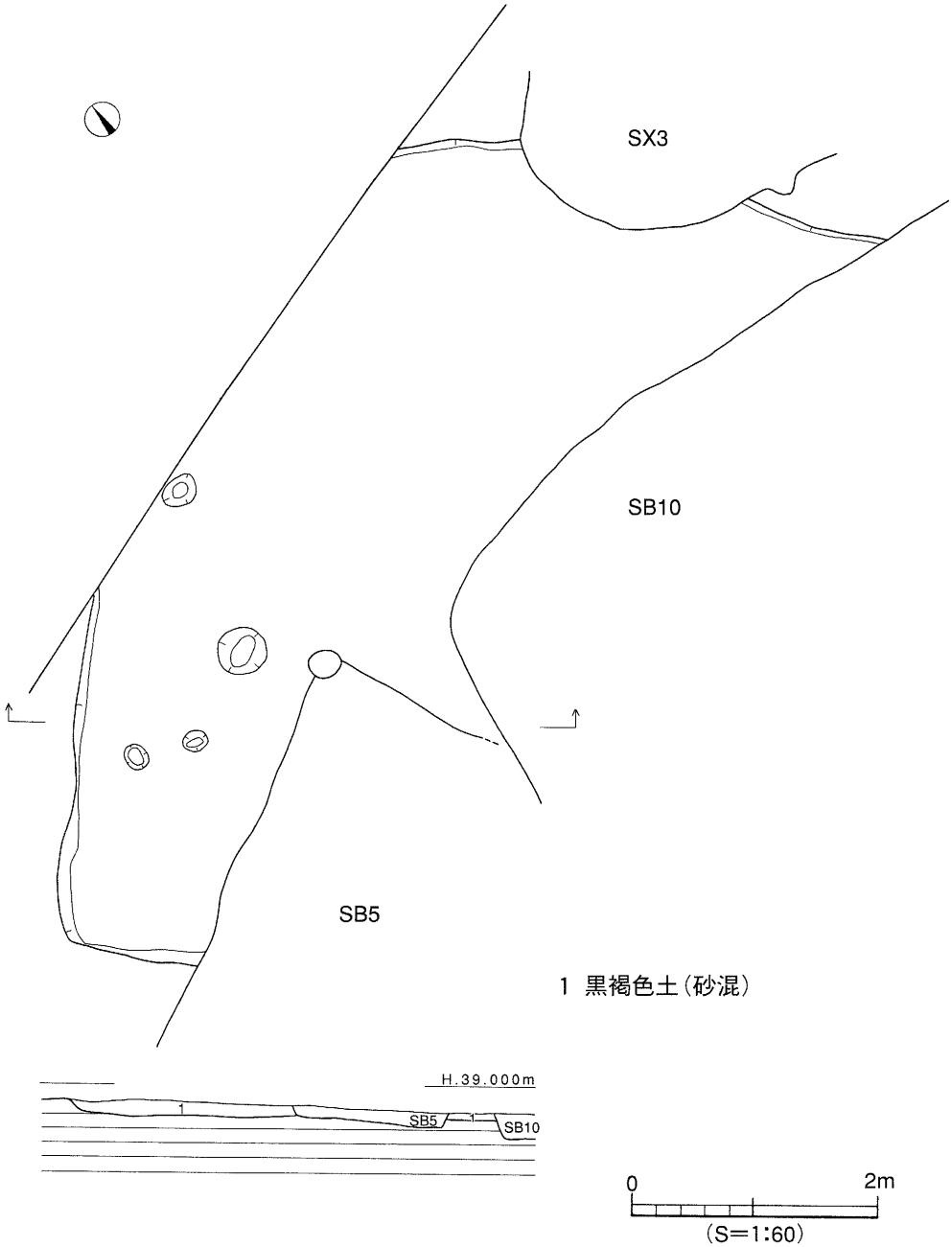
第69図　SB 5 出土遺物実測図（1）



第70図　SB５出土遺物実測図（2）

ＳＢ10（第73図、図版10）

調査区北部のＢ5～Ｄ7区に位置し、ＳＢ4・ＳＢ5・ＳＢ6・ＳＫ28を切り、ＳＫ9・ＳＫ10・ＳＫ14・ＳＫ27に切られる。平面形態は方形である。規模は東西6.40ｍ、南北7.54ｍ、壁高30㎝を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設には周壁溝と主柱穴4基がある。周壁溝は北側で検出した。規模は幅62～150㎝、深さ12㎝を測る。断面形態は「Ｕ」字状である。出土遺物には土師器、須恵器、弥生土器、石製品がある。



第71図　SB６測量図

出土遺物（686～695）（第74図）

土師器（686～688）　甕形土器の口縁部片である。686·687は内湾気味に立ち上がる口縁部である。688は外傾する口縁部である。

須恵器（689～695）

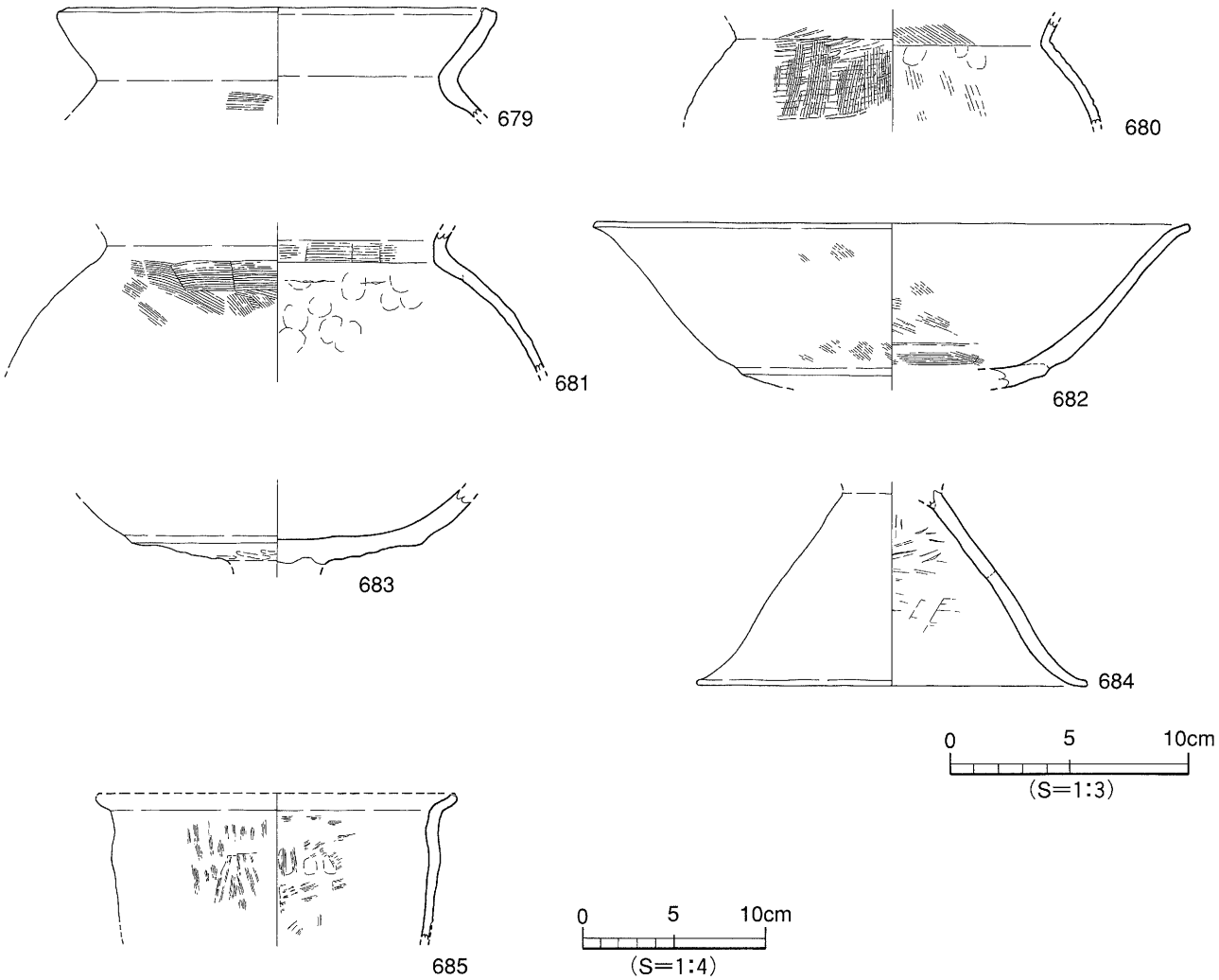
坏蓋（689）　直立して接地する口縁部の小片である。

坏身（690～692）　短く伸びる受部をもつ。

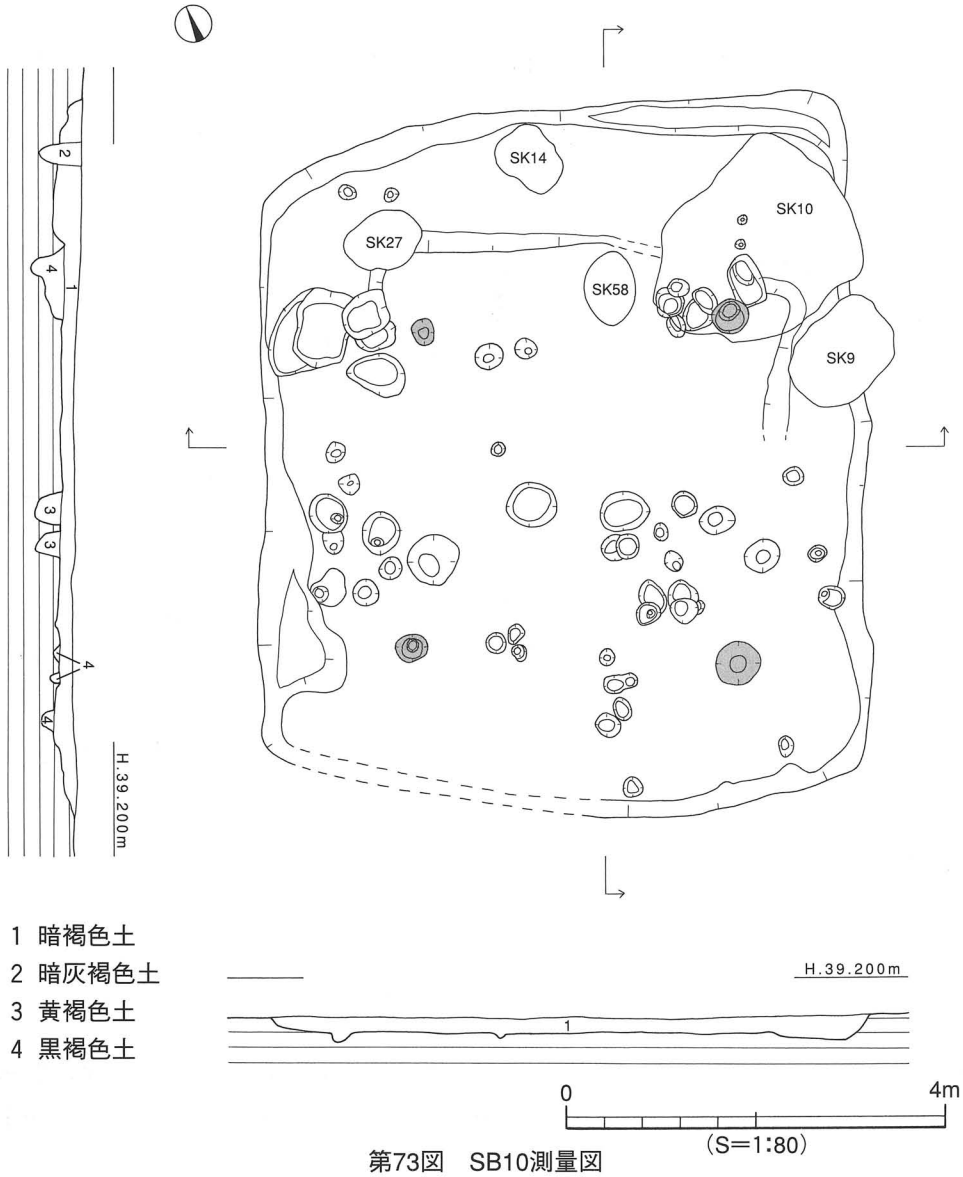
坏（693）　平底の底部小片である。

壺形土器（694·695）　694は外傾する口縁部の外面に波状文を施す。695は外傾する口縁部は端部手前で段をもつ。

時期：出土した須恵器の形態から古墳時代後期に時期比定する。



第72図　SB 6 出土遺物実測図



第73図　SB10測量図

2）土坑（ＳＫ）

ＳＫ17（第75図）

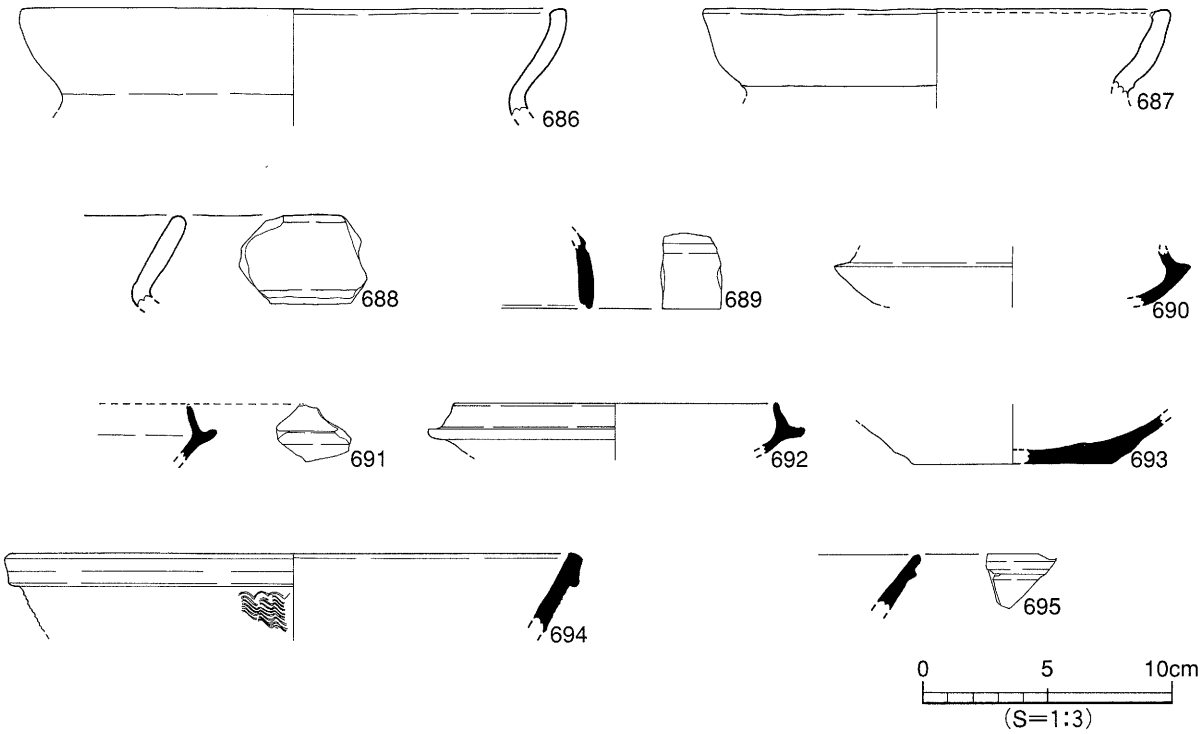
調査区南東部のＦ4区に位置する。平面形態は円形である。規模は長軸1.03ｍ、短軸0.81ｍ、深さ20㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は暗褐色土である。出土遺物には弥生土器と土師器がある。

出土遺物（696～701）（第75図）

弥生土器（696～698）　696は甕形土器。わずかに外反する口縁部である。697は壺形土器の頸部から胴部にかけての残存である。698は高坏形土器の坏部小片である。口縁部外面に5条の凹線文が残る。

土師器（699～701）　699･700は球形の胴部である。701は高坏形土器の脚部である。

時期：出土遺物から古墳時代とする。



第74図　SB10出土遺物実測図

ＳＫ21（第76図）

調査区南西部のＨ11区に位置する。平面形態は方形である。規模は長さ1.26ｍ、幅1.21ｍ、深さ20㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。出土遺物には弥生土器と須恵器がある。

出土遺物（702･703）（第76図）

702は弥生土器。甕形土器の口縁部の小片である。703は須恵器の蓋である。

時期：出土遺物から古墳時代とする。

ＳＫ22（第77図）

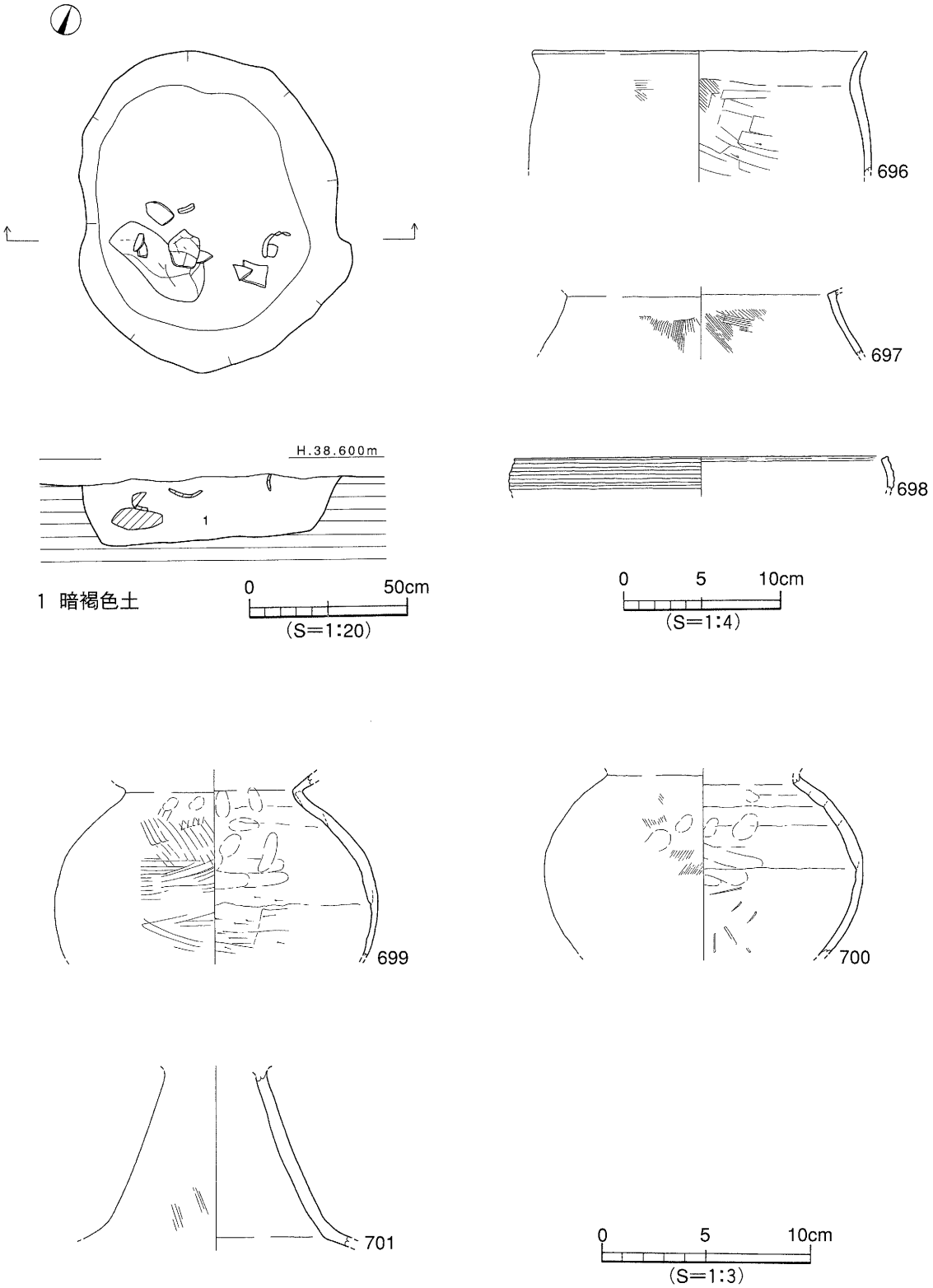
調査区南部のＧ～Ｈ6区に位置し、ＳＲ1に切られる。平面形態は円形である。規模は長軸1.30ｍ、短軸1.21ｍ、深さ23㎝を測る。埋土は黒褐色土である。出土遺物には弥生土器と須恵器がある。

出土遺物（704～707）（第77図）

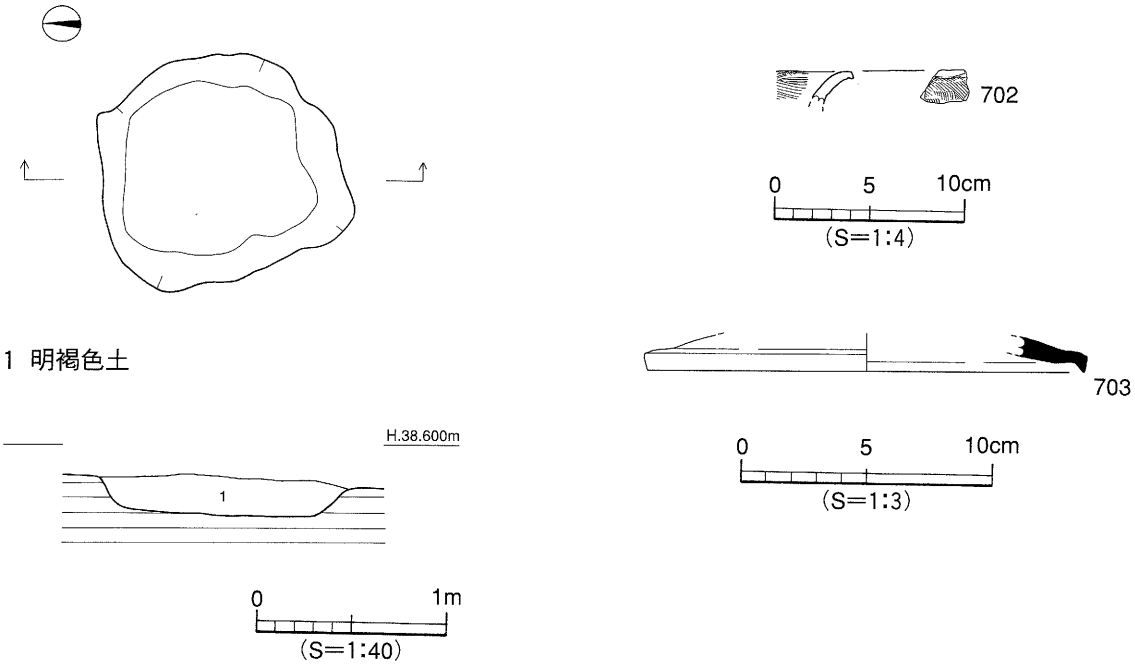
704･705は弥生土器の甕形土器である。704は口縁部、705は底部の小片である。

706･707は須恵器である。706は坏身である。短く外上方に伸びる受部をもつ。707は壺形土器の口縁部である。外面に波状文を施す。

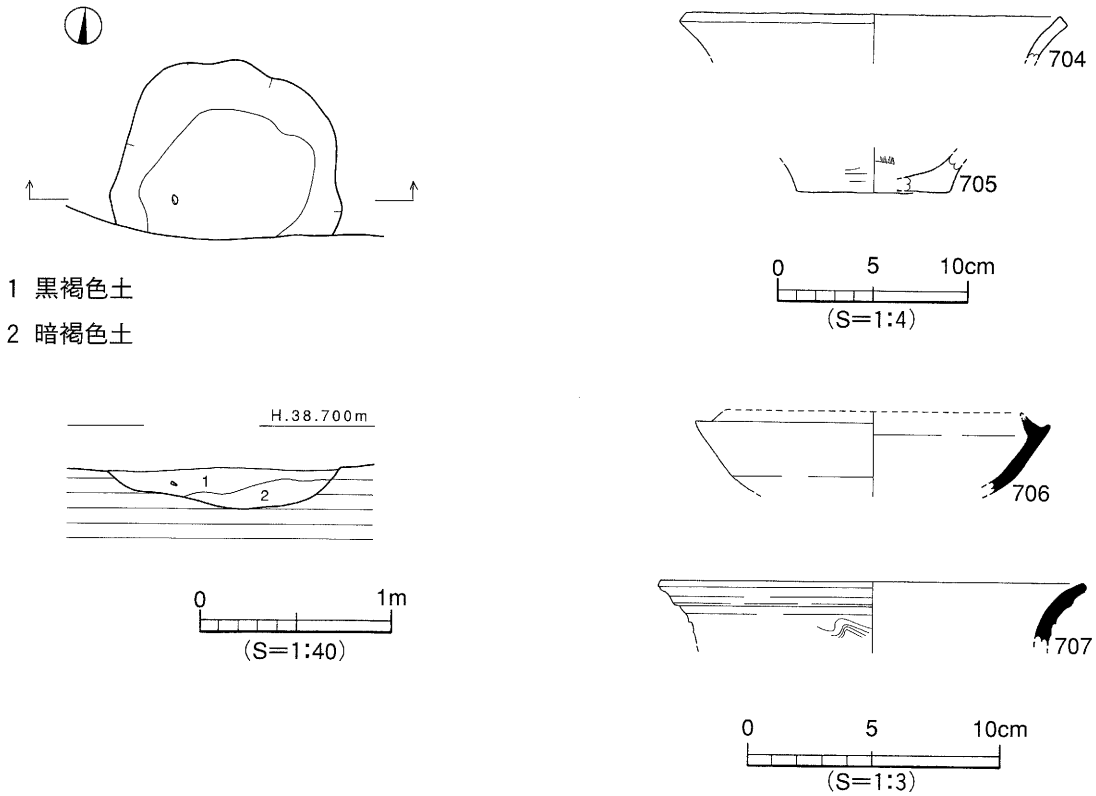
時期：出土遺物から古墳時代とする。



第75図　ＳＫ17測量図・出土遺物実測図



第76図　SK21測量図・出土遺物実測図



第77図　SK22測量図・出土遺物実測図

ＳＫ24（第78図）

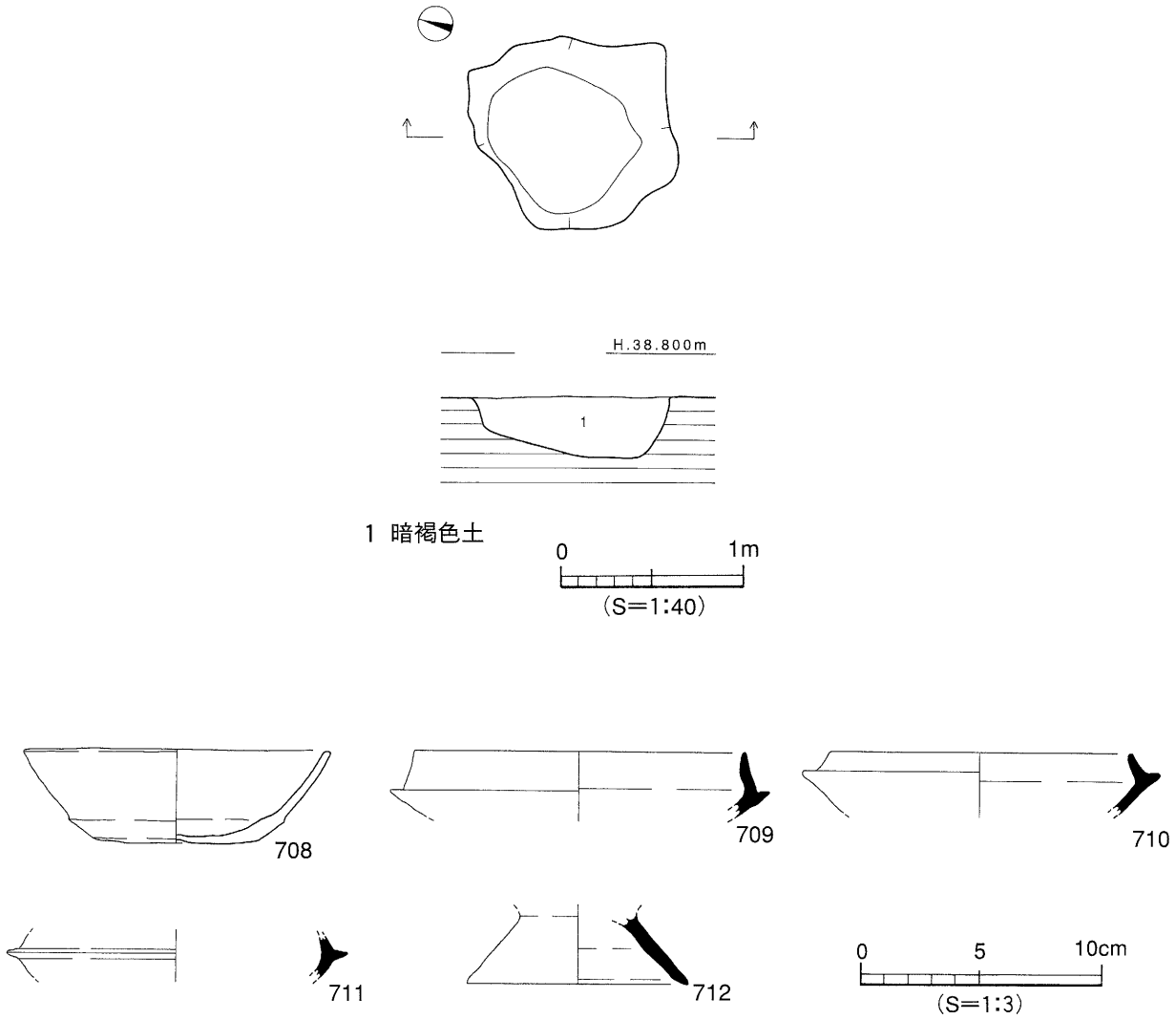
調査区南西部のＧ10・11区に位置する。平面形態は不定形である。規模は長さ1.08ｍ、幅1.04ｍ、深さ34㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。出土遺物には須恵器がある。

出土遺物（708～712）（第78図）

708は土師器の坏である。丸味のある底部から内湾気味に立ち上がる口縁部の端部は丸い。

709～712は須恵器である。709～711は坏身である。短く伸びる受部をもつ。712は「ハ」の字状に開く壺形土器の脚部である。

時期：出土遺物から古墳時代とする。



第78図　SK24測量図・出土遺物実測図

（4）中世以降

土坑20基、溝2条、性格不明遺構3基である。

1）土坑（ＳＫ）

ＳＫ1（第79図、図版11）

調査区南西部のＨ11区に位置し、ＳＲ1を切る。平面形態は円形である。規模は長軸0.83ｍ、短軸0.74ｍ、深さ44㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は暗灰褐色土である。掘り方にそって20～30㎝の河原石を積み上げる。井戸遺構の可能性が考えられる。出土遺物は土師器の皿が出土している。

出土遺物（713･714）（第80図）

713は土師器の皿の完形品である。

714は石核である。石材はサヌカイトである。

時期：ＳＲ1を切ることと出土した土師皿の形態より中世の遺構と考えられる。

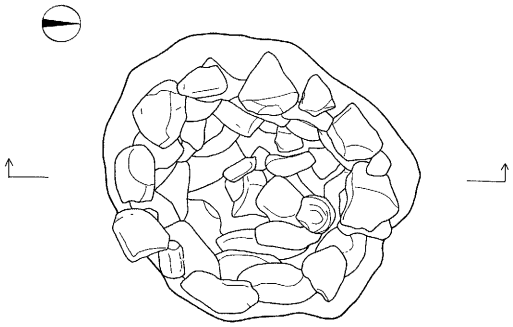
ＳＫ2（第81図）

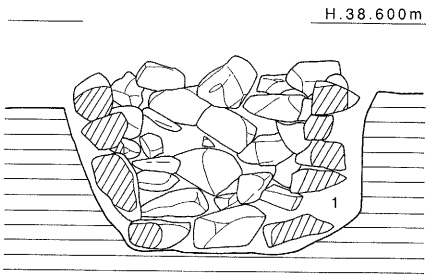
調査区南西部のＧ～Ｈ12区に位置し、ＳＢ1を切る。平面形態は不定形である。規模は長さ1.42ｍ、幅1.06ｍ、深さ34㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は暗灰褐色土（黄色ブロック混）である。出土遺物には弥生土器と須恵器がある。

出土遺物（715～717）（第81図）

715･716は弥生土器である。715は甕形土器の口縁部、716は壺形土器の底部小片である。717は須恵器の坏身の小片である。

時期：検出した埋土より中世以降の土坑と考えられる。

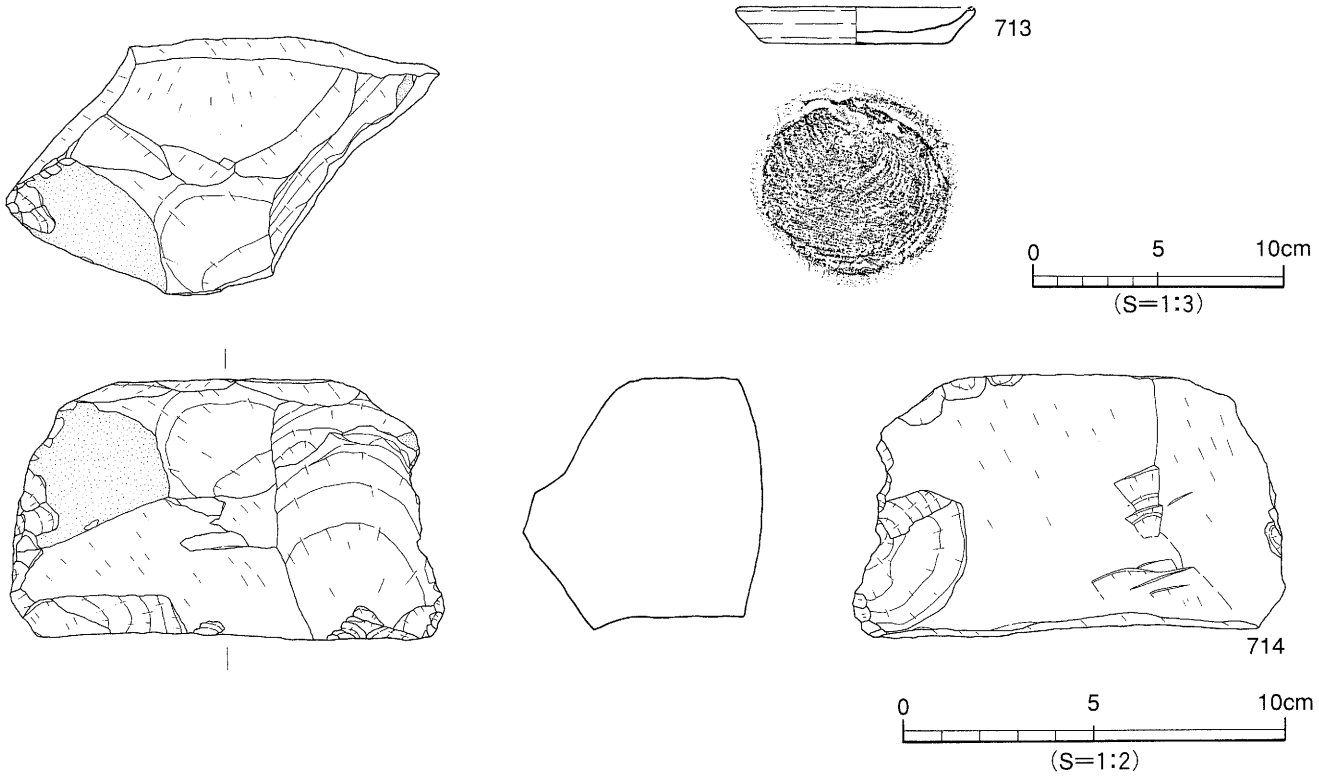




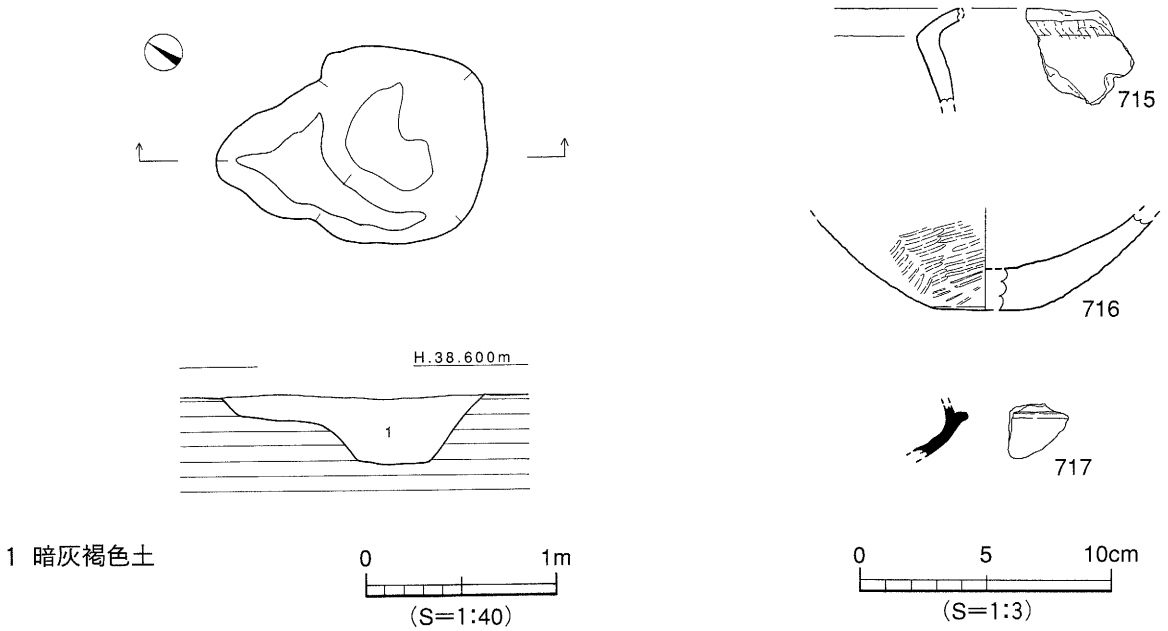
1 灰褐色土

0　50cm
（S=1:20）

第79図　SK１測量図



第80図　SK 1 出土遺物実測図



第81図　SK 2 測量図・出土遺物実測図

ＳＫ3（第82図）

調査区南西部のＧ11～12区に位置し、ＳＢ1を切る。平面形態は円形である。規模は長軸1.07ｍ、短軸1.0ｍ、深さ24㎝を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗灰褐色土（黄色ブロック混）である。出土遺物には土師器がある。

出土遺物（718）（第82図）

718は土師器の高台付坏である。

時期：検出した埋土より中世以降と考えられる。

ＳＫ4（第83図）

調査区西部のＥ10～11区に位置し、ＳＢ2を切る。平面形態は不定形である。規模は長軸1.47ｍ、短軸1.20ｍ、深さ27㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物には弥生土器、須恵器と河原石がある。

出土遺物（719･720）（第83図）

719は弥生土器の壺形土器の口縁部である。720は土釜である。

時期：検出した埋土と出土遺物より中世と考えられる。

ＳＫ5（第84図）

調査区南西部のＦ～Ｇ10区に位置する。平面形態は不定形である。規模は長軸2.55ｍ、短軸2.36ｍ、深さ22㎝を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物には弥生土器と須恵器がある。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。

ＳＫ6（第85図）

調査区中央部北のＣ7～8区に位置し、ＳＢ5を切る。平面形態は楕円形である。規模は長軸2.41ｍ、短軸2.36ｍ、深さ15㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物には弥生土器と土師器がある。

出土遺物（721･722）（第85図）

721･722は土釜である。721は口縁部、722は脚である。

時期：検出した埋土と出土遺物より中世と考えられる。

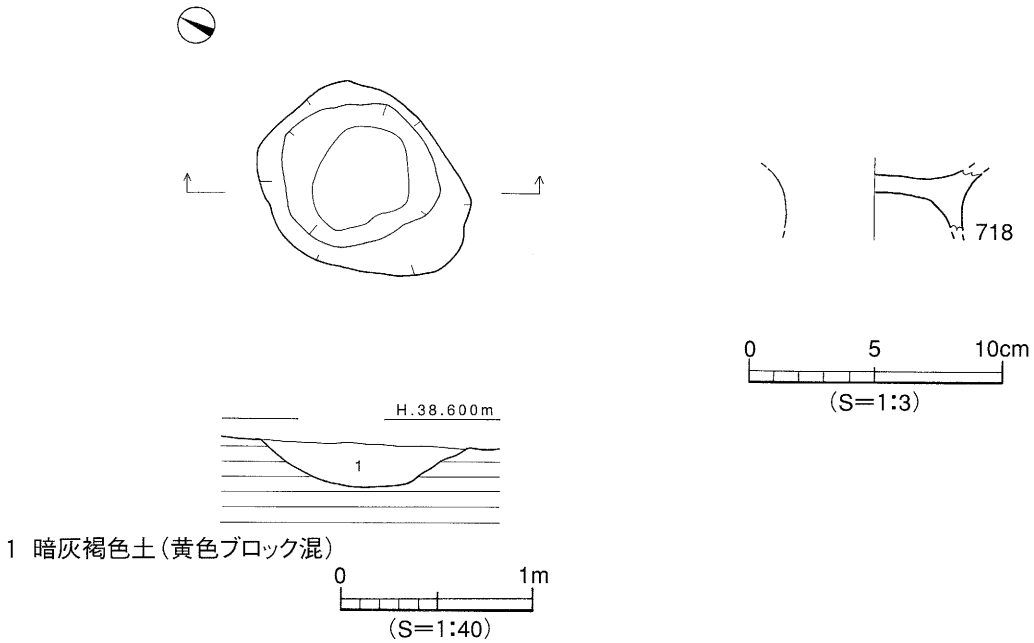
ＳＫ7（第86図）

調査区中央部東のＤ～Ｅ5区に位置し、ＳＢ8を切る。平面形態は不定形である。規模は長軸2.32ｍ、短軸1.80ｍ、深さ25㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は暗灰褐色土である。遺物は掘り方にそって20～40㎝の河原石が出土した。

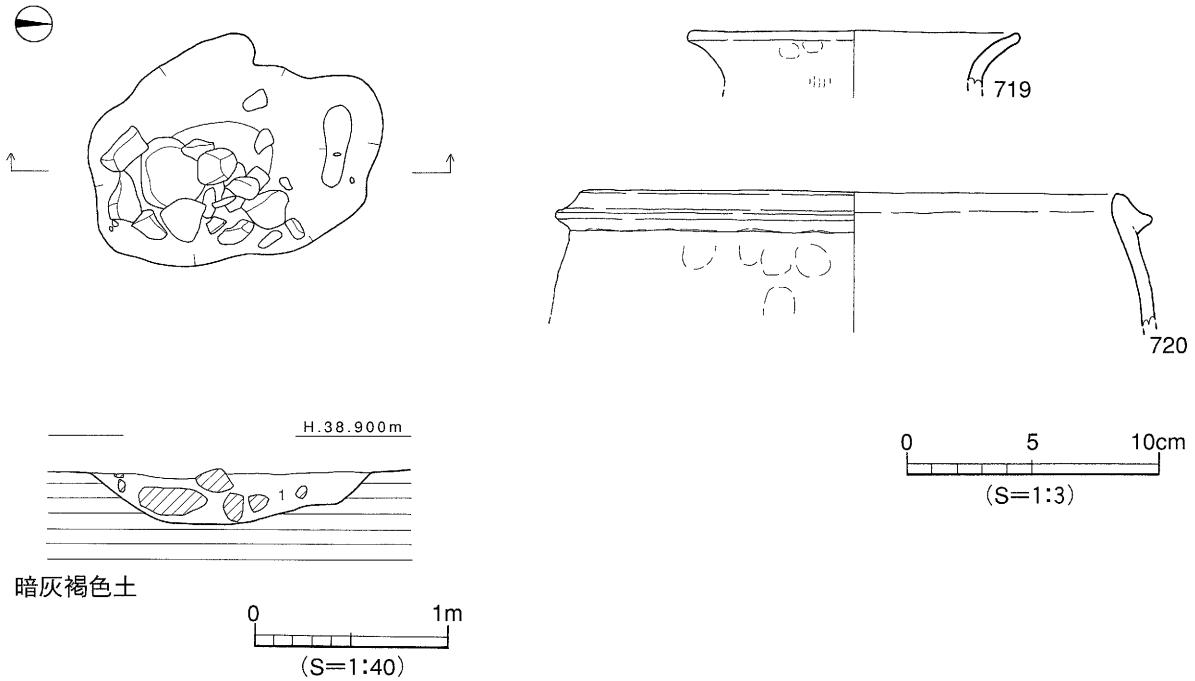
出土遺物（723～728）（第86図）

723は弥生土器の甕形土器である。口縁部は折り曲げ端部は拡張され2条の凹線文、頸部に刻目凸帯文を施す。724～726は土釜である。727はスクレイパーの完形品である。728は器種不明の金属製品。

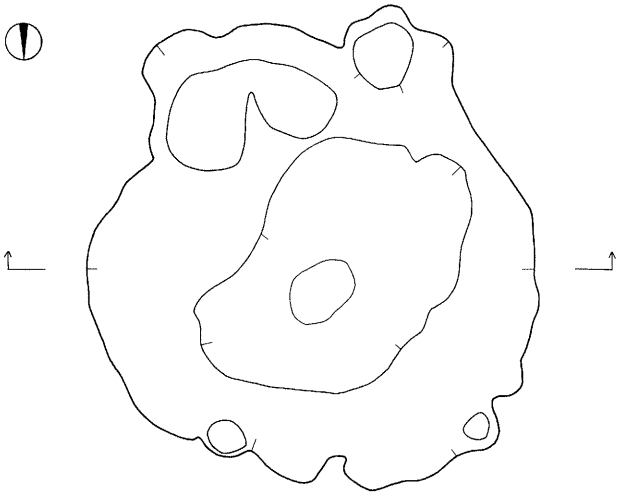
時期：検出した埋土と出土遺物より中世と考えられる。

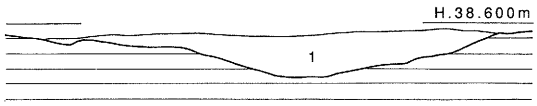


第82図　SK 3 測量図・出土遺物実測図

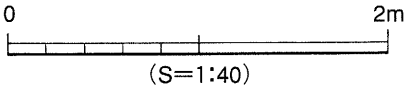


第83図　SK 4 測量図・出土遺物実測図

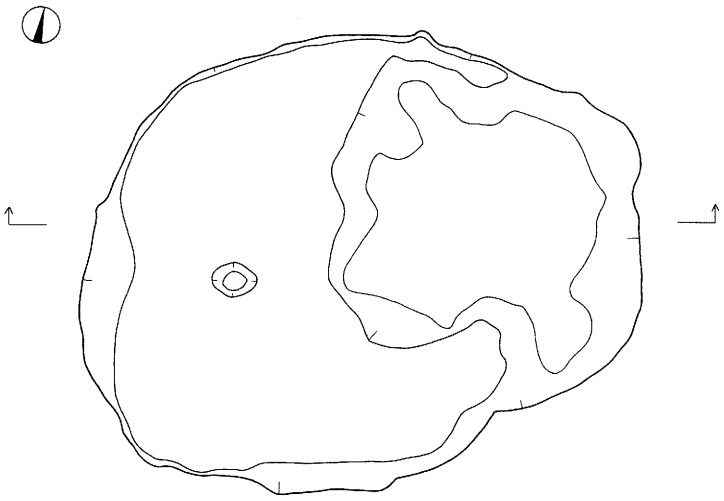


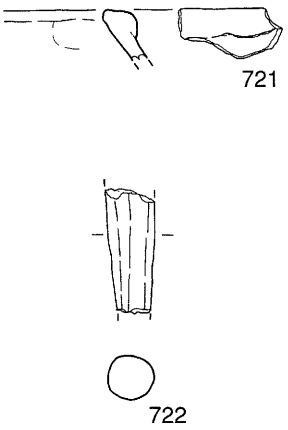


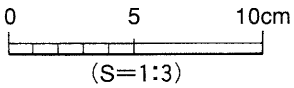
1 暗灰褐色土



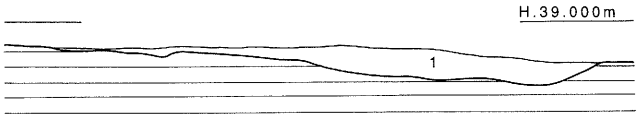
第84図　SK 5 測量図

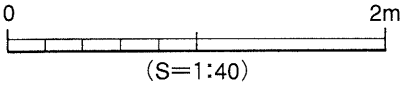




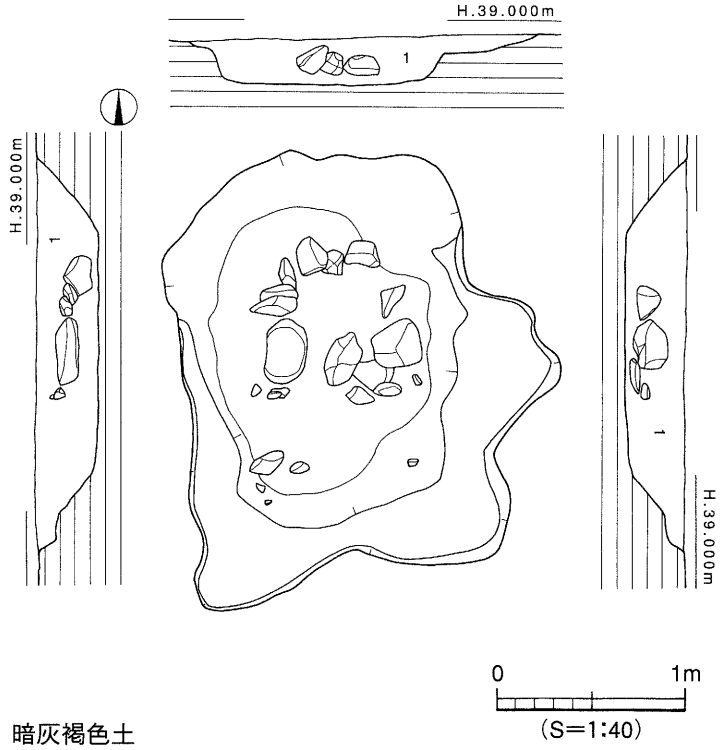


1 暗灰褐色土

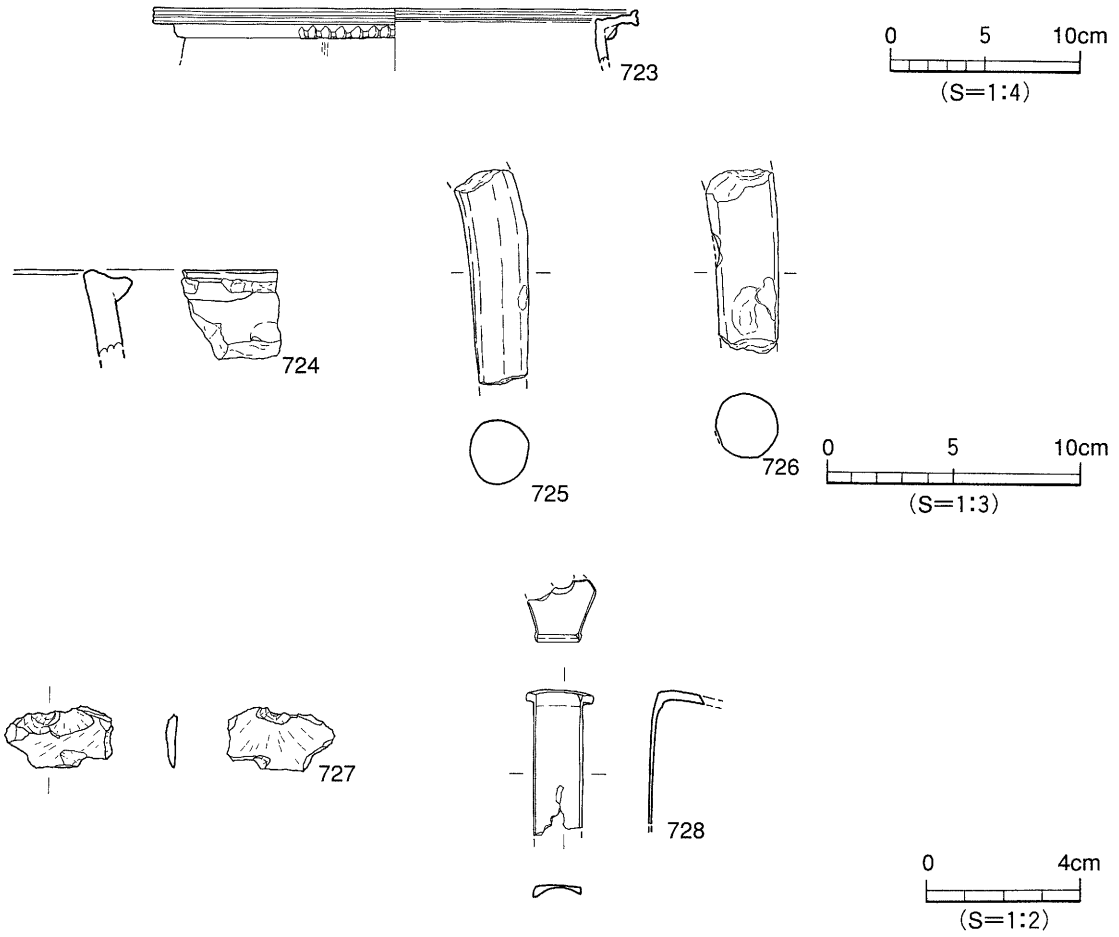




第85図　SK 6 測量図・出土遺物実測図



1 暗灰褐色土



第86図　SK７測量図・出土遺物実測図

ＳＫ8（第87図）

調査区北東部のＣ～Ｄ4区に位置する。平面形態は不定形である。規模は長軸2.27ｍ、短軸1.72ｍ、深さ60㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物には弥生土器と須恵器がある。

出土遺物（729～734）（第87図）

729は土師器の皿である。730～732は須恵器の鉢である。口縁部の小片である。733は土師器の坏口縁部である。734は石製の硯の小片である。

時期：検出した埋土と出土遺物より中世と考えられる。

ＳＫ9（第88図）

調査区北東部のＣ5区に位置し、ＳＢ4・10を切る。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.16ｍ、短軸0.9ｍ、深さ8㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物には弥生土器と須恵器と河原石がある。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。

ＳＫ10（第89図）

調査区北東のＣ5～6区に位置し、ＳＢ4・10を切る。平面形態は不定形である。規模は長軸2.25ｍ、短軸1.72ｍ、深さ18㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物には10～30㎝の河原石がある。

出土遺物（735～739）（第90図）

735は擂鉢である。736～738は土釜である。739は石器素材である。材質は結晶片岩である。

時期：検出した埋土と出土遺物より中世と考えられる。

ＳＫ11（第91図）

調査区北西部のＢ11区に位置する。平面形態は北側が調査区外に続くため明確ではないが南側の形状より楕円形と考えられる。規模は長軸1.26＋αｍ、短軸1.27ｍ、深さ9㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物は土師器、須恵器と10～40㎝の河原石多数が出土した。

出土遺物（740～746）（第92図）

740･741は須恵器の坏蓋である。742～744は土釜である。745は羽釜である。746は平瓦の小片である。

時期：検出した埋土と出土遺物より中世と考えられる。

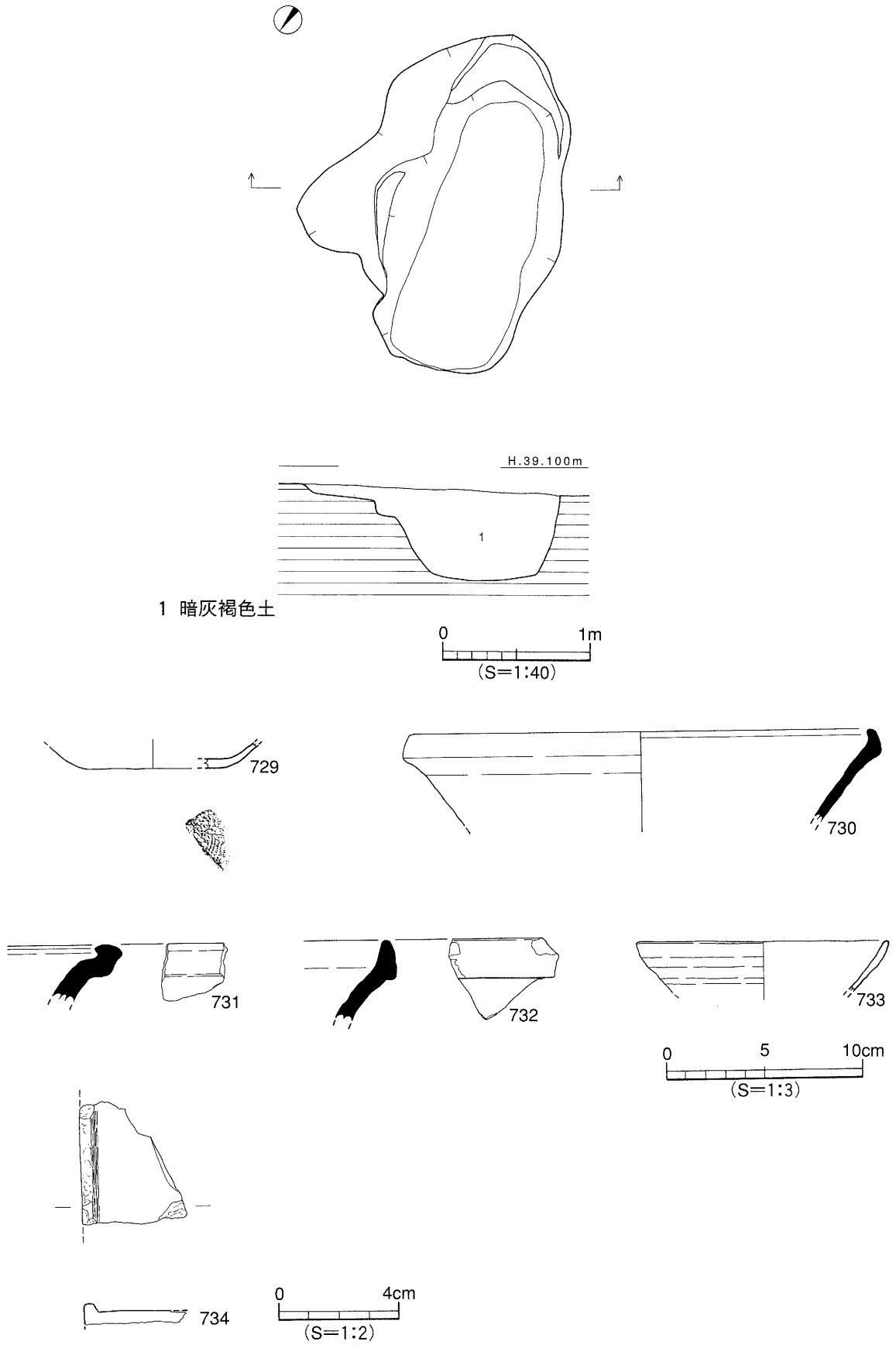
ＳＫ12（第93図）

調査区中央部西のＤ9区に位置し、ＳＸ1を切る。平面形態は不定形である。規模は長軸2.47ｍ、短軸1.97ｍ、深さ55㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は暗灰褐色土（黄色砂質ブロック混）である。出土遺物には須恵器と弥生土器がある。

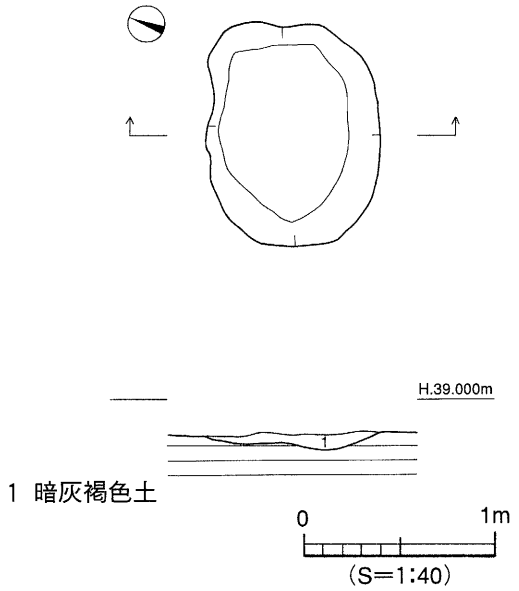
出土遺物（747）（第93図）

747は須恵器の小壺である。

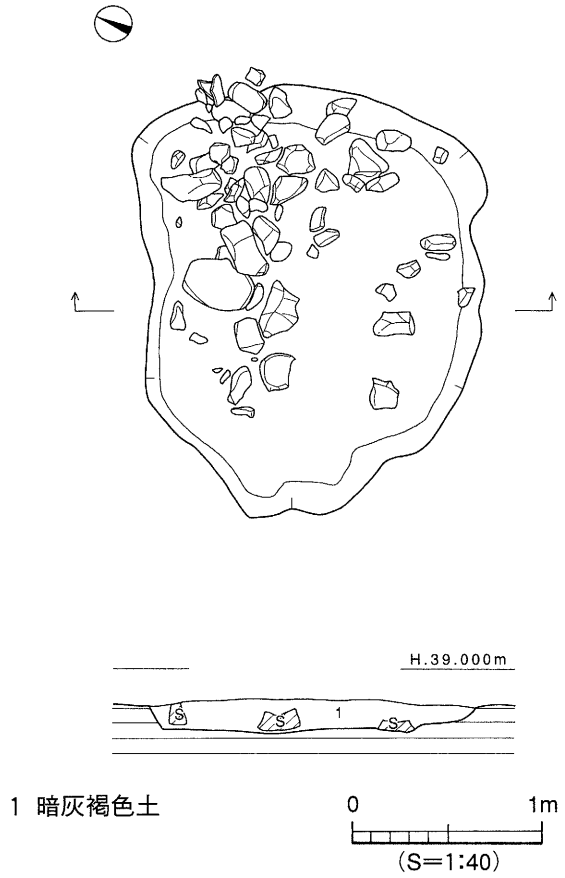
時期：検出した埋土より中世と考えられる。



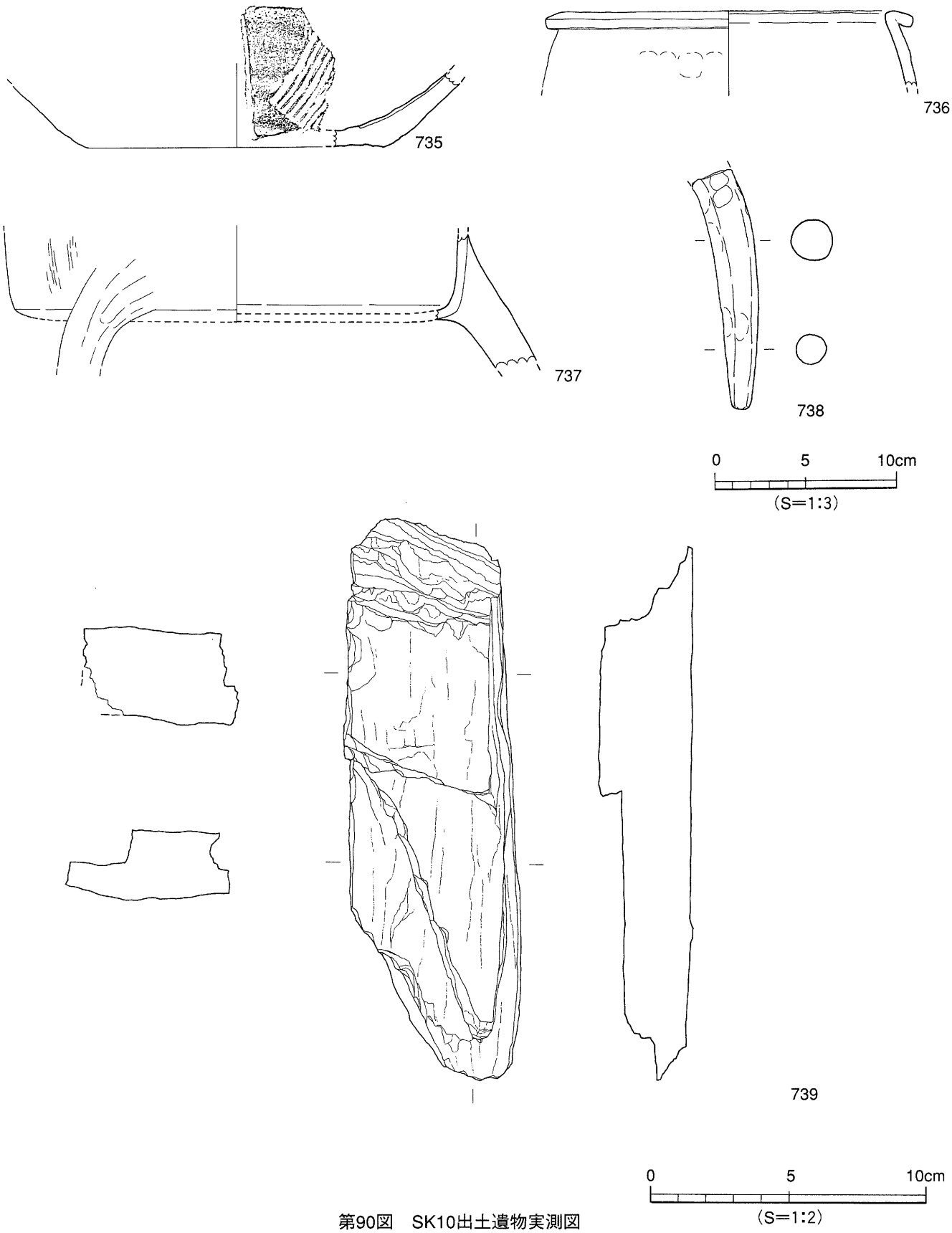
第87図　SK 8 測量図・出土遺物実測図



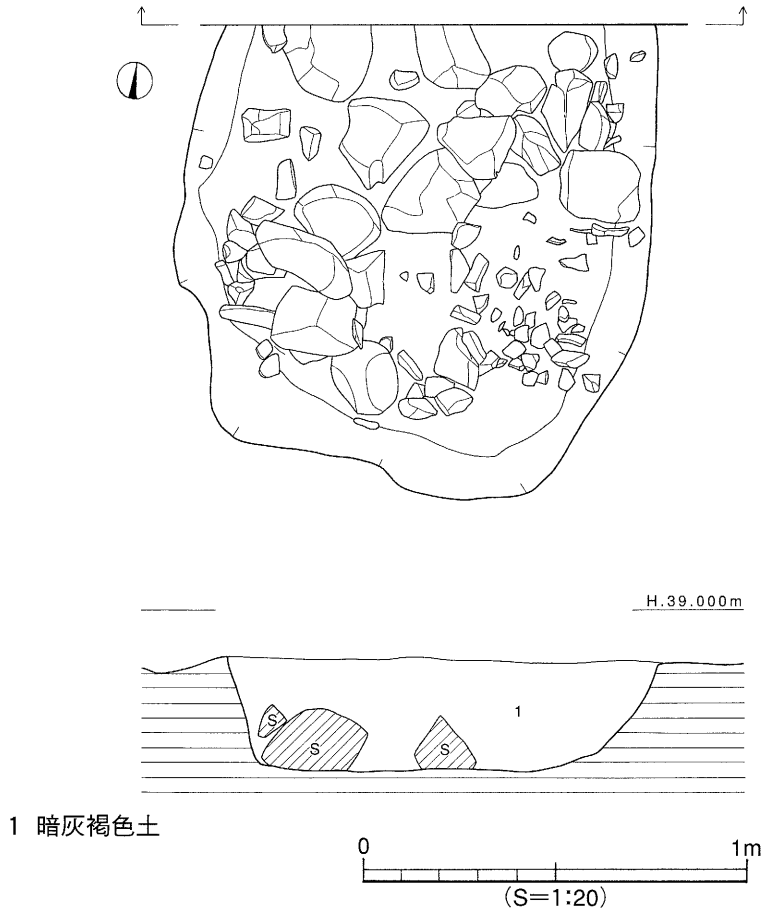
第88図　SK 9 測量図



第89図　SK10測量図



第90図　SK10出土遺物実測図



第91図　SK11測量図

ＳＫ13（第94図）

調査区中央部のＥ～Ｆ8区に位置し、ＳＤ1を切る。平面形態は楕円形である。規模は長軸1.60ｍ、短軸1.10ｍ、深さ7㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物はない。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。

ＳＫ14（第95図）

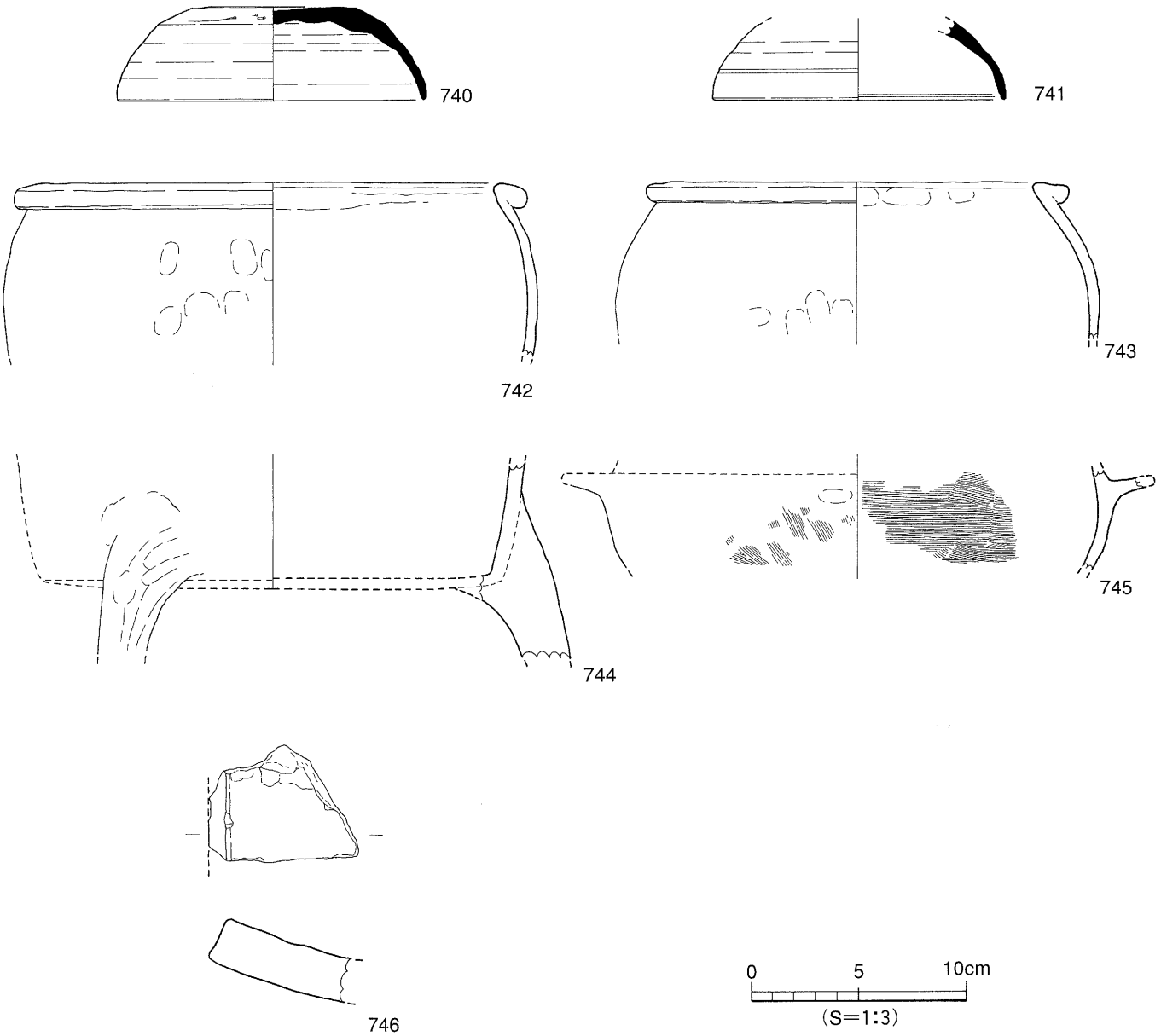
調査区北西部のＢ6区に位置しＳＢ10を切る。平面形態は方形である。規模は長さ0.75ｍ、幅0.54ｍ、深さ15㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物には弥生土器と河原石がある。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。

ＳＫ19（第96図）

調査区中央部東のＥ4区に位置し、ＳＢ9を切る。平面形態は方形である。規模は長さ1.00ｍ、幅0.97ｍ、深さ22㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は灰褐色土（黄色ブロック混）である。出土遺物はない。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。



第92図　SK11出土遺物実測図

ＳＫ23（第97図）

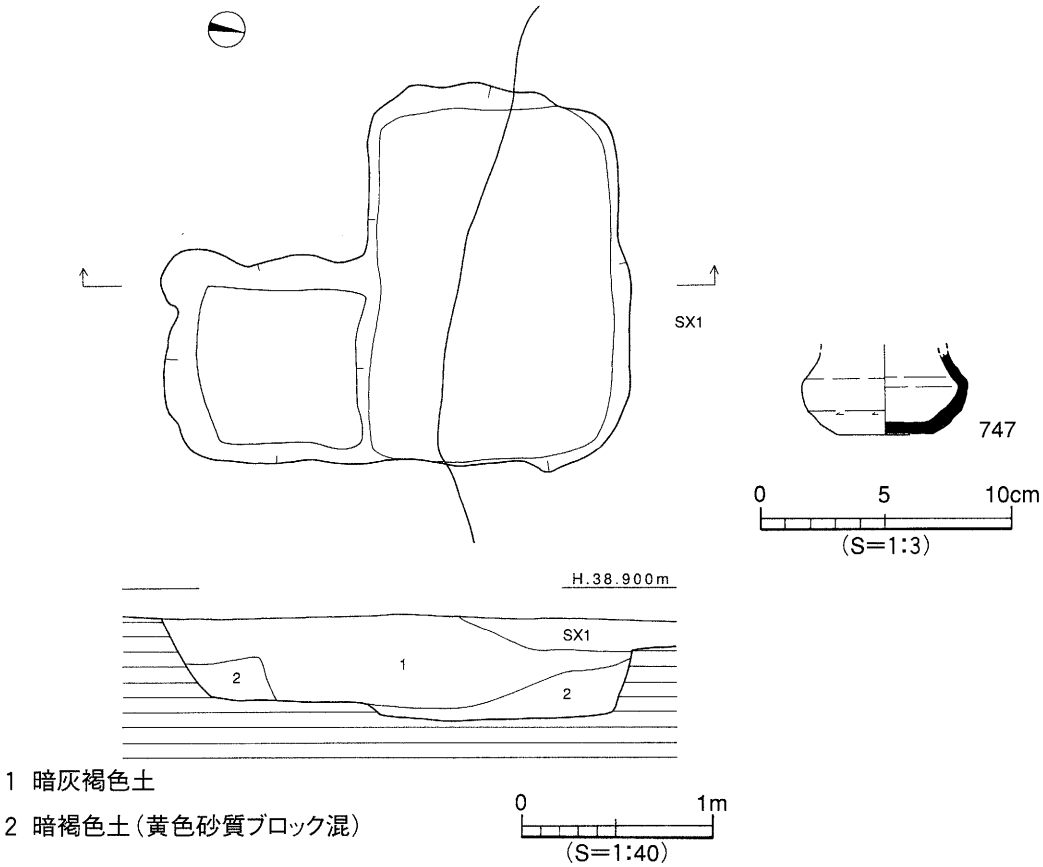
調査区東部のＥ1区に位置する。平面形態は円形である。規模は長軸0.90ｍ、短軸0.77ｍ、深さ36㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物には弥生土器と須恵器がある。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。

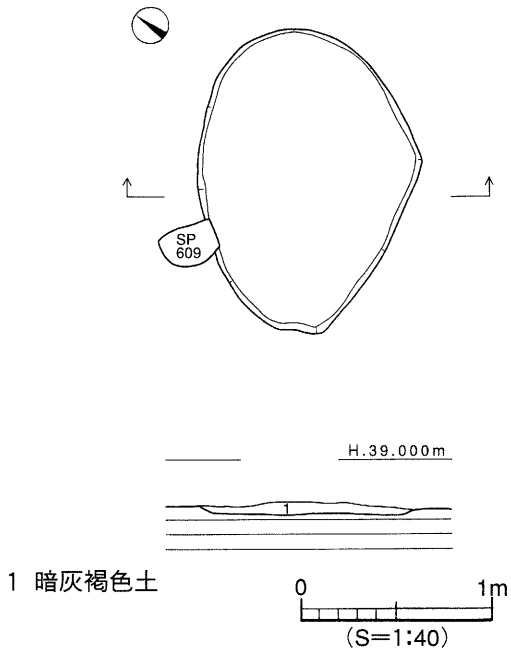
ＳＫ25（第98図）

調査区中央部のＥ5区に位置し、ＳＫ26に切られる。平面形態は方形である。規模は長さ1.15ｍ、幅0.90ｍ、深さ27㎝を測る。断面形態は逆台形状である。埋土は暗灰褐色土（砂混じり）である。出土遺物には弥生土器がある。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。



第93図　SK12測量図・出土遺物実測図

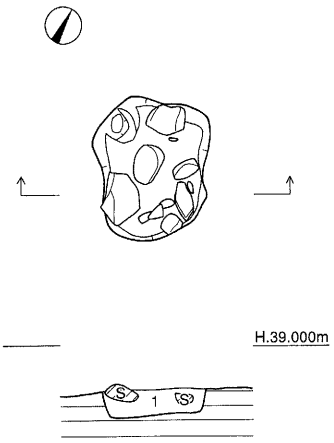


第94図　SK13測量図

ＳＫ26（第98図）

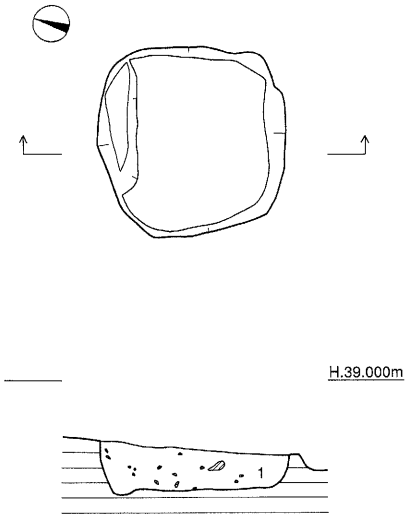
調査区中央部のＥ5区に位置し、ＳＫ25を切る。平面形態は方形である。規模は長さ0.91ｍ、幅0.74ｍ、深さ10㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物には弥生土器と須恵器がある。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。



1 暗灰褐色土

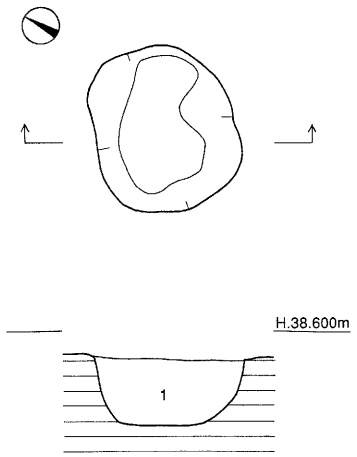
第95図　SK14測量図



1 灰褐色土
（黄色ブロック混）

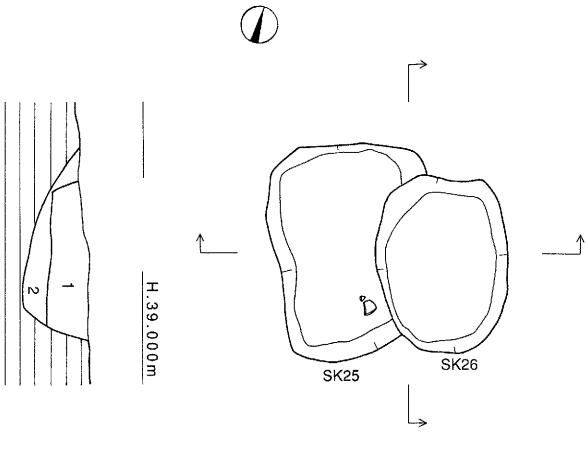
0　1m
（S=1:40）

第96図　SK19測量図



1 暗灰褐色土

第97図　SK23測量図



1 暗灰褐色土
2 暗灰褐色土（砂混り）

0　1m
（S=1:40）

第98図　SK25・26測量図

ＳＫ27（第99図）

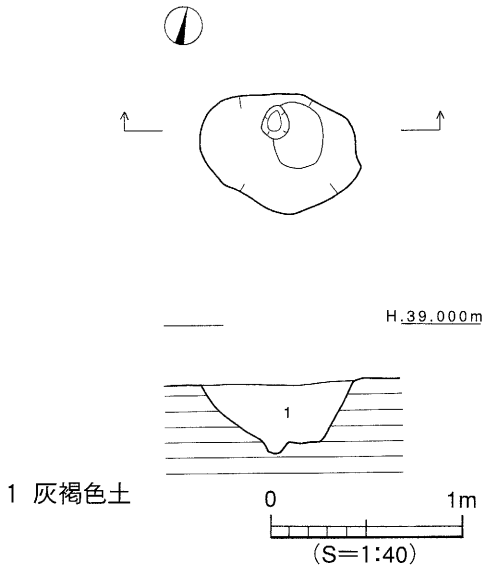
調査区北部のＢ～Ｃ6区に位置し、ＳＢ10を切る。平面形態は楕円形である。規模は長軸0.77ｍ、短軸0.60ｍ、深さ34㎝を測る。断面形態は舟底状である。埋土は灰褐色土である。出土遺物には河原石がある。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。

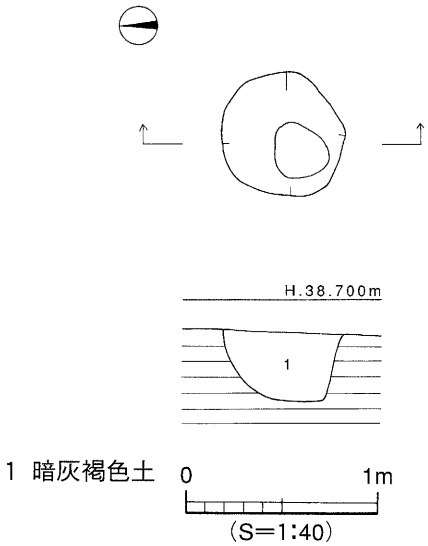
ＳＫ29（第100図）

調査区南西部のＧ11･12区に位置し、ＳＢ1を切る。平面形態は円形である。規模は径60㎝、深さ35㎝を測る。断面形態は「Ｕ」字状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物はない。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。



第99図　SK27測量図



第100図　SK29測量図

2）溝（ＳＤ）

ＳＤ2（第3図）

調査区西部のＣ12～Ｆ11区に位置し、ＳＤ1とＳＫ16を切り「Ｌ」字状に屈曲する溝である。規模は検出長15.3ｍ、幅1.3ｍ、深さ5㎝を測る。断面形態は皿状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物はない。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。

ＳＤ3（第3図）

調査区西部のＦ12区に位置し、ＳＢ1とＳＤ1を切る。規模は検出長4.2ｍ、幅1.0ｍ、深さ7㎝を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物はない。

時期：検出した埋土より中世と考えられる。

3）性格不明遺構（ＳＸ）

ＳＸ1（第3図）

調査区北西部に位置しＳＢ3、ＳＫ12･ＳＫ18を切る。平面形態は不整形な溝状に広い範囲に浅く広がる。埋土は灰褐色土である。出土遺物には土師器と須恵器がある。

出土遺物（748～769）（第101図）

748･749は弥生土器の壺形土器である。750～754は土師器である。750･752･753は皿である。751は坏である。754は甑の把手である。755～765は土師器である。766～768は擂鉢である。769は高台埦である。

時期：検出した埋土と出土遺物より中世と考えられる。

ＳＸ2（第102図）

調査区北東部のＢ４～Ｃ５区に位置する。平面形態は不整形である。規模は長さ4.4ｍ、幅2.8ｍ、深さ30cｍを測る。埋土は灰褐色土である。出土遺物には土師器がある。

出土遺物（770）（第102図）

770はこね鉢である。

時期：検出した埋土と出土遺物より中世と考えられる。

ＳＸ3（第103図）

調査区北東部のＢ5･6区に位置しＳＢ6を切る。平面形態は方形である。規模は長さ2.5ｍ、幅2.4ｍ、深さ10㎝を測る。埋土は灰褐色土である。出土遺物には鉄製品がある。

出土遺物（771）（第103図）

771は元祐通寶である。

時期：検出した埋土と出土遺物より中世以降と考えられる。

4）柱穴（ＳＰ）（第104･105図）

柱穴は調査区北側で多数検出した。柱穴埋土は灰褐色土と暗灰褐色土と暗褐色土に分けられる。柱穴内からは弥生土器、須恵器、土師器が出土し、ＳＰ126からは土師器と古銭、ＳＰ146からは古銭が出土した。

ＳＰ126出土遺物（772～780）（第104図）

772･773は土師器の坏である。774～780は銭貨である。774は元豊通寶である。775･776は天聖元寶である。777は元祐通寶である。778と780は紹聖元寶である。779は洪武通寶である。

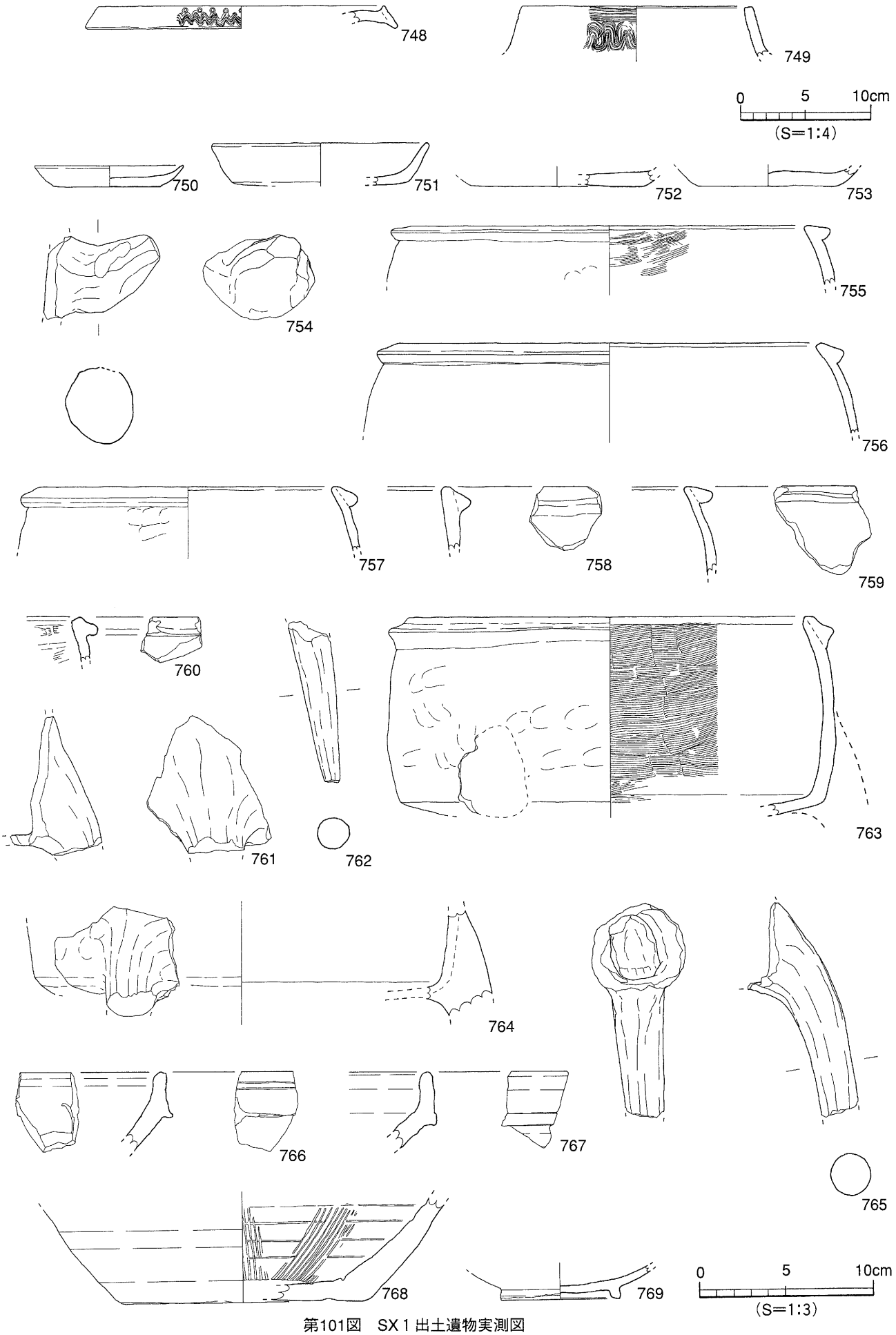
ＳＰ146出土遺物（781）（第105図）

781は永楽通寶である。

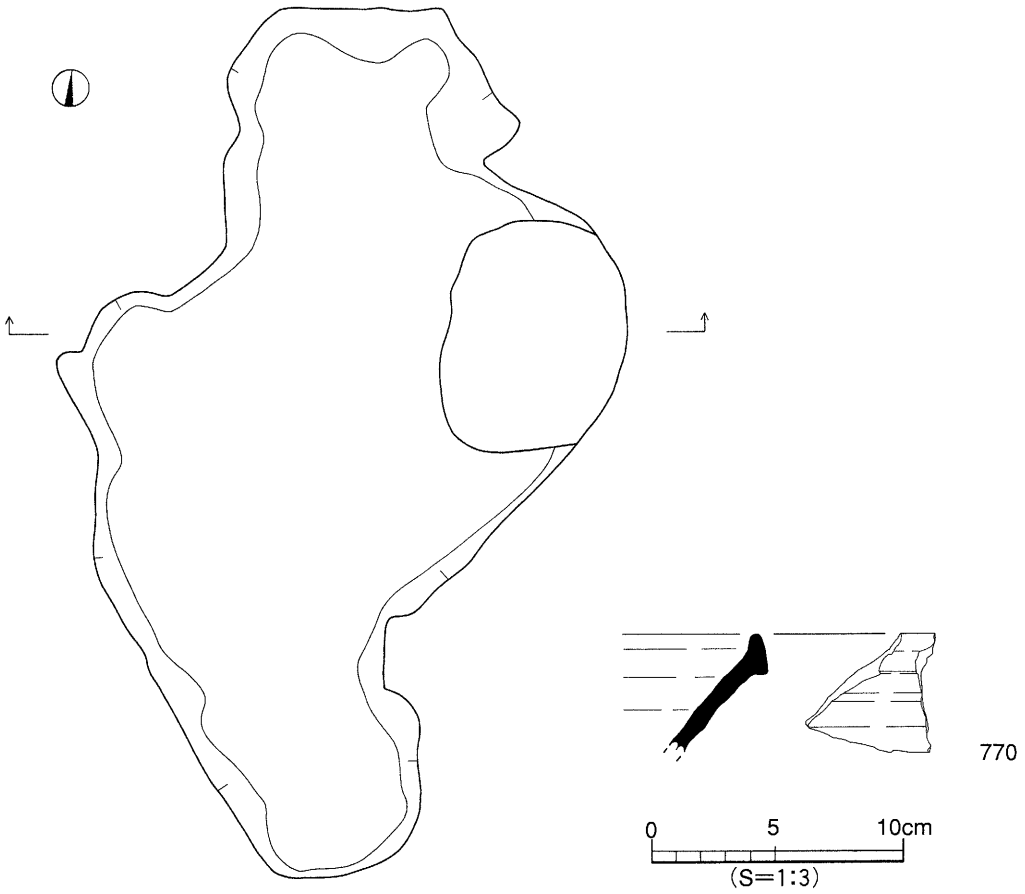
ＳＰ出土遺物（782～801）（第106･107図）

弥生土器（782～787）　782･783は甕形土器である。784～787は壺形土器である。

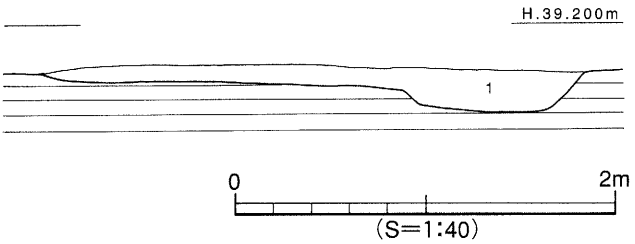
土師器（788～792）　788～791は甕形土器の口縁部である。792は鉢形土器である。



第101図　SX１出土遺物実測図



1 灰褐色土



第102図　SX 2 測量図・出土遺物実測図

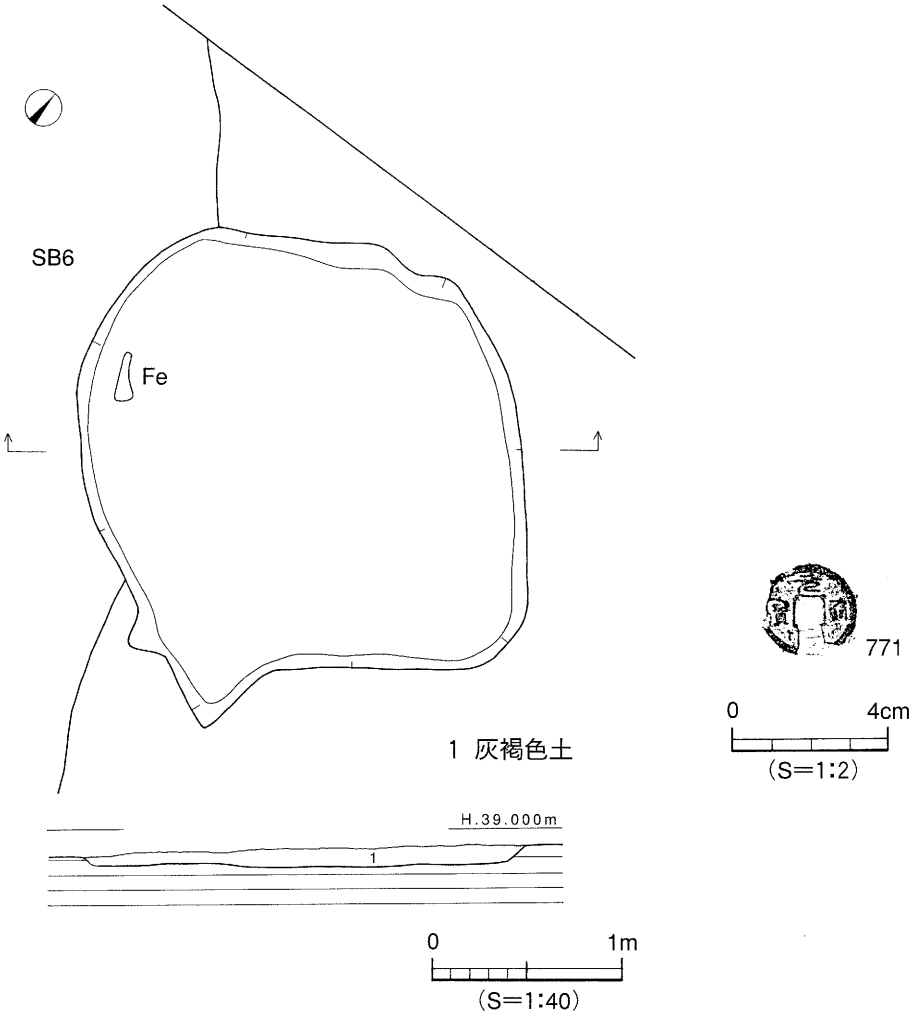
須恵器（793～795）　793は坏蓋である。794･795は坏身である。

796は土鍋である。797は輸入陶磁器の椀である。

石製品（798～801）　798は器種不明である。799は紡錘車である。材質は滑石である。800はスクレイパーである。材質はサヌカイトである。801は器種不明である。外面に煤が付着している。

（5）Ⅳ層出土遺物（802～809）（第108図）

802は弥生土器の高坏形土器である。803は土師器の甕形土器である。804･805は須恵器である。804は壺形土器である。805は高台坏である。806は甑の把手である。807は土釜である。808は土錘である。809は輸入陶磁器の椀である。



第103図　SX 3 測量図・出土遺物測図

(6) V層出土遺物 (810～839) (第109·110図)

弥生土器 (810～818)　810·811は甕形土器の口縁部である。812～816は壺形土器である。817は支脚形土器である。818は紡錘車の未成品である。

土師器 (819～827)　819·820は甕形土器の口縁部である。821は壺形土器の口縁部である。822·823は甑形土器の把手部である。824·825は土釜の口縁部である。826は茶釜の底部である。827は土釜の脚部である。

須恵器 (828～836)　828～830は坏蓋である。831～833は坏身である。834·835は高台坏である。836は壺形土器の口縁部である。

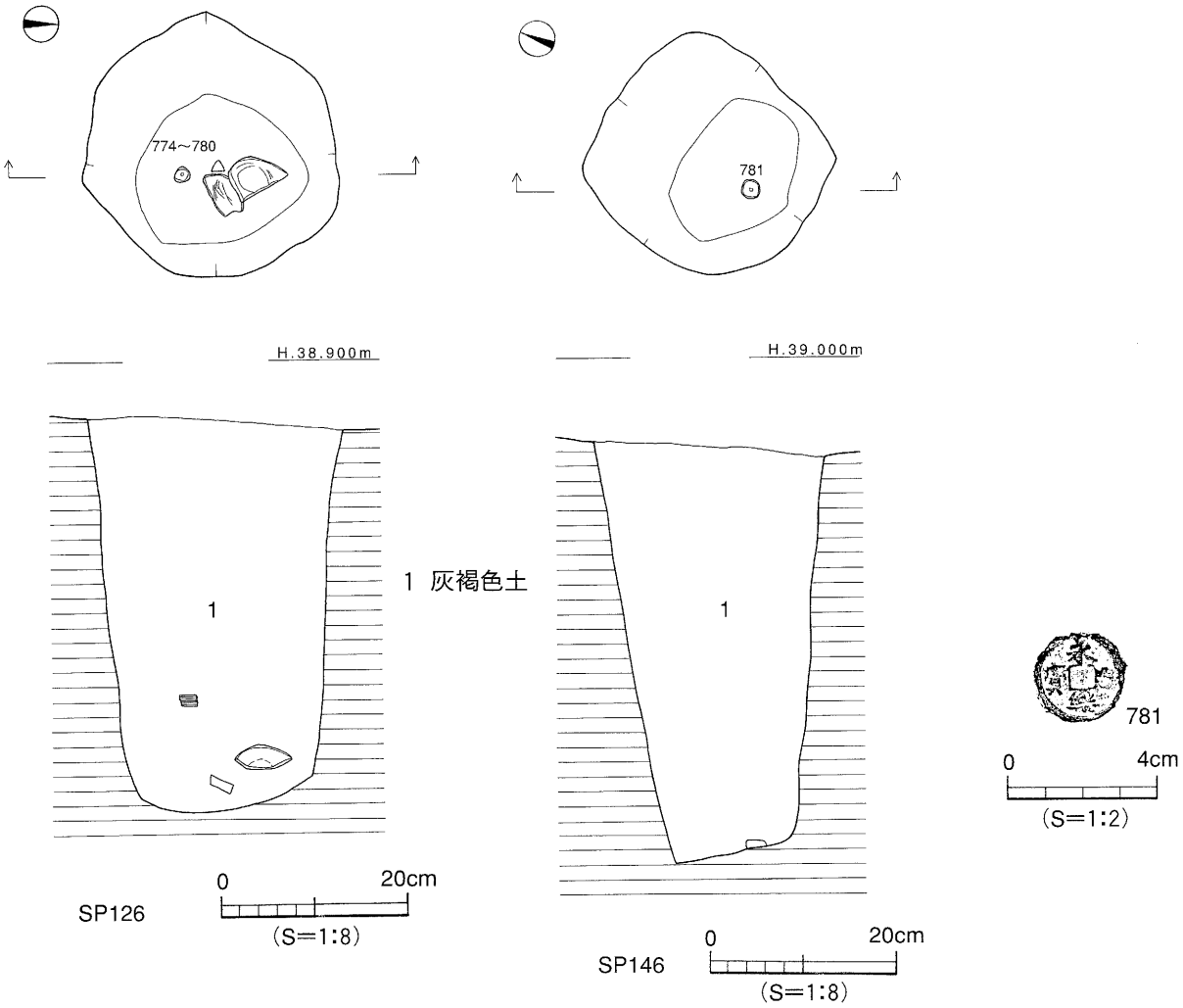
837は緑釉陶器の皿である。

石製品 (838·839)

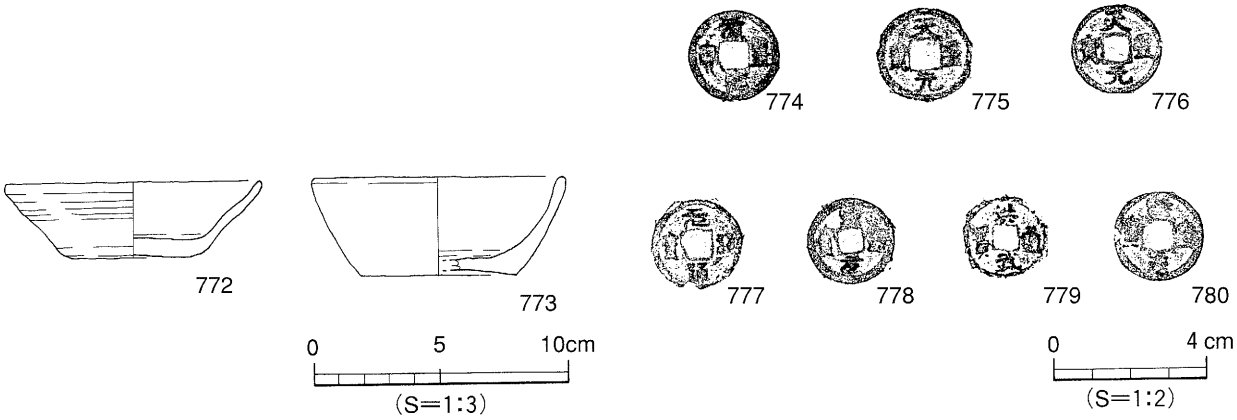
838は砥石と思われる。839は扁平片刃石斧と思われる。材質は結晶片岩である。

(7) その他・層位不明出土遺物 (840～842) (第112·113図)

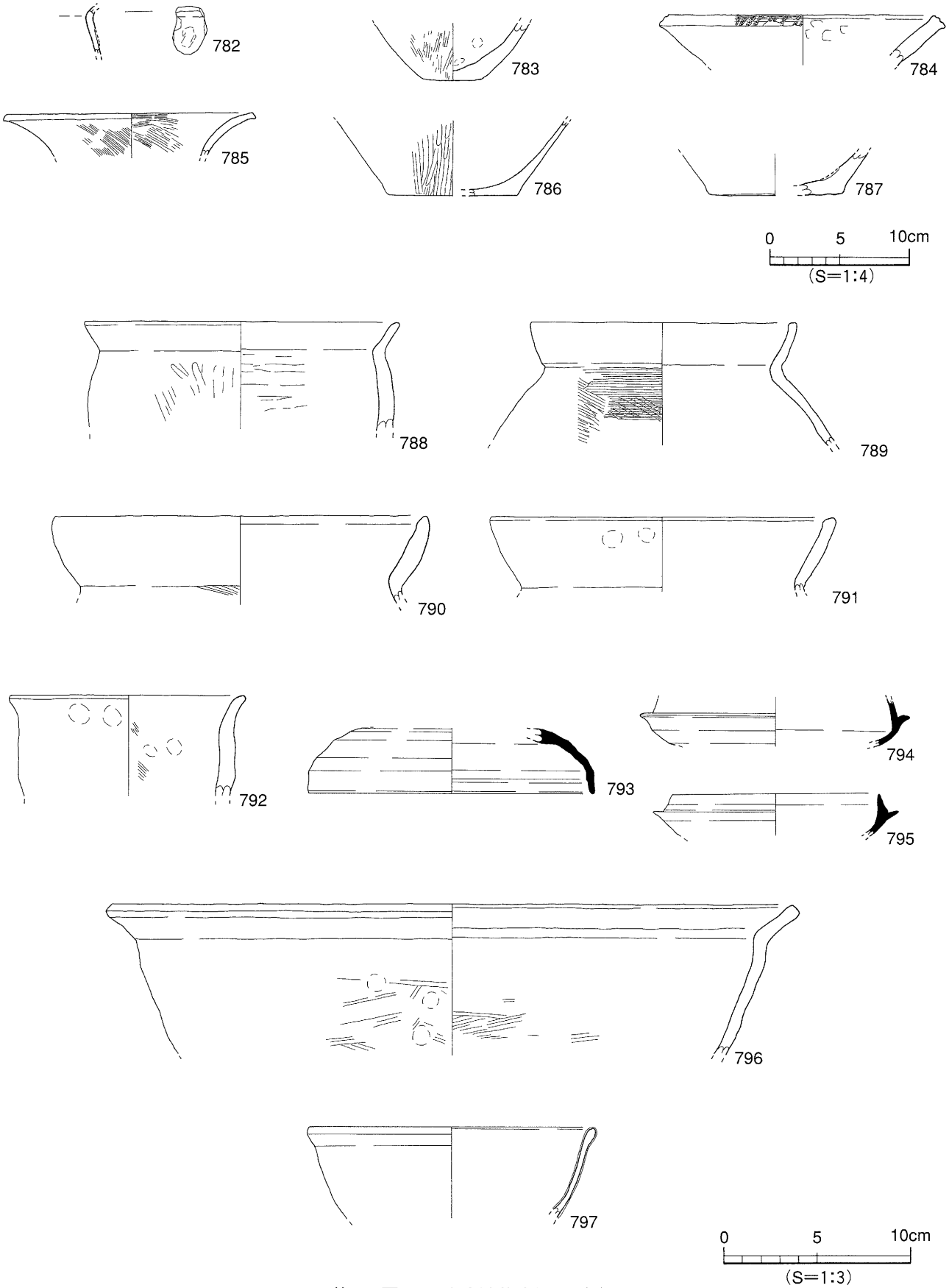
840は石鏃である。材質はサヌカイトである。841は不明石器である。842は片刃石斧である。



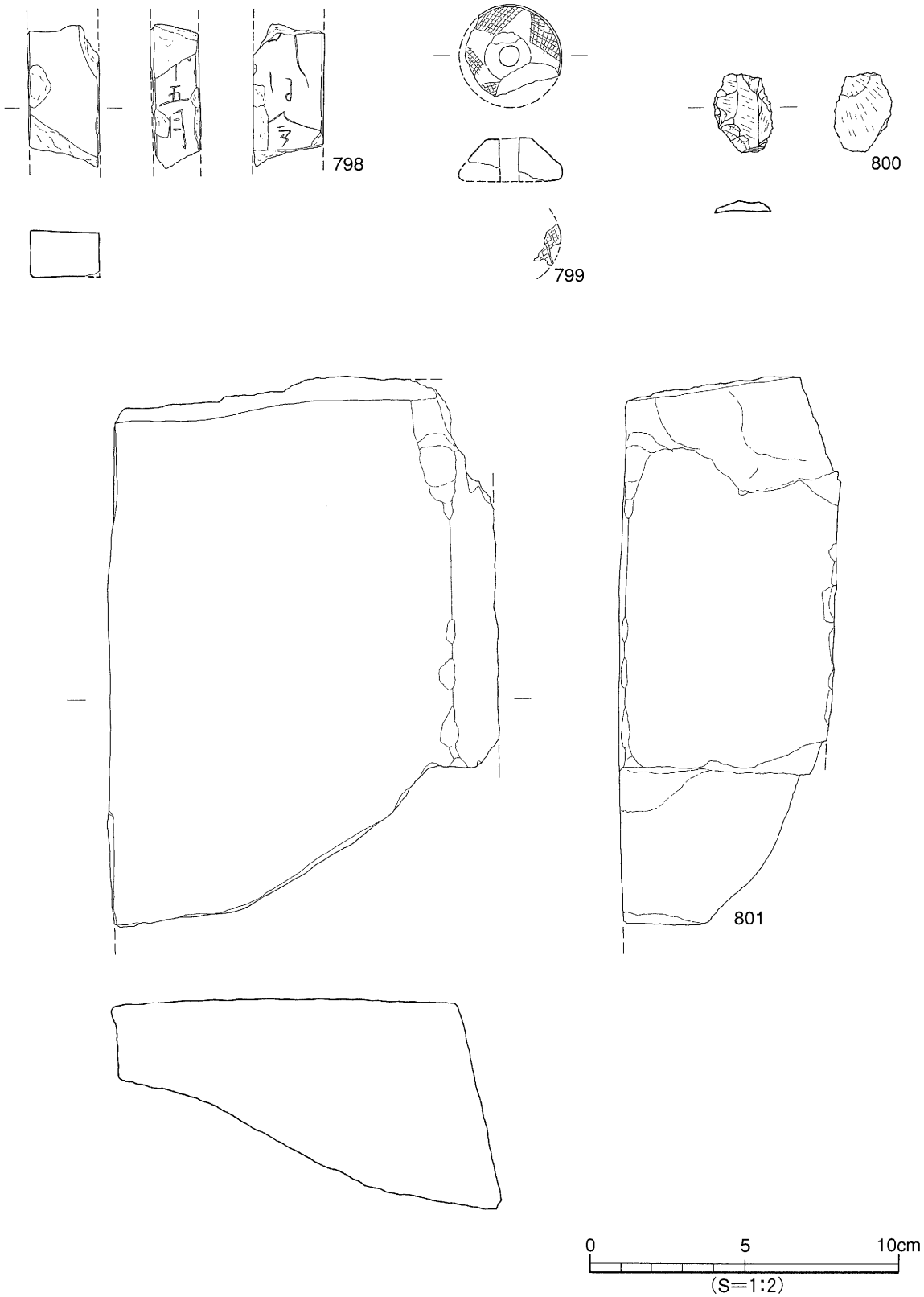
第105図　SP146測量図・出土遺物実測図



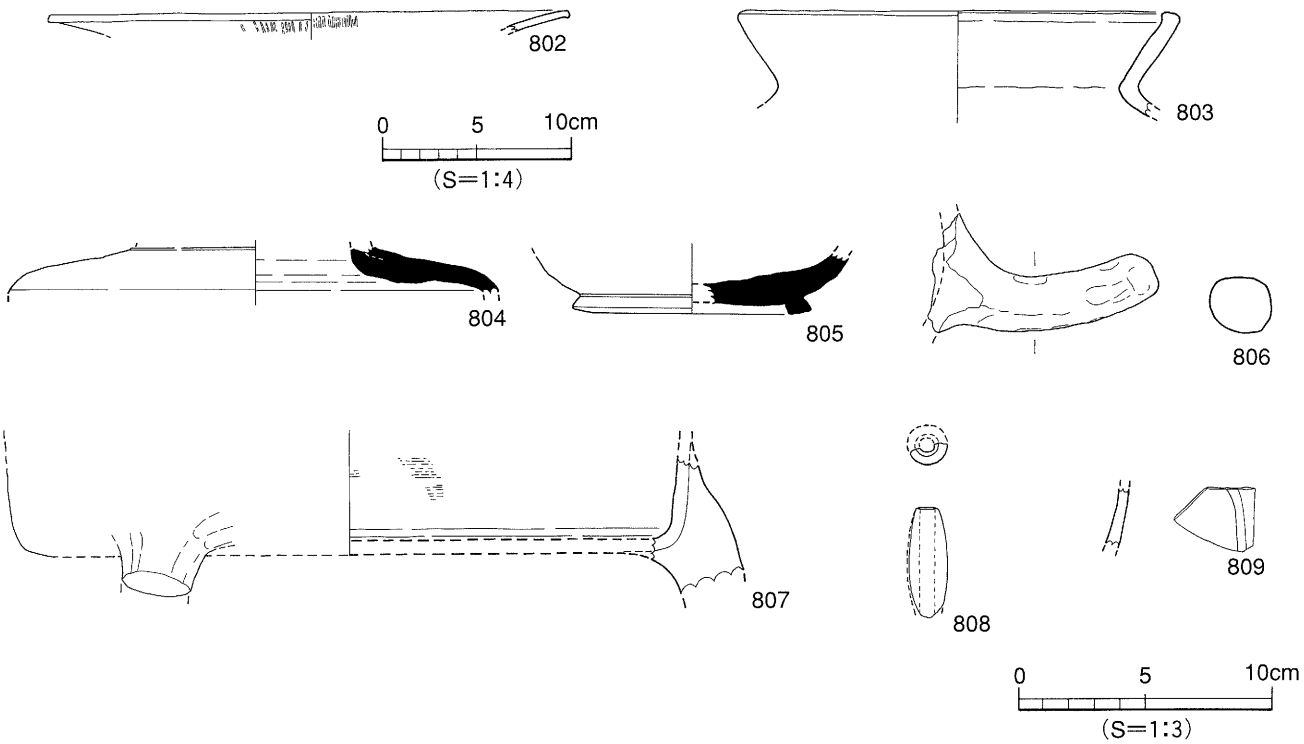
第104図　SP126測量図・出土遺物実測図



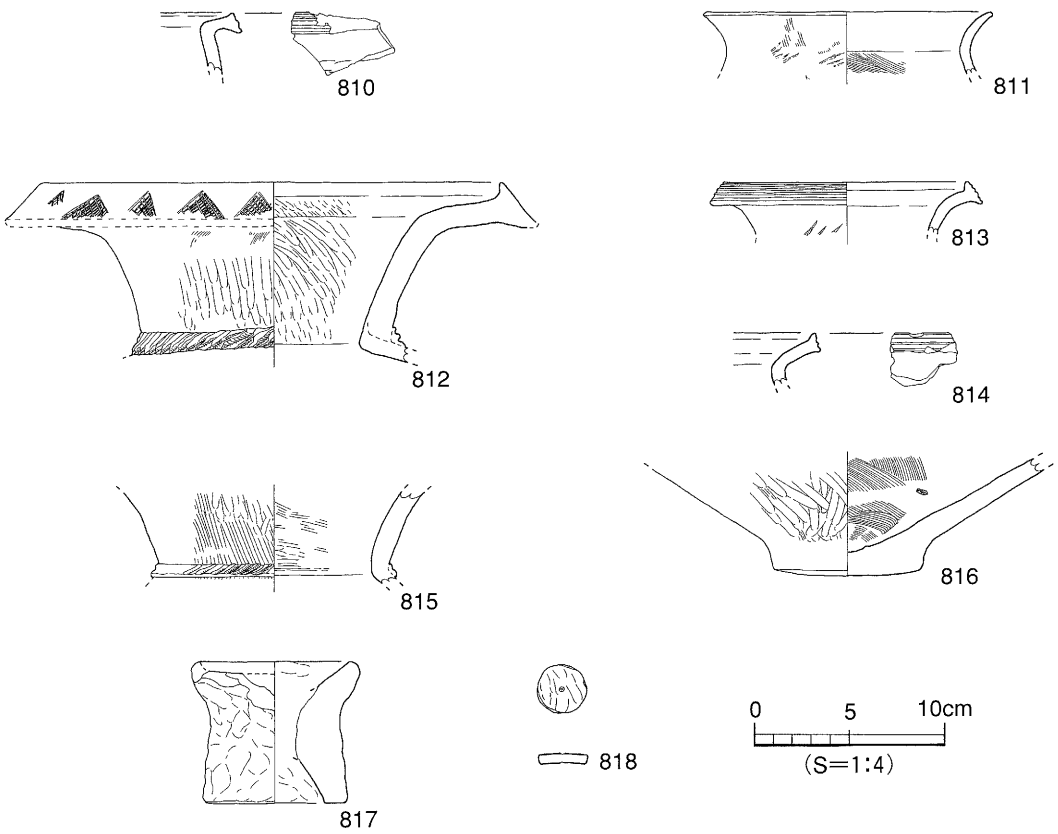
第106図　SP出土遺物実測図（1）



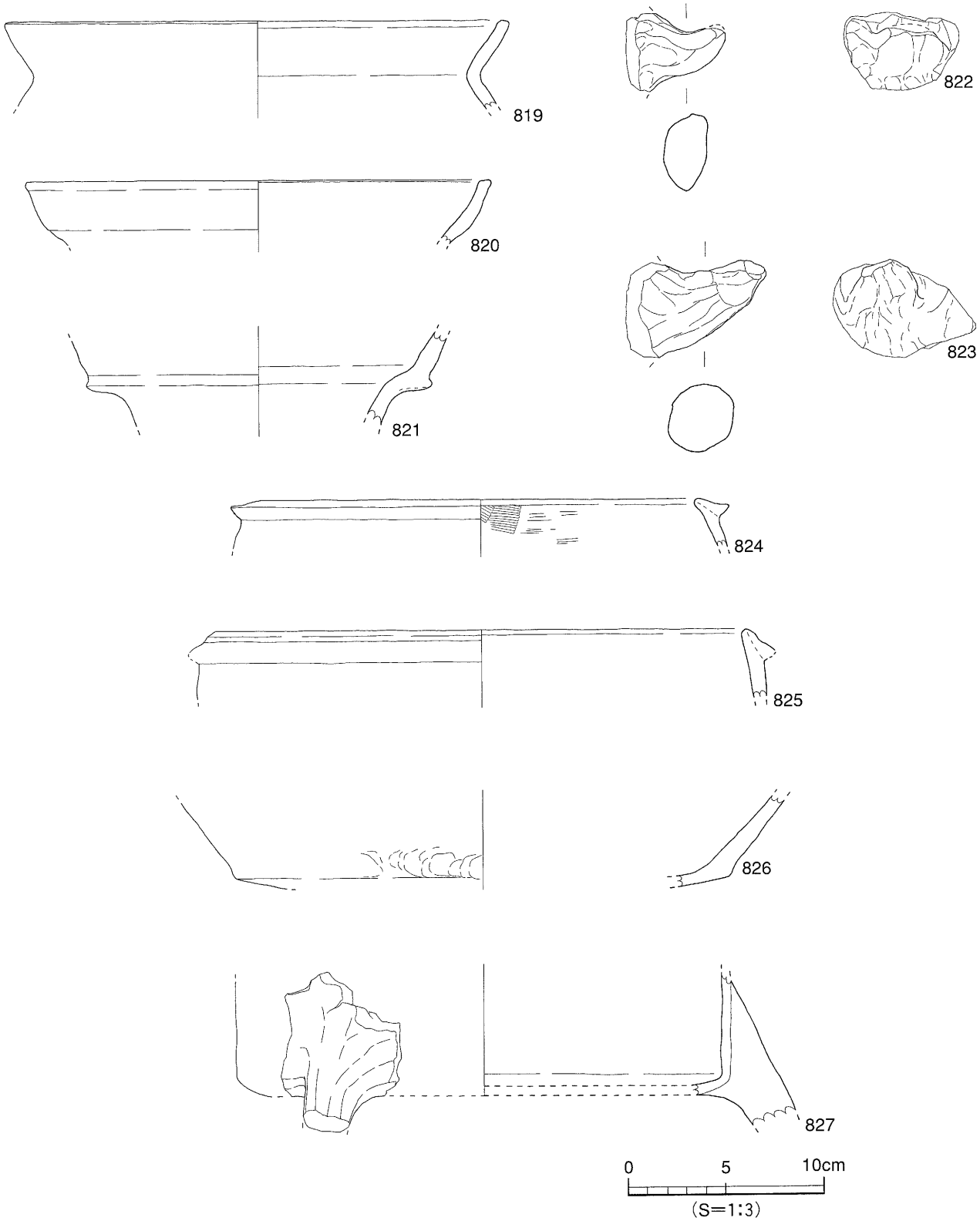
第107図　SP出土遺物実測図（2）



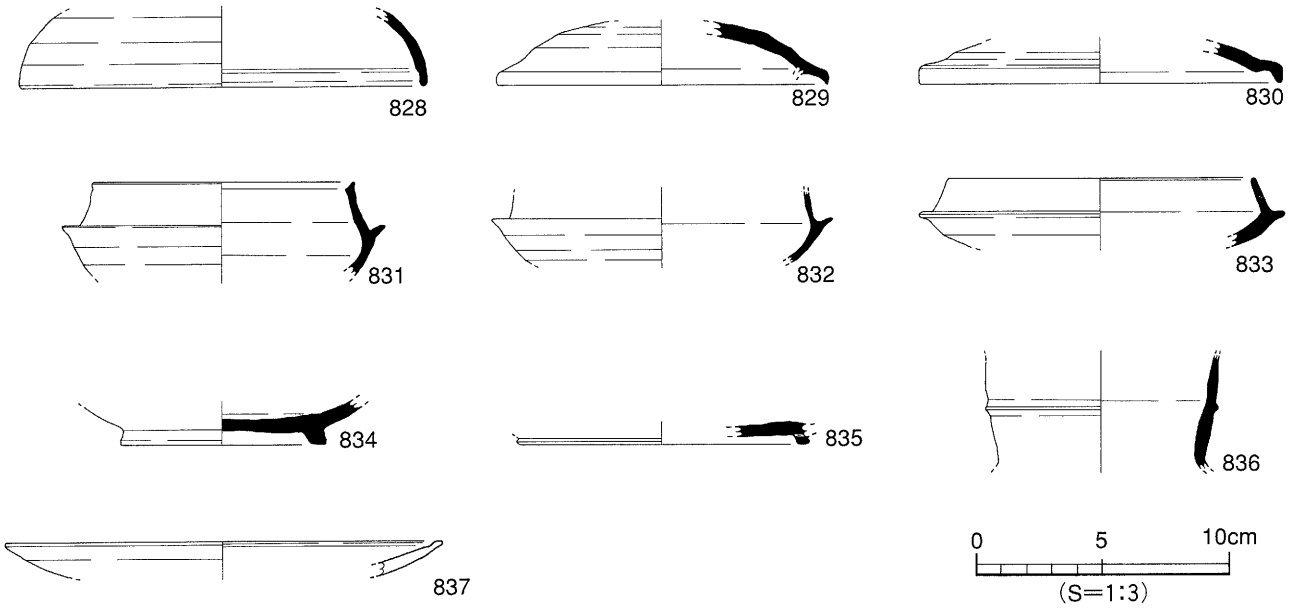
第108図　第Ⅳ層出土遺物実測図

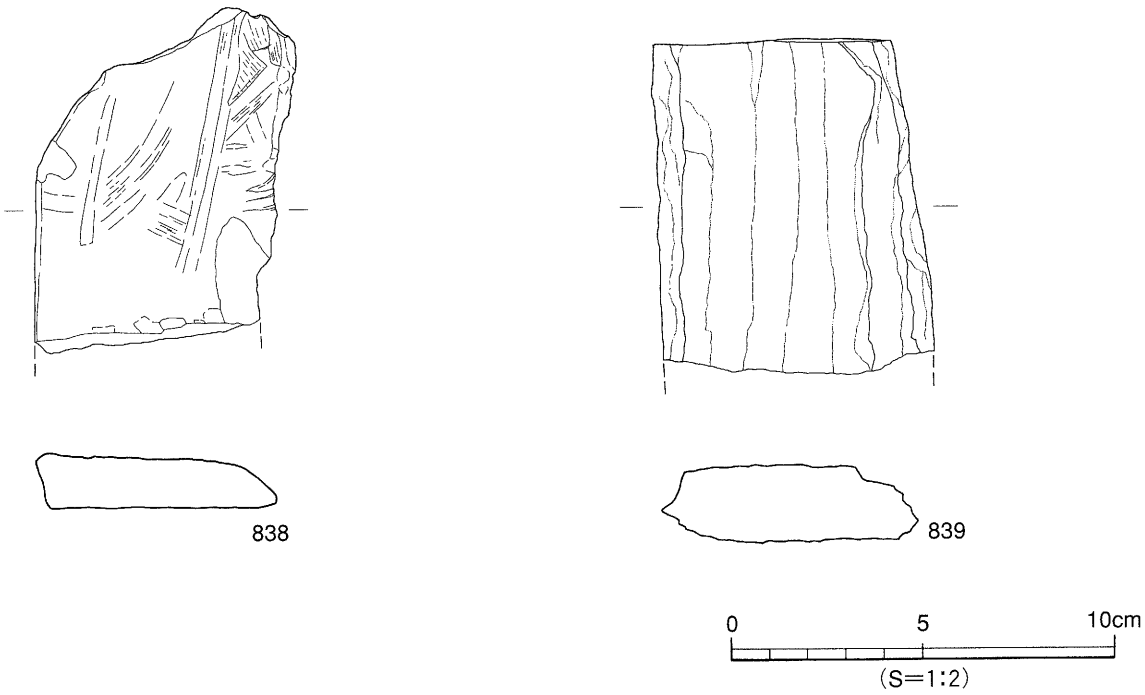


第109図　第Ⅴ層出土遺物実測図（1）

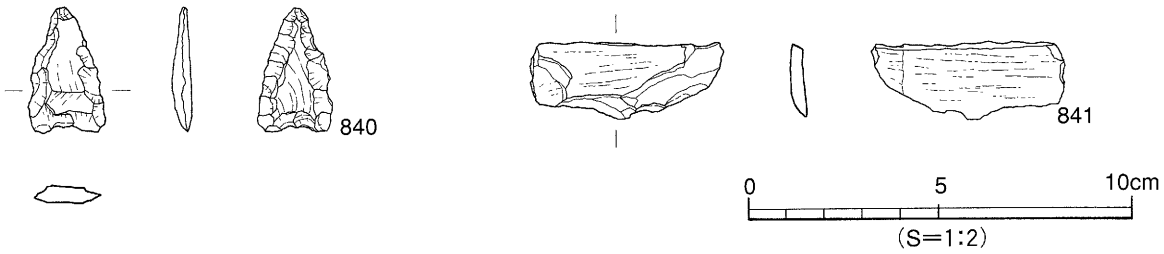


第110図　第Ⅴ層出土遺物実測図（2）

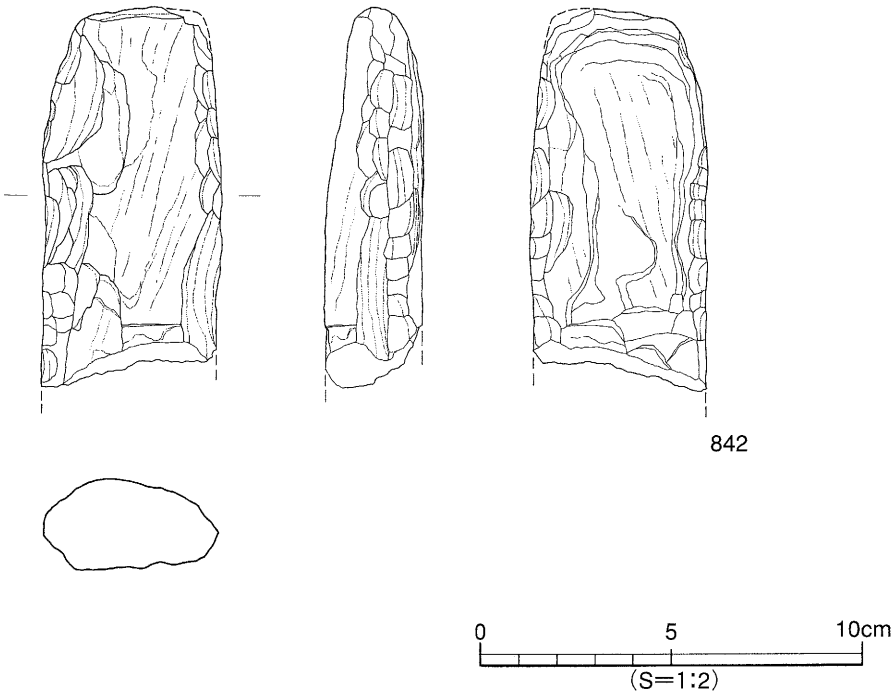




第111図　第Ⅴ層出土遺物実測図（3）



第112図　その他層位不明出土遺物実測図（1）



第113図　その他層位不明出土遺物実測図（2）

5．まとめ

本調査では弥生時代から中・近世までの遺構と遺物を確認した。

層位：本調査では、土層を12層確認した。以下、下層部より年代についてまとめを行う。

第Ⅻ層～第Ⅵ層は無遺物層である。第Ⅶ層は土層観察よりＡＴ火山灰と判明した。よって第Ⅶ層以下は23,000年以前の堆積層である。第Ⅴ層は弥生土器と須恵器が出土していることより、古墳時代の堆積層である。第Ⅳ層は須恵器と土師器が出土していることより、古代～中世の堆積層である。第Ⅲ層と第Ⅱ層からは弥生土器、土師器、陶磁器が出土していることより、中・近世の堆積層である。第Ⅰ層は現代の水田及び水田床土である。

今回の調査ではＡＴ火山灰を検出した。ＡＴ火山灰は現在までに松山平野の中で本遺跡が位置する「桑原地区」から「釜ノ口地区」までにかけて確認されている。とくに今回確認した第Ⅵ層・第Ⅶ層（ＡＴ火山灰）の堆積状況は、調査地南西300ｍに位置する束本遺跡4次調査で確認した第Ⅳ層～第Ⅵ層の土質と堆積状況が類似しており、第Ⅵ層・第Ⅶ層のＡＴ火山灰は1次堆積層と考えられる。このことよりＡＴ火山灰堆積後には広い範囲に安定した生活を行う土地があったと考えられる。また、調査区北西部で検出した第Ⅺ層はＡＴ火山灰を切って堆積しておりＡＴ火山灰堆積後の河川の氾濫を示しているものであり、桑原地区の調査を行う上での良好な資料と言える。

弥生時代：竪穴式住居址4棟、土坑6基、溝1条は全てが弥生時代中期末～終末期に時期比定されるものである。これ等の遺構は、切り合いや出土遺物より3グループに分かれた。1段階は中期末～後期初頭のＳＢ7･8、2段階は後期後葉のＳＢ3･9、3段階はＳＫ15･16･18･28である。

また、竪穴式住居址は平面形態より円形と方形に大別できた。円形は1棟で直径9.2ｍ、面積66㎡、5基の主柱穴と貼床をもつ。一方、方形は3棟で規模には面積が7～8㎡と19㎡のものがあり、4基の主柱穴と貼床をもつ。

出土物では、ＳＫ15･16から多量の土器が出土している。ＳＢ8では炭化材が出土している。ＳＫ

ま と め

15·16では土坑検出面から基底部まで出土した。出土品は完形品はなく破片と河原石であった。よって出土物は出土状況と遺存状況より順次廃棄したものと推察できる。ＳＢ8では土器の出土は甕形土器と高坏形土器の完形品、石庖丁、作業石、それと炭化材と焼土が出土した。出土状況からは住居の廃絶時に意図的に遺物を据えたものか、炭化材と焼土の出土から火災にあったと推察できる。

古墳時代：竪穴式住居址6棟は切り合いや出土遺物から3グループに分かれた。第1段階は古墳時代前期のＳＢ6、第2段階は古墳時代中期のＳＢ1·2·5の3棟、第3段階は古墳時代後期のＳＢ4·10の2棟である。

住居形態は方形と長方形がある。方形住居ＳＢ1の周壁溝は幅20㎝～60㎝と広いものである。このように住居の床面に広い溝が巡るのは松山平野の中では弥生時代後期の束本遺跡4次調査ＳＢ5と筋違遺跡Ｃ遺跡ＳＢ5の2棟が報告されているが、現在までに古墳時代の住居は報告されていない。

出土物では、ＳＢ2の床面より炭化材と完形の高坏形土器が正置の状態で出土している。出土状況からＳＢ2は、火災にあったか住居廃絶時の祭祀が行われた住居と考えられる。また周壁溝の南西部が途切れる箇所があり出入口の可能性が考えられる。また、柱穴内より高坏の脚部が出土しており、ここでも柱の抜き取りによる祭祀が行われたと考えられる。

古代：掘立柱建物と自然流路がある。ＳＲ1からは多量の遺物が出土した。遺物には摩滅がみられないため流れてきたのではなく、この場所に廃棄したものと考えられる。また、遺物の形態から大きく7世紀後半と8世紀後半の2回の時期に廃棄が行われたと推測される。出土遺物には焼け歪みのある土器と鉄滓が多数出土しており、周辺に鍛冶遺構と生産工房の存在が考えられる。また、遺物の中に松山平野の中では稀少な硯4個体が出土しており、その1個体には使用痕が認められ使用された硯である。このことから周辺には寺院や役所に関連する施設の存在も考えられ、今後周辺の調査には注目する遺跡である。

中世：土坑20基、性格不明遺構3基がある。土坑には石組みを施すものがある。ＳＫ1は形状より井戸として使用された可能性が考えられる。他の土坑では土壙墓の可能性も考えられるが石の規則性がなく乱れており出土遺物も明確でないため、今後の調査では化学分析も取り入れて解明を行いたい。

近世：2基の柱穴内より古銭が出土した。桑原地区での古銭の出土例では樽味高木遺跡2次調査の礫積塚と樽味高木遺跡4次調査ＳＸ01がある。ＳＸ01からは10枚の寛永通寶を藁で束ねた緡銭が出土している。本調査のＳＰ146出土の古銭も束になって出土しており出土状況が類似する。

自然科学分析：ＳＢ2·8、ＳＫ20出土の木炭について樹種同定を行った。ＳＢ2はシャシャンボ、ＳＢ8、ＳＫ20はコナラ属アカガシ亜属であった。ＳＢ2·8は住居の施設材、ＳＫ20は廃棄材と考えられる。

〔文 献〕

梅木　謙一　1992「樽味立添」「樽味四反地」「樽味高木」「桑原西稲葉1·2次」『桑原地区の遺跡』（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ

梅木　謙一　1994「樽味高木2·3次」「樽味四反地2·3·4」『桑原地区の遺跡Ⅱ』松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ

高尾　和長　1996『束本遺跡4次調査』（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ

河野　史知　1997「樽味高木4次」『桑原地区の遺跡Ⅲ』（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ

田﨑　博之　1993『樽味遺跡Ⅱ』「樽味遺跡2次調査報告」愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅳ・愛媛大学埋蔵文化財調査室

栗田　茂敏　1987「桑原本郷遺跡」『松山市埋蔵文化調査年報Ⅰ』松山市教育委員会

遺構・遺物ー凡例ー

（1）以下の表は遺物の計測値及び観察一覧である。

（2）各記載について

法　量　欄　（　）：復元推定値。

形態・施文欄　土器の各部位名称を略記。

例）口→口縁部、胴上→胴部上半、天→天井部。

胎土・焼成欄　胎土欄では混和剤を略記した。

例）砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土、金→金雲母。

（　）内の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表1　竪穴式住居址一覧

竪穴(SB)	時期	平面形	規模 長さ×幅×深さ(m)(長径)(短径)	主柱穴(本)	内部施設				周壁溝	備考
					高床	土壙	炉	カマ		
1	古墳	方形	5.30×4.50×0.08	4				○	○	SK2·3·29、SD3に切られる。貼床10cm
2	古墳	方形	4.94×4.30×0.22	4			○		○	SK4、SX1に切られる。SD1を切る。貼床10cm　焼土、炭化物
3	弥生	長方形	4.70×4.00×0.08	4					○	SK18、SX1に切られる。貼床8cm
4	古墳	方形	7.60×7.30×0.25	4						SB10に切られる。SK15·28を切る。
5	古墳	長方形	3.63×3.12×0.23						○	SK6、SB10に切られる。SB6を切る。
6	古墳	方形	7.00×6.00×0.22						○	SB5·10、SX3に切られる。
7	弥生	長方形	3.00×2.45×0.10	4						貼床10cm
8	弥生	円形	9.20×3.60×0.30	5					○	SB9、SK7·19·25·26、カクランに切られる。貼床12cm
9	弥生	方形	2.90×2.80×0.12	4						SK19に切られる。SB8を切る。貼床10cm
10	古墳	方形	7.54×6.40×0.30	4					○	SK9·10·14·27に切られる。SB4·5·6、SK28を切る。

表2　竪穴式住居址の炉・カマド一覧

竪穴(SB)	時期	炉	カマド	位置	平面形	規模 長さ×幅×深さ(m)	備考
1	古墳		○	北壁	馬蹄形	1.20×0.58×0.24	

表3　掘立柱建物址一覧

掘立	規模(間)	方位	桁行長		梁行短		床面積(㎡)	時期	備考
			実長(m)		実長(m)				
1	4×(1)		5.33		2.50		13.34	古代	南側は消滅している。

表4　土坑一覧

土坑(SK)	地区	平面形	断面形	規模 長さ×幅×深さ(m)	埋土	出土遺物	時期	備考
1	H11	円形	逆台形	0.83×0.74×0.44	暗灰褐色土	土師器	中世	SR1を切る。石組
2	H12·G12	不定形	逆台形(中段あり)	1.42×1.06×0.34	暗灰褐色土(黄色ブロック)	弥生土器·須恵器	中世以降	SB1を切る。

土坑一覧 (2)

土坑(SK)	地区	平面形	断面形	規模 長さ×幅×深さ(m)	埋土	出土遺物	時期	備考
3	G11·12	円形	レンズ	1.07×1.00×0.24	暗灰褐色土(黄色ブロック)	土師器	中世以降	SB1を切る。
4	E10·11	不定形	Ⅲ	1.47×1.20×0.27	暗灰褐色土	弥生土器·須恵器	中世	SB2を切る。
5	F10·G10	不定形	レンズ	2.55×2.36×0.22	暗灰褐色土	弥生土器·須恵器	中世	
6	C7·8	楕円形	Ⅲ	2.41×2.36×0.15	暗灰褐色土	弥生土器·土師器	中世	SB5を切る。
7	D5·E5	不定形	逆台形(中段あり)	2.32×1.80×0.25	暗灰褐色土	河原石(20~40cm)	中世	SB8を切る。
8	C4·D4	不定形	逆台形(中段あり)	2.27×1.72×0.60	暗灰褐色土	弥生土器·須恵器	中世	
9	C5	楕円形	Ⅲ	1.16×0.90×0.08	暗灰褐色土	弥生土器·須恵器	中世	SB4·10を切る。
10	C5·6	不定形	Ⅲ	2.25×1.72×0.18	暗灰褐色土		中世	SB4·10を切る。
11	B11	楕円形	Ⅲ	1.26×1.27×0.09	暗灰褐色土	河原石(10~40cm)	中世	
12	D9	不定形	逆台形(中段あり)	2.47×1.97×0.55	暗灰褐色土(黄色砂質ブロック混)	弥生土器	中世	SX1を切る。
13	E8·F8	楕円形	Ⅲ	1.60×1.10×0.07	暗灰褐色土		中世	SD1を切る。
14	B6	方形	逆台形	0.75×0.54×0.15	暗灰褐色土	弥生土器	中世	SB10を切る。
15	D5	方形	逆台形	1.87×1.46×0.43	褐色土	弥生土器(多量)	弥生後期	SB4に切られる。
16	C12	楕円形	逆台形	1.48×1.00×0.25	暗褐色土	弥生土器(多量)	弥生後期	SD2に切られる。
17	F4	円形	逆台形	1.03×0.81×0.20	暗褐色土	弥生土器·土師器	古墳	
18	C9·10	不定形	レンズ	1.86×1.35×0.14	黒褐色土	弥生土器	弥生後期	SX1に切られる。SB3を切る。
19	E4	方形	逆台形	1.00×0.97×0.22	灰褐色土(黄色ブロック混)	河原石	中世	SB9を切る。
20	D11·12	楕円形	Ⅲ	0.77×0.65×0.07	暗褐色土	弥生土器	弥生後期	炭あり。
21	H11	方形	Ⅲ	1.26×1.21×0.20	暗褐色土	弥生土器·須恵器	古墳	
22	G6·H6	円形	レンズ	1.30×1.21×0.23	黒褐色土	弥生土器·須恵器	古墳	SR1に切られる。
23	E1	円形	Ⅲ	0.90×0.77×0.36	暗灰褐色土	弥生土器·須恵器	中世	
24	G10·11	不定形	Ⅲ	1.08×1.04×0.34	暗褐色土	須恵器	古墳	
25	E5	方形	逆台形	1.15×0.90×0.27	暗灰褐色土(砂混)	弥生土器	中世	SK26に切られる。
26	E5	方形	Ⅲ	0.91×0.74×0.10	暗灰褐色土	弥生土器·須恵器	中世	SK25を切る。
27	B6·C6	楕円形	舟底状	0.77×0.60×0.34	灰褐色土	河原石	中世	SB10を切る。
28	C·D6	方形	逆台形	2.13×1.63×0.56	黒色土	弥生土器	弥生	SB4·10に切られる。
29	G12	円形	U字状	0.64×0.62×0.36	暗灰褐色土		中世	SB1を切る。

表5 溝一覧

溝(SD)	地区	断面形	規模 長さ×幅×深さ(m)	埋土	出土遺物	時期	備考
1	F7~F12	Ⅲ	20.2×0.70×0.10	黒褐色土		弥生	SK13、SB2、SD2·3に切られる。
2	C12~F11	Ⅲ	15.3×1.30×0.05	暗灰褐色土			SK16、SD1を切る。
3	F12	レンズ	4.20×1.00×0.07	暗灰褐色土			SD1、SB1を切る。

表6　SR1　①層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
1	支脚	残高 7.2	角部。	ナデ(指頭痕) ハケ目風工具		黄灰白色	石・長(1~2) 金 ◎		
2	高坏	底径 8.0 残高 10.8	直線的な脚部は、端部手前で段をもち開く。端部は丸味をもつ。	(柱)ナデ (裾)ヨコナデ	(坏底)ナデ (柱)ケズリ (裾)ヨコナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) 金 ◎		
3	坏蓋	口径(26.9) 残高 2.7	水平な天井部からゆるやかに内湾して、口縁部につづく。口縁端部手前でわずかに外反する。端部は「L」字状に折り曲げ丸い。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ	回転ナデ	灰黄白色 乳灰白色	密・長(1) ◎		
4	坏身	口径(10.9) 残高 4.4	口縁部はわずかに内傾し、端面は凹面をなす。受部は外上方に伸びる。	(口)回転ナデ (底)回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
5	皿	口径(23.8) 残高 2.9	外上方に伸びる口縁部は端部手前でわずかに外反する。口端部外面に凹みあり。	(体)回転ナデ (底)ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ○		
6	坏	底径 (9.4) 残高 2.5	水平な底部から外上方に伸びる体部。	(体)回転ナデ→ナデ (底)回転糸切り	回転ナデ	灰色 灰色	長(1) ◎		
7	坏	口径 12.4 器高 3.9 底径 5.8	水平な底部にわずかに内湾する口縁部をもつ。口縁部は歪んでいる。	(体)回転ナデ (底)ナデ	回転ナデ	淡黄橙色 にぶい橙色	長(1~3) 金 ◎		
8	茶釜	底径(29.0) 残高 2.9	丸味をもつ底部に、外上方に立ち上がる胴部。	(胴)指頭形整→ナデ (底)ナデ	(胴)マメツ (底)ナデ	にぶい橙褐色 にぶい橙褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
9	土釜	残高 5.3	口縁部外面に丸味をもつ三角形状の凸帯を貼り付ける。	(口)ヨコナデ (胴)ナデ(指頭痕)	ナデ	灰褐色 にぶい橙褐色 にぶい橙褐色	石・長(1~2) 金 ◎		
10	土釜	残高 7.4	土釜の脚部。	ナデ	(接合面)ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
11	椀	口径(16.0) 残高 1.5	口端部はわずかに外反する。端部は丸い。	施釉	施釉	(胎)灰白色 (釉)半透明 淡緑色	密 ◎	緑釉 9C後~ 10C前	
12	椀	底径 (8.1) 残高 1.9	高台はわずかに内湾し丸味をもつ。	施釉	施釉	(胎)灰色 (釉)半透明 乳灰緑色	密 ◎	緑釉 9C後 猿投	
13	椀	残高 1.3	丸味をもつ口端部。	施釉	施釉	(胎)茶白色 (釉)半透明 暗緑色	密 ◎	緑釉 9C前 洛北	
14	甕	2.2×2.4	胴部の小片。軟質土器か?	格子タタキ	ハケ(11本/cm)	乳桃橙色 黒灰色	石・長(1) ◎		
15	紡錘車	径 4.7 孔径 0.8 厚さ 0.8	完形品。端部は丸味をもつ。	ナデ	ナデ	茶色 茶色	石・長(1) 密 ◎		

表7　SR1　①層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
16	石鏃	完形	サヌカイト	3.3	1.8	0.45	3.618		
17	敲石		結晶片岩	9.5	2.7	2.6	130.2		
18	砥石		石英粗面岩?	7.2	7.8	4.3	230.7		

表8　SR1　①層出土遺物観察表　装身具

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
19	小玉	完形	ガラス	3.5	4.5	1.5	0.127		

表9　SR1　②層出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
20	坏蓋	口径(11.7) 残高 1.4	口縁部の端部外面にナデによる面を作り右上りの刻目を施す。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密・石(1) ◎		
21	坏蓋	口径 8.8 器高 (3.2)	扁平な天井部に宝珠のつまみが付く。受部は下方に垂れかえりは内傾し、端部は尖り気味である。	つまみ 回転ナデ 天 回転ヘラケズリ 口 回転ナデ	回転ナデ	暗緑灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	自然釉 焼き歪み	
22	坏蓋	口径 (8.0) 残高 2.1	笠状の天井部のつまみは欠失している。受部は水平に伸び、かえりは短く端部は尖り気味に丸い。	天 回転ヘラケズリ 口 回転ナデ	天 回転ナデ→ナデ 口 回転ナデ	淡青灰色 灰色	長(1~2) ◎	焼き歪み	
23	坏蓋	口径 (9.1) 残高 2.1	かえりの端部は内傾し尖り気味である。	天 回転ヘラケズリ 口 回転ナデ	回転ナデ	淡黄青灰色 灰色	密 ◎	自然釉 焼き歪み	
24	坏蓋	口径 (9.2) 残高 2.3	受部は水平に伸び、かえりは短く尖り気味に丸い。	回転ナデ	天 回転ナデ→ナデ 口 回転ナデ	灰黄色 灰黄色	密 ◎		
25	坏蓋	口径 (8.6) 残高 1.9	受部は水平に伸び、かえりは短く尖り気味である。	天 回転ヘラケズリ 口 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ◎		
26	坏蓋	口径(11.0) 残高 2.2	丸味をもつ天井部。かえりは内傾し端部は尖り気味で接地しない。	天 回転ヘラケズリ 口 回転ナデ	回転ナデ	褐灰色 淡青灰色 灰色	密 ◎	自然釉 焼き歪み	
27	坏蓋	口径 (8.5) 残高 2.2	かえりは短く、端部は丸い。	天 回転ナデ 口 回転ナデ→ナデ 口端 回転ナデ	天 ナデ 口 回転ナデ	淡灰黄色 灰色	密(砂2.5) ◎		
28	坏蓋	口径 (9.1) 残高 2.5	受部は、下方に伸び端部は丸い。かえりは垂直気味に接地し、端部は尖り気味である。	天 回転ヘラケズリ→ナデ 口 回転ナデ	回転ナデ	灰黄色 灰黄色	密・石・長(1) ◎		
29	坏蓋	口径 (7.2) 残高 1.5	低い天井部にかえりは内傾し端部は丸い。器壁はうすい。	天 回転ヘラケズリ 口 回転ナデ	回転ナデ	灰色・暗灰色 灰色・暗灰色	密・長(3.5) ◎	自然釉	
30	坏蓋	口径(10.9) 残高 1.4	水平に伸びる受部。かえりは垂直気味に接地し端部は尖り気味である。	回転ナデ (一部ナデ)	回転ナデ (一部回転ナデ→ナデ)	淡灰黄色 明灰色	石・長(1) ◎		
31	坏蓋	口径(13.2) 残高 1.5	口縁部は屈曲して接地する。端部は尖り気味に丸い。	回転ナデ (一部回転ナデ→ナデ)	回転ナデ (一部回転ナデ→ナデ)	灰色 灰色	密 ◎		
32	坏蓋	つまみ径3.2 つまみ高0.5 残高 1.2	水平な天井部に扁平なつまみが付く。	つまみ天 ナデ つまみ 回転ナデ 天 回転ヘラケズリ	回転ナデ→ナデ (一部ナデ)	灰赤褐色 灰褐色	石・長(1~2) ◎		
33	坏蓋	つまみ径2.4 つまみ高0.5 残高 1.5	水平な天井部に扁平で中央部が凸形のつまみ部。	つまみ天 ナデ つまみ 回転ナデ つまみ付根 ナデ 天 回転ヘラケズリ	回転ナデ	黄灰色 灰色	石・長(1~9) ◎		
34	坏蓋	つまみ径3.5 つまみ高1.2 残高 1.9	中央部が凹むつまみ部。	つまみ天 ナデ つまみ 回転ナデ	ナデ	青灰色・淡青灰色 青灰色	密・石・長(1) ◎		
35	坏蓋	つまみ径1.9 つまみ高0.7 残高 1.3	中央部が凸形のつまみ部。	つまみ天 回転ナデ→ナデ つまみ 回転ナデ つまみ付根 ナデ 天 回転ヘラケズリ	回転ナデ (一部ナデ)	淡緑灰色 淡緑灰色	密・長(1) ◎		
36	坏蓋	つまみ径2.8 つまみ高0.5 残高 1.2	扁平なボタン状のつまみ部。	マメツ	ナデ	灰黄色 黒灰色	石・長(1) △		

SR 1　②層出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
37	坏身	口径(11.8) 残高 5.8	立ち上がりは、内傾した後直立気味に伸びる。受部は外上方に伸び端部は丸い。	㊐ 回転ナデ ㊡ 回転ヘラケズリ	回転ナデ・ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ○		
38	坏身	口径(11.7) 残高 3.5	立ち上がりは、内傾しわずかに外反する。受部は外上方に伸び端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎		
39	坏身	口径(13.0) 残高 3.7	立ち上がりは内傾する。口端面は内傾し凹面をもつ。受部は外上方に伸び端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		
40	坏身	口径(12.8) 残高 3.1	立ち上がりは内傾し、直線的に伸び太い。端部は丸い。受部は水平に伸び端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ◎	自然釉	
41	坏身	口径(12.9) 残高 3.1	立ち上がりは短く内傾しわずかに外反する。端部は丸い。受部は水平に伸び端部は尖り気味である。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		
42	坏身	口径(13.1) 残高 3.7	立ち上がりは内傾し端部は丸い。受部は水平に伸び端部は丸い。	㊐ 回転ナデ ㊡ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
43	坏身	口径(11.7) 残高 2.9	立ち上がりは内傾した後に直立気味に伸びる。受部は水平に短く伸び端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1~2) ◎		
44	坏	口径 (9.4) 器高 3.9 底径 (7.0)	平底の底部より直線的に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。端部は丸い。	㊐ 回転ナデ ㊡ 回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
45	坏	口径 (9.2) 残高 3.2	口縁部は内湾気味に立ち上がり端部は尖り気味に丸い。	回転ナデ	㊐ 回転ナデ ㊥ 回転ナデ→ナデ	淡緑灰色 淡灰色	長(1～5) ◎		
46	埦	口径 (8.8) 残高 2.9	口縁部は外傾し端部は尖り気味に丸い。体部に2本の沈線文を施す。	㊐ 回転ナデ ㊥ 回転ナデ→ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
47	坏身	口径(12.0) 残高 3.9	外傾する口縁部の端部は丸い。底部は焼歪み。	㊐ 回転ナデ ㊡ 回転ナデ→ナデ	回転ナデ	淡黄灰色 乳灰色	石・長(1~2) ○		
48	埦 (脚付)	口径 11.8 器高 5.1 底径 7.2	「ハ」の字状に開く脚部の端面は凹む。口縁部は外傾し端部は丸い。体部に1条の沈線文。	回転ナデ ㊡ ヘラ切り 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
49	高台坏	底径(10.4) 残高 1.8	「ハ」の字状に開く高台部は、端部内面が接地する。	㊥ 回転ナデ ㊡ 回転ナデ・ナデ	回転ナデ	淡緑灰色 灰色	密・石(1)長(3) ○		
50	高台坏	底径(10.2) 残高 2.1	直立気味に接地する高台部。端部は平坦である。	㊥ 回転ナデ ㊡ 回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 にぶい橙色	石・長(細粒~1) △		
51	高台坏	底径(10.1) 残高 2.2	底部端に短い高台が付く。高台接地面に1条の凹線。	㊥ 回転ナデ ㊡ ヘラ切り→ナデ (板状工具)	回転ナデ	緑灰色 灰色	密 ◎		
52	高台坏	底径(12.0) 残高 3.2	底部端に直立気味の高台が付く。体部は内湾気味に立ち上がる。	マメツ	回転ナデ	淡橙色 乳黄灰色 淡橙色	石・長(細粒~1) △		
53	高台坏	底径(11.0) 残高 3.0	短い高台が付く。体部は内湾気味に立ち上がる。	㊥ マメツ ㊡ 回転ナデ・ナデ	㊥ 回転ナデ ㊡ 回転ナデ→ナデ	明灰色 灰色	密 ○		
54	高台坏	底径 (6.5) 残高 1.5	「ハ」の字状に開く高台は端部内面が接地し丸味をもつ。	㊥ 回転ナデ ㊡ 回転ナデ・ナデ	回転ナデ (一部ナデ)	淡青灰色 淡青灰色	密 ◎		
55	Ⅲ	口径(12.4) 器高 1.9 底径(10.6)	わずかに丸味をもつ底部に外上方に立ち上がる口縁部。端部は丸い。	㊐ 回転ナデ ㊡ ヘラ切り→ナデ	㊐ 回転ナデ ㊡ ナデ	淡灰黄色 淡灰黄色	密 ○		

SR１　②層出土遺物観察表　土製品　(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
56	高盤	基部径8.2 残高 4.4	「ハ」の字状に開く脚部に1条の凹線が巡る。	マメツ	(坏)マメツ (坏底)ナデ (脚)マメツ (回転ナデ)	乳灰黄色 灰白色	密（砂） △		
57	高坏	口径(13.3) 残高 5.1	椀形の坏部。口縁部はゆるやかに外反し、端部は丸味をもつ。	回転ナデ・ナデ	(口端)ナデ (坏)回転ナデ	淡緑灰色 淡緑灰色	密・長(4) ○		
58	甕	口径(16.8) 残高 10.2	外反する口縁部。端部は上下に拡張される。口縁部上位に8条1組の波状文、下部に13条1組の波状文、中位に2本の凸帯をもつ。	(口)回転ナデ (胴)自然釉付着不明	(口)自然釉付着不明 (頸)(胴)回転ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1) ◎	自然釉	
59	甕	口径(18.7) 残高 5.7	わずかに外反する口縁部。端部外面下に1条の凸帯。外面にカキ目を施す。	回転ナデ	(口)回転ナデ (頸)回転ナデ・ナデ	灰色 灰色	長(1～2) ◎		
60	甕	口径(23.9) 残高 4.9	外反する口縁部。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎		
61	甕	口径(33.4) 残高 3.3	外反する口縁部の端部は上方に拡張される。外面に1条の凸帯と波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	暗青灰色 暗青灰色・灰色	石・長(1) ◎		
62	甕	口径(30.9) 残高 3.1	外反する口縁部の端部はわずかに上方に拡張される。外面に1条の凸帯と幅広の波状文を施す。	自然釉付着不明	自然釉付着不明	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	自然釉	
63	甕	口径(19.0) 残高 6.1	外反する口縁部の端面はわずかに凹む。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色・灰色	石・長(1~2) ◎		
64	甕	口径(16.7) 残高 3.6	外反する口縁部の端部は「コ」の字状に丸味をもつ。	回転ナデ	マメツ	淡黄灰白色 淡黄灰白色	石・長(1) △		
65	甕	口径(20.9) 残高 8.4	短く外反する口縁部は外方向に肥厚され丸味をもつ。	(口)回転ナデ (胴)平行タタキ→カキ目	(口)回転ナデ (胴)タタキ(同心円文)	灰色 灰色	石・長(1~4) ◎		
66	壺	口径(10.8) 器高 24.5 底径(13.7)	口縁部は外反し端部は内側に肥厚される。胴部上位に1条の沈線。底部には短い高台が水平に付く。	(口)(胴)回転ナデ (底)ナデ	(口)(胴)回転ナデ (底)ナデ	暗灰緑色 灰色	石・長(1~3) ◎	自然釉	
67	壺	底径 (9.5) 残高 11.7	高台は内側に面をもち、端部は凹む。	(胴)回転ヘラケズリ(一部ナデ) (底)回転ナデ	(胴)回転ナデ (底)ナデ	乳桃茶色 乳桃茶色	密・石・長(1) ◎		
68	壺	口径(23.1) 残高 4.8	外反する口縁部。端部は丸味をもち下方に垂れる。	(口)回転ナデ (頸)ハケ→カキ目	回転ナデ	灰色 灰黄白色	石・長(1~2) ○		
69	壺	口径(10.1) 残高 5.0	外傾し直線的に伸びる口縁部。端部は尖り気味。外面中位に2条の凸帯。下位に波状文を施す。	回転ナデ	(口)自然釉付着不明 (頸)回転ナデ	灰色 黒灰色	密・長(4.5) ◎	自然釉	
70	壺	底径(13.6) 残高 2.6	短く「ハ」の字状に開く脚部。端部内面が接地する。	回転ナデ	(脚)ナデ・回転ナデ	淡黄橙色 乳黄白色	石・長(1) △		
71	長頸壺	底径 (8.9) 残高 3.6	「ハ」の字状に開く高台部。端部は内面が接地する。	(胴)回転ヘラケズリ(後一部ナデ) (底)回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 灰色	石・長(1~3) ◎	自然釉	
72	平瓶	残高 3.1	頸部から胴部にかけての小片。	(頸)回転ナデ (肩)自然釉付着不明	回転ナデ (頸)指頭痕(指紋が残る)	黄灰色 明灰色	長(1～3) ◎	自然釉	
73	提瓶	残高 7.3	カギ状の把手をもつ。	(胴)カキ目 回転ヘラケズリ	回転ナデ 指頭痕	灰色 灰色	密・石・長(2~4) ◎	自然釉	
74	器台	残高 3.9	端部は「コ」の字状に丸い。外面に波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ◎		

SR 1　②層出土遺物観察表　土製品　(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
75	器台	残高 5.3	外面に2条の凸帯と波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	紫灰色 青灰色	密・長(1) ◎	自然釉	
76	坏	口径 12.8 器高 3.6 底径 6.0	わずかに丸味をもつ底部。口縁部は、外上方に立ち上がり端部は丸い。	(口)回転ナデ (体)回転ヘラケズリ (底)ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 橙色	密 ◎		
77	坏	口径(13.2) 器高 1.4 底径(10.6)	平坦な底部にわずかに外反する口縁部。端部は尖り気味に丸い。	(口)ヨコナデ (底)ヘラ切り	(口)ヨコナデ (底)ナデ	乳黄橙色 浅黄橙色	密 ◎		
78	坏	底径 6.2 残高 1.6	平坦な底部に内湾気味に立ち上がる体部。	(体)ナデ(マメツ) (底)回転糸切り 板状痕	ナデ	橙色・にぶい橙色 橙色	密 ◎		
79	坏	口径(10.9) 残高 2.2	外上方に立ち上がる口縁部。口端部は丸い。	ヨコナデ(マメツ) 指頭痕	ヨコナデ(マメツ) 指頭痕	橙色 浅黄橙色	密 ○		
80	坏	残高 2.7	外上方に短く立ち上がる口縁部。	ヨコナデ	マメツ	浅黄橙色	密 ○	赤色塗彩	
81	Ⅲ	口径(17.0) 器高 3.4 底径(12.8)	外傾する口縁部の端部は丸い。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 灰白色	石・長(1~2) ○		
82	Ⅲ	口径(13.8) 器高 1.8 底径(11.2)	短く外反する口縁部。端部は尖り気味である。	(口)マメツ (底)ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	淡黄色 浅黄橙色	密 ◎		
83	高台坏	底径 (6.3) 残高 2.2	底部端に短く伸びる高台部。端部は丸味をもつ。	(体)ナデ (底)ヨコナデ ナデ	マメツ	浅黄橙色・赤橙色 浅黄橙色	密 ◎		
84	坏	底径 (6.0) 残高 1.9	わずかに丸味をもつ底部に外傾する体部。	(体)ヨコナデ (底)ヘラ切り→ナデ	ヨコナデ	橙色 浅黄橙色	密 ◎		
85	高坏	口径(16.2) 残高 4.2	外傾する坏部。端部は尖り気味に丸い。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
86	高坏	口径(15.2) 残高 3.8	坏部。坏端部はわずかに外反する。底部付近に段をもつ。	(口)ヨコナデ (坏)マメツ	(口)ヨコナデ (坏)ナデ	橙色 橙色	密 ◎		
87	壺	口径(15.3) 残高 4.7	外反する口縁部。端部は肥厚され外方向に拡張される。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	密・石・長(1) ◎		
88	高坏	底径(10.6) 残高 7.9	ラッパ状に開く脚部。端部は尖り気味に丸い。	(柱)ナデ (裾)ヨコナデ	(柱)ケズリ 工具痕 (裾)ヨコナデ	橙色 橙色	石・長(1~3) 金		
89	甑	残高 4.5	厚みのある把手部。	ナデ	ナデ	淡赤橙色 淡黄橙色 橙色	石・長(1~2) ○	黒斑	
90	甕	口径(50.0) 残高 12.6	外反する口縁部。外面下部に幅広の断面三角形状の凸帯1条。	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	マメツ	にぶい橙色 灰黄褐色 浅黄橙色	石・長(1~2) ◎		
91	土釜	口径(19.8) 残高 6.6	口縁端部の外面に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	(口)ヨコナデ (体)ナデ(指頭痕)	(口)ヨコナデ (体)ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) ◎	煤付着	
92	土釜	残高 3.7	口縁外面に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	ナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長(1~2) ◎		
93	Ⅲ	口径(15.0) 器高 1.2 底径(12.0)	短く外傾する口縁部。端部は尖り気味に丸い。	マメツ	マメツ	橙色 浅黄橙色・橙色	密 ◎		

SR 1　②層出土遺物観察表　土製品　(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
94	土釜	残高 10.2	脚部。	ナデ	(接合面)ナデ	明褐色	石・長(1~2) ◎	煤付着	
95	土釜	残高 7.5	脚部。	ナデ	(接合面)ナデ	にぶい橙色	石・長(1) ◎	煤付着	
96	瓦	厚さ 2.2	平瓦。	(凸面) タタキ	(凹面) ナデ	灰色 暗灰色	石・長(細粒~1) ◎		
97	壺	底径 (3.3) 残高 4.0	短く直立する口縁部の端部は尖り気味である。底部に高台接合面が見られる。	マメツ	マメツ	(胎)乳白色 (釉)暗緑色 黄茶色 淡緑色	密	8 C 奈良三彩	
98	椀	底径 (5.6) 残高 1.7	円盤高台。中央部は接地しない。	ヨコナデ (底)指頭痕	ヨコナデ・ナデ	(胎)灰色・灰茶色 (釉)乳灰緑色	密 ◎	9C後 緑 釉	
99	椀	底径 (4.4) 残高 1.4	水平に接地する円盤高台。	マメツ	マメツ	(胎)茶白色 (釉)淡緑黄色	密	9C後 緑 釉	
100	椀	底径 (6.6) 残高 1.2	垂直に伸びる短い高台。端部は尖り気味である。	ヨコナデ (高台端)ヘラケズリ	マメツ	(胎)灰白色 (釉)淡灰緑色	密 ◎	10C前 緑 釉	
101	椀	底径 (4.4) 残高 1.5	円盤高台。	マメツ (底)糸切り	マメツ	(胎)茶白色 (釉)淡緑黄色	密	緑 釉	
102	椀	底径 4.3 残高 1.3	円盤高台。中央部がわずかに凹む。	マメツ (底)糸切り	マメツ	(胎)茶白色 (釉)乳緑黄色	密	緑 釉	
103	甕	口径(27.1) 残高 2.2	短く伸びる口縁部。端面に1条の凹線文。頸部に刻目凸帯文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄色 淡黄色	石・長(1) 金 ◎	黒 斑	
104	甕	口径(19.4) 残高 1.6	口端部を上方に拡張し端面に1条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ◎		
105	甕	口径(16.0) 残高 5.8	口端部を上方にわずかに拡張する。端面と頸部内面に1条の沈線文を施す。	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	にぶい黄橙色 にぶい橙色	石・長(1) ◎	黒 斑	
106	甕	口径(17.9) 残高 3.4	口縁端部はナデにより上方にわずかに拡張される。	マメツ (一部回転ナデ残る)	(口)回転ナデ (胴)マメツ	赤橙色 にぶい赤橙色	石・長(1) 金 ○		
107	甕	底径 3.8 残高 2.8	平底の小さな底部。	ナデ上げ	ナデ	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
108	壺	口径(14.0) 残高 2.6	外反する口縁部はナデにより拡張され端面に3条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	褐灰色・灰黄褐色 灰黄褐色	石・長(1~2) ◎		
109	壺	口径(17.1) 残高 2.1	外反する口縁部の端部は上下に拡張され端面上部に竹管文、下部にハケ目工具による刻目を施す。	(口)ヨコナデ (頸)ナデ(ハケ)	ヨコナデ	にぶい橙色 淡黄橙色	石・長(1~4) 金 ◎	黒 斑	
110	壺	口径(12.3) 残高 1.4	外反する口縁部は拡張され端面に3条の凹線文を施す。	(頸)ヨコナデ	ヨコナデ	褐灰色・黒褐色 にぶい黄橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
111	壺	口径(13.9) 残高 3.9	口縁端部は拡張され端面に2条の凹線と頸部に押圧された凸帯を1条巡らす。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) ◎	黒 斑	
112	壺	口径(18.3) 残高 4.2	外反する口縁部の端面に刻目を施す。	(口)ヨコナデ (頸)ナデ	(口)ヨコナデ (頸)ナデ	明褐灰色 にぶい橙色	石・長(1~3) 金 ◎		

SR1　②層出土遺物観察表　土製品　(6)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
113	壺	口径(13.8) 残高　4.2	複合口縁の内傾する拡張部。口端部は「コ」の字状に丸い。端面はナデにより凹む。	ハケ(4~5本/cm)	(口端)ヨコナデ (口)ナデ→ハケ(7~8本/cm)	淡橙色 淡黄橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
114	壺	残高　3.1	複合口縁の拡張部。外面に波状文を施す。	ヨコナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~4) 金 ◎		
115	壺	口径(11.0) 残高　2.3	直口口縁。外傾する口縁部の端部は丸い。外面に細い沈線文と斜線による山形文を施す。	ナデ	ミガキ (ハケ少し残る)	橙色 橙色	密・長(1) ◎		
116	壺	底径　(7.3) 残高　3.5	平底。	ハケ(5~6本/cm)	マメツ	にぶい橙色 橙色	石・長(1~3) ○	黒斑	
117	鉢	残高　4.0	短く外反する口縁部。	(口)ヨコナデ (頸)ハケ(5~6本/cm)	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) ◎		
118	鉢	残高　3.6	短く外反する口縁部。	マメツ	マメツ	黒色 淡黄橙色	石・長(1~2) ○		

表10　SR1　②層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
119	スクレイパー	完形	サヌカイト	3.7	3.3	0.85	7.276		
120	砥石		石英粗面岩?	14.2	7.7	5.6	710.3		
121	素材	完形	結晶片岩	20.1	3.2	1.25	90.4		

表11　SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
122	坏蓋	口径(12.1) 残高　4.0	天井部は丸味をもち、口縁部はわずかに内傾し、端部は内傾する面をもつ。天井部と口縁部を分ける稜は断面三角形状。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ	(天)ナデ (口)回転ナデ	暗緑灰色・灰色 暗青灰色	密・長(2) ◎	自然釉	
123	坏蓋	口径(11.9) 残高　3.8	口縁部はわずかに内湾し端部は内傾する面をもち凹む。天井部と口縁部を分ける稜は明瞭。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色 青灰色	密・石・長(2) ◎	自然釉 焼き歪み	
124	坏蓋	口径(13.8) 残高　3.5	口縁部はわずかに内湾し端部は尖り気味に丸い。	回転ナデ→ 一部ナデ	回転ナデ→ 一部ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
125	坏蓋	口径(13.8) 残高　3.7	口縁部は内湾気味に外方向に伸び端部は尖り気味に丸い。口縁部を分ける稜は不明瞭。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ	回転ナデ	淡緑灰色 灰色	密・長(4.5) ◎		
126	坏蓋	口径(15.0) 残高　4.6	丸味のある天井部に内湾する口縁部端部は丸い。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ →一部ナデ	(天)回転ナデ→ナデ (口)回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎	自然釉	
127	坏蓋	口径(14.2) 残高　3.2	口縁部はわずかに内湾し端部は丸い。端部外面に面取りを行い刻目を施す。	(天)回転ヘラケズリ →ナデ (口)回転ナデ→ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	長(1~3) ◎		
128	坏蓋	口径(15.2) 器高　4.1	天井部はわずかに平坦面をもち口縁部は内湾し端部は尖り気味に丸い。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ	(天)回転ナデ→ナデ (口)回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~4) ◎		

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
129	坏蓋	口径(14.1) 残高 2.2	内湾する口縁部。端部内面に段をもち先細りする。	回転ナデ	回転ナデ	淡紫黒色 暗赤灰色・赤灰色	密 ◎		
130	坏蓋	残高 1.6	丸味をもつ天井部。外面に短い沈線(ヘラ記号?)。	回転ナデ(マメツ)	ナデ	淡黄灰色 黄灰色	密 ○	ヘラ記号	
131	坏蓋	口径 10.3 器高 4.0	天井部は丸味をもち口縁部は内湾し端部は丸い。	㊦ 回転ヘラ切り(マメツ) ㊐ 回転ナデ(マメツ)	回転ナデ(マメツ)	乳灰色 乳灰黄色	石・長(1~5) △		
132	坏蓋	口径(10.5) 残高 3.0	口縁部は内湾し端部は丸い。	回転ナデ →一部ナデ	回転ナデ	淡灰黄色 明灰色	密 ◎	自然釉	
133	蓋	つまみ径3.2 つまみ高0.9 残高 3.0	丸い天井部に中央が凹むつまみが付く。	つまみ ナデ ㊦ 回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ・ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎	自然釉	
134	坏蓋	口径 7.5 つまみ径1.2 つまみ高0.8 器高 3.4	笠状の天井部に乳頭状のつまみが付く。かえりは内傾する。	つまみ ナデ 回転ナデ ㊦ 回転ヘラケズリ ㊐ 回転ナデ	回転ナデ	浅黄灰色 にぶい橙色 浅黄灰白色	石・長(1) ○	焼き歪み	
135	坏蓋	口径 7.6 つまみ径1.0 つまみ高0.8 器高 3.2	笠状の天井部に中央が突出するつまみが付く。	つまみ ナデ ㊦ 回転ヘラケズリ ㊐ 回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1~2) ◎	焼き歪み	
136	坏蓋	口径 (8.3) 残高 1.8	受部は水平に伸びかえりは短く端部は尖り気味。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ◎		
137	坏蓋	口径 (9.0) 残高 1.8	かえりはわずかに内傾し、端部は尖り気味である。	㊦ 回転ヘラケズリ ㊐ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ○		
138	坏蓋	口径 (9.2) 残高 2.6	天井部は丸味をもちつまみ部は欠失している。かえりは直立し接地し端部は尖り気味である。	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~2) ○		
139	坏蓋	口径 9.6 つまみ径1.6 つまみ高1.1 器高 3.6	天井部は丸味をもち、中央部が突出するつまみが付く。かえりは内傾し、端部は尖り気味である。	つまみ 回転ナデ ㊦ 回転ヘラケズリ ㊐ 回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎	自然釉	
140	坏蓋	口径 (9.6) 残高 3.0	扁平な天井部のつまみは欠失する。かえりはわずかに外反し端部は丸い。	回転ナデ ㊦ 回転ヘラケズリ ㊐ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	石・長(1) ◎	自然釉	
141	坏蓋	口径(11.4) 残高 1.8	低い天井部。かえりは直立気味に接地し端部は尖り気味。	㊦ 回転ヘラケズリ ㊐ 回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰色 灰白色	石・長(1) ◎		
142	坏蓋	口径 (7.6) 残高 1.9	かえりは短く内傾する。	㊦ 回転ヘラケズリ ㊐ 回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
143	坏蓋	口径 (7.4) 残高 1.4	受部は下方に垂れ、かえりはわずかに内傾し端部は尖る。	㊦ 回転ヘラケズリ ㊐ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ○		
144	坏蓋	つまみ径2.1 残高 2.9	丸味をもつ天井部に中央部が突出するつまみが付く。	つまみ ナデ・回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ	赤灰色 灰赤色	長(1) ◎		
145	坏蓋	口径(15.9) 残高 2.1	低い天井部のつまみは欠失している。口縁部は短く屈曲し、端部は尖り気味。	㊦ 回転ヘラケズリ ㊐ 回転ナデ	㊦ 回転ナデ→ナデ ㊐ 回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ○		
146	坏蓋	口径(18.6) 残高 1.1	低い天井部。口縁部はわずかに屈曲し丸い。	回転ナデ	㊦ 回転ナデ→ナデ ㊐ 回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ○		
147	坏蓋	口径(17.8) 残高 1.5	口縁部はわずかに屈曲し丸い。	ナデ	ナデ	オリーブ灰色 オリーブ灰色	石・長(1) △		

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
148	坏蓋	つまみ径2.5 つまみ高0.7 残高 1.7	水平な天井部に中央部が凹むつまみが付く。	つまみナデ 回転ナデ 天回転ナデ	回転ナデ→ナデ	緑灰色 緑灰色	石・長(1~2) ◎		
149	坏蓋	つまみ径2.6 つまみ高0.7 残高 1.5	平坦な天井部に中央部がわずかに突出するつまみが付く。	回転ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎		
150	坏蓋	口径(22.8) 残高 2.5	水平な天井部から大きく屈曲する口縁部。	天マメツ 口回転ナデ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1) △		
151	坏蓋	口径(26.2) 残高 2.3	低い天井部にわずかに屈曲して接地する口縁部。端部は丸い。	天回転ヘラケズリ 口回転ナデ	回転ナデ	乳白色 乳白色	長(1) ○		
152	坏身	口径(11.7) 残高 3.9	短く外上方に伸びる受部。立ち上がりはわずかに外反気味に内傾し、端面は内傾する。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3.5) ○		
153	坏身	口径(11.8) 残高 4.2	受部は短く、外上方に伸びる。立ち上がりは直線的に伸び端面は内傾し凹む。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色・灰色 青灰色	密・石・長(1) ◎		
154	坏身	口径(12.2) 残高 3.4	受部は短く水平に伸び、立ち上がりは内傾し端部は先細りである。	回転ナデ	回転ナデ	淡緑灰色・緑灰色 淡緑灰色	石・長(1~3) ◎	自然釉	
155	坏身	口径(11.4) 残高 2.9	受部は短く水平に伸び立ち上がりは内傾する。端部は内傾する面をもつ。	口回転ナデ 底回転ナデ→ナデ	回転ナデ	青灰色・灰色 青灰色	密 ◎		
156	坏身	口径(13.5) 残高 3.3	受部は短く水平に伸びる。立ち上がりは直線的に伸び端部は先細りで丸い。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 淡灰色	密・石(1) ◎		
157	坏身	口径(13.4) 残高 3.8	受部は外上方に伸びる。立ち上がりは外反気味に内傾し端部は尖る。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 淡紫灰色	石・長(1~4) ○	自然釉	
158	坏身	口径(11.7) 残高 3.1	受部は水平に伸びる。立ち上がりは内傾し端部は先細り。	口回転ナデ →一部ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	乳灰色 乳灰色	密・長(1) ○		
159	坏身	口径(12.0) 残高 3.0	受部は短く水平に伸びる。立ち上がりは内傾し端部は先細りで丸い。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密・石・長(2) ◎		
160	坏身	口径(12.8) 残高 3.6	受部は短く水平に伸びる。立ち上がりは短く内傾する。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	明褐灰色 明褐灰色	密・砂(2.5) ○		
161	坏身	口径(11.3) 残高 2.8	受部は短く丸い。立ち上がりは内傾しわずかに外反する。端部は先細りする。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	焼き歪み	
162	坏身	口径(13.1) 器高 3.3 底径 (8.9)	受部は水平に伸びる。立ち上がりは内傾し端部は尖り気味である。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	天回転ナデ 口回転ナデ→ナデ	青灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
163	坏身	口径(12.3) 残高 2.6	受部は水平に伸びる。立ち上がりは内傾する。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) △	自然釉	
164	坏身	口径(14.1) 残高 3.3	受部は水平に伸び尖り気味である。立ち上がりは直立し端部は先細り。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	天回転ナデ 口回転ナデ→ナデ	淡灰色 淡灰色	石・長(1~2) ○		
165	坏身	残高 3.3	受部は外上方に伸び端部は丸い。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 淡灰色	石・長(1) ◎		
166	坏身	口径 9.5 器高 3.7 底径 6.0	完形品。扁平な底部。立ち上がりは短く内傾する。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ →ナデ	天回転ナデ 口回転ナデ→ナデ	灰色 明灰色	石・長(1) ◎	自然釉 焼き歪み	

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
167	坏身	口径 9.3 器高 3.9 底径 (4.9)	扁平な底部。わずかに残る受部。立ち上がりは短く、内傾する。	(口)回転ナデ (底)回転ナデ→ナデ ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ○	焼き歪み	
168	坏身	口径 (9.0) 残高 3.2	受部は短く上方に伸び、立ち上がりは内傾し短い。	(口)回転ナデ 回転ナデ→ナデ (底)回転ヘラケズリ→ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		
169	坏	口径 8.4 器高 3.0 底径 5.3	丸味をもつ底部。口縁部はわずかに外反する。端部は丸い。	(口)回転ナデ (底)ナデ	回転ナデ(一部ナデ)	灰色 灰色	密 ◎	自然釉 焼き歪み	
170	坏	口径 (9.5) 器高 (3.6) 底径 (5.3)	丸味をもつ底部。口縁部はわずかに外反する。	(口)回転ナデ (底)釉付着の為不明	回転ナデ	灰赤色 灰黄色	密 ◎	自然釉	
171	坏	口径 9.6 器高 4.1 底径 7.3	不安定な底部。口縁部は直線的に伸び端部は丸い。	(口)回転ナデ (底)回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	自然釉	
172	坏	口径(10.4) 器高 3.7 底径 (7.6)	丸味をもつ底部。口縁部はわずかに外反する。端部は丸い。	(口)回転ナデ (底)ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
173	坏	口径(10.6) 器高 4.6 底径 (7.2)	丸味をもつ底部。口縁部は直線的に伸び端部は丸い。	(口)回転ナデ(一部ナデ) (底)回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(1) ◎	ヘラ記号 焼き歪み	
174	坏	口径(10.5) 器高 (7.9) 底径 3.5	口縁部は内湾気味に伸び端部は丸い。	(口)回転ナデ→ナデ (底)回転ナデ(ハクリ)	(口)回転ナデ (底)ナデ	灰黄白色 灰黄白色	石・長(1~2) ◎	自然釉	
175	坏	口径(10.2) 器高 3.0 底径 7.0	扁平な底部。口縁部はわずかに外反し、端部は丸い。	(口)回転ナデ (底)回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	石・長(1) ◎		
176	坏	口径(10.3) 残高 3.6	直立する口縁部の端部は丸い。外面に2条の凹線。	(口)回転ナデ (底)ナデ	回転ナデ	暗緑灰色 暗緑灰色	密・石(2.5) ◎		
177	坏	口径 (9.8) 器高 3.3 底径 (7.4)	直線的に伸びる口縁部。端部は尖り気味である。外面底部付近に1条の凹線。	マメツ	マメツ	灰白色 淡黄灰色	密・長(2) △		
178	坏	口径(12.2) 器高 2.7 底径 (7.7)	内湾気味に伸びる口縁部。端部は丸い。	マメツ	マメツ	淡黄灰白色 淡黄灰白色	密 △		
179	坏	口径(13.4) 残高 (3.0)	内湾気味に広がる口縁部。端部は丸い。	マメツ (一部回転ナデ)	マメツ (一部回転ナデ)	淡黄灰白色 淡黄灰白色	密 △		
180	坏	口径(12.5) 器高 3.6 底径 (7.3)	外傾する口縁部。端部は尖り気味に丸い。	(口)回転ナデ (底)回転ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	乳灰色 乳灰色	密 △		
181	坏	口径(13.0) 底径 (8.5) 残高 3.2	外傾する口縁部。端部は丸い。	(口)回転ナデ (一部ナデ) (底)ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	石・長(1) ◎		
182	坏	底径 (9.6) 残高 2.7	丸味をもつ底部。	(口)マメツ (底)マメツ(ヘラ切り)	マメツ	淡黄灰色 灰白色	石・長(1) △	焼き歪み	
183	高台坏	口径(15.4) 器高 4.6 底径(10.0)	「ハ」の字状に広がる高台。内湾気味に立ち上がる口縁部の端部は丸い。	(口)回転ナデ (底)マメツ	(口)回転ナデ (底)ナデ	灰白色 灰白色	石・長(~1) △		
184	高台坏	口径(14.6) 器高 3.5 底径(10.4)	「ハ」の字状に水平に接地する高台。口縁部は内湾気味に立ち上がり端部は丸い。	(口)回転ナデ (底)回転ナデ・ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	石・長(~1) ◎		
185	高台坏	口径(15.4) 器高 5.8 底径(10.4)	丸味をもつ高台。口縁部は直線的に伸び端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	密 △		

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
186	高台坏	底径(10.2) 残高 3.8	短く水平に接地する高台。	(体)回転ナデ (底)回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
187	高台坏	底径 (9.6) 残高 2.1	丸味をもつ高台。	(体)回転ナデ (底)ナデ	回転ナデ(一部ナデ)	灰色 灰白色	密 ◎		
188	高台坏	底径(12.7) 残高 2.1	「ハ」の字状にわずかに広がる高台。端面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
189	高台坏	口径(12.2) 器高 6.0 底径 (9.2)	高台端面は内傾する。口縁部は直線的に立ち上がり、端部は先細りで丸い。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	密 △		
190	坏	口径(16.1) 残高 5.7	外傾する口縁部。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 褐灰色	石・長(1) ◎		
191	高台坏	底径 (9.3) 残高 1.6	「ハ」の字状の高台。	(体)回転ナデ (底)回転ナデ (一部ナデ)	回転ナデ・ナデ	灰色 灰色	密・石・長(2) ◎		
192	高台坏	底径 (9.2) 残高 2.3	高台端面は外傾し凹む。	(体)回転ナデ (底)回転ヘラ切り・ナデ	回転ナデ	灰白色 灰色	石・長(~1) ◎		
193	高台坏	底径(11.4) 残高 3.2	直線的に伸びる高台の端部は丸い。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1) △		
194	高台坏	底径 (8.8) 残高 2.1	高台端部は「コ」の字状に丸い。	(体)回転ナデ (底)回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰白色	密 ◎		
195	高台坏	底径 9.9 残高 1.6	高台端面は内傾し凹む。底部外面に輪状の線刻がある。	(体)回転ナデ (底)回転ナデ・ナデ	回転ナデ・ナデ	褐灰色・にぶい橙色 灰褐色	長(1) ○		
196	高坏	残高 4.2	坏部。外面に1条の凹線文と波状文を施す。	(坏上)回転ナデ (坏下)回転ヘラケズリ	(坏上)回転ナデ (坏下)釉付着の為不明	灰色 灰色	石・長(~1) ◎	自然釉	
197	高坏	底径 (8.0) 残高 4.1	脚部片。端部は内傾し尖り気味である。長方形の透かし。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(~1) ◎	自然釉	
198	高坏	口径(14.8) 器高 12.1 底径 (9.6)	脚部は外反し、端部は先細りで丸い。柱部中位に1条の凹線。口縁部は焼け歪み。	回転ナデ	(坏)回転ナデ(一部ナデ) (脚)回転ナデ (しぼり痕)	灰色 灰色	石・長(~1) ◎	自然釉 焼き歪み	
199	高坏	底径 (9.6) 残高 4.6	「ハ」の字状に開く脚部。端部は尖り気味で端面は内傾する。脚上位に3方向の円孔。	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色 灰色・灰黄色	密 ◎		
200	高坏	底径(12.5) 残高 1.6	脚部片。端部手前に段をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰色 オリーブ灰色	密 ◎		
201	高坏	底径(10.3) 残高 7.0	外反する脚部。端部はナデにより下方に拡張し接地する。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ(しぼり痕)	灰色 灰色	密 ◎		
202	高坏	底径(10.5) 残高 7.5	外反する脚部。端部はナデにより下方に拡張し接地する。	回転ナデ	(坏)回転ナデ(一部ナデ) (脚)回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(~1) ◎		
203	高坏	底径 (9.3) 残高 4.8	外反する脚部。端部はナデにより下方に拡張し尖り気味である。中位に凹線1条。	回転ナデ	回転ナデ(しぼり痕)	灰白色 灰白色	密 ○		
204	高坏	底径 (8.7) 残高 3.4	低脚。裾部は大きく外反し、端面は凹む。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	密・石(2) △		

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(6)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
205	高坏	底径 (9.0) 残高 1.7	外反する脚部。低脚。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	密 △		
206	高坏	残高 5.5	柱部。中位に縦方向の3本の沈線。(記号?)	回転ナデ	(坏)ナデ (脚)回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(~1) ◎	自然釉 ヘラ記号	
207	高坏	残高 4.9	柱部。中位に2条の凹線。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	自然釉	
208	高坏	残高 4.3	坏部から柱部。	回転ナデ	(坏)回転ナデ (脚)しぼり痕	灰白色・灰色 灰白色	石・長(~1) 金 ○		
209	高坏	残高 4.9	脚部片。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	密 △		
210	皿	口径(16.8) 器高 1.3 底径(14.9)	短く外傾する口縁部。端部は丸い。	(体)回転ナデ (底)回転ナデ→ナデ	(体)回転ナデ (底)回転ナデ→ナデ	淡緑灰色 淡緑灰色	密・長(1.5) ◎	自然釉	
211	皿	口径(16.2) 器高 1.5 底径(13.6)	短く外傾する口縁部。端部は丸い。	(体)回転ナデ(マメツ) (底)ナデ(マメツ)	(体)回転ナデ (底)回転ナデ→ナデ	淡黄灰白色 淡黄灰白色	石・長(1~3) ○		
212	皿	口径(24.1) 器高 2.1 底径(22.0)	短く内湾気味に立ち上がる口縁部。端部は丸い。	(体)回転ナデ (底)回転ヘラケズリ→ナデ	回転ナデ→ 一部ナデ	灰色 灰黄色・灰色	密・長(2) ◎		
213	甕	口径(22.2) 残高 6.7	外反する口縁部。端部は、上下に肥厚させ丸くおさめる。	(体)釉付着の為不明 (底)カキ目(9~10本/cm)	(口)釉付着の為不明 (頸)回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎	自然釉	
214	甕	口径(21.0) 残高 3.0	外反する口縁部。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(~1.5) ◎		
215	甕	口径(18.0) 残高 3.4	外反する口縁部。端部は、上下に肥厚させる。	(体)回転ナデ (頸)カキ目(8本/cm)	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(~1) ◎		
216	甕	口径(17.2) 残高 3.5	外反する口縁部。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰白色 オリーブ黒色 オリーブ灰白色	石・長(1~3) △		
217	甕	口径(12.2) 残高 2.8	外反する口縁部。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		
218	甕	残高 4.1	外反する口縁部。端部は肥厚させ尖り気味である。外面に波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 オリーブ灰色	石・長(1~3) ◎		
219	広口壺	残高 4.0	外反する口縁部。端部は「コ」の字状である。外面に波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰色 オリーブ灰色	石・長(1~2) ○		
220	壺	口径 (7.2) 残高 6.6	外反する口縁部。端部は尖り気味である。口縁部外面に1条の凹線と5条の波状文、肩部に刺突列点文を施す。	回転ナデ	回転ナデ(しぼり痕)	灰白色 灰白色	石・長(1) ○	自然釉	
221	壺	口径 (7.4) 残高 3.5	外反する口縁部。端部は尖り気味に丸い。外面に波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰白色 灰白色	長(1) 金 ○		
222	壺	口径 (5.5) 残高 3.7	直立気味に立ち上がる頸部に外反する口縁部。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(1) ◎		
223	壺	口径(11.4) 残高 3.1	大きく外反する短い口縁部。端部は尖り気味に丸い。	(口)回転ナデ (頸)タタキ	(口)回転ナデ (頸)ナデ・タタキ	灰色 灰色	密 ◎		

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(7)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
224	短頸壺	口径 (8.0) 残高 4.9	短く外傾する口縁部。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1~1.5) ◎	自然釉	
225	長頸壺	口径 6.4 残高 9.3	直立気味に開く口縁部。端部は丸い。	回転ナデ	口回転ナデ 頸ナデ(しぼり痕)	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎	自然釉	
226	壺	口径(13.9) 残高 5.1	短く外反する口縁部。	口頸マメツ 胴マメツ(平行タタキ)	口頸マメツ 胴(同心円文タタキ)	灰白色 灰白色	石・長(1~1.5) △		
227	壺	口径(12.7) 残高 3.8	外反する口縁部。端部はナデにより上下に短く伸びる。	釉付着の為不明	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	自然釉	
228	短頸壺	口径 (4.3) 残高 6.1	短く直立する口縁部の端部は尖り気味に丸い。肩部に1条の凹線。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色・灰色 灰白色	石・長(1~3) ◎		
229	短頸壺	口径 (6.7) 残高 2.0	短く内傾する口縁部の端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
230	短頸壺	口径 (6.6) 残高 3.0	短く直立する口縁部の端部は尖り気味に丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎		
231	短頸壺	口径(21.8) 残高 8.4	外傾する口縁部。端部は丸い。口縁中位に1条の凹線。	口頸回転ナデ 胴平行タタキ カキ目(8~9本/cm)	口回転ナデ 頸マメツ 胴タタキ	灰白色 灰白色	長(1~2) △		
232	壺	残高 2.6	口縁部小片。外面に細い波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	密 ◎		
233	壺	残高 4.0	頸部から肩部までの小片。外面に2条の凹線。凹線間に櫛歯状工具による刺突列点文。	回転ナデ	回転ナデ(しぼり痕)	緑灰色 青灰色	密・長(1) ◎		
234	壺	残高 4.6	小片。頸部に1条の凸帯。	回転ナデ	回転ナデ	灰赤色 灰色	密 ◎		
235	壺	残高 2.3	小片。頸部下位に波状文を施す。	回転ナデ カキ目(12~13本/cm)	回転ナデ	灰色 灰白色	石・長(1) ◎	自然釉	
236	壺	残高 8.8	肩の張る胴部。肩部に1条の凹線。上位に櫛歯状工具による刺突列点文を施す。	胴上釉付着の為不明 胴下カキ目(9~10本/cm)	回転ナデ	灰白色 青色色	長(1) ◎	自然釉	
237	壺	残高 10.7	胴部片。胴部最大径を胴中位に取る。	胴上マメツ 胴中回転ナデ→ナデ 胴下ヘラナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	自然釉	
238	壺	残高 12.2	肩の張る胴部。外面に他の須恵器片が付着する。	胴回転ナデ 底手持ちヘラケズリ	胴回転ナデ 底ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎	自然釉	
239	壺	底径 7.2 残高 5.3	「ハ」の字状の高台。端部は「コ」の字状に丸く内側が接地する。底部中央に二次的穿孔。	胴平行タタキ→工具によるヨコナデ 底回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(1~2) ◎		
240	壺	底径 (9.2) 残高 6.3	「ハ」の字状に開く高台が付く。器壁は厚い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	石・長(1) ◎		
241	壺	底径 (6.4) 残高 4.3	「ハ」の字状に開く高台は内側が接地し端面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰色	石・長(1) ◎		
242	長頸壺	底径 (9.8) 残高 4.6	「ハ」の字状に開く短い高台は内側が接地し端面は凹む。	胴回転ナデ 底回転ナデ・ナデ	ナデ	灰白色 灰色	石・長(1~2) ◎		

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(8)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
243	壺	底径 (9.4) 残高 3.0	高台端部は内側が接地し端面は凹む。	(胴)回転ナデ ケズリ (底)回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎		
244	長頸壺	底径 (9.8) 残高 3.4	短い高台の端面は凹む。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
245	脚付埦	口径 11.2 器高 12.0 底径 8.1	直立する口縁部の端部は丸い。体部中位に1条の凹線。脚部は「ハ」の字状に開き、中央に太い凹線1条。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	焼き歪み	
246	埦	口径(12.4) 残高 7.5	わずかに内側する口縁部の端部は丸い。体部中位に1条の凹線。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰色	石・長(~1) ○		
247	高台埦	底径 7.5 残高 2.7	「ハ」の字状に開く高台部は、水平に接地する。	(体)ナデ (底)回転ナデ ヘラ切り→ナデ	回転ナデ	暗赤灰色・浅黄橙色 赤灰色	長(~1.5) ○		
248	平瓶	口径 (6.2) 器高(13.4)	直線的に伸びる口縁部の端部は丸い。	(口)(頸)回転ナデ (体)回転ナデ→ナデ (底)手持ちヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ◎		
249	甕	口径 (9.8) 器高 11.5	段をもち大きく開く口縁部。底部は扁平である。口縁部・頸部・胴部に1条の凹線。穿孔はカギ状。	(口)(頸)回転ナデ (体)回転ナデ→一部ナデ (底)回転ヘラケズリ	回転ナデ (しぼり痕)	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		
250	壺	残高 4.3	小片。2条の凸帯と波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ (指頭痕)	灰色 灰色	石・長(~1.5) ◎		
251	提瓶	残高 3.3	カギ状の把手。	ナデ	回転ナデ (指頭痕)	灰色 紫灰色	石・長(~1) ◎	自然釉	
252	器台	底径(35.8) 残高 7.4	脚部片。端部は「コ」の字状に丸い。外面に凹線と波状文を施す。	(脚)回転ナデ (裾)ナデ・回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ◎		
253	器台	底径(23.3) 残高 5.8	脚部片。端部は「コ」の字状に丸い。外面に凹線と波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	自然釉	
254	器台	残高 7.6	小片。外面に櫛描による山形の波状文、凸帯、長方形と思われる透かしを施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 金 ◎		
255	器台	残高 3.5	脚部の小片。外面に刺突文、波状文、凹線を施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長(1) ◎		
256	器台	残高 4.3	脚部の小片。外面に山形の波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) 金 ◎		
257	坏	残高 0.7	小片。底部外面に4本のヘラ記号。	不明 (一部回転ヘラケズリ)	ナデ・回転ナデ	淡黄灰色 淡灰色	石・長(1~3) ◎	ヘラ記号	
258	硯	口径(26.4) 残高 4.3	内堤は直立し端面は内傾し凹む。硯部と脚部は別々に成作する。	回転ナデ	回転ナデ	灰茶色・灰色 灰茶色・灰色	密 ◎		
259	硯	口径(16.2) 器高 7.6 底径(18.8)	硯部と脚部は同時に作成する。硯面部にナデによる内堤を作る。脚部は外反し裾部がわずかに内湾し端部が凹む。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	自然釉	
260	硯	口径(17.8) 器高 8.0 底径(21.0)	硯部と脚部は同時に作成する。脚部は外反し裾部がわずかに内湾し端部が凹む。	ナデ 回転ナデ	ナデ 回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
261	硯	底径(20.0) 残高 6.6	外反し内湾する脚部。脚端部は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密・石・長(1) ◎		

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(9)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
262	壺	口径 11.7 器高 39.4	胴部最大径は中央部にもつ。口縁部は直立し端部は内傾し凹む。4方向にカギ状の把手。	(口)ヨコナデ (頸)平行タタキ(3~4本/cm)→ヨコナデ (肩)ナデ (胴)タタキ→カキ目(7~8本/cm)	(口)(頸)ヨコナデ (胴)同心円文タタキ	灰色 灰色	密 ◎		
263	甕	口径 22.4 残高 45.6	球形の胴部。口縁部は外傾し端部手前でわずかに内湾する。端部は丸い。	(口)回転ナデ (胴)平行タタキ→カキ目	(口)回転ナデ (肩)タタキ→ヨコナデ (胴)同心円文タタキ	灰色 灰色	密 ◎		
264	高台椀	底径 (8.3) 残高 2.6	短い高台が付く。端部は内側は接地し、端面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	橙色 橙色	密 ◎		
265	高台皿	残高 1.9	先細りの高台が付く。	マメツ	マメツ(ハクリ)	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
266	高台椀	底径 (9.8) 残高 4.2	丸味をもつ高台。	(体)マメツ (底)ヨコナデ(マメツ)	ナデ	乳黄橙色 橙色	長(~1.5) ○		
267	高台椀	口径(14.8) 残高 6.1	外傾して伸びる口縁部。端部は尖り気味である。	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 橙色	石・長(~1) ○		
268	不明	底径(19.0) 残高 1.2	短い高台。端部は「コ」の字状に丸い。内面にラセン状の暗文。	(体)回転ナデ (底)回転ナデ 回転ヘラケズリ	マメツ(一部暗文)	橙色 橙色	石・長(~2) ○		
269	坏	口径(12.8) 器高 3.7 底径 (6.2)	内湾気味に立ち上がる口縁部。端部は丸い。	(口)回転ナデ (体)回転ヘラケズリ→ナデ (底)ヘラ切り	(口)回転ナデ (体)(底)ナデ上げ	にぶい橙色 橙色	密 金 ○	黒斑	
270	坏	底径 (5.6) 残高 1.8	平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。	ナデ(マメツ)	ナデ(マメツ)	にぶい橙色 乳橙色・にぶい橙色	密 ○		
271	坏	底径 6.0 残高 2.4	平底	(体)マメツ・ヨコナデ (底)マメツ(板状痕)	マメツ(ヨコナデ)	橙色・浅黄橙色 橙色	密 ○	黒斑	
272	椀	底径 (8.6) 残高 1.8	円盤高台	マメツ	マメツ	橙色 橙色	密 ◎		
273	坏	口径(15.5) 残高 3.3	丸味をもつ平底から内湾気味に立ち上がる口縁部。口縁部の器壁はうすい。	マメツ	マメツ	浅黄橙色・淡橙色 浅黄橙色・淡橙色	密 ○		
274	皿	口径(15.6) 器高 1.6 底径(12.6)	短く伸びる口縁部。端部はわずかに外反し尖り気味に細い。	ナデ(マメツ)	ナデ	黄灰白色 橙色・浅黄橙色	密 ○		
275	皿	口径(13.8) 器高 1.6 底径(11.3)	平底の底部にわずかに外反する口縁部。端部は丸い。	(体)マメツ (底)ヘラケズリ	マメツ	乳橙色 浅黄橙色・淡橙色	密 ○		
276	皿	口径(13.6) 器高 1.5 底径(10.8)	外傾する口縁部。端部は尖り気味に丸い。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ○		
277	皿	口径(13.7) 器高 1.6 底径(11.2)	短く外反する口縁部。端部は丸い。	(体)回転ナデ (底)回転ヘラケズリ →ナデ	マメツ	橙色 淡黄色	密 ○		
278	坏	残高 1.6	ラセン状の暗文がごくわずかに残る。		ミガキ(マメツ)	乳茶色 黒色	密・石・長(1) ◎		
279	不明	残高 0.7	ラセン状の暗文が残る。	手持ちヘラケズリ	ナデ	暗茶橙色 暗茶橙色	密・石・長(1) ◎		
280	坏	残高 1.7	底部に格子状の沈線あり。	ナデ	ナデ	黒色 暗茶色	密・石・長(1) ◎		

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(10)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
281	不明	残高 0.7	外面に線刻。ヘラ記号か?	マメツ	ナデ(ミガキ?)	乳橙色 乳橙色	密·石·長(1~2) ◎		
282	不明	残高 0.8	外面に線刻あり。	ヨコナデ (ミガキ?)	ヨコナデ (ミガキ?)	暗茶橙色 暗茶橙色	密·石·長(1) ◎		
283	椀	口径(14.5) 残高 5.6	内湾する口縁部。端部は丸い。	マメツ	(口)ナデ (体)暗文(ミガキ?)	浅黄橙色 浅黄橙色	石·長(1~2) 金 ○		
284	椀	口径(12.2) 器高 4.7	丸底の底部より内湾して立ち上がる。端部は尖り気味に丸い。	(口)ヨコナデ (体)(底)ナデ 指頭痕	(口)ヨコナデ (体)(底)工具によるナデ 指頭痕	橙色 橙色	密 金 ◎		
285	椀	口径(13.6) 残高 5.6	内湾する口縁部の端部は尖り気味である。	(口)ヨコナデ(マメツ) (体)ミガミ(マメツ)	ミガキ(マメツ)	橙色 橙色	石·長(~2) ◎		
286	椀	口径(11.0) 器高 5.0	丸底の底部。口縁部は内湾し端部は丸い。	(口)回転ナデ (体)(底)ナデ 指頭痕	(口)回転ナデ (体)(底)丁寧なナデ 指頭痕	橙色 橙色	密 ◎		
287	椀	口径(12.3) 残高 5.4	口縁端部は外反し尖り気味である。	(口)回転ナデ (体)マメツ(ハクリ)	マメツ(ハクリ)	橙色 淡橙色	密 ○		
288	高坏	口径(17.5) 残高 5.8	坏部。段をもち外上方に内湾しながら伸び端部手前で外反する。端部は丸い。	ヨコナデ(マメツ) (坏底)ナデ(マメツ) 指頭痕	ヨコナデ (坏底)ナデ	橙色 橙色	石·長(~3) ◎		
289	高坏	口径(13.0) 残高 4.2	坏部。わずかに内湾し口縁部手前で外反する。端部は丸い。	ヨコナデ(マメツ)	ヨコナデ	橙色·黄橙色 橙色	石·長(1~2.5) ◎		
290	高坏	残高 10.9	柱部。器壁は厚い。	マメツ	(坏底)ナデ(マメツ) (脚)ハケ目小口痕	橙色 橙色	石·長(1~4) ○		
291	高坏	底径 (9.4) 残高 6.5	柱部。裾部は屈曲して広がる。端部は丸味をもち接地する。	(脚上)ヨコナデ ナデ·ハケ	(脚)ケズリ(しぼり痕) (裾)ヨコナデ	橙色 橙色	石·長(1~5) ◎		
292	高坏	残高 7.7	柱部。裾部は屈曲する。	ナデ(ハケ目小口痕)	(脚)ケズリ(しぼり痕) (裾)ヨコナデ	淡黄橙色 淡黄橙色	石·長(1~3) 金 ◎		
293	甕	口径(13.8) 残高 13.5	球形の胴部。口縁部は外上方に短く伸び端部は「コ」の字状に丸い。	(頸)(胴上)ヨコナデ マメツ	マメツ	明赤褐色 明赤褐色	石·長(1~2) 金 ○		
294	甕	口径(15.8) 残高 12.7	肩の張らない胴部。口縁部は外反し短く伸びる。端部は丸い。	マメツ(ハケ)	(口)ヨコナデ (胴)ハケ(4~5本/cm)	にぶい橙色 にぶい橙色·褐灰色	石·長(1~3) 金 ○		
295	甕	口径(22.8) 残高 5.6	外傾する口縁部。端部は水平な面をもつ。	(口)マメツ (胴)マメツ(ハケ)	(口)ハケ(6本/cm) (胴)ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石·長(1~3)多 ◎		
296	甕	口径(20.8) 残高 7.0	外傾する口縁部。端面はナデにより凹む。	(口)ヨコナデ→ハケ (9~10本/cm) (胴)ハケ (9~10本/cm)	(口端)ヨコナデ (口)ハケ(9~10本/cm) (胴)ハケ(5~6本/cm)→ナデ	にぶい橙色·にぶい黄橙色 にぶい橙色·褐灰色	石·長(1~5)多 ◎	黒斑	
297	甕	口径(21.6) 残高 7.3	外傾する口縁部。端部は厚みをもち「コ」の字状に丸い。	(口)マメツ (胴)マメツ·ハケ	マメツ	橙色 にぶい黄橙色	石·長(1~5)多 ○		
298	甕	口径(26.2) 残高 9.2	短く外反する口縁部。端部は丸い。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ(6~7本/cm)	(口)ヨコナデ (胴)ナデ(工具痕)	淡黄橙色 灰白色	石·長(1~3) 金 ○		
299	甕	口径(29.2) 残高 7.0	外傾する口縁部。端部は尖り気味に丸い。	(口)マメツ(一部ナデ) (胴)マメツ(ハケ)	(裾)マメツ(一部ナデ) (脚)ナデ(マメツ)	淡黄橙色 淡黄橙色	石·長(1~2.5) 赤色粒·金 ◎	黒斑	

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(11)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
300	甕	口径(17.1) 残高 6.0	外傾する口縁部。端部は水平な面を持ち凹む。	ヨコナデ(マメツ)	(口)ヨコナデ 指頭痕 (胴)マメツ(一部ナデ)	灰黄橙色 灰黄褐色	石・長(1~3) 赤色粒 ◎	黒斑	
301	甕	口径 24.6 器高 30.4	長胴で下半部がふくれる。口縁部は外傾し端部は内側に肥厚される。	(口)マメツ(ヨコナデ) (胴)ハケ(7本/cm)	(口)ハケ (胴)ハケ→ナデ(指頭痕)	乳灰茶色・灰色 乳灰茶色・灰色	石・長(1~5) ◎		
302	壺	口径 (9.4) 残高 3.9	外傾する口縁部。端部は尖り気味である。	(口)(頸)ヨコナデ(マメツ) (胴)マメツ	マメツ	橙色 黄橙色	密 金 ○		
303	壺	口径(12.8) 残高 11.1	球形の胴部に外傾する口縁部。端部は丸い。	(口)(頸)ヨコナデ (胴)ハケ(14~15本/cm)	(口)ヨコナデ (頸)指押え (胴)ケズリ	淡黄色・灰白色 淡黄色・灰白色	石・長(1~3) 石粒多 ○	黒斑	
304	壺	残高 13.3	やや肩の張る胴部。	マメツ	(胴上)ヨコナデ ナデ・指頭痕	橙色・にぶい黄橙色 にぶい黄橙色・にぶい褐色	石・長(1~3) ○	黒斑	
305	鉢	口径(18.3) 残高 21.8	丸い底部に内湾する胴部。口縁部は短く直立し端部は丸い。注口をもつ。	マメツ (一部ヨコナデ・工具によるナデ)	(口)(胴上)マメツ (胴下)ナデ・指頭痕	淡黄橙色・淡赤橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~5) 金 ○	黒斑	
306	鉢	口径 12.3 器高 11.8	球形の胴部。口縁部は外傾し端部は尖り気味に丸い。	(口)ヨコナデ (頸)(胴)ハケ(3~4本/cm) (底)ナデ	(口)(頸)ヨコナデ (胴)板状工具によるナデ	淡黄橙色 淡黄橙色	石・長(1~2) 金 ◎	黒斑	
307	鉢	口径(12.7) 残高 10.1	扁平な底部。口縁部は外反し端部は丸い。口縁部歪んでいる。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 橙色	石・長(1~4) 金 ○	黒斑	
308	鉢	口径(22.8) 残高 7.7	外傾する口縁部は端部手前でわずかに外反する。	(口)ヨコナデ ハケ(7~8本/cm)	(口)ナデ ハケ(7~8本/cm)	にぶい橙色 橙色	石・長(1~3) ◎		
309	鉢	口径(30.1) 残高 5.6	短く外反する口縁部。端部は丸い。	(口)ヨコナデ ナデ(ハケ・指頭痕)	(口)ハケ(5~6本/cm) ケズリ	褐灰色 にぶい橙色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
310	鉢	口径(29.2) 残高 6.3	大きく外方向に伸びる口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	(口)ヨコナデ ハケ(4~5本/cm)	(口)ヨコナデ→ハケ (4~5本/cm) ナデ	黒褐色 明赤褐色	石・長(1~3)多 ◎		
311	甑	残高 4.9	底部片。	ナデ(指頭痕)	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) 金 ○		
312	甑	残高 5.6	把手。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) ◎		
313	甑	残高 4.3	舌状の把手。	ナデ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1~3) 金 ○		
314	甑	残高 6.6	把手。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1) 金 ◎		
315	甑	残高 7.9	把手。	ナデ(ハケ)	板状工具によるナデ	橙色 橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
316	甑	長さ 4.5 厚さ 1.4	小片。甑の底部か。	ナデ	ナデ	茶色 茶色	石・長(1~3) ◎		
317	カマド	口径(31.0) 残高 5.9	端部は「コ」の字状で水平な面をもつ。	(口端)ヨコナデ ハケ(7~8本/cm) →ナデ	(口端)ヨコナデ ナデ(ハケ)	にぶい橙色・赤橙色 橙色・灰褐色	石・長(1~5) ◎		
318	カマド	残高 10.9	内湾しながら接地す。端面は凹む。	(裾)ヨコナデ (脚)ハケ(7~8本/cm)	(裾)ヨコナデ(ハケ) (脚)ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色・橙色	石・長(1~3) 金 ◎		

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(12)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
319	フイゴ	長さ 4.8 幅 6.0 厚さ 2.5	羽口の小片。(2.8)cmの円孔。	ナデ(指押え)	マメツ	乳灰桃色 茶色	石・長(1~3) ◎		
320	フイゴ	長さ 6.2 幅 4.0 厚さ 1.8	羽口の小片。(2.9)cmの円孔。	マメツ	マメツ	灰白色 茶色	石・長(1~7)多 ◎		
321	フイゴ	長さ 3.6 幅 5.1 厚さ 1.8	羽口の小片。(2.4)cmの円孔。 端部に鉄滓付着。気泡多い。			灰色 灰茶色	石・長(1~3)多 ◎	鉄滓付着	
322	フイゴ	長さ 5.7 幅 4.8 厚さ 2.1	羽口の小片。(2.2)cmの円孔。	マメツ	マメツ	灰白色 乳茶色	石・長(1~4)多 ◎		
323	フイゴ	長さ 4.1 幅 4.9 厚さ 2.0	羽口の小片。(2.4)cmの円孔。	マメツ	マメツ	灰茶白色 乳桃色	密 ◎		
324	フイゴ	長さ 2.1 幅 3.3 厚さ 1.6	羽口の小片。鉄滓付着。 端部に気泡。			灰色・赤灰色	石・長(1~2) ◎	鉄滓付着	
325	椀	底径 (6.4) 残高 1.1	円盤高台。中央部は接地しない。	ヘラケズリ	マメツ	(胎)茶白色 (釉)淡緑色	密 ○	緑釉	
326	甕	口径(24.1) 残高 8.2	外反する口縁部は「コ」の字状で面をもつ。	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	ミガキ	にぶい橙色 灰褐色 にぶい橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
327	甕	口径(26.9) 残高 3.8	短くゆるやかに外反する口縁部。 端部は「コ」の字状で端面は凹む。 頸部に布目押圧凸帯が1条巡る。	ヨコナデ	マメツ	褐色 褐灰色	石・長(1~3) 金 ◎		
328	甕	底径 7.4 残高 3.5	平底。	(胴) ミガキ (底) ナデ	板ナデ	淡黄橙色 淡黄橙色	石・長(1~3) 金 ◎	黒斑	
329	甕	底径 2.6 残高 2.0	小さな平底。	ハケ(7~8本/cm)	マメツ	にぶい橙色 橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
330	甕	底径 2.8 残高 2.8	厚みのある小さな平底。	マメツ	マメツ	淡黄橙色 橙色	石・長(1~4) 赤色粒 ○		
331	壺	口径(16.5) 残高 2.8	口縁部端部は上方に拡張され端面に3条の凹線文を施す。	(口)ヨコナデ (頸)ナデ	(口)ヨコナデ (頸)ナデ	灰黄橙色 暗灰色 淡橙褐色	石・長(1~3) ◎	赤色顔料	
332	壺	口径(11.4) 残高 4.3	外反する口縁部。端部は拡張され端面に3条の凹線文を施す。	(口)ヨコナデ(マメツ) (頸)マメツ(ミガキ?)	(口)ヨコナデ(マメツ) (頸)ナデ	黄橙褐色 灰黄橙褐色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
333	壺	口径(11.6) 残高 4.5	外反する口縁部は端部を拡張し端面に3条の凹線文を施す。	(口)マメツ(ヨコナデ) (頸)マメツ(ミガキ?)	(口)マメツ(一部ヨコナデ) (頸)ナデ	淡黄橙色 淡黄橙色	密・茶色粒 ◎		
334	壺	残高 3.3	口縁部は丸い。外面に波状文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ ハケ(6本/cm)	淡橙色 浅黄橙色	石・長(1~2) ◎		
335	壺	口径(25.3) 残高 3.5	口縁部は下方に大きく拡張され外面に波状文を施す。	ヨコナデ (マメツ)	ナデ(マメツ)	黄灰色 灰黄橙色	石・長(1~4) 赤色粒 ◎		
336	壺	口径(22.0) 残高 4.4	大きく開く口縁部。端部は「コ」の字状で端面はナデによりわずかに凹む。	(口端)ヨコナデ (口)ハケ(4~5本/cm)→ナデ (頸)ハケ(6本/cm)→ナデ	ハケ(4~5本/cm) →ナデ(マメツ)	淡橙褐色 淡橙色 褐灰色	石・長(1~3) 赤色粒・金 ◎		
337	壺	口径(19.0) 残高 5.5	複合口縁の拡張部。直立する拡張部は厚みをもち端部は丸い。	ヨコナデ (マメツ)	(口端)マメツ(一部ヨコナデ) (口)マメツ(一部ナデ)	淡橙褐色 黄橙褐色	密・長(2) 赤色粒・金 ◎		

SR1　③層出土遺物観察表　土製品　(13)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
338	壺	口径(28.0) 残高　4.3	複合口縁。拡張部はわずかに外反し端部は「コ」の字状に丸い。外面に斜線充塡による三角文と竹管文。	ヨコナデ(マメツ)	ナデ	淡灰橙色 淡灰橙色 灰橙色	石・長(1~3) ◎		
339	壺	残高　9.2	複合口縁。接合部は「コ」の字状で短く下方に伸びる。	口上 ハケ(6~7本/cm) →ヨコナデ ヨコナデ 口下 ヨコナデ(ハケ,マメツ)	口上 ハケ(8本/cm)→ナデ ナデ 口下(ハケ)	灰黄橙色 橙褐色	石・長(1~2) 砂(多) 赤色粒・金 ◎		
340	壺	残高　3.5	頸部付近の小片。押圧されたひし形の文様が巡る。	マメツ	マメツ	橙色 淡黄橙色	石・長(1~4) 赤色粒・金 ○		
341	甕	底径(10.0) 残高　6.1	上げ底の大きな底部。	ナデ ヨコナデ	ナデ (ミガキ)	灰黄白色 明褐灰色	石・長(1~3) 金 ◎	黒斑	
342	壺	底径　(7.7) 残高　3.5	平底。	胴マメツ (ミガキ) 底マメツ	板ナデ	淡黄橙色・淡赤橙色 淡橙色・褐灰色	石・長(1~2) ◎		
343	壺	底径　6.5 残高　3.5	丸みのある平底。	マメツ	ハケ(4~5本/cm) (14~15本/cm) 押圧痕	にぶい黄灰色 にぶい黄橙色	石・長(1~3) 金 ◎	煤付着	
344	壺	底径　4.5 残高　4.1	小さく突出する平底。	ナデ	ナデ	赤橙色 淡黄橙色	石・長(1~3) 赤色粒・金 ◎	煤付着	
345	壺	底径　4.3 残高　3.0	小さく突出する平底。厚みをもつ。	胴マメツ 一部ハケ(14~15本/cm) 底ナデ	ハケ(4本/cm)	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) 赤色粒・金 ○		
346	壺	底径　4.0 残高　5.9	丸味をもつ平底。厚みをもつ。	胴マメツ (ハケ) 底マメツ	ハケ(7~8本/cm) →ナデ	淡橙色 明褐灰色	石・長(1~4) 赤色粒・金 ◎	黒斑	
347	壺	底径　5.4 残高　3.4	丸味をもつ平底。厚みをもつ。	胴ハケ(5~6本/cm) 底強いハケ	ナデ (押圧痕)	淡黄橙色 淡黄橙色	石・長(1~5) 赤色粒 ◎	黒斑	
348	壺	底径　(4.7) 残高　3.7	丸味をもつ平底。	ハケ(6~7本/cm)	ナデ	淡黄橙色 黄橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
349	鉢	口径(23.4) 残高　3.8	外反する口縁部。端部は丸い。	口ヨコナデ (ハケ) 胴ハケ(6~7本/cm)→ナデ	口ハケ(6~7本/cm) 一部ナデ 胴ミガキ	灰褐色 灰黄橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
350	支脚	器高　5.3 底径　6.9	平底。受部はわずかに凹む。	ナデ		淡黄橙色	石・長(1~5) 金 ◎		
351	支脚	器高　7.7	中空。受部は傾斜をもつ。	ナデ	ナデ (一部しぼり痕)	橙色 淡黄橙色	石・長(1~5) 金 ◎		

表12　SR1　③層出土遺物観察表　石製品　(1)

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
352	石庖丁	約1／3	結晶片岩	4.8	3.7	0.5	13.526	丁寧な研磨	
353	石庖丁	約1／2	結晶片岩	6.1	3.2	0.6	19.527		
354	石鏃	完形	サヌカイト？	3.1	1.5	0.3	0.947		
355	有孔円盤	ほぼ完形	滑石	径2.8	孔径0.2	0.2	3.492		

SR1　③層出土遺物観察表　石製品　(2)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
356	スクレイパー	完形	サヌカイト	4.1	2.7	0.55	9.212		
357	スクレイパー	完形	サヌカイト	3.6	3.1	0.5	9.083		
358	剥片		結晶片岩	5.1	4.0	0.5	15.513		
359	砥石	ほぼ完形	石英粗面岩?	9.8	4.7	3.4	150.4	4面ともよく使いこまれている。	
360	扁平片刃石斧?		結晶片岩	2.6	5.2	0.65	10.734		
361	砥石			9.1	8.8	5.8	590.1		

表13　SR1　③層出土遺物観察表　装身具

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)		
362	小玉	ほぼ完形	滑石	3.5	4.5	2.0	0.126		

表14　SR1　②～③層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面	(外面) (内面)			
363	高台坏	底径 (9.4) 残高 3.1	底部端よりやや内側に高台が付く。高台は水平に接地し中央部が凹む。	㊍ 回転ナデ ㊐ 回転ナデ・ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
364	高坏	残高 5.0	厚みのある柱部。	回転ナデ	㊍ ナデ ㊍ 回転ナデ	灰色 灰白色	石・長(1) ○		
365	甕	口径(20.5) 残高 7.6	外傾する口縁部の端部は丸い。	㊍ 回転ナデ ㊍ カキ目 平行タタキ	㊍ 回転ナデ ㊍ タタキ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ◎	自然釉	
366	把手付埦(ジョッキ型)	幅 1.1 厚み 1.0	断面円形の把手。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
367	皿	口径(13.5) 器高 1.6	短く外傾する口縁部の端部は尖り気味である。	㊍ 回転ナデ (一部ナデ) ㊐ ナデ	ナデ	橙色 橙色	密 ◎		

表15　SR1　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面	(外面) (内面)			
368	坏蓋	底径(10.5) 器高 3.7	丸みのある天井部。口縁部はわずかに外反し接地する。端部は丸い。	㊤ ヘラ切り 回転ヘラケズリ→ナデ ㊍ 回転ナデ (一部ナデ)	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ◎		
369	台付埦	口径(13.4) 器高 5.7 底径 (8.3)	「ハ」の字状の高台は水平に接地し中央部が凹む。口縁部は外反し端部は先細りで丸い。	㊍ 回転ナデ ㊍ 回転ヘラケズリ→ナデ ㊐ 回転ナデ	回転ナデ	灰白色 紫灰色	石・長(1) ◎	自然釉	
370	高坏	口径 12.5 器高 7.7 底径 7.8	外反する脚部の端部は折曲する。坏部は内湾して立ち上がる。端部は丸い。	回転ナデ	㊍ 回転ナデ ㊍ ナデ・回転ナデ	灰色・灰白色 灰白色	石・長(1~2) ○		

SR1　出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
371	高坏	残高　3.8	坏中位に段をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 暗灰色	密 ◎	自然釉	
372	高坏	底径　(8.4) 残高　2.7	外反する脚部。端部は肥厚される。	回転ナデ	回転ナデ	暗紫灰色 暗紫灰色	密 ◎		
373	壺	口径　(9.4) 残高　4.4	わずかに外傾する口縁部。端部は尖る。外面に2条の凸帯と波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	紫灰色 紫灰色	密 ◎		
374	甕	残高　7.5	胴部は中位が張る。外面に2条の凹線と刻目を施す。口縁部下位に波状文。	(体上)不明 (体下)回転ナデ(一部ナデ) ナデ	(体上)回転ナデ (体下)ナデ指頭痕	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	自然釉	
375	甕	底径　3.3 残高　9.4	小さな平底をもつ。胴部と口縁部に凹線を施す。	(頸)(体上)回転ナデ (体下)回転ヘラケズリ→ナデ (底)回転ヘラ切り→ナデ	(頸)回転ナデ・しぼり痕 (体下)回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎		
376	甕	残高　7.4	肩の張る胴部に1条の凹線。底部にヘラ記号を施す。	(体上)回転ナデ (体下)回転ヘラケズリ→ナデ	(頸)しぼり痕 (体)回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ◎	ヘラ記号	
377	平瓶	残高　5.0	断面四角形状の把手。	ナデ	同心円文タタキ	紫灰色 紫灰色	密 ◎		
378	甕	口径(22.4) 残高 18.7	外傾する口縁部の端部は丸い。胴部は肩が張らない。	(口)マメツ(ヨコナデ) (頸)ハケ(5本/cm)→ヨコナデ・ナデ (胴)ハケ(6~8本/cm)	(口端)マメツ (口)(頸)ハケ(5本/cm)→ヨコナデ (胴)マメツ(ナデ) ナデ・ナデ上げ	橙褐色・黄橙褐色 灰黄褐色	石・長(1~7) ◎	黒斑	
379	甕	口径(18.6) 残高　5.3	外反する口縁部の端部は丸い。	マメツ(一部ナデ)	マメツ	橙褐色 淡橙色	石・長(1~4) 赤色粒・金 ○		
380	甕	口径(15.2) 残高　4.3	外傾する口縁部の端部は丸い。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ→ナデ	(口)ヨコナデ (頸)ナデ (胴)ハケ	橙色 橙色	石・長(1~3) ◎		
381	甕	口径(22.8) 残高　4.8	外傾する口縁部の端部は先細りし丸い。	(口)マメツ (頸)ハケ(5本/cm)(マメツ)	マメツ	乳橙色 淡黄橙色	石・長(1~2) 赤色粒・金 ○		
382	壺	口径(18.6) 残高　6.1	外傾する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。	(口)ヨコナデ・ナデ (頸)ヨコナデ(マメツ)	(口端)ヨコナデ (口頸)ヨコナデ→ナデ ナデ	淡灰褐色・淡黄橙色 灰黄褐色	石・長(1) 金 ◎	黒斑	
383	壺	口径(16.0) 残高　5.3	外傾する口縁部の端部は丸い。	マメツ (一部ヨコナデ・ハケ)	(口)マメツ(ヨコナデ) (頸)ナデ	橙褐色 灰橙褐色	密・長(2) 金 ◎		
384	壺	口径 16.5 残高　8.7	内湾しわずかに外傾する口縁部端部は「コ」の字状に丸い。	(口)マメツ・ハケ) (頸)強いヨコナデ (胴)マメツ(一部ナデ)	(口端)ヨコナデ (口)マメツ(一部ナデ) (頸)ナデ(マメツ) (胴)ケズリ	黄橙色 黄橙色・灰黄橙色	石・長(1~5)多 赤色粒・金 ◎	黒斑	
385	壺	口径(11.8) 残高　7.4	わずかに内湾し直立気味に立ち上がる口縁部。端部は丸い。	(口)ヨコナデ(マメツ) (胴)ハケ(6本/cm)(マメツ)	(口)ヨコナデ(マメツ) (頸)ナデ (胴)ケズリ→ナデ	灰黄橙色 灰橙褐色	密・石・長(1) 金 ◎		
386	壺	口径 10.6 残高　5.3	外傾する口縁部は端部がわずかに外反する。	ヨコナデ (マメツ・ハケ)	(口)丁寧なヨコナデ(マメツ) (頸)ナデ	黄橙褐色 灰黄橙色	密 金 ◎	黒斑	
387	壺	口径(15.3) 残高　4.8	内湾して直立する口縁部。端部は丸い。	ヨコナデ (マメツ)	(口)ヨコナデ(マメツ) (頸)ナデ(マメツ)	褐灰色 灰黄褐色	密 金 ◎		
388	不明	口径(12.4) 残高　1.6	端部は「コ」の字状。内面に線刻あり。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	密・石・長(1) ◎		
389	甑	残高　5.0	丸味のある長い把手。	ナデ	ナデ	淡黄橙色 淡黄橙色	石・長(1) 金 ◎		

SR1　出土遺物観察表　土製品　(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
390	甑	残高　4.6	把手。水平に伸び先端部は丸い。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) 茶赤粒・金 ◎		
391	甑	残高　6.1	把手。先端部は外上方に伸びる。	ナデ (一部ハケ)	マメツ	にぶい橙色 橙色 橙色	長(1) 茶石粒・金 ◎		
392	高坏	口径(17.0) 残高　4.3	大きく開く坏部。端部は外反し丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄橙色 淡黄橙色	石・長(1~4) 金 ◎		
393	高坏	口径(17.4) 残高　3.3	外反する口縁部の端部は丸い。	口ヨコナデ 坏マメツ	マメツ	淡黄橙色 黄橙色 黄橙色	石・長(1) 茶赤粒 ◎		
394	高坏	口径(18.4) 残高　4.1	坏部。底部と口縁部の境に稜をもつ。端部は丸い。	坏上ヨコナデ 坏底ナデ	口ヨコナデ 坏マメツ(ハケ)	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) 金 ◎		
395	高坏	口径(16.6) 残高　5.0	段をもち内湾気味に立ち上がる口縁部。端部は丸い。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1~2) ◎		
396	高坏	口径(12.8) 残高　4.8	段をもち内湾気味に立ち上がる口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	坏上ヨコナデ 坏底ナデ	坏上ヨコナデ 坏底ハケ(9~10本/cm)	淡黄橙色 淡黄橙色・黒色	密・石・長(1~2) 金 ◎	黒斑	
397	高坏	口径(17.1) 残高　4.1	内湾気味に立ち上がる口縁部の端部は丸い。	ヨコナデ	マメツ	黄橙色 橙色	石・長(1~2) 茶赤粒 ◎		
398	高坏	底径(10.3) 残高　7.1	脚部。裾部が屈曲し、端部は尖り気味に丸い。	柱ナデ 裾ヨコナデ	坏底マメツ 柱ナデ 裾ヨコナデ	淡橙色 淡黄橙色	石・長(1~2) 茶赤粒 ◎	黒斑	
399	高坏	底径 10.6 残高　7.4	脚部。裾部が屈曲する。端部は丸い。	ナデ	柱しぼり痕・ナデ 裾マメツ	淡黄橙色・淡橙色 淡黄橙色	石・長(1~2) 金 ◎		
400	高坏	底径 10.4 残高　8.1	脚部。裾部が屈曲し、わずかに内湾する。	柱ナデ 裾ヨコナデ	坏ナデ 柱ケズリ 裾ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) ◎		
401	高坏	底径 10.5 残高　5.4	脚部。裾部が大きく屈曲する。端部は丸い。	柱ナデ 裾ヨコナデ	柱マメツ 裾ヨコナデ	橙色 橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
402	高坏	口径　8.3 残高　4.5	脚部。短く外反する裾部。端部は丸い。	柱ナデ 裾ヨコナデ	柱しぼり痕・ケズリ 裾ナデ	にぶい橙色・橙色 にぶい橙色・橙色	密 ◎		
403	高坏	残高　8.4	坏底部から柱部。	坏底ヨコナデ(マメツ) 脚マメツ	坏底ナデ(マメツ) 柱ナデ・ケズリ(一部ナデ) 裾ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎	黒斑	
404	高坏	残高　6.9	柱部。	ナデ	しぼり痕 ケズリ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~3) 茶赤粒 ◎		
405	甕	口径(15.8) 残高　6.2	「L」字状の口縁部。端部はナデによりわずかに上方に伸びる。	口ヨコナデ(マメツ) 胴マメツ(ナデ)	口ヨコナデ 胴マメツ	灰黄褐色・淡黄色 灰褐色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
406	甕	口径(19.0) 残高　5.2	「く」の字状に折れ曲がる口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	口ヨコナデ(マメツ) 胴ハケ(マメツ)	口ヨコナデ(マメツ) 胴ナデ(マメツ)	黒褐灰色・灰橙褐色 黒褐灰色・灰橙褐色	石・長(1~3) ◎		
407	甕	底径　4.0 残高　2.6	平底。	ミガキ・ナデ (マメツ)	ナデ (工具痕)	灰橙褐色 淡黄灰色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
408	壺	口径(23.6) 残高　5.0	外反する口縁部。端部は拡張され、5条の凹線文と円形浮文を施す。	口ヨコナデ(マメツ) 頸ナデ(マメツ)	口端マメツ 口ヨコナデ 頸ミガキ・マメツ	灰褐色 茶褐色	石・長(1~2) 赤色粒 ◎		

SR1　出土遺物観察表　土製品　(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
409	壺	口径(14.4) 残高 2.8	複合口縁。拡張部は直立気味に立ち上がり端部は丸い。	ヨコナデ (マメツ)	ヨコナデ (マメツ)	橙褐色 橙褐色	石・長(1~3) ◎		
410	壺	口径(15.2) 残高 2.6	口縁部の端部は拡張され3条の凹線を施す。	ヨコナデ (マメツ)	(口端)マメツ (口)ヨコナデ(マメツ) (頸)ナデ	灰黄橙色・灰褐色 淡黄橙色	石・長(1~4) 赤色粒 ◎		
411	壺	口径(20.7) 残高 10.5	複合口縁。接合部は「コ」の字状でわずかに下方に垂れ拡張部は直立し端部が外反する。	(口)ヨコナデ(マメツ) (頸)マメツ(ヨコナデ・ナデ)	マメツ・ハクリ (ヨコナデ)	淡黄灰色 淡黄橙色	石・長(1~2) 金 ◎	黒斑	
412	壺	底径 9.5 残高 5.5	平底。	(胴下)ミガキ(粗い) (底)ナデ(マメツ)	ナデ (マメツ)	淡黄橙色 橙褐色	石・長(1~4)多 砂 ◎	黒斑	
413	高坏	残高 3.9	わずかに段をもつ坏部。	(胴下)ナデ・ハケ(6~7本/㎝) (底)ナデ	(坏底)ヨコナデ→ナデ押えながらナデ指頭痕 (柱)しぼり痕	淡黄色・黄灰色 淡黄色・黄灰色	石・長(1~4) 金 ◎		
414	高坏	底径 (9.8) 残高 2.8	「ハ」の字状に開く裾部。	ナデ(ハケ) ヨコナデ(マメツ)	ヨコナデ (マメツ)	淡黄橙色 橙褐色	密 金 ◎		
415	支脚	器高 6.0	中空。受部は傾斜を持つ。	ナデ(ハケ)	ナデ	淡黄橙色 淡黄橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
416	支脚	残高 11.9	角状の突起をもつ。	ナデ ナデ→タタキ	ナデ (しぼり痕)	黄橙褐色 橙褐色	石・長(1~6) 赤色粒・金 ◎	黒斑	
417	平瓦	長さ 9.4 幅 10.3 厚さ 3.9	小片。	(凸面) マメツ	(凹面) 布目痕	淡橙灰褐色	やや密 やや軟		

表16　SR1　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
418	石鹎丁	1/2強	結晶片岩	7.8	5.3	0.6	47.031	丁寧な研磨	

表17　SB3　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
419	壺	底径 (6.6) 残高 4.6	平底。	マメツ(ミガキ?) (底)板状工具によるナデ	ナデ	乳灰茶色 茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
420	鉢	口径(34.0) 残高 12.5	短くわずかに外反する口縁部。端部は「コ」の字状である。	(口)ヨコナデ (胴)平行タタキ→ハケ→ミガキ	(口端)ヨコナデ (頸)ハケ(11~12本/㎝) (胴)ハケ→ヨコナデ ハケ→ミガキ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
421	支脚	底径 (6.6) 残高 12.8	上げ底の底部。	指押えナデ	指押えナデ	乳橙茶色 乳橙茶色	石・長(1~4) ◎		
422	甕	残高 2.8	外傾する口縁部。端部は丸い。	ヨコナデ	マメツ	灰色 灰色	石・長(1)少 ◎	煤付着	
423	甑	残高 4.4	丸味をもつ長い把手部。	指押えナデ	指押えナデ	橙色 灰茶白色	石・長(1~2) ◎		
424	坏蓋	口径(11.8) 残高 2.9	段をもちわずかに開く口縁部。端部は内側に面をもち凹む。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密・石・長(1) ◎		

表18　SB7　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
425	甕	口径(23.0) 残高 20.8	口縁部は短く折り曲げ端部は上方に拡張され凹線文を施す。頸部内面にも凹線文を施す。	口ヨコナデ 胴上ハケ(3本/cm)→ナデ 胴下ナデ→ミガキ	口ヨコナデ 胴上ハケ(8本/cm) 胴下ミガキ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
426	甕	残高　1.6	口縁部の小片。端部に凹線文。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
427	甕	残高　6.9	頸部から胴部にかけての残存。	頸ヨコナデ 胴ミガキ	頸ヨコナデ 胴ミガキ	乳灰茶色 暗茶色	石・長(1~5) ◎		
428	甕	底径　5.4 残高　3.5	平底。	ミガキ 底板状工具によるナデ	ナデ	灰茶色 暗茶色	石・長(1)少 ◎	黒斑	
429	甕	底径　(8.4) 残高　5.3	やや上底。	ミガキ 底ナデ	ナデ	茶色 暗茶色	石・長(1)少 ◎	黒斑	
430	甕	底径　7.4 残高 16.0	平底の底部に外傾して立ち上がる胴部。	胴ミガキ ハケ(9本/cm)→ナデ 底ナデ	胴ケズリ 底ナデ	茶色 乳茶色	石・長(1) 金 ◎	黒斑	
431	壺	口径(16.2) 残高　2.5	外反する口縁部の端部は拡張され2条の凹線文を施す。	ヨコナデ ハケ(5~6本/cm)	ヨコナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		
432	壺	残高　1.2	口縁部の小片。端部は上下に拡張され3条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶色 乳灰茶色	石・長(1)少 ◎		
433	壺	残高　3.8	頸部に布目圧痕のある貼付凸帯文を1条巡らす。	ヨコナデ	ミガキ(マメツ)	茶橙色 茶橙色	石・長(1~3) ◎		
434	壺	残高　3.2	肩部にハケ目工具による「ノ」の字状の刺突列点文を施す。	ハケ(7本/cm)	ナデ	茶色 茶色	石・長(1)少 ◎		
435	壺	残高　5.7	肩部にハケ目工具による「ノ」の字状の刺突列点文を施す。	ヨコナデ ハケ(10~11本/cm)	ハクリ	乳桃茶色 乳黄茶色	石・長(1~4) ◎		
436	壺	底径　(7.6) 残高　2.0	平底。	ナデ→ミガキ 底ミガキ	ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		
437	鉢	口径 18.5 器高 15.1 底径　6.4	平底の底部。胴部は中位が張る。口縁部は短く外反し端部は「コ」の字状である。	口ヨコナデ 胴上ハクリ 胴下ハケ(9本/cm)→ミガキ 底ハケ(7本/cm)→ナデ	口ヨコナデ 胴ケズリ→ハケ(9本/cm)→ナデ 底ナデ	暗黄茶色 暗灰黄色	石・長(1~3) ○	黒斑	

表19　SB8　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
438	甕	口径 20.4 器高 35.0 底径　(6.6)	わずかにくびれる平底。口縁部は折り曲げ、端部は拡張され2条の凹線文。胴部に「ノ」の字状の刺突列点文。	口ヨコナデ 胴上ハケ(10本/cm) 胴下ミガキ 底ナデ	口ヨコナデ 胴上ハケ(10本/cm) 胴下ケズリ 底ナデ	茶色 茶灰色	石・長(1~3) ◎		黒斑
439	甕	口径(21.6) 器高 33.1 底径　5.6	くびれの上底。胴部は長く口縁部は折り曲げ端部に凹線文を1条。	口ヨコナデ 胴ハケ(11本/cm)→ミガキ 底ナデ	口ヨコナデ 頸ナデ 胴ケズリ(マメツ) 底ナデ	暗灰茶色 乳茶灰色	石・長(1~2) ◎		煤付着
440	甕	口径(30.0) 残高　2.4	折曲口縁。端部に深い凹線文を1条施す。	口ヨコナデ ハケ(5本/cm) 頸→ヨコナデ	口ヨコナデ 頸ハケ(7本/cm)	茶色 茶色	石・長(1~3)少 ◎		
441	甕	口径(17.6) 残高　5.3	口縁部は「L」字状に折り曲げ端部に1条の凹線文を施す。	口ヨコナデ 胴ハケ(5本/cm)→ヨコナデ ハケ	口ヨコナデ 胴ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1)少 ◎		
442	甕	口径(18.0) 残高　5.1	口縁部は「L」字状に折り曲げ端部は凹む。	口ヨコナデ 胴ハケ(5本/cm)→ヨコナデ ハケ	口ヨコナデ 胴ハケ→ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1)少 ◎		煤付着

SB8　出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
443	甕	口径(13.8) 残高 6.6	口縁部は折り曲げ端部に1条の凹線文を施す。	㊐ヨコナデ ㊐ハケ(6本/cm)	㊐ヨコナデ ㊐ナデ	黒灰色 乳灰茶色	石・長(1~2)少 ◎		
444	甕	口径(15.2) 残高 5.4	口縁部は折り曲げ端部は上方につまみ上げる。	ハクリ・マメツ	ハクリ・マメツ	茶白色 灰白色	石・長(1)少 ◎		
445	甕	口径(12.4) 残高 3.7	短く外傾する口縁部。端部に1条の凹線文を施す。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) 褐色粒 ◎		
446	甕	残高 5.7	口縁部は折り曲げ端部に1条の凹線文を施す。	㊐ヨコナデ ㊐ハケ(6~7本/cm)	㊐ヨコナデ ㊐ナデ(板状工具)	暗茶色 暗茶色	石・長(1)少 ◎		
447	甕	口径(15.6) 残高 3.3	口縁部は折り曲げ端部に浅い凹線文を2条施す。	ヨコナデ	㊐ヨコナデ ㊐ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2)少 ◎		
448	甕	口径(19.2) 残高 4.6	口縁部は折り曲げ端部に2条の凹線文を施す。	㊐ヨコナデ ㊐ハケ(8~13本/cm)	㊐ヨコナデ ㊐ハケ(6~7本/cm) ㊐ハケ	乳茶色 乳茶色	石・長(1)少 ◎		
449	甕	口径(18.0) 残高 3.1	口縁端部に2条の凹線文を施す。	㊐端ハクリ ㊐㊐ヨコナデ	㊐ヨコナデ ㊐ナデ	黒灰色 黒灰色	石・長(1~2) ◎		
450	甕	口径(18.6) 残高 1.1	口縁部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗灰色 暗灰色	石・長(1)少 ◎		
451	甕	口径(22.2) 残高 7.3	口端部に2条の凹線文、頸部に刻目凸帯文を施す。	㊐ハクリ・マメツ ㊐ハクリ(ミガキ?)	㊐ハクリ・マメツ ㊐ハクリ(ミガキ?)	橙白色 橙灰白色	石・長(1)少 ◎		
452	甕	残高 5.0	頸部に刻目凸帯文を施す。	頸ヨコナデ ㊐ナデ→ミガキ(マメツ)	頸ヨコナデ ㊐ナデ(板状工具)	灰茶色 黒灰色	石・長(1~2)少 ◎		
453	甕	残高 1.6	口縁部の小片。端部に凹線文を施す。	ヨコナデ (ハクリ)	ヨコナデ ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1)少 ◎		
454	甕	残高 1.1	口縁部の小片。端部に凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1)少 ◎		
455	甕	底径 (7.0) 残高 3.5	くびれの上げ底。	ナデ ㊞ヨコナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
456	甕	底径 (5.6) 残高 4.7	わずかに上げ底。	胴下ミガキ ㊞ナデ	ナデ上げ(板状工具) →ミガキ ㊞指押え	乳橙色・灰白色 灰茶色	石・長(1)少 ◎		
457	甕	底径 (5.8) 残高 2.9	わずかにくびれる平底。	ミガキ ㊞ナデ	ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2)少 ◎		
458	壺	口径(17.6) 残高 4.3	外反する口縁部の端部は拡張され4条の凹線文を施す。	ヨコナデ ハケ(5本/cm) →ヨコナデ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1)少 ◎		
459	壺	口径(12.0) 残高 4.8	直立気味の頸部に外反する口縁部。端部は拡張され4条の凹線文を施す。	ヨコナデ ハケ(6本/cm)	ヨコナデ ナデ	茶白色 茶白色	石・長(1~3)少 ◎		
460	壺	口径(15.2) 残高 1.4	外反する口縁部の端部は拡張され3条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3)少 ◎		
461	壺	口径 (8.4) 残高 3.4	短く外反する口縁部の端部は拡張され3条の凹線文を施す。	ヨコナデ ハケ(5~6本/cm) →ヨコナデ	ヨコナデ ナデ ナデ上げ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3)少 ◎		

SB8　出土遺物観察表　土製品　(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
462	壺	口径 (9.2) 残高 2.2	短く外反する口縁部の端部は拡張され3条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~4) ◎		
463	壺	残高 3.5	肩部にハケ目工具による「ノ」の字状の刺突列点文を施す。	ヨコナデ ハケ(8本/cm)	ナデ	茶色 茶色	石・長(1)少 ◎		
464	壺	残高 18.3	細い頸部に大きく丸い胴部。	(頸)(肩)ヨコナデ ハケ (4~5本/cm) (胴)ハケ→ミガキ	(頸)(肩)ナデ →ミガキ (胴)ハケ(3~4本/cm) →ミガキ	暗赤茶色 暗赤茶色	石・長(1)少 ◎		
465	壺	底径(10.4) 残高 4.8	厚みのある平底。	ハクリ・マメツ (一部ミガキ) (底)ハクリ	マメツ	乳茶色 灰色	石・長(1~6) ◎		
466	壺	底径(10.8) 残高 4.1	平底。	ミガキ (底)ナデ (板状工具)	ミガキ	黒色・灰茶白色 乳茶色	石・長(1~2)少 ◎	黒斑	
467	鉢	口径(12.6) 残高 4.7	小型品。短い口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。	(口)ヨコナデ (体)ミガキ	(口)ヨコナデ (体)ケズリ ミガキ	灰茶白色 乳橙色	石・長(1~2) ◎		
468	高坏	口径 22.0 残高 10.5	坏部は外傾し、端部付近は直立する。口縁外面に4条の凹線文、柱部上位に6条の沈線文を施す。	(口)ヨコナデ (坏)ミガキ ミガキ→ナデ	(口)ヨコナデ (坏)ミガキ (坏底)ナデ (脚)ケズリ	茶灰色 灰茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
469	高坏	口径(19.3) 残高 4.1	坏部の口端部は直立し、外面に5条の凹線文を施す。	(口)マメツ (坏)ミガキ(マメツ)	(口)ヨコナデ (坏)ハケ(13~14本/cm) →ミガキ	茶白色 乳茶色	石・長(1)少 ◎		
470	高坏	底径(10.0) 残高 9.9	脚部上位に11条の沈線文、中位に矢羽根透かし、裾部に3条の凹線文を施す。	(脚)ミガキ (裾端)ヨコナデ	(坏底)ミガキ (脚)しぼり痕・ハクリ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2)少 ◎		
471	高坏	残高 4.3	柱部上位に5条の沈線文が残る。	ミガキ(マメツ)	(坏)マメツ (脚)しぼり痕・ケズリ	乳茶色 乳茶色・灰色	石・長(1)少 ◎		
472	高坏	残高 3.8	柱部上位に2条の沈線文が残る。	ミガキ	(坏)ミガキ (脚)しぼり痕・ケズリ	乳茶色 乳茶色	石・長(1) ◎		
473	高坏	底径(13.0) 残高 4.1	脚裾部に3条の凹線文、中位に矢羽根透かしが一部残る。	ハケ (5~6本/cm) マメツ	マメツ	灰色・乳茶色 乳茶色	石・長(1)少 ◎		
474	高坏	底径(15.6) 残高 2.3	大きく開く脚部。端部は「コ」の字状に丸い。	(裾)ハケ (10本/cm・7~8本/cm) (裾端)ヨコナデ	ハケ (7本/cm)	乳茶橙色 乳茶橙色	石・長(1~3) ◎		

表20　SB8　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
475	石鏃	完形品		5.5	2.8	0.7	11.500	未成品	
476	石材	2 / 3	結晶片岩	7.6	4.5	0.5	33.571		
477	台石			37.6	26.1	11.4	15,950		

表21　SB9　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
478	甕	口径(24.0) 残高 1.0	口縁部の小片。端部に1条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		

SB9　出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
479	甕	残高 0.9	口縁部の小片。端部に1条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1) ◎		
480	甕	残高 0.9	口縁部の小片。端部に1条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	黒灰色 黒灰色	石・長(1~2) ◎		
481	甕	残高 0.9	口縁部の小片。端部に2条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1)少 ◎	煤付着	
482	甕	底径 (5.6) 残高 2.7	平底。	ミガキ (底)板状工具によるナデ	ナデ	黒灰色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
483	甕	底径 (5.4) 残高 2.2	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	灰桃色 乳黄色	石・長(1) ◎		
484	壺	口径(12.8) 残高 1.3	外反する口縁部。端部に3条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2)少 ◎		
485	壺	口径(15.0) 残高 1.8	外反する口縁部。端部に2条の凹線文を施す。	マメツ (ヨコナデ)	マメツ	灰色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
486	壺	底径 (8.6) 残高 2.2	わずかに上げ底。	ヨコナデ (底)ナデ	ハケ(8本/cm) →ナデ	乳茶色 茶色	石・長(1)少 ◎		
487	壺	底径 (8.5) 残高 3.8	平底。	ミガキ (底)ナデ	ナデ	灰桃茶色 灰桃茶色	石・長(1) 褐色粒 ◎		
488	高坏	底径(12.2) 残高 3.4	脚裾部に6条の沈線文と矢羽根透かしを施す。	マメツ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1)少 ◎		
489	甕	口径(19.0) 残高 2.8	外傾する口縁部は水平な面をもちわずかに凹む。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰茶橙色 灰茶橙色	石・長(1) 褐色粒 ◎		
490	甕	口径(12.8) 残高 2.5	わずかに外反する口縁部の端部は丸い。	マメツ	マメツ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~2) ◎		
491	甕	残高 3.5	外傾する口縁部の端部は丸味をもつ。	マメツ (ハケ)	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		
492	高坏	残高 2.7	坏口縁部。端部手前に段をもつ。下部に7条の波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		

表22　SK15　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
493	甕	口径(14.9) 残高 9.0	短く内湾し直立気味に立ち上がる口縁部。端部は丸い。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ (6~7本/cm)	(口)ハケ→ヨコナデ (胴上)ナデ (胴下)ハケ(6本/cm)	桃茶色 桃茶色	密・石・長(1) ◎	黒斑	
494	甕	残高 8.2	肩の張らない胴部。	(頸)ハケ→ヨコナデ (肩)タタキ→ハケ (胴)タタキ	ハケ→ナデ	暗灰色 暗灰色	石・長(1~2) ◎		
495	甕	残高 26.2	肩の張らない胴部。	水平タタキ→ハケ (15~16本/cm)	(頸)ハケ→ヨコナデ (胴)ハケ(9本/cm) →ナデ (指頭痕)	灰茶橙色 茶橙色	石・長(1~3) ◎	煤付着	
496	甕	口径(13.6) 残高 1.6	外反する口縁部の端部は下方に垂れる。	(口端)ナデ ハケ(7本/cm)	ハケ(7本/cm)	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		

SK15　出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
497	甕	口径(19.8) 残高 1.9	外傾する口縁部。	ハケ(4~5本/cm) →ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 灰色	石・長(1) ◎		
498	甕	口径(14.6) 残高 2.3	外傾する口縁部。	(口端)ヨコナデ ハケ(16~17本/cm) →ナデ(指押え)	ヨコナデ	灰色・乳茶色 灰色・乳茶色	石・長(1~2) 金 ◎		
499	壺	口径(20.0) 残高 1.1	外反する口縁部の端部は下方に垂れる。	(口端)ヨコナデ ハケ	ミガキ	乳茶桃色 乳茶色	石・長(1) ◎		
500	壺	口径(21.0) 残高 1.1	外反する口縁部の端部は下方に垂れ尖り気味である。	ヨコナデ	ハクリ	淡灰黄色 淡灰黄色	石・長(1~2) ◎		
501	壺	口径(18.0) 残高 1.6	外反する口縁部の端部は下方に垂れる。	(口端)ヨコナデ ハケ(7本/cm)→ミガキ	ミガキ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) 金 ◎		
502	壺	口径(23.0) 残高 2.9	大きく外反する口縁部の端部は丸味をもつ。	ハクリ	ハケ(6~7本/cm)	乳灰黄茶色 乳灰黄茶色	石・長(1~2) ◎		
503	壺	口径(20.8) 残高 3.8	大きく外反する口縁部の端部は丸味をもち下方に垂れる。	(口端)ヨコナデ マメツ・ハケ(3本/cm) (8本/cm)	ハケ(8本/cm)	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ◎		
504	壺	口径(25.6) 残高 1.5	外反する口縁部。	(口端)ヨコナデ ハクリ	マメツ(ミガキ?)	乳黄色 乳黄茶色・灰色	石・長(1) ◎		
505	壺	口径(18.0) 残高 2.6	外反する口縁部の端部はわずかに凹む。	(口端)ヨコナデ ハケ(7本/cm)	ハケ(7本/cm)	乳茶桃色 茶橙色	石・長(1~2) ◎		
506	壺	残高 5.6	頸部から口縁部の残存。頸部に刻目凸帯文を1条施す。	ハケ(8本/cm) →ミガキ	ミガキ ナデ	灰茶白色 乳茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
507	壺	残高 3.0	頸部から肩部。頸部に斜格子の刻目凸帯文を1条施す。	ハケ(6本/cm)	ナデ(指押え)	茶橙色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
508	壺	残高 5.2	頸部に斜格子の刻目凸帯文を1条施す。	ヨコナデ ハケ(6~7本/cm) →ミガキ	(頸)ハケ→ナデ (肩)ハケ(6~7本/cm) →ナデ	乳茶色 茶白色	石・長(1~2) ◎		
509	壺	残高 4.7	丸味のある肩部。	ハケ(7本/cm)→ミガキ	(頸上)ミガキ (頸下)指押え・ナデ (胴)ハケ(5本/cm)	茶橙色 灰茶白色	石・長(1~4) ◎		
510	壺	底径 4.6 残高 5.2	丸味のある底部。	マメツ(ハケ)	ハケ(6本/cm) →ナデ上げ	乳茶色 茶白色	石・長(1~4) ◎		
511	壺	底径 4.6 残高 6.9	丸味のある底部。	平行タタキ→ ハケ(13~14本/cm)	ハケ(9本/cm)	乳灰橙茶色 乳橙茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
512	壺	底径 4.1 残高 7.2	丸底。	ハケ(7本/cm)→ミガキ?	ハケ(5本/cm)→ナデ	乳灰茶色 乳茶橙色	石・長(1~4) ◎	黒斑	
513	壺	底径 7.5 残高 10.6	丸味のある底部にヘラ描きの木葉文を施す。	(胴)ハケ(6本/cm)→ミガキ (底)ナデ	ハケ(6本/cm)→ナデ	茶橙色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
514	壺	底径 5.0 残高 13.5	丸味のある底部にヘラ描きの木葉文を施す。	(胴)ハケ(6本/cm)→ミガキ (底)ナデ	ハケ(6本/cm)→ナデ	灰茶色 乳灰色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
515	高坏	残高 2.7	口縁部の小片。端部に3条の凹線文を施す。	ヨコナデ(マメツ)	ヨコナデ	乳茶橙色 乳茶橙色	石・長(1~2) ◎		

SK15　出土遺物観察表　土製品　(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
516	高坏	残高　4.4	柱部。2条の浅い沈線と透かしが残る。	マメツ(ミガキ)	ハクリ	乳灰茶色 乳灰茶色	密・石・長(1) ◎		
517	壺	口径　(9.6) 残高　2.6	外傾する口縁部の端部は丸味をもつ。	ヨコナデ	ハケ(6~7本/cm) →ナデ	灰茶色 乳茶色	石・長(1) ◎		

表23　SK16　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
518	甕	口径(16.5) 器高　17.4 底径　2.6	小さい丸味をもつ底部にゆるやかに内湾して立ち上がる胴部。口縁部は外反し端部は「コ」の字状に丸い。	(口)ヨコナデ (胴)平行タタキ (底)タタキ→ナデ	(口)マメツ (胴)ナデ(ナデ上げ)	暗茶色 灰茶色	石・長(1~6) ◎	黒斑	
519	甕	口径(14.8) 残高　15.5	肩の張らない胴部。口縁部は外傾し端部は「コ」の字状に丸い。	(口)ハケ(6本/cm)→ヨコナデ (肩)ハケ、平行タタキ→ナデ (胴上)平行タタキ(マメツ) (胴下)平行タタキ→ハケ(10本/cm)	(口)ハケ(6本/cm)→ヨコナデ (肩)ハケ(6本/cm) (胴)ハケ(4本/cm)	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
520	甕	口径(12.2) 器高　11.9	ケズリにより突出する底部。口縁部は短く外反し端部は丸い。	(口)ナデ(指頭押圧) (胴)ナデ (底)ケズリ	(口)ハケ(8本/cm) (胴)ナデ	乳黄橙色 乳黄白色 乳黄橙色	石・長(1~2) ◎		
521	甕	底径　3.8 残高　20.0	丸味のある小さな底部にゆるやかに内湾しながら立ち上がる胴部。	(肩)タタキ→ハケ(4本/cm) (胴)タタキ (底)ナデ	肩ナデ→ハケ(6本/cm) (胴)ナデ (底)ナデ上げ	灰黄茶色 灰黄茶色	石・長(1~3) ◎		
522	甕	底径　2.0 残高　8.0	丸味のある小さな底部に内湾しながら立ち上がる胴部。	マメツ	マメツ	乳茶白色 乳茶色	石・長(1~4) ○	黒斑	
523	甕	底径　(7.0) 残高　2.1	平底。	ナデ	ナデ	灰色・灰桃色 乳灰色	石・長(1~2) ◎		
524	壺	口径　14.9 器高　19.4 底径　3.6	丸味のある小さな底部から球形の胴部につづく。口縁部は外反し端部はわずかに下方に垂れる。	(口)ハケ(9本/cm)→ヨコナデ→ミガキ (頸肩)ハケ→ミガキ (底)ハケ(5~6本/cm)→ナデ	(口)ヨコナデ (頸)ハケ→ミガキ(マメツ) (肩)ハケ(6本/cm) (胴)ハケ(4~5本/cm)	乳茶色 乳灰色	石・長(1~3) ◎		
525	壺	口径(23.0) 残高　14.3	大きく外反する口縁部の端部は「コ」の字状で凹む。頸部にハケ目工具による刻目凸帯文。	(口)ヨコナデ (肩)ハケ(7~8本/cm)	(口)ヨコナデ (頸肩)ナデ(指押え)	乳茶色 灰色	石・長(1~4) ◎		
526	壺	口径(27.2) 残高　9.1	大きく外反する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。頸部に刻目凸帯文。	(口端)ヨコナデ (口)ハケ(8本/cm)→ミガキ? (肩)マメツ	マメツ (肩)ハケ(5~6本/cm) (マメツ)	乳茶橙色 乳黄茶色・灰色	石・長(1~3) ◎		
527	壺	口径(12.8) 残高　5.2	直立する口縁部の端部は丸い。	ハケ →板状工具によるナデ	(口端)ハケ→板状工具によるナデ (口)ハケ(8本/cm)	暗灰色 暗灰色	石・長(1~3) ◎		
528	壺	残高　4.2	頸部から肩部にかけての残存。	平行タタキ(マメツ)	(頸)ハケ (肩)マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
529	壺	残高　27.6	頸部から胴部。胴部中位が大きく張る。	(頸)ハケ→ミガキ (胴)ハケ(6~7本/cm) (マメツ)	(頸)ハケ→ナデ (肩)ナデ(指押え) (胴)ハケ(5本/cm)→ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~5) ◎		
530	壺	口径　15.2 残高　21.1	外傾して段をもち、直立気味に立ち上がる口縁部。胴部は肩が張らない。	(口)ヨコナデ(板状工具) (頸)ハケ(5本/cm) (肩)ナデ (胴)タタキ→ミガキ	(口)ヨコナデ(板状工具) (頸)ハケ (肩)ハケ→ナデ (胴)ハケ(7~8本/cm)(4~5本/cm)	茶黄色 茶黄色	石・長(1~4) ◎		
531	壺	口径　11.8 残高　15.2	直立し内湾する口縁部の端部は丸味をもつ。	(口)ハケ(6本/cm) →ヨコナデ (胴)ハケ(6本/cm)	(口)ハケ(3本/cm)→ナデ (頸肩)しぼり痕・ナデ上げ (胴)ハケ(3本/cm)	黄灰色 黄灰色	石・長(1~3) 金 ◎	黒斑	
532	鉢	口径(24.2) 器高　12.5 底径　5.1	丸味をもつ底部に内湾気味に立ち上がる口縁部。端部は丸味をもつ。	(口端)ヨコナデ (口)ハケ(5本/cm)→ヨコナデ (体)タタキ→ハケ (底)ナデ(板状工具)	(口)ヨコナデ (体)ハケ(10本/cm)→ミガキ(マメツ) (底)工具小口痕	茶橙色・黒色 暗茶橙色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
533	鉢	口径　21.8 器高　8.7	不安定な底部に内湾気味に立ち上がる口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	(口端)ナデ (体上)ハケ(8本/cm)→ナデ・指押え (体下)ナデ・指押え (底)ケズリ	ハケ(8本/cm)→ミガキ	乳茶灰色 乳茶色	石・長(1~3) 金 ◎	黒斑	

SK16　出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
534	鉢	口径(20.4) 残高 3.0	口縁部片。端部は「コ」の字状に丸い。	(口端)ヨコナデ (口)ナデ・指押え	ハケ(15~16本/cm) (11~12本/cm)	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
535	鉢	残高 3.3	口縁部片。端部は外反し丸味をもつ。	(口)マメツ 平行タタキ	ハケ(7本/cm) マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
536	甑	底径 1.0 残高 11.2	尖り気味の底部に焼成前の穿孔。	平行タタキ→ナデ 指押え	ナデ(板状工具)	乳茶色 茶色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
537	支脚	底径 11.0 残高 13.6	中空。角状突起を2本欠く。	指押え ナデ	指押え ナデ	乳黄茶色・桃茶色 乳黄茶色・桃茶色	石・長(1~3) ◎		
538	支脚	口径 5.6 器高 6.4 底径 5.8	上面と底部が凹む。	指押え ナデ	指押え ナデ	灰茶色・乳黄茶色 灰茶色・乳黄茶色	石・長(1~2) ◎		

表24　SK28　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
539	甕	口径(13.4) 残高 5.0	短く外傾する口縁部。端部は「コ」の字状。	(口)ヨコナデ (胴)ヘラミガキ	(口)ヨコナデ (胴)ハケ→ナデ	灰黄色 にぶい褐色	石・長(1~2) ◎		
540	甕	口径(25.0) 残高 4.9	「く」の字状口縁。端部はナデにより凹む。頸部に布目押圧の凸帯文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙灰褐色 橙褐色	石・長(1~4) 赤色粒 ◎		
541	甕	底径 (6.8) 残高 6.8	くびれの上げ底。	(底)ヨコナデ →ナデ (胴)ミガキ	ナデ	橙色・灰褐色 黒灰色	石・長(1~7.5)多 ◎		
542	壺	口径(10.0) 残高 5.3	短く外反する口縁部。端部はナデにより凹む。	(口)ヨコナデ (頸)ハケ(10本/cm) →ヨコナデ (体)ハケ(10本/cm) →ミガキ	(口)ヨコナデ (体)ナデ	橙褐色 橙褐色	石・長(1~3) 赤色粒・金 ◎		

表25　SB1　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
543	甕	口径 20.2 残高 4.9	外傾する口縁部。端部は面をもち「コ」の字状に丸い。	マメツ (ヨコナデ) (ハケ(4~5本/cm))	マメツ	乳茶色・灰色 乳茶色・灰色	石・長(1~4) ◎		
544	甕	口径 18.0 残高 3.7	外傾する口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	ヨコナデ ハケ(5本/cm) →ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	乳灰橙色 乳灰橙色	石・長(1~2) ◎		
545	甕	口径(19.0) 残高 3.1	外傾する口縁部。端部は面をもち「コ」の字状に丸い。	マメツ (ヨコナデ)	マメツ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
546	甕	口径(13.6) 残高 2.0	外傾する口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	マメツ	マメツ	橙色 乳橙色	石・長(1~2) ◎		
547	高台坏	残高 2.5	水平な坏底部。「ハ」の字状に開く高台部。	ヨコナデ	(坏)マメツ (脚)マメツ (一部ヨコナデ)	乳橙色 乳橙色	密 褐色粒 ◎		
548	高台坏	残高 3.0	水平な坏底部。高台部は「ハ」の字状に開く。	ヨコナデ	(坏)ヨコナデ (脚)ヨコナデ・マメツ	乳橙色 乳橙色	密 ◎		
549	坏身	口径(13.6) 残高 5.0	外上方に伸びる受部。立ち上がりは直立気味で端部は凹む。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ◎		

SB1　2層　出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
550	坏身	口径(10.9) 器高　4.6	水平気味の受部。立ち上がりは直立気味で端部は凹む。	㊐回転ナデ ㊞回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1~5) ◎		
551	坏身	口径(10.8) 残高　3.4	水平気味に短く伸びる受部。立ち上がりは内傾し、端部はわずかに凹む。	㊐回転ナデ ㊞回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
552	坏身	口径(12.6) 残高　3.6	短く水平に伸びる受部の端部は尖り気味である。立ち上がりは内傾し端部は尖る。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 白色粒 ◎		
553	坏身	口径(10.8) 残高　4.6	短く水平気味に伸びる受部。立ち上がりは内傾し端部は丸い。	㊐回転ナデ ㊞回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
554	坏身	口径(11.6) 残高　3.8	水平気味に伸びる受部の端部は尖り気味である。立ち上がりは内傾し端部は凹む。	㊐回転ナデ ㊞回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 白色粒 ◎		
555	坏身	残高　3.5	外上方に短く伸びる受部。端部は先細りする。	㊐回転ナデ ㊞回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 白色粒 ◎		
556	高坏	残高　4.1	段をもつ柱部。2方向に透かしを施す。	回転ナデ	回転ナデ しぼり痕	青灰色 灰白色	密 白色粒 ◎		
557	甕	口径　(8.2) 残高　2.2	内湾する口縁部の小片。端部は丸い。	回転ナデ カキ目	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
558	甕	口径(12.6) 残高　3.7	段をもち開く口縁部。端部は内傾する面をもつ。段下部に波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 白色粒 ◎		
559	壺	口径(17.2) 残高　6.3	大きく開く口縁部の端部は「コ」の字状である。外面は2条の凸帯により3区画され波状文を施す。	回転ナデ	マメツ	青灰色 青灰色	石・長(1~2) ◎	自然釉	
560	壺	口径(19.0) 残高　1.6	口縁部の小片。	回転ナデ	回転ナデ	黒灰色 黒灰色	密 白色粒 ◎		
561	壺	残高　2.7	口縁部の小片。端部は丸味をもつ。	マメツ	回転ナデ ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎	自然釉	
562	壺	底径(13.1) 残高　4.9	短い高台が付く。高台端部は丸味をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	白色粒 ◎		
563	高坏	底径(24.0) 残高　1.8	脚部の小片。端部は「コ」の字状で凹む。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 白色粒 ◎		
564	不明	底径(23.0) 残高　4.4	脚裾部内面に段をもつ。脚部片。	回転ナデ	回転ナデ	赤灰色・黒灰色 赤灰色・黒灰色	白色粒 ◎		
565	不明	残高　2.2	受部と立ち上がりをもつ。器種不明	回転ナデ マメツ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	自然釉	
566	円筒埴輪	残高　7.0	突出度の低い台形状のタガと透かしの一部が残る。	ヨコナデ ナデ マメツ(ハケ?)	マメツ ハケ	赤茶色 乳黄茶色	石・長(1~5) ◎	赤色顔料	
567	甕	残高　4.6	短く外反する口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	ナデ ハケ(6本／cm)	ハクリ ハケ(6本／cm)	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
568	甕	底径　(3.1) 残高　3.3	小さな丸味をもつ底部。	ナデ	ナデ	乳茶色 暗灰色	石・長(1~4) ◎		
569	壺	底径　(5.2) 残高　2.1	丸味をもつ平底。	マメツ	指押え ナデ	乳茶色 灰色	石・長(1~2) ◎		

表26　SB1　出土遺物観察表　装身具

番号	器　種	残　存	材　質	法　量				備　考	図版
				長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)		
570	小　玉	完　形	滑　石	2.0	4.5	2.0	0.058		

表27　SB2　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形　態　・　施　文	調　整		色調	胎　土 焼　成	備考	図版
				外　面	内　面	(外面) (内面)			
571	甕	口径 12.4 器高 18.9	球形の胴部に外傾する口縁部。端部は丸い。	(口)ヨコナデ (胴)マメツ (ハケ9本／cm) (板状工具によるナデ)	(口)ヨコナデ ナデ(マメツ)	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~4) ○		
572	壺	口径 (6.6) 器高 8.0	小型丸底壺。球形の底部にわずかに外傾する口縁部。端部は丸い。	(口頸)ヨコナデ (胴)マメツ(ナデ)	(口)ヨコナデ (胴)ナデ (底)ケズリ	乳茶黄色 茶色	石・長(1~2) ○		
573	壺	残高 3.2	丸底。	(胴)ケズリ・ナデ (底)ケズリ	ハケ(5本／cm)	灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
574	高坏	口径 22.2 器高 15.6 底径 13.6	段を持って内湾気味に外傾する坏部。口端部は「コ」の字状に丸い。脚部は「ハ」の字状に開く。	(口)ハケ→ヨコナデ (坏)ハケ(7本/cm)→ヨコナデ (坏底)ナデ (脚)マメツ(ヨコナデ)	(坏)ハケ(7本／cm) (坏底)ナデ (脚)ケズリ (裾)(ハケ9本/cm)→ヨコナデ	橙灰茶色 乳黄茶色	石・長(1~7) ◎		
575	高坏	口径 17.2 残高 7.4	段を持って外反する坏部の口端部は丸い。	(口)ヨコナデ (坏)ナデ (脚)ヨコナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
576	高坏	口径(17.8) 残高 4.9	段を持って外傾する坏部の端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳橙茶色 乳橙茶色	石・長(1~3) ◎		
577	高坏	口径(17.6) 残高 3.7	水平気味の坏底部に外傾する口縁部。端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
578	高坏	口径(19.2) 残高 4.7	外傾する坏部の口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	ハケ(7本／cm) →ヨコナデ(板状工具) →ミガキ	ヨコナデ→ミガキ?	茶橙色 茶橙色	石・長(1~2) 金 ◎		
579	高坏	口径(16.4) 残高 3.8	わずかに段を持ち外傾する坏部。端部は丸い。	ヨコナデ(マメツ)	ヨコナデ(マメツ)	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
580	高坏	口径(21.0) 残高 2.7	わずかに外反する坏部の口縁部。端部は丸い。	ヨコナデ (マメツ・ハクリ)	ヨコナデ (マメツ・ハクリ)	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
581	高坏	残高 3.8	段を持つ坏部。	ヨコナデ(マメツ)	ハケ(4~5本／cm)	乳茶色 乳茶色	石・長(1) 褐色粒 ◎		
582	高坏	底径(12.4) 残高 2.1	屈曲する脚裾部。端部は丸い。	ヨコナデ	(脚)ナデ (裾)ハケ(8本／cm) →ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
583	高坏	残高 5.1	「ハ」の字状に開く柱部。	ナデ	ケズリ	乳茶色 乳茶色	密 褐色粒 ◎		
584	甑	残高 4.4	把手の小片。	ナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
585	甕	残高 6.0	肩の張らない胴部に外傾する口縁部。	平行タタキ	(口)ハケ(5本／cm) (胴)ハケ(7本／cm)	暗灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
586	甕	残高 5.0	頸部に布目押圧痕のある凸帯文を1条施す。	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	黒灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) 砂・金 ◎		
587	壺	残高 2.2	外反する口縁部の小片。端部は丸味をもち1条の凹線文を施す。	(口端)マメツ(ヨコナデ) (口)ヨコナデ→ミガキ	ヨコナデ	乳赤茶色 黒色	石・長(1~3) ◎		

SB2　出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
588	壺	口径(22.0) 残高 3.1	大きく外反する口縁部。端部は上方にわずかに拡張される。端面に山形文を施す。	(口端)マメツ・ハクリ ナデ(指押え) (口)ハケ(5本/cm)	マメツ・ハクリ	乳灰茶色 茶白色	石・長(1~7) ◎		
589	壺	口径(15.2) 残高 1.5	口縁部の小片。端部は上下にわずかに拡張され2条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~5) ◎		
590	壺	口径(11.2) 残高 1.7	口縁部の小片。端部は上下にわずかに拡張され2条の凹線文を施す。	マメツ・ハクリ (ヨコナデ)	マメツ・ハクリ	乳茶色 乳茶色	密・石・長(1) ◎		
591	壺	残高 1.2	口縁部の小片。端部は上下にわずかに拡張され凹線文を5条施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	密・石・長(1) ◎		
592	壺	残高 1.3	口縁部の小片。端部はわずかに拡張し2条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1) ◎		
593	壺	残高 2.2	頸部に斜格子の凸帯文を1条施す。	ハケ(6~7本/cm)	ナデ ミガキ?	茶白色 茶白色	石・長(1~3) ◎		
594	壺?	残高 3.9	胴部片。刻目をもつ凸帯文を1条施す。	(上部)ハケ(5本/cm) ヨコナデ	ナデ	灰色 暗茶色	石・長(1) 金 ◎		
595	壺	底径 (9.2) 残高 2.4	厚みのある平底。	ナデ	マメツ	乳茶色 茶白色	石・長(1~5) ◎		
596	鉢	口径(17.0) 残高 5.3	外傾する口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	ハケ(7本/cm)	ハケ→ナデ	茶白色 茶白色	石・長(1~2) 金 ◎		

表28　SB2　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
597	砥石			20.0	13.2	7.0	2600.0		

表29　SB2貼床　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
598	甕	口径(12.0) 残高 3.0	外傾する口縁部。端部は把厚され下方に垂れる。	(口端)マメツ(ハケ) (頸)ハケ(7本/cm)	(口)ハケ(7本/cm) (頸)ケズリ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ◎		
599	甕	残高 2.2	外傾する口縁部。端部は「コ」の字状である。	ナデ	ハケ(5~6本/cm)	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
600	甕	口径(19.6) 残高 1.6	「L」字状の口縁部。端部は上方に短く拡張する。	ヨコナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
601	甕	残高 6.7	くびれの上底。胴部は外傾して立ち上がる。	ミガキ (底)ナデ	ナデ ナデ (底)ヨコナデ	暗茶色 暗灰茶色	石・長(1~3) ◎		
602	甕	底径 (6.2) 残高 3.4	わずかにくびれる平底。	ミガキ (底)ナデ	ナデ	乳茶色 灰茶白色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
603	甕	底径 (6.2) 残高 1.7	平底	ナデ(ハクリ)	指押え・ナデ	暗灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~2) ◎	黒斑	

SB2　貼床出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
604	甕	底径 (3.6) 残高 4.5	小さな平底。胴部は外傾して立ち上がる。	マメツ(ミガキ)	ナデ	灰茶色 乳茶色	石・長(1) ◎		
605	甕	底径 (2.8) 残高 3.0	小さな丸味をもつ底部。	平行タタキ→ハケ(5本/cm)	ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	密・石・長(1) ◎		
606	壺	口径(14.6) 残高 2.5	外反する口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	ナデ ハケ(4~5本/cm)	ハケ(7本/cm)	茶橙色 茶橙色	石・長(1~3) ◎		
607	壺	底径 (6.4) 残高 5.6	丸味をもつ厚い底部。	ハケ(5~6本/cm) (底)ナデ	ナデ	茶白色 灰白色	石・長(1~3) ◎		
608	不明	底径(14.0) 残高 1.5	大きく開く脚部。端面に凹線を施す。脚部片。	ヨコナデ→ナデ	ヨコナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
609	高坏	口径(19.0) 残高 1.9	外反する坏部。端部は丸い。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		
610	高坏	残高 6.0	柱部。矢羽根と思われる貫通しない透かしと沈線6条を施す。	ナデ	指押え・ナデ 一部ヨコナデ	灰茶色 乳茶色	石・長(1~5) 褐色粒 ◎		
611	高坏	底径 (9.0) 残高 2.1	脚部。裾部に3条の凹線と端面に2条の凹線を施す。	マメツ	ヨコナデ	灰茶色 灰茶色	密・石・長(1~2) ◎		
612	支脚	口径 (7.0) 残高 4.5	円形の小さな受部はわずかに凹む。	指押え・ナデ	マメツ	茶色 黒色	密・石・長(1) ◎		
613	支脚	残高 7.5	角部は欠失しているが3方向と思われる。中心部に円孔を施す。	ナデ	ナデ(しぼり痕)	乳灰白色 乳灰白色	石・長(1~3) ◎		
614	支脚	口径 (8.8) 器高 5.8 底径 (6.6)	器高は低く受部は凹む。	指押え・ナデ	ナデ(指押え)	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ◎		
615	甕	残高 4.3	外傾する口縁部。端部は水平な面をもち「コ」の字状に丸い。	マメツ	マメツ	灰茶白色 灰茶白色	石・長(1~3) ◎		
616	高坏	口径 17.1 残高 11.1	坏部と柱部。坏部は段をもち内湾気味に立ち上がる。端部はわずかに外反する。	(坏上)ハケ(7~8本/cm)→ヨコナデ (坏下)ヨコナデ (柱)ナデ	(坏)ハケ(7~8本/cm)→ヨコナデ (柱)ケズリ・マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) ◎		
617	高坏	口径(16.2) 残高 6.1	段をもちわずかに外反する坏部。端部は丸い。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○		
618	高坏	口径(17.0) 残高 5.1	内湾気味に立ち上がり、端部付近がわずかに外反する。	マメツ	マメツ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~3) ◎		
619	高坏	口径(16.4) 残高 2.7	端部付近がわずかに外反する口縁部。端部は丸い。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	暗茶色 暗茶色	石・長(1) 褐色粒・金 ◎		
620	高坏	底径(12.8) 残高 8.5	ラッパ状に開く脚部。端部は尖り気味に丸い。	マメツ・ハクリ	マメツ (柱上)しぼり痕 (柱)ケズリ	乳橙茶色 乳橙茶色	石・長(1~5)多 ◎		
621	高坏	底径 10.1 残高 12.8	大きく屈曲して開く脚部。端部は丸い。	(柱)ヨコナデ→ナデ (裾)ヨコナデ	(柱)ケズリ (裾)ヨコナデ(押圧痕)	乳茶色 灰色	石・長(1~3) ◎		
622	高坏	残高 6.8	直線的に開く柱部。脚部は屈曲する。	(柱)ナデ (裾)ヨコナデ	(柱)ケズリ (裾)ヨコナデ	乳茶色 黒灰色	石・長(1~3) ◎		
623	高坏	残高 5.5	直線的に開く柱部。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~3) ◎		

表30　SB4　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
624	壺	口径(18.4) 残高　5.0	外傾し屈曲する口縁部。端部は丸い。	マメツ (一部ヨコナデ)	ハクリ マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
625	甕	口径(18.8) 残高　3.4	外傾して内湾気味に立ち上がる口縁部。端部は水平な面をもち「コ」の字状に丸い。	マメツ	マメツ	乳橙色 乳橙色	石・長(1~3) ◎		
626	高坏	残高　5.9	丸味をもつ坏底部と細い柱部。	マメツ	マメツ ハクリ	乳橙色 乳橙色	密・石・長(1) ◎		
627	高坏	残高　5.8	「ハ」の字状に開き屈曲する。	マメツ	マメツ しぼり痕	乳橙色 乳橙色	石・長(1~3) ◎		
628	甑	残高　5.0	楕円形の断面の把手部。接合面に臍をもつ。	ナデ	ナデ	乳橙色 乳橙色	密・石・長(1) ◎		
629	坏蓋	口径(13.5) 残高　3.2	水平な天井部に開き気味の口縁部。端部は尖り気味に細い。	(天)回転ヘラヘケズリ ヘラ切り (口)回転ナデ	ナデ 回転ナデ	灰色 灰色	密・石・長(1~2) ◎		
630	坏蓋	口径(14.3) 残高　4.2	丸味をもつ天井部に内湾気味に接地する口縁部。端部は尖り気味で外面にヘラ状工具による線刻。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ	ナデ 回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ◎		
631	坏蓋	口径(14.4) 残高　2.5	内湾気味の口縁部。端部は尖り気味である。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ	回転ナデ	灰赤茶色 灰赤茶色	密・石・長(1) ◎		
632	坏蓋	残高　3.2	丸味のある天井部は段をもち口縁部につづく。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
633	坏身	残高　3.3	外反気味に直立する立ち上がり。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密・石・長(1) ◎		
634	坏身	口径(13.8) 残高　2.8	水平に短く伸びる受部。立ち上がりは内傾し端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密・石・長(1) ◎	自然釉	
635	坏身	口径(12.2) 残高　2.2	水平気味な受部に直立する立ち上がり。端部は先細りする。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密・長(1) ◎		
636	坏身	残高　2.5	短く水平に伸びる受部。立ち上がりは外反気味に直立し端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密・石・長(1~2) ◎		
637	坏身	口径(12.4) 残高　2.4	水平気味な受部に直立する立ち上がり。端部は先細りする。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密・長(1) ◎		
638	坏身	残高　1.9	短く水平に伸びる受部の端部は尖る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密・石・長(1) ◎		
639	甕	残高　3.4	2条の凸帯と波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密・石・長(1) ◎		
640	甕	口径(21.8) 残高　1.6	「L」字状の口縁部。端部は上方に拡張し2条の凹線文、頸部に刻目凸帯文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗茶色 暗茶色	密・石・長(1) ◎		
641	甕	口径(17.6) 残高　3.4	「L」字状の口縁部。端部は上方に拡張し1条の凹線文を施す。	(口)ヨコナデ (頸)ハケ→ヨコナデ ハケ(8~9本/cm)	(口)ヨコナデ (頸)ハケ→ヨコナデ ハケ(10~12本/cm)	暗茶色 暗茶色	密 白色粒 ◎		
642	甕	口径(27.4) 残高　3.0	外反する口縁部。端面に3条の凹線文を施す。	ヨコナデ ハケ(6~7本/cm) →ヨコナデ	ハケ(6~7本/cm)	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		

ＳＢ４　出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
643	甕	残高 2.2	口縁部の小片。端面は凹む。	ヨコナデ	ヨコナデ	黒灰色 黒灰色	石・長(1~2) 金 ◎		
644	甕	残高 3.2	口縁部の小片。頸部に凸帯をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~3) ◎		
645	甕	残高 2.1	外反する口縁部の小片。端部は「コ」の字状に丸い。	ヨコナデ ハケ(4~5本/cm)	マメツ	乳茶色 乳茶色	密・石・長(1~2) ◎		
646	甕	底径 (5.8) 残高 2.3	平底。	ミガキ ナデ	マメツ	乳灰橙色 乳灰橙色	石・長(1~2) 砂 ◎		
647	甕	底径 (8.0) 残高 2.4	平底。	ミガキ ナデ	ナデ	灰茶色 茶白色	石・長(1) ◎		
648	壺	口径(18.6) 残高 2.2	外反する口縁部。端部は「コ」の字状でわずかに凹む。	ヨコナデ ハケ→ヨコナデ	ナデ	茶白色 茶白色	石・長(1~4) ◎		
649	壺	口径(14.6) 残高 4.1	外反する口縁部。端部は拡張され浅い凹線文4条、その後線刻を施す。頸部に押圧凸帯文。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ハクリ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
650	壺	残高 5.0	頸部片。斜格子の刻目凸帯文を巡らす。	ヨコナデ ハケ(3~4本/cm) →ナデ	(頸)ハケ(6本/cm) →ナデ ハケ	茶白色 灰白色	石・長(1~2) ◎		
651	壺	残高 2.8	頸部片。布目圧痕のある凸帯文を1条巡す。	ヨコナデ マメツ(ミガキ?)	ミガキ	赤茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
652	壺	底径 (6.6) 残高 6.7	厚みのある平底。	マメツ	(胴下)ハケ(6~7本/cm) (マメツ) (底)ナデ(指押え)	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~4) 砂・多 ◎		
653	壺	底径 (3.6) 残高 2.9	平底。	ナデ (板状工具)	ハケ(8~9本/cm) ナデ(指押え)	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) 砂 ◎		
654	壺	底径 (7.6) 残高 2.4	平底。	マメツ	ナデ	灰色 橙色	石・長(1~3) ◎		
655	脚台付鉢	残高 2.5	丸味のある底部と「ハ」の字状に開く脚部。	ミガキ	(鉢底)ミガキ (脚)ハケ (10~11本/cm)	乳橙色 乳橙色	密・石・長(1) ◎		
656	甕	残高 4.0	胴部片。肩部にハケ目工具による「ノ」の字状のキザミを施す。	ハケ(5本/cm)	ハケ・ナデ ケズリ→ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		

表31　ＳＢ４　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
657	石錐	完形		2.7	1.2	0.3	1.684		
658	石庖丁		結晶片岩	3.6	1.1	0.3	1.844		
659	剥片	完形		2.8	1.6	0.2	0.728		
660	紡錘車	ほぼ完形	滑石	上部径2.0 底径3.8	器高1.7	孔径0.7	34.841		
661	台石(砥石)			21.9	14.4	7.1	2900.0		

表32　SB5　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
662	甕	口径(15.2) 器高(27.5)	丸底の底部に球形の胴部。口縁部は外傾し、端部はわずかに内湾し丸味をもつ。	口ヨコナデ 胴マメツ(ナデ)	口ヨコナデ 頸ナデ 胴ナデ上げ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ◎		
663	甕	口径(18.6) 残高　4.9	外傾する口縁部の端部は内傾する面をもち「コ」の字状に丸い。	マメツ	口マメツ 頸ナデ	乳茶色 暗灰茶色	石・長(1~4)多 ◎		
664	甕	口径(18.8) 残高　2.1	外傾する口縁部の端部はわずかに内湾し「コ」の字状に丸い。	ヨコナデ	口ヨコナデ ナデ	茶橙色 茶橙色	石・長(1~4) ◎		
665	壺	口径(10.8) 残高　8.0	肩の張らない胴部に外傾する口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	マメツ	口ヨコナデ 頸ナデ 胴マメツ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ○		
666	高坏	口径　15.4 残高　6.5	甘い段をもってわずかに外反する坏部。端部は「コ」の字状。	口端ヨコナデ 坏上ハケ(6本/cm)→ヨコナデ 坏底マメツ・ハクリ	坏上ハケ(6本/cm)→ヨコナデ 坏底ハケ(5本/cm)	乳橙色 乳橙色	石・長(1~2)少 ◎	黒斑	
667	高坏	口径　15.8 残高　5.9	段をもって外傾する坏部。端部は丸味をもつ。	ヨコナデ	口ヨコナデ 底ナデ	乳茶灰色 乳茶色	石・長(1~2) 金 ◎	黒斑	
668	高坏	口径(16.2) 残高　3.7	坏端部はわずかに外反し丸い。	ヨコナデ(一部ハケ)	ハケ(5本/cm)→ヨコナデ	乳橙色・黒灰色 乳橙色・黒灰色	石・長(1~2) ◎		
669	高坏	口径　17.2 残高　5.1	段をもってわずかに外反する坏部。端部は丸味をもつ。	坏上ヨコナデ 坏底ナデ	ヨコナデ	乳桃色・茶白色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
670	高坏	残高　3.0	段をもつ坏部。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
671	高坏	底径(10.0) 残高　8.6	「ハ」の字状の柱部。裾部は屈曲して開き端部は「コ」の字状に丸い。	坏ヨコナデ 脚マメツ	柱上しぼり痕 柱ケズリ 裾マメツ(ヨコナデ)	乳橙茶色 乳橙茶色	石・長(1~7) ◎		
672	高坏	底径(10.0) 残高　7.8	直立気味の柱部。裾部は屈曲し内湾し接地する。端部は丸い。	坏マメツ 脚マメツ(ヨコナデ)	柱上しぼり痕 柱ケズリ 裾ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
673	高坏	底径　9.8 残高　6.5	「ハ」の字状の柱部。裾部は屈曲し端部はわずかに内湾し丸い。	柱ナデ 裾ヨコナデ	柱上しぼり痕 柱ケズリ 裾マメツ(ヨコナデ)	茶橙色 茶橙色	石・長(1~3) ◎		
674	高坏	底径　10.4 残高　7.3	大きく屈曲して開く裾部。端部は丸味をもつ。	ナデ	坏底マメツ 柱ケズリ 裾ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1) ◎	黒斑	
675	高坏	残高　6.4	裾部が屈曲する脚部。	ナデ	柱ケズリ 裾ナデ	茶色 茶色	石・長(1~4) ◎		
676	皿	口径　13.3 器高　2.2 底径　5.9	水平な底部に外傾する口縁部の端部は先細りする。	ヨコナデ 底糸切り	ヨコナデ	乳灰茶色 乳茶色	石・長(1~5) ◎		
677	壺	底径　(4.4) 残高　3.2	丸味のある底部。	平行タタキ	ナデ	乳橙茶色 乳橙茶色	石・長(1~3) 砂粒 ◎		

表33　SB5　出土遺物観察表　　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
678	台石	ほぼ完形		43.1	28.3	11.3	21,900		

表34　SB6　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
679	甕	口径(17.2) 残高　4.6	わずかに内湾気味に外傾する口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	ヨコナデ ハケ(9本／cm)	ヨコナデ ナデ	乳灰茶色 灰色	石・長(1~2) ◎		
680	壺	残高　4.4	頸部から肩部の残存。	平行タタキ→ ハケ(8~9本／cm)	(頸)ハケ(8~9本／cm) (胴上)ハケ(5本／cm) →ナデ	茶白色 灰茶白色	石・長(1) 金 ◎		
681	壺	残高　5.8	頸部から肩部にかけての残存。	(頸)ヨコナデ ハケ(8~9本／cm) (胴上)ハケ→ナデ	(頸)ハケ(8~9本／cm) (胴上)ナデ・指押え	黒灰茶色 黒灰茶色	石・長(1~2)多 ◎		
682	高坏	口径(24.3) 残高　6.8	段をもち大きく開く坏部。端部付近は外反し「コ」の字状である。	ヨコナデ (一部ハケ8本／cm)	ハケ(6~7本／cm) →ナデ	乳灰茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) 金 ◎		
683	高坏	残高　3.1	段をもつ坏部。底部内面がやや凹む。	(坏上)マメツ (坏底)ナデ(指押え) ヨコナデ	マメツ	乳橙茶色 乳橙茶色	石・長(1~3) ◎		
684	高坏	底径(16.0) 残高　8.2	大きく「ハ」の字状に開く脚部。裾部はわずかに外反し端部は丸い。	(柱)マメツ (裾)ヨコナデ	(柱)ナデ(板状工具) (裾)マメツ	黄茶色 桃茶色	石・長(1~3) ◎		
685	甕	残高　8.1	短く折り曲げる口縁部。	(口)ハクリ・ヨコナデ (胴)ナデ(板状工具) ハクリ	(口)ヨコナデ (胴)強いナデ (板状工具)	暗茶色・黒灰色 暗茶色・灰色	石・長(1~3) ◎	煤付着	

表35　SB10　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
686	甕	口径(20.1) 残高　4.2	わずかに内湾する口縁部。端部は丸味をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶色 茶色	石・長(1~2) ◎		
687	甕	口径(18.5) 残高　3.5	内湾気味に立ち上がる口縁部。端部は水平な面をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗灰茶色 暗灰茶色	石・長(1~2) ◎		
688	甕	残高　3.6	外傾する口縁部。端部は丸い。	マメツ(ヨコナデ)	マメツ(ヨコナデ)	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ○		
689	坏蓋	残高　3.0	直立に接地する口縁部は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	石・長(1) ○		
690	坏身	残高　2.1	短く水平に伸びる受部の端部は尖り気味である。	回転ナデ	回転ナデ	乳灰色 乳灰色	密・石・長(1) ◎		
691	坏身	残高　2.2	短く伸びる受部に内傾する立ち上がり。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	長(1) ◎		
692	坏身	残高　2.0	短く水平に伸びる受部に内傾する立ち上がり。端部は尖り気味である。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	石・長(1) ○		
693	坏	底径　(8.0) 残高　2.0	平底。	回転ナデ (底)回転ヘラケズリ→ ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1) ◎		
694	壺	口径(21.7) 残高　3.1	外傾する口縁部の端部は断面長方形である。下部に波状文が11条残る。	回転ナデ	回転ナデ	乳灰黄色 乳灰黄色	密・石・長(1) ◎		
695	壺	残高　2.2	外傾する口縁部は端部手前に段をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰赤色 青灰色	長(1) ◎		

表36　SK17　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
696	甕	口径(21.0) 残高 8.1	直立気味にわずかに外反する口縁部。端部は尖り気味に丸い。	口 ヨコナデ 胴 マメツ(ハケ)	口 マメツ 胴 ハケ→ナデ(工具による)	灰淡橙色 淡橙褐色	石・長(1~2) 赤色粒・金 ◎		
697	壺	残高 4.3	頸部から胴部にかけての小片。	頸 ヨコナデ(マメツ) 胴 ハケ(7本/cm)	頸 ヨコナデ 胴 ハケ(7~10本/cm)	明赤褐色 暗茶褐色	密・石・長(1) 金 ◎		
698	高坏	口径(23.6) 残高 2.2	坏口縁部。内湾する口縁端部の外面に5条の凹線文が残る。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡橙褐色 橙褐色	密・石(3) ◎		
699	壺	残高 8.9	球形の胴部。	頸 ヨコナデ 胴 ハケ(4~6本/cm)→ナデ	胴上 ナデ 胴中 ケズリ→ナデ 胴下 ケズリ	橙褐色 淡橙色	石・長(1~3) 赤色粒 ◎		
700	壺	残高 8.8	球形の胴部。	頸 ヨコナデ 胴上 ナデ(一部ハケ) 胴下 ナデ(マメツ・ハケ)	頸 ヨコナデ 胴上 ナデ 胴下 マメツ(ナデ・工具痕)	黄橙褐色 橙褐色	石・長(1~4) 赤色粒・金 ◎		
701	高坏	残高 8.5	「ハ」の字状に開く脚部。	マメツ	マメツ	明橙色 黄橙色	密 ◎		

表37　SK21　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
702	甕	残高 1.8	口縁部の小片。端部は「コ」の字状。	口端 ナデ ハケ(6~7本/cm) (8~9本/cm)	ハケ(6~7本/cm)	橙色 橙色	石・長(1~2) 金 ◎		
703	蓋	口径(16.9) 残高 1.4	口縁部は端部手前で折り曲げ直立し接地する。端部は尖る。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 黒色粒 ◎	自然釉	

表38　SK22　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
704	甕	口径(19.4) 残高 2.3	外反する口縁部の端部は「コ」の字状。	マメツ	マメツ	乳橙色 橙褐色	石・長(1~3) 赤色粒・金 ○		
705	甕	底径 (8.1) 残高 2.1	平底。	底 ナデ 丁寧なナデ	ナデ(ハケ)	暗灰赤褐色 明赤褐色	石・長(1~3) ○		
706	坏身	口径(11.5) 残高 3.2	短く外上方に伸びる受部。立ち上がりは内傾する。	口 回転ナデ 底 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 緑灰色	密 ◎	自然釉	
707	壺	口径(16.4) 残高 2.5	外反する口縁部の端部は「コ」の字状に丸い。口縁直下に凸帯を1条、その下位に櫛描波状文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰黄色	密 ◎		

表39　SK24　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
708	坏	口径(12.4) 器高 3.9 底径 6.8	丸味をもつ底部から内湾気味に立ち上がる口縁部。端部は丸い。	口 ヨコナデ 底 ナデ	マメツ (一部ヨコナデ)	乳橙色 乳灰橙色	密 赤色粒・金 ○		
709	坏身	口径(13.4) 残高 2.8	短く水平に伸びる受部。立ち上がりは直立気味で端部は尖る。	口 回転ナデ 体 回転ヘラケズリ	回転ナデ	緑灰色 灰色	密 ◎		
710	坏身	口径(12.2) 残高 2.6	短く水平に伸びる受部。立ち上がりは内傾し端部は丸い。	口端 ナデ 口 回転ナデ ナデ	口端 ナデ 口 回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		

SK24　出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
711	坏身	残高 1.9	短く水平に伸びる受部の端部は尖り気味である。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密・長(2) ◎		
712	壺	底径 (9.0) 残高 3.0	「ハ」の字状に開く脚部。端部は尖り気味である。	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色 明灰色・暗オリーブ色	密・石・長(1) ◎	自然釉	

表40　SK1　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
713	皿	口径 9.2 器高 1.5 底径 7.0	平底の底部に短く外傾する口縁部。端部は丸い。	ヨコナデ (底)回転糸切り	マメツ	乳灰茶色 乳灰桃色	密・石・長(1) ◎		

表41　SK1　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
714	石核		サヌカイト	11.3	6.9	6.2	610.3		

表42　SK2　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
715	甕	残高 3.8	外反する口縁部。	ヨコナデ	マメツ	茶白色 茶白色	石・長(1~3) 金 ◎		
716	壺	底径 (4.4) 残高 3.8	丸味のある底部。	タタキ (底)ナデ	ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
717	坏身	残高 2.1	短く水平に伸びる受部。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密・石・長(1) ◎		

表43　SK3　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
718	高台坏	残高 2.5	坏底部と高台部。	ヨコナデ	マメツ	乳茶色 乳茶色	密・石・長(1) 褐色粒 ◎		

表44　SK4　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
719	壺	口径(12.6) 残高 2.2	外反する口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
720	土釜	口径(20.4) 残高 5.2	口縁部の端部に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	(口)ヨコナデ (胴)ナデ指押え	ヨコナデ・ナデ	暗灰茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		

表45　SK6　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
721	土釜	残高　2.0	口縁部に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	ヨコナデ・ナデ	ナデ	乳茶橙色 乳茶橙色	石・長(1~3) ◎		
722	土釜	残高　4.9	断面円形の足。	ナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		

表46　SK7　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
723	甕	口径(25.2) 残高　2.8	折曲口縁。端部は拡張され2条の凹線文。頸部に刻目凸帯文を施す。	㊐ヨコナデ ナデ・一部ハケ(6本/cm)	㊐ヨコナデ ナデ	暗灰茶色 暗灰茶色	密・石・長(1~3) ◎		
724	土釜	残高　3.4	口縁端部に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	ヨコナデ ナデ	マメツ	暗茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
725	土釜	残高　8.5	断面円形の足。	ナデ		暗茶色	石・長(1~2) ◎		
726	土釜	残高　7.3	断面円形の足。	ナデ		乳灰茶色	石・長(1~3) ◎		

表47　SK7　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
727	スクレイパー	完形		2.8	1.6	0.3	1.752		

表48　SK7　出土遺物観察表　金属製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
728	不明	1/2		3.8	1.8	0.3	6.308		

表49　SK8　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
729	皿	平底　(7.0) 残高　1.3	平底に外傾する体部。	マメツ ㊞回転糸切り板状痕	マメツ	乳灰桃色 灰色	密・石・長(1) ◎		
730	鉢	口径(23.0) 残高　4.7	外傾する口縁部の端部に短く内傾する。	ヨコナデ ナデ?	ヨコナデ ナデ?	茶白色 茶白色	石・長(1~2) ◎		
731	鉢	残高　2.9	口縁端部は短く折り曲げる。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密・石・長(1) ◎		
732	鉢	残高　4.1	口縁部の端部は直立し丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密・石・長(1) ◎		
733	坏	口径(12.4) 残高　2.6	外傾する口縁部の端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳白色 乳白色	密 ◎		

表50　SK8　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
734	硯	小片		4.2	3.6		9.251		

表51　SK10　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面	(外面) (内面)			
735	擂鉢	底径(16.0) 残高 4.1	内面に櫛目痕。	回転ナデ (底)ナデ	回転ナデ	灰紫色 灰紫色	石・長(1~4) ◎	備前焼	
736	土釜	口径(17.0) 残高 4.2	口縁部の端部に断面四角形状の凸帯を貼り付ける。	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~3) ◎	煤付着	
737	土釜	底径(24.0) 残高 7.4	平底の底部外面に足が付く。	ナデ	マメツ (胴)ナデ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~3) ◎		
738	土釜	残高 13.2	断面円形の足。	ナデ		暗茶色	石・長(1~2) ◎	煤付着	

表52　SK10　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
739	石器素材		結晶片石	20.7	6.0	3.3	580.2		

表53　SK11　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面	(外面) (内面)			
740	坏蓋	口径(14.0) 残高 4.3	平坦な天井部に内湾する口縁部。端部は尖り気味に丸い。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1~2) ◎		
741	坏蓋	口径(13.2) 残高 3.6	内湾する口縁部。端部は丸く内面に沈線状の凹みあり。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1~2) ◎		
742	土釜	口径(20.4) 残高 8.1	口縁端部に丸味のある凸帯を貼り付ける。	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎	煤付着	
743	土釜	口径(16.0) 残高 7.2	口縁部の端部に丸味のある断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	ヨコナデ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~3) ◎		
744	土釜	底径(21.0) 残高 5.7	底部側面に足が付く。	ナデ	ナデ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~3) ◎	煤付着	
745	羽釜	残高 4.6	わずかに外上方に伸びる鍔をもつ。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ→ナデ	ハケ(10~11本/cm)	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
746	平瓦	長さ 5.3 幅 6.8 厚さ 2.1	小片。	ナデ	マメツ	灰色・乳茶色	石・長(1) 褐色粒 ◎		

表54　SK12　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面	(外面) (内面)			
747	小壺	底径 3.7 残高 3.3	平底。	回転ナデ ケズリ→ナデ(板状工具) (底)ナデ(板状工具)	回転ナデ (底)ナデ	青灰色 青灰色	石・長(1~2) ◎	自然釉	

表55　SX1　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
748	壺	口径(21.5) 残高 1.8	口縁部の小片。端部は拡張され、上部に竹管文、下部に櫛描による5条の波状文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄橙色 淡黄橙色	石・長(1~4) 赤茶粒 ◎		
749	壺	口径(17.0) 残高 4.9	複合口縁の拡張部。外面上部に櫛描直線文、下部に櫛描波状文を施す。	マメツ	ヨコナデ	橙色 橙色	石・長(1~4) ◎		
750	皿	口径 8.4 器高 1.2 底径 6.1	平底の底部に短く伸びる口縁部の端部は尖る。	口ヨコナデ 体マメツ 底回転糸切り	口ヨコナデ 底マメツ	淡赤色・浅黄橙色 淡赤色・浅黄橙色	石・長(1~2) ◎		
751	坏	口径(12.0) 器高 2.4	直線的に立ち上がる体部にわずかに外反する口縁部の端部は丸い。	口ヨコナデ 底ナデ	口ヨコナデ 底ナデ	淡黄色 淡黄色	密・石・長(1) 赤茶粒 ◎		
752	皿	底径 (9.9) 残高 1.0	底部の小片。	ナデ 底回転糸切り	ナデ	灰褐色 淡灰橙色	密・石・長(1) ◎	黒斑	
753	皿	底径 (8.0) 残高 1.0	平坦な底部。	マメツ ハクリ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	密・石・長(1) 赤茶粒 ◎		
754	甑	残高 4.8	把手。	ナデ	マメツ	淡橙色 淡橙色	石・長(1~2) 赤茶粒 ◎		
755	土釜	口径(22.2) 残高 3.4	口端部外面に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	口ヨコナデ 体ナデ	ハケ(16~18本/cm)	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1~2) ◎		
756	土釜	口径(23.8) 残高 5.2	口端部外面に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	口ヨコナデ 体ナデ	口ヨコナデ 体ナデ	にぶい橙褐色 にぶい橙褐色	石・長(1~3) ◎	煤付着	
757	土釜	口径(16.5) 残高 3.7	口端部外面に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1) ◎	煤付着	
758	土釜	残高 3.7	口端部外面に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ◎	煤付着	
759	土釜	残高 5.1	口端部に丸味をもつ凸帯を貼り付ける。	ナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) 赤茶粒・金 ◎		
760	土釜	残高 2.6	口縁部の小片。端部に丸味のある凸帯を貼り付ける。	ヨコナデ	強いナデ (板状工具)	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ◎	煤付着	
761	土釜	残高 8.1	足の貼り付け部。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~4)多 ◎		
762	土釜	残高 9.3	断面円形の足。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長(1~2) ◎		
763	土釜	口径(21.9) 残高 11.4	内湾する体部。口縁端部に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	口ヨコナデ 体ナデ	口ナデ 体ハケ (12~13本/cm) 底ハケ→ナデ	にぶい橙色 灰褐色	石・長(1~4) 金 ◎	煤付着	
764	土釜	残高 6.3	足の貼り付け部。	ナデ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ◎		
765	土釜	残高 12.3	断面円形の足。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい褐色	石・長(1~3) 赤茶粒 ◎		
766	擂鉢	残高 4.6	口縁部を上下に拡張する。	ヨコナデ	ヨコナデ	赤灰色・にぶい赤橙色 にぶい赤橙色	石・長(1~2) ◎		

SX1　出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
767	擂鉢	残高　4.4	口縁端部を上下に拡張する。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 橙色	石・長(1) ◎		
768	擂鉢	底径(13.6) 残高　5.9	内面に櫛描きの条線を放射状に施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰赤色 暗青灰色	石・長(1~2) ◎		
769	高台埦	底径　(6.7) 残高　1.9	高台端部は内傾する面をもつ。	施釉 (底)ヘラケズリ	施釉	オリーブ黄色(釉) 淡黄色 オリーブ黄色(釉)	密 ◎		

表56　SX2　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
770	こね鉢	残高　4.8	口縁端部を上下に拡張する。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		

表57　SX3　出土遺物観察表　銭貨

番号	銭名	初鋳年	銭径(cm)	孔の一辺(cm)	外縁厚(cm)	内側厚(cm)	重量(g)	備考
771	元祐通寶	1086	2.4	0.7	0.14	0.10	1.743	

表58　SP126　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
772	坏	口径　(9.9) 器高　3.0 底径　5.5	口縁部手前はわずかに内湾し、底部外面に板目状圧痕。	(口)ヨコナデ (底)ヘラ切り→ナデ	(口)ヨコナデ (底)ナデ	橙色・明赤褐色 橙色	石・長(1~2) 金 ◎		
773	坏	口径　(9.6) 器高　3.9 底径　(6.0)	内湾気味に立ち上がる体部から口縁部。口端部は丸い。	(口)マメツ(一部ヨコナデ) (底)糸切り	(口)マメツ (底)回転ナデ	浅黄橙色 橙色	密 ◎		

表59　SP126　出土遺物観察表　銭貨

番号	銭名	初鋳年	銭径(cm)	孔の一辺(cm)	外縁厚(cm)	内側厚(cm)	重量(g)	備考
774	元豊通寶	1078	2.4	0.70	0.11	0.08	2.550	
775	天聖元寶	1023	2.5	0.75	0.13	0.10	3.268	
776	天聖元寶	1023	2.4	0.65	0.10	0.07	2.474	
777	元祐通寶	1086	2.4	0.70	0.12	0.09	2.555	
778	紹聖元寶	1094	2.3	0.60	0.13	0.08	2.548	
779	洪武通寶	1368	2.1	0.60	0.14	0.10	2.212	
780	紹聖元寶	1094	2.4	0.70	0.12	0.07	2.467	

表60　SP146　出土遺物観察表　銭貨

番号	銭　名	初鋳年	銭径(cm)	孔の一辺(cm)	外縁厚(cm)	内側厚(cm)	重量(g)	備　考
781	永　楽　通　寶	1408	2.5	0.6	0.18	0.09	2.220	

表61　SP　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
782	甕	残高　3.5	頸部の小片。	ヨコナデ マメツ	(頸)ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 浅黄色	密 ◎	SP137	
783	甕	底径　(4.0) 残高　4.2	丸味のある平底。	(胴)ハケ(6~7本/cm) (底)強いナデ	ナデ	にぶい褐色・褐灰色 にぶい橙色	石・長(1~3) ◎	SP606	
784	壺	口径(18.6) 残高　3.7	外傾する口縁部。端部はわずかに拡張され2条の凹線文とハケ目工具による刻目を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ (板状工具)	にぶい橙色 橙色	石・長(1~2) ◎	SP51	
785	壺	口径(17.4) 残高　3.2	外反する口縁部。端部は「コ」の字状。	(口端)ヨコナデ (口)ハケ(7本/cm) (頸)ハケ→ヨコナデ	ハケ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~2) ◎	SP312	
786	壺	底径　(9.0) 残高　5.3	平底。	(胴)ミガキ (底)ナデ	丁寧なナデ	にぶい橙色・明赤褐色 橙色	石・長(1~3) 金 ◎	SP607 黒　斑	
787	壺	底径　(9.2) 残高　3.0	平底。	ナデ	マメツ (ハクリ)	浅黄橙色 灰白色	石・長(1~2) ◎	SP338 黒　斑	
788	甕	口径(16.6) 残高　5.8	外傾する口縁部の端部は丸い。	(口)ヨコナデ (胴)ナデ→ミガキ	(口)ヨコナデ (胴)ヘラミガキ	にぶい褐色 黒色	密 ◎	SP605	
789	甕	口径(14.0) 残高　6.6	外傾して内湾気味に立ち上がる口縁部。端部は「コ」の字状に丸い。	(口)ヨコナデ (肩)ハケ(6本/cm)	(口)ヨコナデ (肩)ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ◎	SP235	
790	甕	口径(19.6) 残高　4.7	外傾しわずかに内湾する口縁部。端部は丸い。	(口)ヨコナデ (頸)ハケ	(口)ヨコナデ (頸)ナデ	にぶい橙色 橙色・にぶい赤褐色	石・長(1~2) ◎	SP200	
791	甕	口径(18.1) 残高　4.0	外傾する口縁部の端部は内傾する面をもつ。	ヨコナデ (指頭痕)	ヨコナデ	橙色 明赤褐色	石・長(1~2) ◎	SP200	
792	鉢	口径(12.2) 残高　5.4	短くゆるやかに外反する口縁部の端部は丸い。	(口)ヨコナデ (体)ナデ	(口)ヨコナデ (体)ハケ→ナデ	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長(1~2) ◎	SP384 煤付着	
793	坏蓋	口径(15.0) 残高　3.5	直立気味に接地する口縁部の端部は丸い。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ◎	SP135	
794	坏身	残高　2.6	短く水平に伸びる受部の端部は尖り気味に丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	SP137	
795	坏身	口径(10.9) 残高　2.3	受部は水平気味に伸び端部は尖る。立ち上がりは直立し端部は尖る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	SP132	
796	土鍋	口径(36.0) 残高　8.1	短く外反する口縁部の端部は「コ」の字状である。	(口)ヨコナデ (体)ナデ (細い板状工具)	(口)ヨコナデ (頸)ナデ (体)ハケ→ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) 金 ◎	SP419	
797	埦	口径(15.0) 残高　5.0	口縁端部の手前がわずかに外反する。	施釉	施釉	明オリーブ灰色 明オリーブ灰色	密 ◎	SP257	

表62　SP　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
798	不明			4.7	2.2	1.5	21.316	側面に「五月」の文字	
799	紡錘車	3／4	滑石	上部径1.5 底径(3.3)	器高1.5	孔径0.7	12.589	側面に斜格子沈線文。充塡による山形文。底部に格子沈線。	
800	スクレイパー	完形	サヌカイト	2.6	1.8	0.4	2.127		
801	不明			18.0	12.6	6.6	1840.0	熱のためか部分的に表面が剥離している。煤付着	

表63　Ⅳ層　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面	(外面) (内面)			
802	高坏	口径(27.0) 残高 1.1	外反する口縁部。端部は「コ」の字状である。	(口端)ヨコナデ (口)ナデ→ミガキ	ヨコナデ→ミガキ	乳茶橙色 乳茶橙色	密・石・長(1~3) ◎		
803	甕	口径(17.3) 残高 4.2	外傾する口縁部は内側に肥厚される。	ヨコナデ	(口)ヨコナデ (頸)ナデ	乳灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
804	壺	残高 1.8	大きく肩が張る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 暗灰茶色	密 ◎		
805	高台坏	底径 (9.3) 残高 2.4	「ハ」の字状に開く高台部。	回転ナデ (底)回転ヘラケズリ→回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ◎		
806	甑	残高 4.7	丸味のある把手部。	ナデ 指押え	ナデ	乳茶色・黒色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
807	土釜	底径(25.0) 残高 5.7	平底の側面から底部にかけて足が付く。	ナデ	ハケ(7~8本／cm)(マメツ) (底)(側)ナデ	暗茶色 暗茶色	石・長(1~3) ◎	煤付着	
808	土錘	最大径(1.6) 残存長4.4	楕円形。	マメツ		灰白色 乳白色	密 ◎		
809	埦	残高 2.6	蓮弁の一部が残る。	施釉	施釉	(胎)灰白色 (釉)半透明灰オリーブ	密 ◎		

表64　Ⅴ層　出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面	(外面) (内面)			
810	甕	残高 3.3	折曲口縁。端部は拡張され2条の凹線文を施す。	(口)ヨコナデ (胴)ミガキ	ヨコナデ	橙色・淡黄橙色 橙色・淡黄橙色	石・長(1~2) 金 ◎		
811	甕	口径(14.8) 残高 3.3	外反する口縁部の端部は丸い。	(口)ヨコナデ(ハケ痕) (頸)タタキ(10~12本／cm)	(口)ヨコナデ (頸)ハケ(10~12本/cm)	淡橙色 淡橙色	石・長(1~2) 金 ◎		
812	壺	口径(23.7) 残高 9.6	大きく開く口縁部の端部は拡張され斜格子の三角文と頸部に刻目凸帯文を施す。	(口)ヨコナデ (頸)ミガキ	(口端)ヨコナデ ミガキ (頸)ナデ	淡黄橙色 淡黄灰白色 橙色・淡黄橙色	石・長(1~6) 金 ◎		
813	壺	口径(12.7) 残高 2.8	外反する口縁部は上下に拡張され端面に5条の凹線。頸部に「ノ」の字状の列点文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄色 灰黄色	密・長(1) ○		

V層　出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
814	壺	残高 2.8	端部は拡張され端面に2条の凹線文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 橙色 にぶい赤褐色	石・長(1~2) ◎		
815	壺	残高 4.9	外反する口縁部。頸部に刻目凸帯文を施す。	ハケ(4~5本/cm) →ミガキ	ハケ→ミガキ	橙色 淡黄灰白色	石・長(1~3) 赤色粒・金 ◎		
816	壺	底径 (7.6) 残高 6.3	丸味のある平底。	(胴)ハケ→ミガキ (胴下)ヨコナデ (底)ナデ(ハケ)	ハケ(6~7本/cm)	橙色・淡黄橙色 にぶい橙色 灰褐色	石・長(1~3) 金 ◎	黒斑	
817	支脚	底径 (7.1) 残高 7.5	上下が凹む。	ナデ 指頭痕	(口)ナデ (底)ナデ指頭痕	淡橙色・淡黄橙色 淡橙色・淡黄灰白色	石・長(1~5) ◎		
818	紡錘車	直径 2.4 厚さ 0.5	転用品。上下に未貫通孔。	ミガキ	ナデ	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長(1~2) ◎		
819	甕	口径(24.6) 残高 4.6	外傾する口縁部の端部は丸い。	(口)マメツ (頸)ヨコナデ	(口)ヨコナデ (頸)ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~3) ◎		
820	甕	口径(23.2) 残高 3.3	内湾気味に外傾する口縁部。端部は内傾する面をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) 赤茶色粒 ◎		
821	壺	残高 4.8	複合口縁。拡張部は外傾する。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄色 淡黄色	密・石・長(1~2) 金 ◎		
822	甑	残高 4.0	把手。	ナデ (指頭痕)	ナデ	橙色 浅黄橙色	石・長(1~2) ◎		
823	甑	残高 5.0	把手。	ナデ	ハケ→ナデ	淡橙色・淡黄灰色 橙色	石・長(1~3) 赤茶色粒・金 ◎	黒斑	
824	土釜	口径(21.8) 残高 2.5	口縁部外面に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	ヨコナデ	(口端)ヨコナデ (口)ハケ(7本/cm)	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1) 金 ◎		
825	土釜	口径(26.8) 残高 3.6	口縁部外面に断面三角形状の凸帯を貼り付ける。	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長(1) 金 ◎	煤付着	
826	茶釜	底径(24.9) 残高 4.7	丸味をもつ底部。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい黄橙色	石・長(1~2) 茶赤色粒・金 ◎		
827	土釜	残高 8.2	脚部。	ナデ	(胴)ナデ (底)ヨコナデ (脚)ナデ・ハクリ	にぶい赤褐色 にぶい橙色	石・長(1~2) ◎	煤付着	
828	坏蓋	口径(15.6) 残高 3.0	内湾して接地する口縁部。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	紫黒色 灰白色	石・長(1~2) ◎	自然釉	
829	坏蓋	口径(12.8) 残高 2.5	丸味をもつ扁平な天井部。かえりは欠失している。	(天)回転ヘラケズリ (口)回転ナデ	回転ナデ	紫灰色 青灰色	石・長(1) ◎	自然釉	
830	坏蓋	口径(14.0) 残高 1.6	口縁端部は折れ曲げ接地する。	回転ナデ	回転ナデ	紫灰色 灰色	密 ◎		
831	坏身	口径(10.1) 残高 3.7	受部は外上方に伸び立ち上がりは内傾しわずかに外反する。端面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	石・長(1~2) ◎		
832	坏身	残高 2.8	受部は水平気味に伸び端部は尖り気味である。立ち上がりは内傾する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		

Ⅴ層　出土遺物観察表　土製品　(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
833	坏身	口径(11.9) 残高 2.8	短く水平に伸びる受部。立ち上がりは内傾し端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
834	高台坏	底径 (8.0) 残高 1.8	「ハ」の字状に広がり水平に接地する高台部。	(体)回転ナデ (底)回転ヘラケズリ	丁寧なナデ	灰色 灰色	密 ○		
835	高台坏	底径 (11.3) 残高 0.9	短く水平に接地する高台部。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	密 ◎		
836	壺	残高 5.0	直立気味に立ち上がる口縁部。中位に1条の凸帯。	回転ナデ	回転ナデ しぼり痕	紫黒色 紫灰色	密 ◎		
837	Ⅲ	口径 (16.8) 残高 1.4	外傾する口縁部。	施釉 (マメツ)	施釉 (マメツ)	緑色 緑色	密 ○	緑釉	

表65　Ⅴ層　出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
838	砥石?			9.2	6.3	1.5	130.8		
839	扁平片刃石斧?		結晶片岩	8.8	7.0	2.0	270.7		

表66　その他層位不明出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
840	石鏃	ほぼ完形	サヌカイト	3.3	2.0	0.4	3.070		
841	不明		結晶片岩	5.0	2.05	0.35	6.698		
842	片刃石斧		結晶片岩	10.1	4.7	2.35	190.8	未成品 (打裂～敲打段階)	

6．自然化学分析

樽味四反地遺跡５次調査出土炭化材の樹種同定

株式会社 古環境研究所

1．試料

試料は、樽味四反地遺跡5次調査で出土した炭化材5点である。試料の詳細を表67に示す。

2．方法

試料を割折して新鮮な基本的3断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3．結果

結果を表67に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

表67　樽味四反地遺跡5次調査から出土した炭化材の樹種同定結果

試　科	遺　構	取り上げ番号	樹種（和名／学名）	
1	SB2	W－3	シャシャンボ	Vaccinium bracteatum Thunb.
2	SB2	W－8	シャシャンボ	Vaccinium bracteatum Thunb.
3	SB8	W－1	コナラ属アカガシ亜属	Quercus subgen. Cyclobalanopsis
4	SB8	W－26	コナラ属アカガシ亜属	Quercus subgen. Cyclobalanopsis
5	SK20	№4	コナラ属アカガシ亜属	Quercus subgen. Cyclobalanopsis

a.コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen. Cyclobalanopsis　　第114図　1・2

横断面：中型から大型の道管が、1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は同性で、ほとんどが平伏細胞であるが、ときおり上下の縁辺部に方形細胞が見られる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靭、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

b.シャシャンボ　Vaccinium bracteatum Thunb.　ツツジ科　　第114図　3

横断面：小型で角張った道管が、単独ないし2～3個複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は比較的少なく10本前後のものが多いが、まれに単穿孔も認められる。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、直立細胞からなる単列のものと、6～8細胞幅で長い紡錘形を示す、多列のものからなる。多列のものはほとんどが平伏細胞からなるが、上下縁辺部と側面部に直立細胞が見られる。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりシャシャンボに同定される。シャシャンボは本州（関東南部、石川県以西）、四国、九州に分布する。常緑の低木で、通常高さ1～5m、径10㎝ぐらいであるが、大きいものは高さ10m、径70㎝に達する。

4．所見

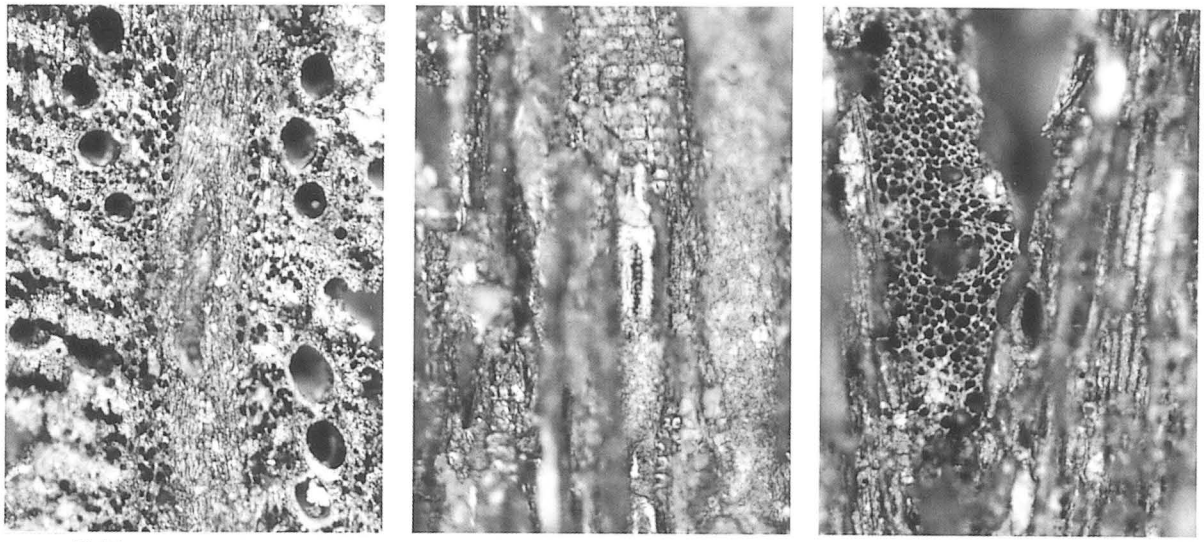
樽味四反地遺跡5次調査から出土した炭化材は、シャシャンボとコナラ属アカガシ亜属であった。これらの2種の樹木は、暖温帯に生育する種類で、コナラ属アカガシ亜属は照葉樹林の主要高木である。

〔文献〕

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.

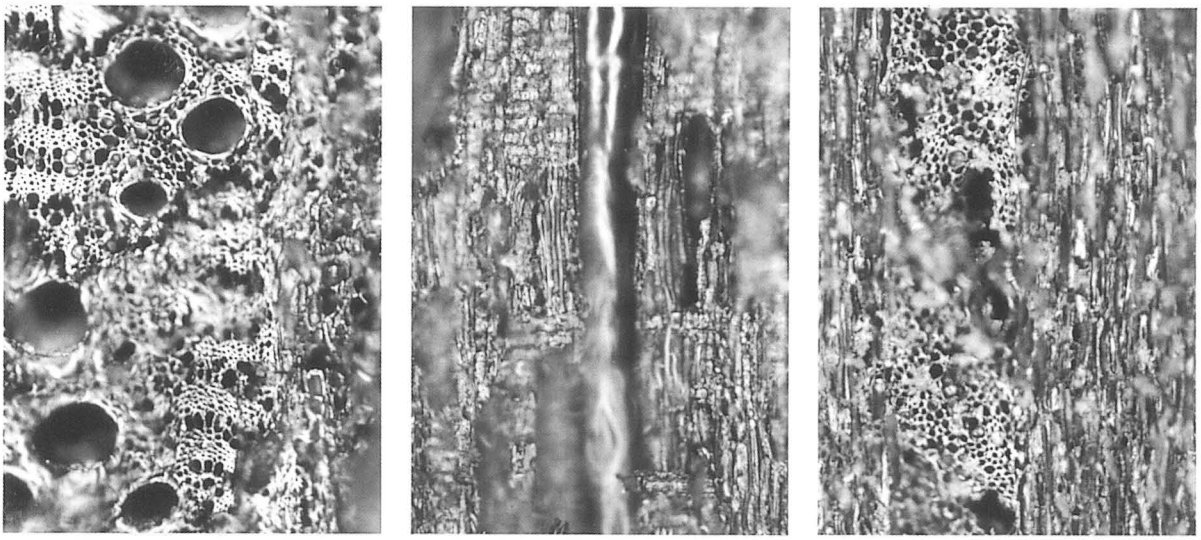
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.49-100.

第114図　樽味四反地遺跡５次調査出土炭化材の顕微鏡写真



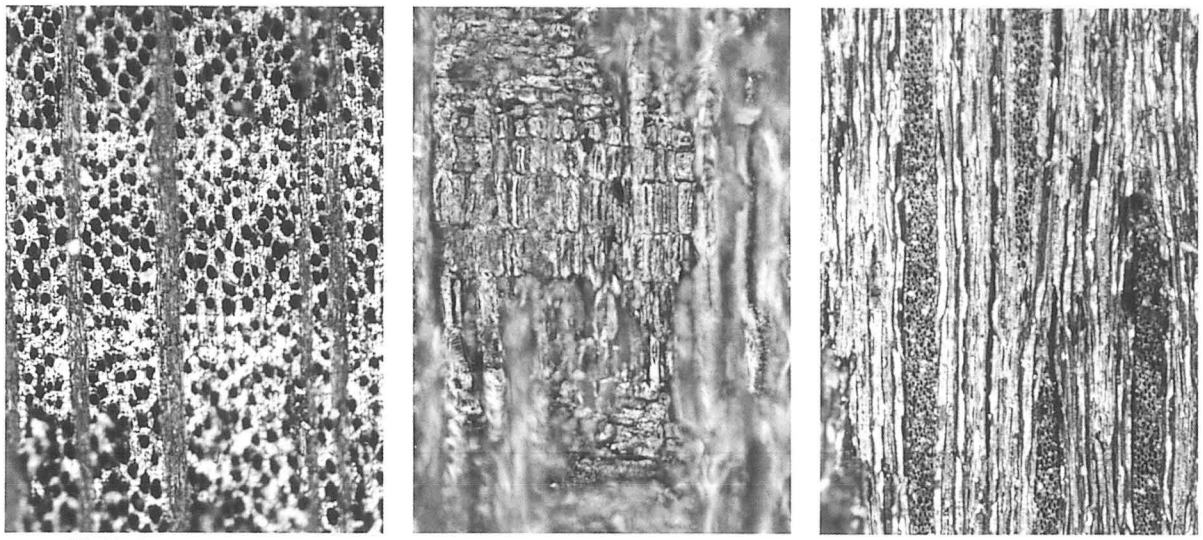
横断面 ―――― :0.4mm　放射断面 ―――― :0.2mm　接線断面 ―――― :0.2mm

１．３　コナラ属アカガシ亜属



横断面 ―――― :0.2mm　放射断面 ―――― :0.2mm　接線断面 ―――― :0.2mm

２．４　コナラ属アカガシ亜属



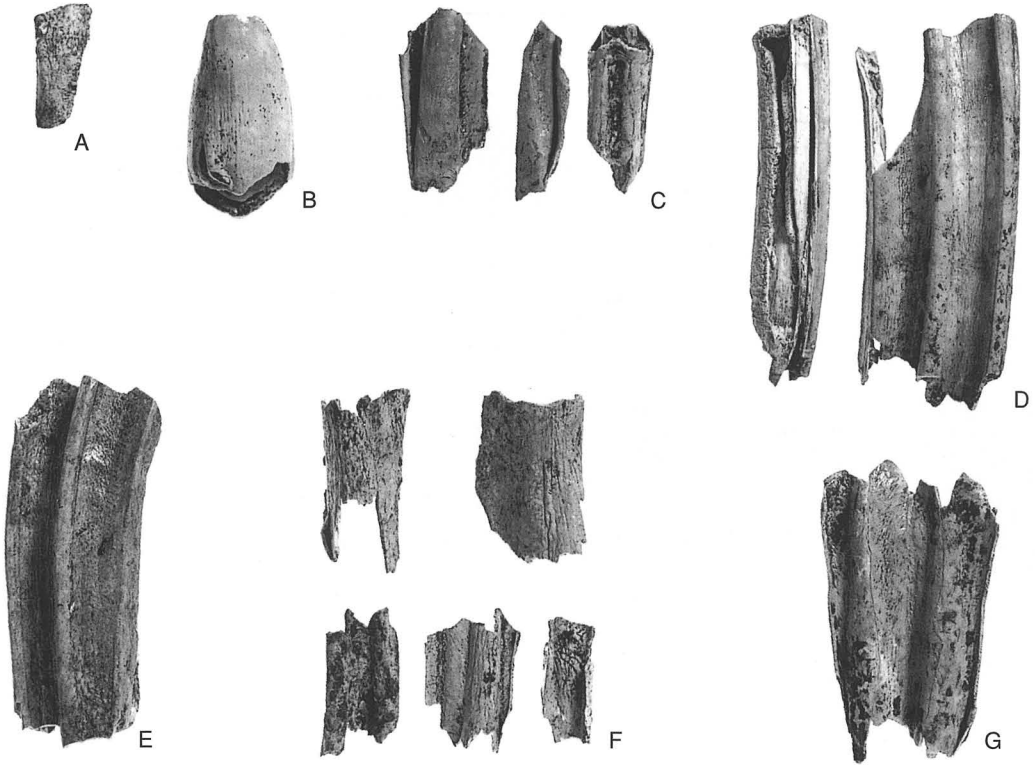
横断面 ―――― :0.4mm　放射断面 ―――― :0.2mm　接線断面 ―――― :0.4mm

３．１　シャシャンボ

表68　樽味四反地遺跡5次調査から出土した動物遺存体一覧表

番号	出土地点	種　別	部　位	備　考	図番号
A	ＳＢ４	不明	歯		第１１５図
B	ＳＲ１①層	牛	左・上顎第四小臼歯		第１１５図
C	ＳＲ１③層Ｈ１０区河床	牛	下顎臼歯		第１１５図
D	ＳＲ１③層Ｇ７区	馬	左・下顎第三大臼歯		第１１５図
E	ＳＲ１③層	馬	上顎臼歯		第１１５図
F	ＳＲ１③層	不明	歯		第１１５図
G	ＳＲ１	不明	歯		第１１５図

第115図　樽味四反地遺跡5次調査出土動物遺存体写真



写 真 図 版

写真図版例言

1．遺構は、主な検出状況、遺物出土状況、完掘状況については、4×5判や6×7判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、35㎜判で補足している。撮影には、高所作業車や脚立を使用した。

使用機材：

カ メ ラ	トヨフィールド45A	レンズ	スーパーアンギュロン　90㎜他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67　55㎜他
	ニコンニューＦM2		ズームニッコール　28～85㎜他
フィルム	白　黒　プラスXパン・ネオパンＳＳ		
	カラー　エクタクロームＥＰＰ		

2．白黒写真は、等倍で印刷原稿に使用できるように焼き付けている。

使用機材：

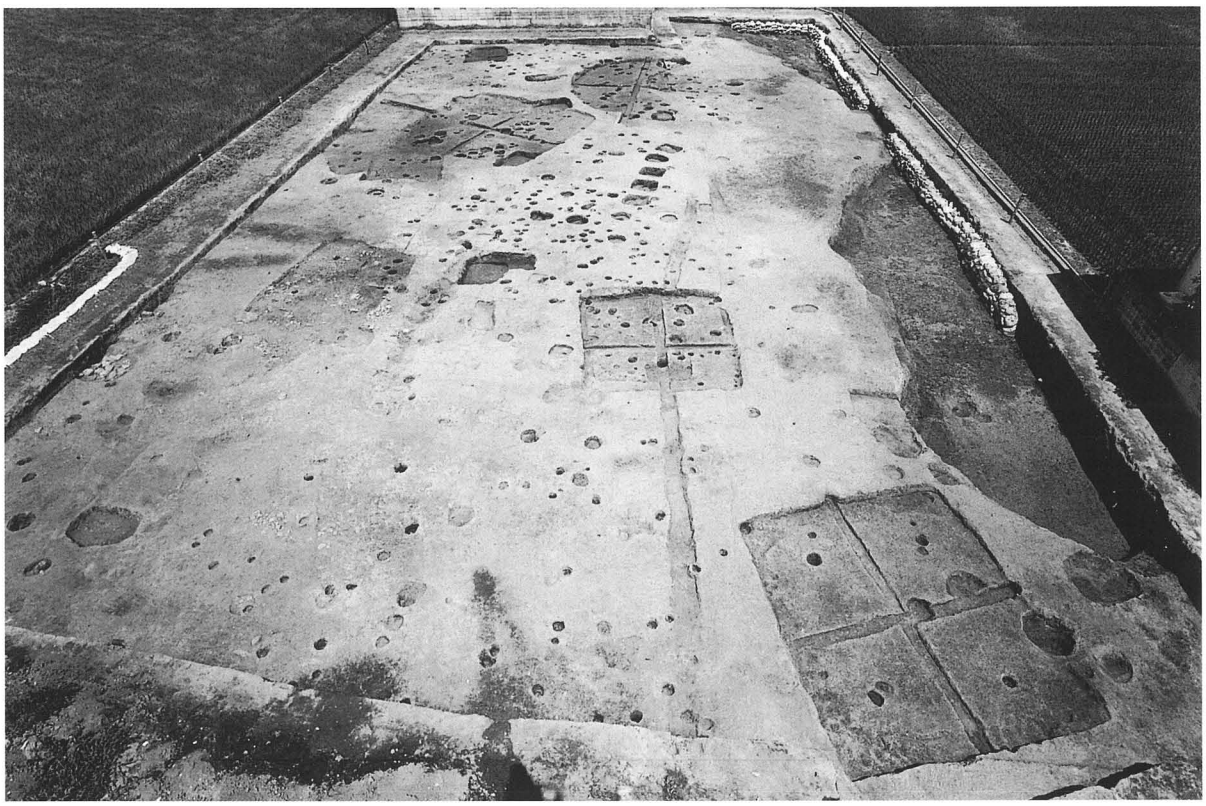
引伸機	ラッキー450ＭＤ・90ＭＳ
レンズ	エル・ニッコール135㎜Ｆ5.6Ａ・50㎜Ｆ2.8Ｎ
印画紙	インフォードマルチグレードⅣＲＣ

【参考】『埋文写真研究』ＶＯl．1～12　　〔大西朋子〕

図版目次

図版１　1．遺構検出状況（西より）
　　2．完掘状況（西より）
図版２　1．ＳＲ1遺構検出状況（西より）
　　2．ＳＲ1第③層遺物出土状況（東より）
図版３　1．ＳＢ3完掘状況（南より）
　　2．ＳＢ7遺構検出状況（西より）
図版４　1．ＳＢ7遺物出土状況（北西より）
　　2．ＳＢ7完掘状況（南より）
図版５　1．ＳＢ8遺物出土状況（北より）
　　2．ＳＢ8完掘状況（南より）
図版６　1．ＳＢ9完掘状況（南より）
　　2．ＳＫ15遺物出土状況（北より）
図版７　1．ＳＫ16遺物出土状況（西より）
　　2．ＳＢ1遺構検出状況（南より）
図版８　1．ＳＢ1カマド（南より）
　　2．ＳＢ1完掘状況（南より）
図版９　1．ＳＢ2遺構検出状況（南より）
　　2．ＳＢ2遺物出土状況（南より）
図版10　1．ＳＢ2完掘状況（南より）
　　2．ＳＢ4･5･6･10完掘状況（南西より）
図版11　1．ＳＫ1完掘状況（東より）
　　2．ＳＫ1断ち割り状況（東より）

1．遺構検出状況（西より）



2．完掘状況（西より）

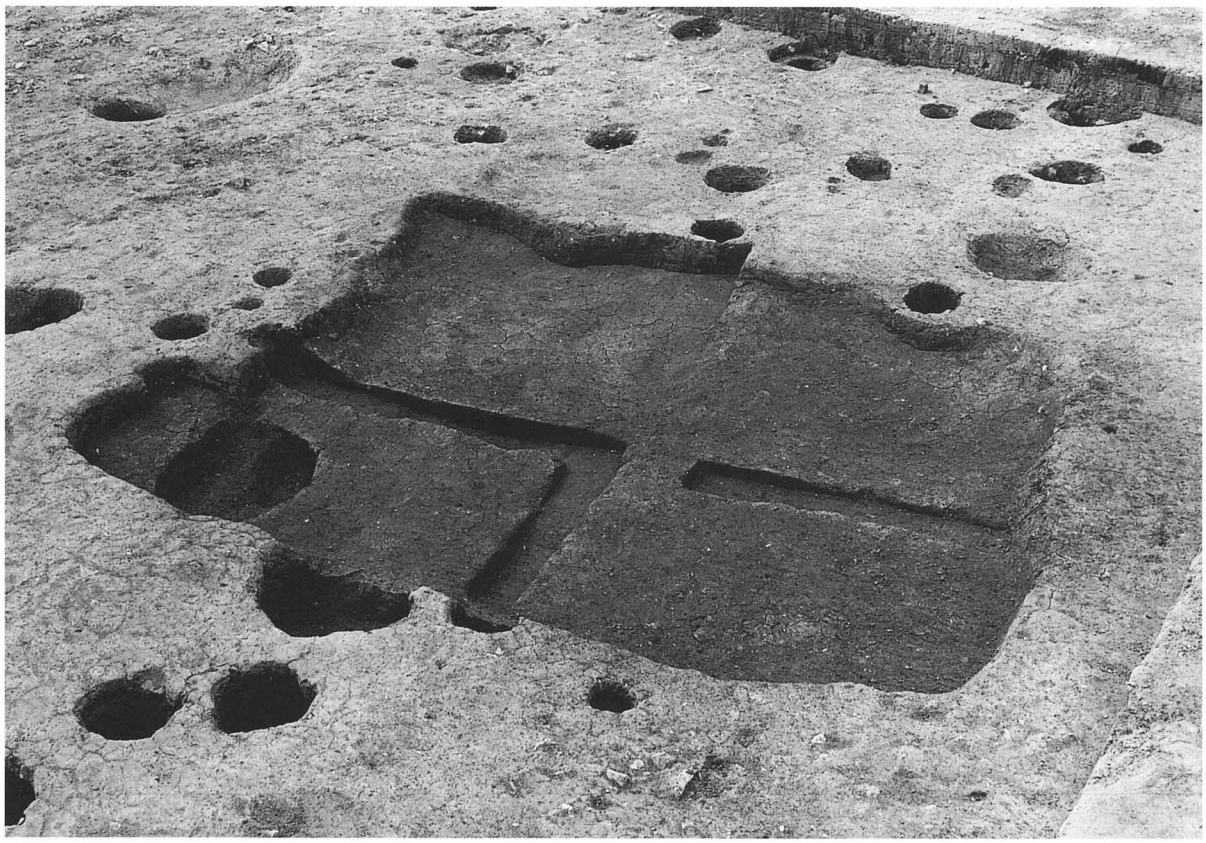
1. SR1　遺構検出状況（西より）

2. SR1　第③層遺物出土状況（東より）

1．SB3　完掘状況（南より）

2．SB7　遺構検出状況（西より）

1．SB7　遺物出土状況（北西より）



2．SB7　完掘状況（南より）

1．SB8　遺物出土状況（北より）

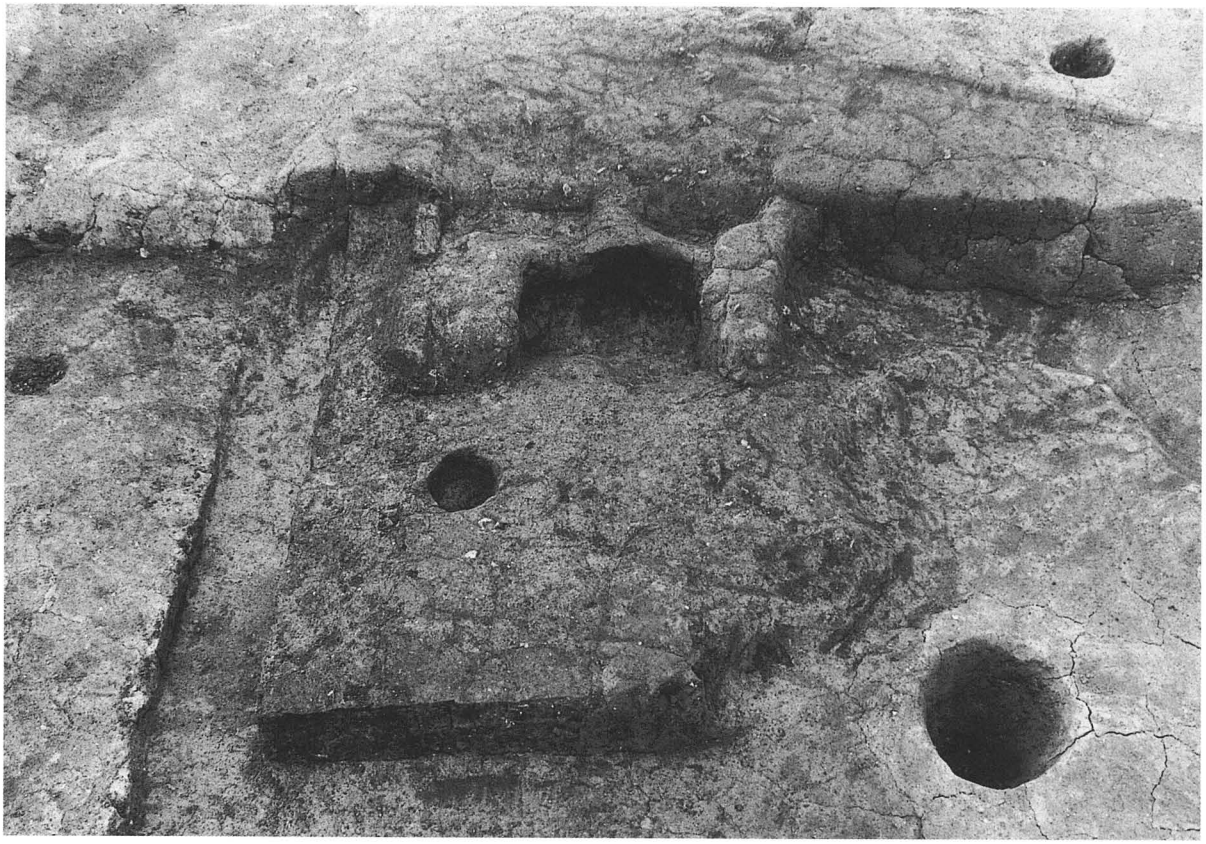
2．SB8　完掘状況（南より）

1．SB9　完掘状況（南より）

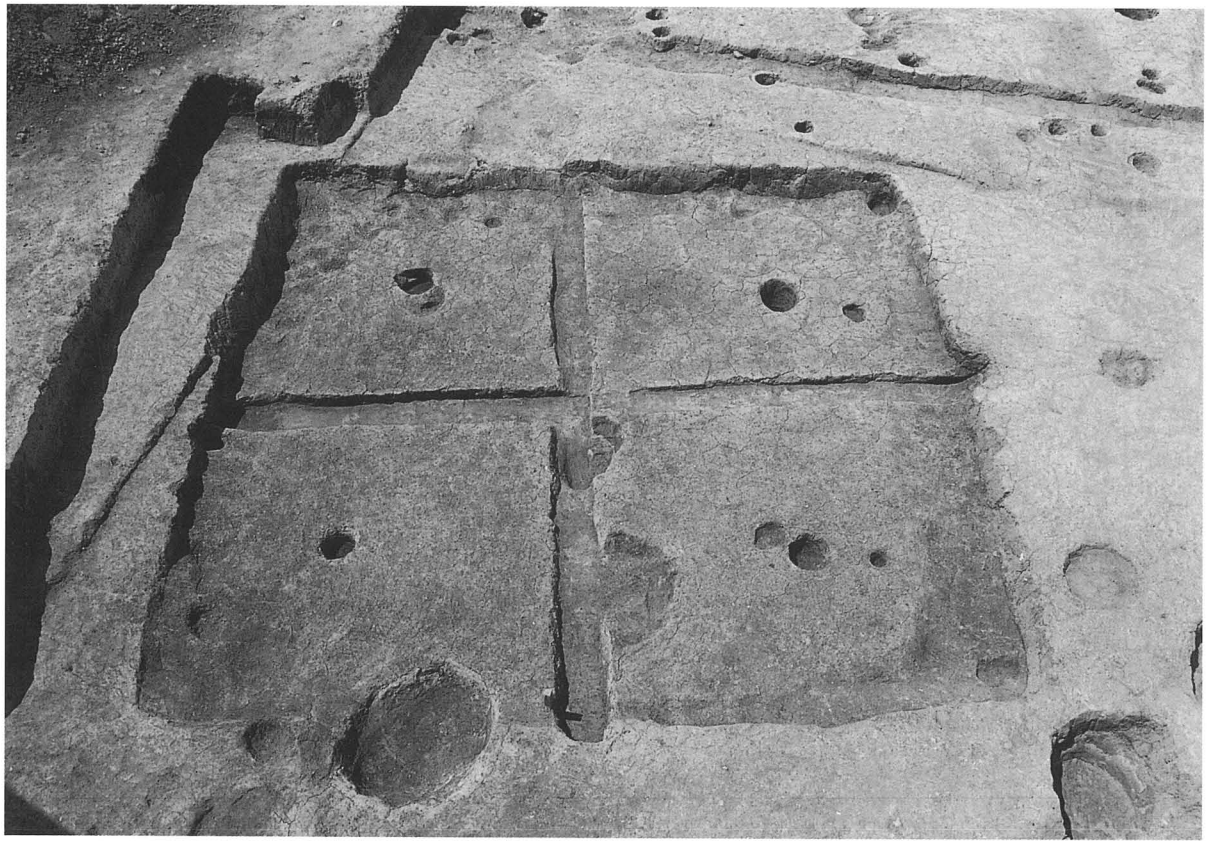
2．SK15　遺物出土状況（北より）

1．SK16　遺物出土状況（西より）

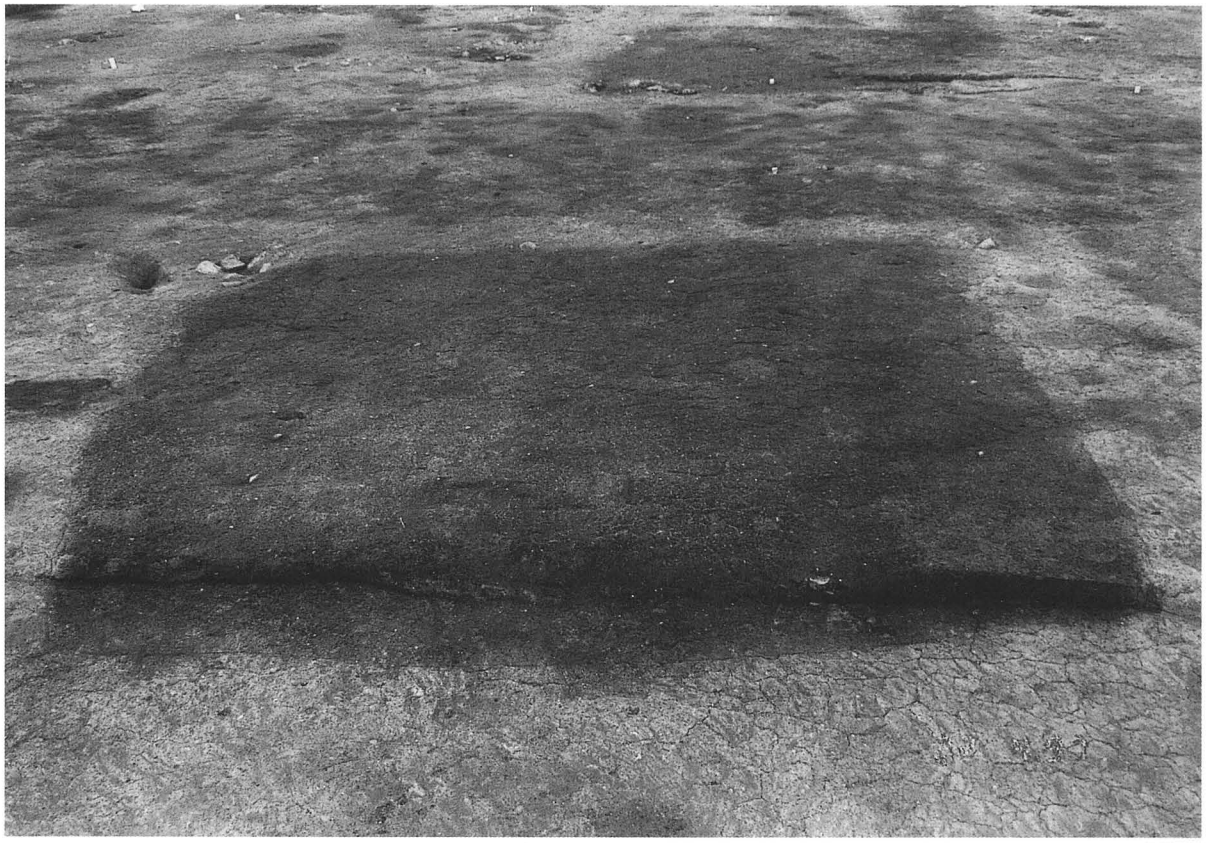
2．SB1　遺構検出状況（南より）



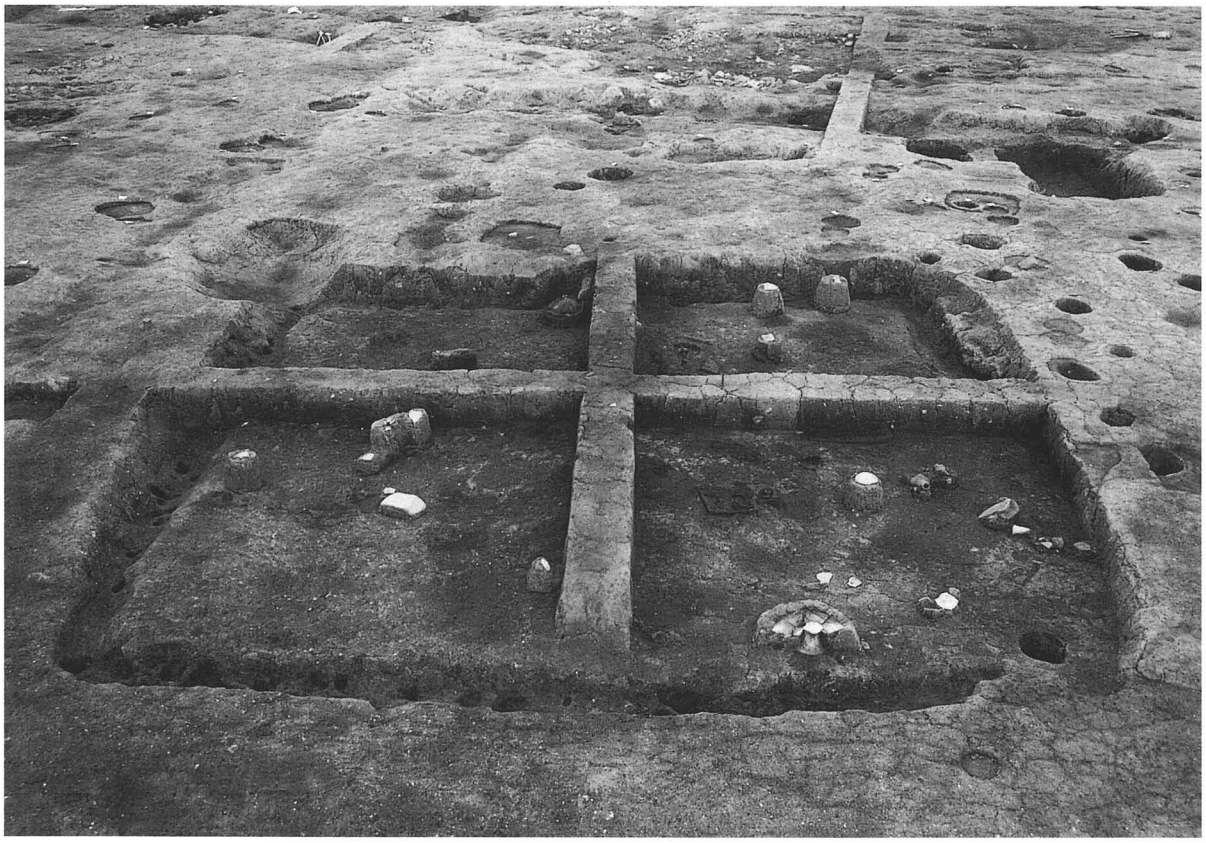
1. SB1　カマド（南より）



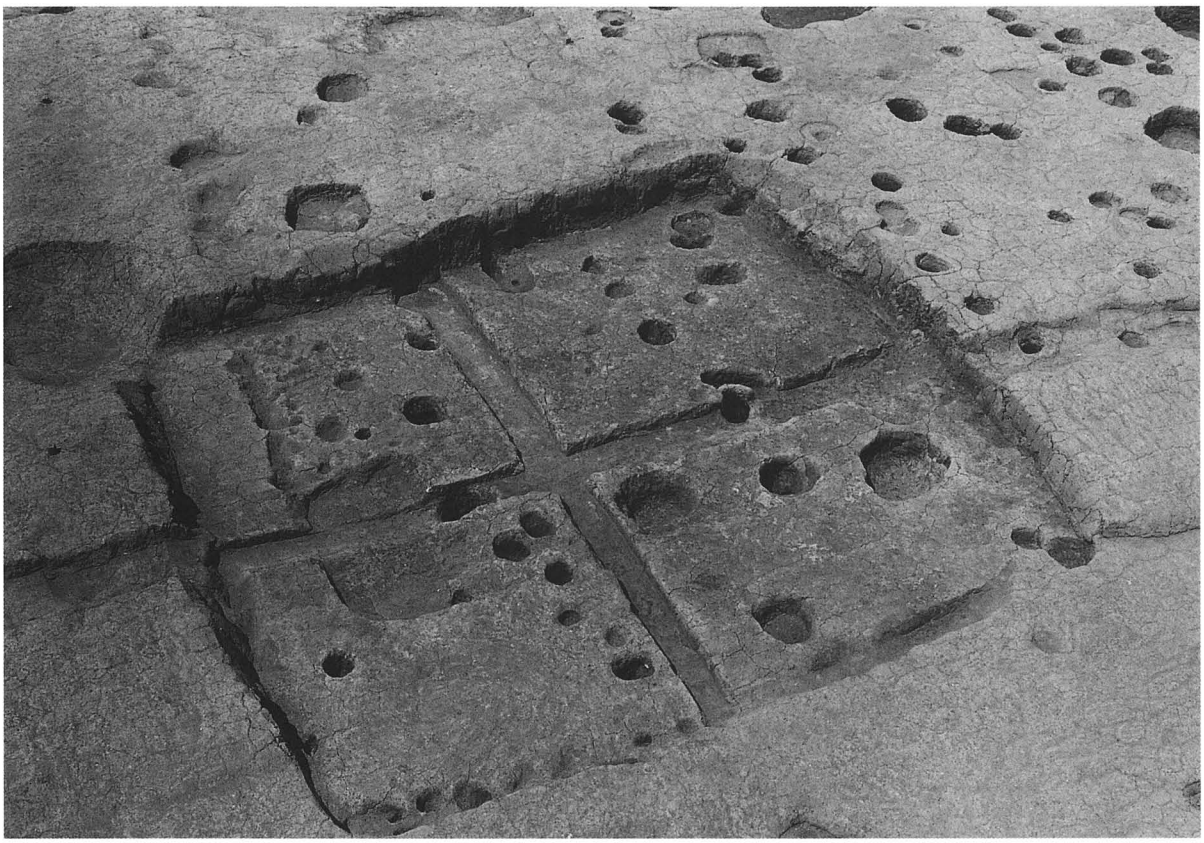
2. SB1　完掘状況（南より）



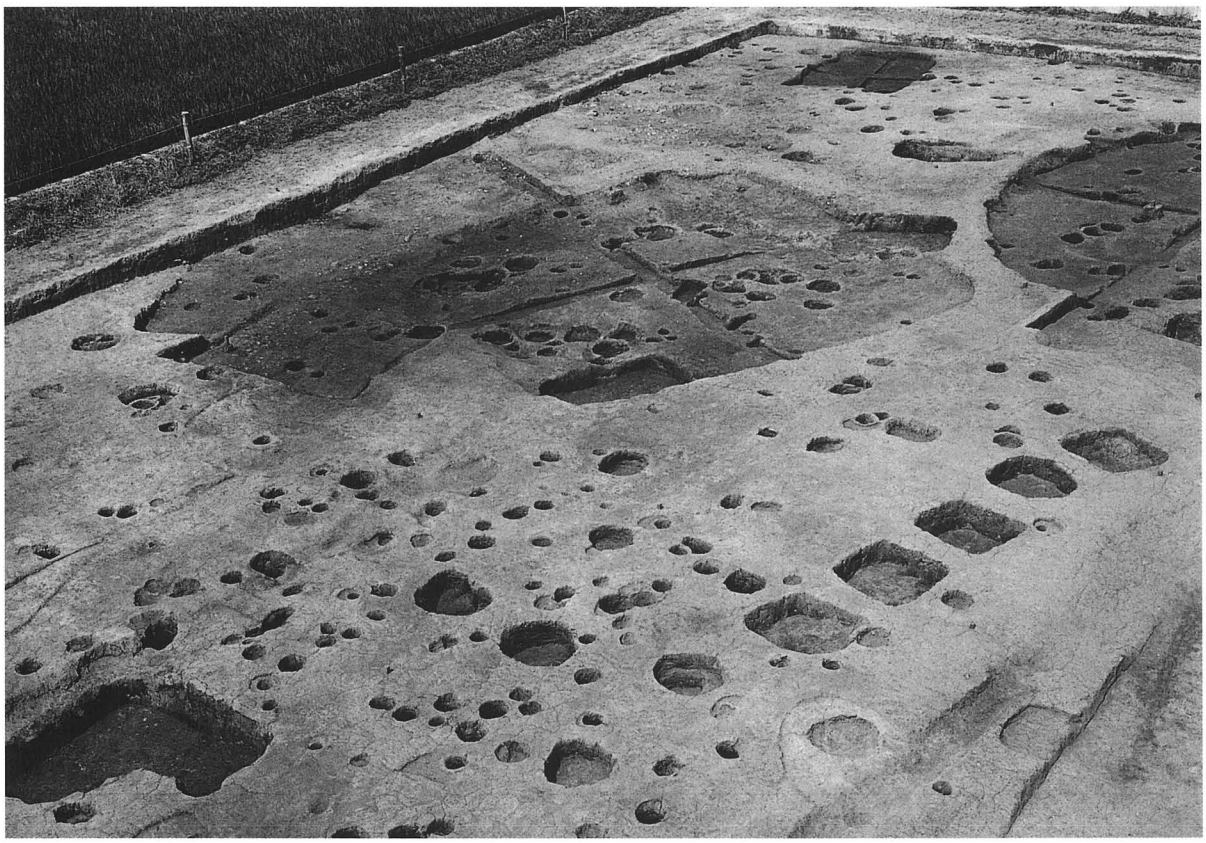
1．SB2　遺構検出状況（南より）



2．SB2　遺物出土状況（南より）



1．SB2　完掘状況（南より）



2．SB4・5・6・10　完掘状況（南西より）

1．SK1　完掘状況（東より）

2．SK1　断ち割り状況（東より）

報告書抄録

ふりがな	たるみしたんじいせき
書名	樽味四反地遺跡
副書名	5次調査
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第87集
編著者名	高尾　和長
編集機関	松山市教育委員会 財団法人　松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
所在地	市教委：〒790－0003　松山市三番町6丁目6－1　TEL089－948－6605 埋　文：〒791－8032　松山市南斎院町乙67番地6　TEL089－923－6363
発行年月日	西暦　2002年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
たるみしたんじ 樽味四反地	まつやましたるみ 松山市樽味	38201		33° 50′ 5″	132° 47′ 20″	19970401 ～ 19970731	2,146	宅地開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
樽味四反地 5次	集落	弥生	竪穴式住居址・溝・土坑	弥生土器・石器・鉄器 動物骨	弥生時代～中世の集落跡
		古墳	竪穴式住居址・土坑	土師器・須恵器・鉄器 石器	
		古代	掘立柱建物址・自然流路	土師器・須恵器・瓦・ 緑釉陶器・鉄器・石器 小玉	硯4個体出土
		中世	溝・土坑	土師器・銅銭	

松山市文化財調査報告書　第87集

樽味四反地遺跡－5次調査－

平成14年3月29日　発行

編集・発行　松山市教育委員会
〒790-0003　松山市三番町6丁目6－1
TEL (089) 948-6605

財団法人　松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791-8032　松山市南斎院町乙67番地6
TEL (089) 923-6363

印刷　明星印刷工業株式会社
〒790-0056　松山市土居田町500番地
TEL (089) 971-7111